

科目名	子ども家庭支援の心理学		
担当教員名	亀田 秀子		
ナンバリング	KDd2214		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	1年	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	0
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

生涯発達に関する心理学の基礎を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する。家族・家庭の意義や機能を理解し、親子・家族関係等について発達の観点から理解を深めることを目指す。

科目の概要

生涯発達としての初期経験の重要性を理解し、乳幼児期から学童期前期にかけての発達、学童期後期から青年期にかけての発達、成人期・老年期における発達について理解する。また、家族・家庭の理解では、家族・家庭の意義と機能、親子・家族関係の理解、子育ての経験と親としての育ちについての理解を深める。さらに、子育て家庭に関する現状と課題では、子育てを取り巻く社会的状況、多様な家庭とその理解、特別な配慮を要する家庭等について理解を深める。最後に、子どもの精神保健とその課題について理解を深めていく。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

生涯発達に関する心理学の基礎を習得し、発達課題等について理解する。

家族・家庭の意義や機能を理解し、親子・家族関係等について発達の観点から理解を深める。

子育てをめぐる現代の社会的状況と課題について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	生涯発達 - 乳幼児期から学童期前期にかけての発達
2	生涯発達 - 学童期後期から青年期にかけての発達
3	生涯発達 - 成人期・老年期における発達
4	家族・家庭の理解 - 家族・家庭の意義と機能
5	家族・家庭の理解 - 親子関係・家族関係の理解
6	家族・家庭の理解 - 家族関係と保育
7	家族・家庭の理解 - 子育ての経験と親としての育ち
8	子育て家庭に関する現状と課題 - 子育てを取り巻く社会的状況

9	子育て家庭に関する現状と課題 - 家庭支援へのアプローチ
10	子育て家庭に関する現状と課題 - ライフコースと仕事・子育て
11	子育て家庭に関する現状と課題 - 多様な家庭とその理解
12	子育て家庭に関する現状と課題 - 特別な配慮を要する家庭
13	子どもの精神保健とその課題 - 子どもの生活・生育環境とその影響
14	子どもの精神保健とその課題 - 子どもの心の健康に関わる問題・保育と保健
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点について各自調べておく。(60分)

【事後学修】講義で明らかになったこと等、よく復習し、理解しておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】本郷一夫・神谷哲司 編著 シードブック『子ども家庭支援の心理学』2019年度 新保育士養成課程 対応 建帛社

【参考図書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第3版 ナカニシヤ出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa101		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、主に社会福祉の全体（基本）を学ぶものである。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーのひとつ、「学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する科目であり同時に、社会福祉士指定科目でもある。

科目の概要

講義では、現代社会における福祉の理念、福祉制度、実態、福祉政策との関係という内容を順次学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

福祉の原理をめぐる理念、理論、哲学について理解することができる。

福祉政策におけるニーズと資源について理解することができる。

福祉政策の課題について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

この授業は講義を基本に、適宜、質疑応答を取り入れながら、学びを深めていく。

回数

- 1 福祉制度の概念と理念 憲法理念を中心に
- 2 福祉制度の概念と理念 ノーマライゼーション理念を中心に
- 3 福祉制度と福祉政策の関係
- 4 福祉政策と政治の関係
- 5 福祉政策の主体と対象

- 6 福祉の原理をめぐる理論・哲学・倫理
- 7 前近代社会と福祉（救貧法、慈善事業、博愛事業、相互扶助、その他）
- 8 近代社会と福祉（第二次大戦後の窮乏社会と福祉、経済成長と福祉、その他）
- 9 現代社会と福祉（新自由主義、ポスト産業社会、グローバル化、リスク社会、福祉多元主義、その他）
- 10 需要とニーズの概念（需要の定義、ニーズの定義、その他）
- 11 資源の定義（資源の定義、その他）
- 12 福祉政策と社会問題（貧困、孤独、失業、要援護〔児童・高齢・障害・寡婦〕、偏見と差別、社会的排除、ヴァルネラビリティ、リスク、その他）
- 13 社会政策の現代的課題（社会的包摂、社会連帯、セーフティネット、その他）
- 14 福祉政策の課題と国際比較（国際動向を含む）
- 15 授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

評価方法および評価の基準

平常点30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。提出された課題レポートにはコメントを付し、翌週以降授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト]

- ・片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版
- ・『福祉小六法 2019』みらい社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDa201		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

社会福祉原理・理論・対象・分野等、全般についての講義を行う。「社会福祉概論」、「社会保障論」、「ソーシャルワーク論」、「基礎介護論」との関連性がある。

科目の概要

少子高齢社会における社会福祉の現状を制度的視点からと共に、専門行動的視点から歴史的変遷を含めて鳥瞰図的にとりあげる。社会福祉サービスを展開するうえで保健医療関係者及び地方行政機関との連携、協同のあり方について学び、社会福祉サービスに必要な知識・技術・態度・視点を身につけ、社会福祉サービスの本質について検討する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

本科目の学修目標は、（１）わが国の社会福祉制度の概要と各分野における現状の理解、（２）身近に起こっている福祉領域に関する諸問題について、学生個々が関心を持つこと、（３）個々の関心を持つ諸問題の現状と課題についての理解、を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、受講者とのディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	社会福祉の理念と概念について ~社会的歴史的所産として捉え方を学ぶ~
2	社会福祉の対象と主体について ~現在から過去にさかのぼってその変遷を学ぶ~
3	社会福祉のニーズ概念について ~需要と供給の関係のもとに検討してゆく~
4	社会福祉の発展について ~英国と日本の比較をしながら学ぶ~
5	社会福祉法体系について（１） 社会保障制度と社会福祉法制度について検討する
6	社会福祉法体系について（２） 生存権を視点に社会保障制度と社会福祉法制度を検討する
7	福祉行財政の仕組み（１）

8	福祉行財政の仕組み（2）
9	中間まとめ
10	少子高齢化社会と暮らし（1）子どもの貧困の現状と対策
11	少子高齢化社会と暮らし（2）子どもの貧困の現状と対策
12	少子高齢化社会と暮らし（3）高齢者の貧困の現状と対策
13	少子高齢化社会と暮らし（4）高齢者の貧困の現状と対策
14	未来への課題 ～人権保障と生活保障～
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

中間試験（持ち込み自筆ノート・配付資料のみ）及び筆記試験の結果とし、総合評価60点以上を合格とする。 中間試験50%、筆記試験50%。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：現代社会と福祉 <第4版> 社会福祉士シリーズ 4 現代社会と福祉

福祉臨床シリーズ編集委員会 編・塩野 敬祐 責任編集・福田 幸夫 責任編集 2017年01月刊 ISBN

N 978-4-335-61176-6

他オリジナル資料配付

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDa102		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等の基礎的な理解を図る科目である。

科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅は大きく、個々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者を支援が必要な人として一面的に捉えるのではなく、生活の主体者と捉え、生活支援という視点から、これらの内容を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

高齢者福祉を学ぶ背景（高齢者の特性、少子高齢社会に伴う諸問題、歴史的変遷等）や、高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等に関し基礎的な知識を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の1に該当する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	オリエンテーション、高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢
2	高齢期の生活と高齢者を取り巻く社会情勢
3	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
4	高齢者福祉に関する制度や実践の変遷
5	介護保険制度
6	介護保険制度
7	介護保険制度
8	介護保険制度

9	老人福祉法
10	老人福祉法
11	高齢者虐待防止法
12	高齢者虐待防止法
13	高齢者の経済状況と就労
14	認知症の理解
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の住んでいる自治体（もしくは関心のある自治体）が発行している介護保険制度に関するパンフレットを1部もらっておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

課題の提出およびリアクションペーパーの内容（15点）、小テスト（40点）、最終レポート40点

その他加点すべき優れた点（5点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーおよび小テストは、翌週以降に授業内でコメントまたは解説し、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】岡田進一・橋本正明編著『社会福祉士養成テキストブック 高齢者に対する支援と介護保険制度』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDa202		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

高齢者施設での介護職経験あり

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、高齢者福祉を学ぶ科目として、高齢者に対する支援と介護保険制度 を設置している。そのうち高齢者に対する支援と介護保険制度 は、同名科目 で学んだ高齢者の生活を支援するための法律や制度、諸サービス等を理解した上で、高齢者福祉の具体的な援助や実践活動、その基盤となる考え方について学ぶ科目である。なお本科目は、社会福祉士および介護福祉士の受験資格指定科目である。

科目の概要

高齢期と一概にいてもその時間的な幅の差は大きく、各々の心身機能や生活状況も様々である。平均寿命は男女とも80歳代となり、人口の4分の1が65歳以上である日本において、高齢者を取り巻く社会状況や生活支援に関する法律や制度、諸サービス、それらの歴史的変遷等を総合的に学ぶことは重要である。本科目では、高齢者に対する支援と介護保険制度 で学んだ基礎知識をもとに、地域ケアにおける高齢者の生活支援に関する概念や仕組み等を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心とする。映像資料を使用した場合、リアクションペーパーの内容を一部共有したり、ワークシートを記入する際、周囲の学生同士で話し合うことがある。

【リアクションペーパー】 【討議・討論】

到達目標

福祉専門職として高齢者の生活支援に必要となる概念や仕組みに関する知識を修得し、他者に説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

1	オリエンテーション、高齢者に対する支援と介護保険制度 の復習
2	介護福祉に関する概念（介護、介護過程）
3	介護福祉に関する概念（介護過程）

4	終末期ケア
5	認知症ケア
6	ケアマネジメント
7	ケアマネジメント
8	介護保険制度（運営の仕組みと保険者の役割）
9	介護保険制度（介護報酬）
10	介護保険制度（介護保険事業計画）
11	地域包括ケアシステム（地域包括ケアシステムとは）
12	地域包括ケアシステム（日常生活圏域と地域包括支援センター）
13	地域包括ケアの実践（介護と医療の連携、地域づくり）
14	地域包括ケアの実践（高齢期の住まいと生活支援）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の住んでいる自治体（もしくは関心のある自治体）の第7期介護保険事業計画（平成30年度～平成32年度）に目を通しておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

課題やリアクションペーパー（25点）、小テスト（15点×3回）、最終レポート（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業内でのリアクションペーパーに対するコメント、小テストの返却と解説

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】適宜プリントを配布する

【推薦書】

杉崎千洋(2020)『単身高齢者の見守りと医療をつなぐ地域包括ケア』中央法規

太田貞司(2003)『地域ケアシステム』有斐閣アルマ

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDa103		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：本科目は、社会福祉士国家試験受験資格取得及び保育士資格取得の必修科目である。また、本学科の学位授与方針1、2及び3に該当し、「知識・理解・技能（技法）・表現」、「思考・判断」に関わる科目である。

科目の概要：「児童の権利条約」が国連で採択された後も、児童の売買、児童貧困、家庭内暴力（DV、虐待）等、児童の権利侵害の事例は依然として後を断たない。「児童・家庭福祉論」では、子どもは家庭や社会との相互関係の中で成長発達していくという基本的な考えのもとに、児童家庭福祉の歴史的変遷、現状と課題、動向と展望のほか、児童の権利や発達を保障するための児童福祉の仕組み、諸制度、援助の方法など、専門職として必要となる児童福祉に関する内容が体系的に学べるように進めていく。また、福祉施設での実習も念頭に置き、現場で役立つ知識の習得を目指す。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- 1) 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
- 2) 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権擁護について理解する。
- 3) 児童家庭福祉の制度や実施体系等について理解する。
- 4) 児童家庭福祉の現状と課題について理解する。
- 5) 児童家庭福祉の動向と展望について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	オリエンテーション・児童福祉の基礎概念、
2	子ども達を取り巻く社会の現状、子どもの権利と子ども家庭福祉の理念
3	子ども家庭福祉を考える視点 - 児童虐待事例から -
4	子ども家庭福祉の歴史
5	子ども家庭福祉に関する法制度
6	子ども家庭福祉の行財政と実施体制
7	少子化対策と保育制度
8	子ども健全育成・地域子育て支援に関するサービス
9	児童虐待とドメスティック・バイオレンス

10	社会的養護を必要とする子どもに対するサービス
11	非行問題や心理治療の必要性を抱える子どもへのサービス
12	ひとり親家庭に対するサービスと子どもの貧困問題
13	障害がある子どもとその過程に対するサービス
14	関係機関との連携・ネットワーク、子ども家庭福祉の現状と子ども家庭支援の課題
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスで示した箇所を、確実に次回までに読みこむこと。（各授業につき60分）

講義に集中できる環境をつくること。

【事後学修】講義の中で書き留めたノート・レジュメの整理をし、重要な概念や用語を振り返り理解を深めること。（各授業につき60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度（リアクションペーパー提出含む）40点、試験60点とし、総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】監修 比嘉真人・「輝く子どもたち 子ども家庭福祉論」・みらい

【推薦書】柏女霊峰・「子ども家庭福祉論[第4版]」・誠信書房

【参考図書】山縣文治、柏女霊峰 編・「社会福祉用語辞典[第9版]」・ミネルヴァ

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害者福祉論		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDa104		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP1・2・3に該当する。

本科目は卒業認定の必修科目であり、ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけるための科目である。また社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応し、さらに介護福祉士受験資格取得のための指定科目である。

科目の概要

本科目では、障害のある人の生活とそれを取りまく社会情勢や福祉・介護需要について学んでいく。これまでの障害者福祉制度の発展過程や相談援助活動において必要となる障害者総合支援法、障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

- (1) 障害のある人への福祉の歴史と理念について理解する。
- (2) 障害のある人の生活実態について理解する。
- (3) 障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて理解する。
- (4) 障害のある人への専門職のかかわりのポイントについて理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史 欧米
3	障害者福祉の歴史 日本
4	障害者福祉の基本理念 歴史的変遷
5	障害者福祉の基本理念 現代
6	障害の概念とそのとらえ方

7	障害者の生活とニーズ
8	障害者福祉法の法体系
9	障害者福祉のサービス体系
10	障害者の生活保障
11	障害者福祉を支える人々
12	障害者福祉実践
13	障害者の社会参加
14	障害者の権利擁護
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の関連ページを読み、内容を理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。さらに関連箇所の国家試験の過去問題に取り組み理解しておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者への支援と障害者自立支援制度 第2版』株式会社みらい

【推薦書・参考書】適時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	医学一般		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDa105		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針DP2・3に該当する。

本科目は、社会福祉士及び介護福祉士資格取得のための指定科目である。介護・福祉領域に携わる専門職に必要な心身の健康、病気、老化に関する知識を幅広く習得することで支援にいかし、医療関係者と連携を保つ力の基礎知識を得る。

科目の概要

本科目は人体の構造と機能、主な疾病や障害について学ぶ。ヒトの成長や発達、正常な身体構造及び生体活動、疾病や障害の概要、リハビリテーション、医療社会保障の概要について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- (1) 基本的な人体の構造と機能を理解できる。
- (2) 介護・福祉の現場で必要な疾病や傷害の概要を理解する。
- (3) 医学知識と健康の視点から対人援助や多職種との連携を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を中心にディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	人体の成長・発達
2	人の老化と高齢者に多い疾患
3	身体の構造と機能
4	疾病の概要 脳血管疾患、心疾患、高血圧
5	疾病の概要 呼吸器疾患、消化器疾患
6	疾病の概要 腎臓疾患、泌尿器系疾患、血液疾患、膠原病
7	疾病の概要 神経疾患と難病、先天性疾患

8	疾病の概要 内分泌疾患、生活習慣病、悪性新生物、終末期
9	障害の概要 視覚障害、聴覚障害、平衡機能障害、肢体不自由
10	障害の概要 内部障害、知的障害、発達障害
11	障害の概要 認知症、高次脳機能障害、精神障害
12	リハビリテーションの概要
13	国際生活機能分類の基本的な考え方
14	健康のとらえかた
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の関連ページを読み、ポイントをまとめておく。また医療用語等の専門用語は、読み書き理解できるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト20%、筆記試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合「再試験」を実施する。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会「人体の構造と機能及び疾病 第3版」中央法規株式会社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当教員名	浅見 隆行		
ナンバリング	KDa206		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

特に必要としません。

実務経験および科目との関連性

無し

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

社会福祉士は日常的に何らかの援助を必要としている人々の近くで支援します。高齢者の支援は介護保険と成年後見制度が両輪となって行われます。医療や介護の知識同様に権利擁護や関係する法律、制度を学んで実践することは大事なことです。

科目の概要

基本的には権利擁護を理解しながら成年後見制度の概要、加えて成年後見制度利用支援事業、日常生活自立支援事業など成年後見制度に関係する組織・団体の役割と実践を学びます。また成年後見制度の関連する法律（憲法、民法、行政法、消費者契約法等）も学びます。さらに後見制度を支えている家庭裁判所等の機関や専門職について学びます。

授業の方法（ALを含む）

講義は参考図書を要約した資料・パワーポイントにて行い、また参考になるパンフレット等も紹介します。章や節終了時には確認テスト(宿題)を実施して、次の講座で解説します。

到達目標

日本国憲法から「人権」の基本となる条文と内容が理解できる。また民法や行政法の中で成年後見活動に重要な条文や仕組み理解でき日常生活の中で確認できる。成年後見制度の類型、代理権、取消権、申立手順と任意後見制度の概要を理解し説明できる。本人(利用者)の保護、虐待などについて具体的な専門職としての役割が自覚できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	オリエンテーション、授業の進め方、権利擁護における相談専門職の役割について(第1章第1節)
2	日本国憲法を権利擁護の視点から知る。(第1章第2節)
3	福祉国家の成り立ちを知る(第1章第2節)、課題の出題
4	行政法とは何か知る(第1章第3節)、課題の出題
5	民法を知る(第1章第4節)
6	民法:各種契約について知る(第1章第4節)
7	民法:親族や族相続について知る。(第1章第4節)、課題の出題
8	成年後見制度の概要を理解する、DVD、パンフレットを参照する。(第2章第1節)
9	成年後見制度:成年後見人の役割(第2章第1節)
10	成年後見制度:保佐及び補助の概要(第2章第2節、第3節)
11	成年後見制度:申立の流れ、任意後見制度の概要(第2章第4節、第5節)
12	成年後見制度:成年後見人等の義務と責任、他。(第2章第6節、第7節)
13	日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業(第3・4章)、出題
14	虐待防止の制度を知る:高齢者・障害者・児童(第5章第5節)
15	権利擁護のかかわる組織・団体、専門職(第5章・第6章)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の該当箇所を読み、また法律も法律書で確認しておく(各授業に対して60分)

【事後学修】授業時に配布された資料を確認する。課題があれば返答する。法律用語や専門用語も確認して復習ノートを作成しておく(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

授業への参加度60%、各章(憲法・行政法・民法・成年後見制度・虐待・他)ごとに出題する課題への取り組み、授業後のおおよそ10回ほどの確認テスト(宿題)を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

フィードバック:毎授業の終わり及び10回ほどの課題の確認後に質疑返答で、学習理解を深められるようにする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】新・社会福祉士養成講座19「権利擁護と成年後見制度」第4版 社会福祉士養成講座編集委員会編集

【参考図書】他の授業等で使用する社会福祉小六法も毎回持参して下さい。参考図書はその都度紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この機会に是非「憲法」を一読して、民法の契約、親族や相続についても興味を持って下さい。

科目名	心理学理論と心理的支援		
担当教員名	高杉 葉子		
ナンバリング	KDa207		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科の学位授与方針DP1・2・3に該当し、また、社会福祉士養成課程教育カリキュラムの「人・社会・生活と福祉の理解に関する知識と方法」に関する科目です。講義を通して、福祉専門職に必要とされる人の心について理解することを目標とし、グループワークを通して、自己への気づきと他者受容を体験的に学修することを目指します。

科目の概要

本科目では、心理学理論に基づき、人のこころと支援の方法について、また、人の成長・発達と心理との関係、日常生活と心の健康との関係について、理解を深め学修する。さらに、知的理解とともに、自己と他者に対する気づきや受容的理解を体験する。

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説を中心とし、グループワークやディスカッションを取り入れて実施する。また、テーマごとにミニテストを行う。【グループワーク】【討議・討論】【ミニテスト】

到達目標

- 1 心理学理論に基づき人の心について、理解し説明することができる。
- 2 人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康について、理解し説明することができる。
- 3 心理的支援の方法について、理解し実施することができる。
- 4 自分の心や在り方に対する洞察力を身につけ、他者への受容や共感を示すことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 -2 支援に関する基本的理解

内容

この授業では、座学形式の講義を基本として知的理解を深めることを目標とする。また、グループワークやディスカッションを通して、自分への気づきや発見をして自己洞察を深め、他者の想いに触れて寄り添い理解する体験に重きを置く。

1	オリエンテーション・心理学とは【グループワーク】
2	人の成長・発達と心理：生涯発達とライフサイクル【グループワーク】
3	心理的支援の方法と実際(1)：コミュニケーション【グループワーク】
4	人の心理学的理解(1)：人格・性格と情動・情緒【討議・討論】
5	人の心理学的理解(2)：欲求・動機づけと行動【討議・討論】
6	心理的支援の方法と実際(2)：傾聴【グループワーク】
7	人の心理学的理解(3)：集団・人と環境【討議・討論】

8	日常生活と心の健康：適応とストレス【ミニテスト】
9	人の心理学的理解(4)：感覚・知覚・認知【討議・討論】
10	心理的支援の方法と実際(3)：アサーション他【グループワーク】
11	人の心理学的理解(5)：学習・記憶・思考【討議・討論】
12	人の心理学的理解(6)：知能・創造性【ミニテスト】
13	心理的支援の方法と実際(4)：心理検査【グループワーク】
14	心理的支援の方法と実際(5)：心理療法【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回

【事前準備】本科目から何を学びたいのか、自分なりの意見をまとめてA4用紙1枚の上段に記述して（下段はblank）、授業時に持参する。[30分]

【事後学習】授業時を通して考えたことや感じたことを、A4用紙1枚の下段にまとめる。[30分]

2～13回

【事前準備】各授業回に該当するテキストの章を事前に読む。[30分]

【事後学習】授業時の解説および語句について、また授業で考えたことや感じたことについて、A4用紙1枚以内まとめる。[60分]

14・15回

【事前準備】13回までの学習内容を復習し、理解できるところできないところを明らかにしておく。[60分]

【事後学習】授業中の総まとめの内容をA4用紙2枚以内にまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

テーマごとのミニテスト（3回×10点＝30点）と筆記試験（40点）を課す。また、平常点を30点する。なお、60点以上を合格とする。

到達目標1 ミニテスト（20/30）、平常点（10/30）

到達目標2 ミニテスト（10/30）、平常点（5/30）

到達目標3 筆記試験（20/40）、平常点（10/30）

到達目標4 筆記試験（20/40）、平常点（5/30）

【フィードバック】ミニテストは、翌週以降の授業時間内に返却し、解説をする。なお、筆記試験は返却しない。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会 編「心理学理論と心理的支援 第3版」中央法規出版
必要に応じて、授業中にプリントを配布します。

【推薦図書】下山晴彦 編「よくわかる臨床心理学 改訂新版」ミネルヴァ書房

【参考図書】中島義明他 編「心理学辞典」有斐閣

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

正当な試験欠席自由がある場合は、追試験を実施します。

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa208		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*, 選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、主に社会保障の全体 (基本) を学ぶものである。本科目は学科の卒業必修科目であり、また社会福祉士養成課程指定科目でもある。「社会福祉概論」、「社会福祉概論」、「社会保障論」、「公的扶助論」とも関連がある。

科目の概要

本科目は、社会保障の意義・目的・機能、社会保障の歴史 (国内及び諸外国の動向)、負担と給付のあり方、社会保障制度改革の意味や方向性といった内容を学んでいく。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法で展開する。リアクションペーパー、小レポート、まとめのレポートにより理解度を深める。

到達目標

1. 現代社会における社会保障制度の課題 (少子高齢化と社会保障の関係を含む) について理解することができる。
2. 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解することができる。
3. 社会保障制度の体系と概要について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解」、「 1 問題解決のための専門性と倫理」に該当する。

内容

[授業計画]

1	社会保障をとらえる視点—毎回講義を基本とするが、適宜、質疑応答を取り入れる。
2	社会保障とは何か - 理念と目的
3	社会保障とは何か - 範囲と役割、機能
4	社会保障制度体系とは

5	社会保障度の歴史的展開（諸外国）
6	社会保障度の歴史的展開（諸外国つづき）
7	社会保障の歴史的展開（日本）
8	社会保障の歴史的展開（日本つづき）
9	社会保障の財源問題をどう考えるか
10	社会保障制度の現状と課題（諸外国）
11	社会保障制度の現状と課題（諸外国つづき）
12	日本における社会保障制度の現状と課題（サービス体系）
13	社会保障制度改革の方向性と課題
14	福祉レジームモデルから社会保障政策の在り方を考える
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して45分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して45分）。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 - リアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%

到達目標2 - リアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%

到達目標3 - リアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第6版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDa101		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格 人間福祉学科の学位授与方針 1 . 2 . 3 に該当する。本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「相談援助の基盤と専門職」の一科目に該当する。ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務について学び、理解を深める。

科目の概要 社会福祉士、精神保健福祉士という国家資格の役割と意義について学び、さらに相談援助に係る概念及びその範囲についてその形成過程から理解し、相談援助の重要な理念 (人権尊重、社会正義、利用者本位、尊厳の保持、権利擁護、自立支援、社会的包摂、ノーマライゼーション) について理解を深める。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標 ソーシャルワークの基本理念や基礎的知識を身につけ、実際の現場における活用としてのステップへ向かえるようになること、を目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	社会福祉士及び介護福祉士法の概要ー本科目は講義を基本とするが毎回適宜、質疑応答を行う。
2	社会福祉士の役割と意義
3	精神保健福祉士法の概要
4	精神保健福祉士の役割と意義
5	ソーシャルワークにかかわる各種の国際定義
6	ソーシャルワークの概念と範囲
7	相談援助の理念 1 人権尊重
8	相談援助の理念 2 社会正義
9	相談援助の理念 3 利用者本位
10	相談援助の理念 4 尊厳の保持
11	相談援助の理念 5 権利擁護
12	相談援助の理念 6 自立支援 (地域生活支援)
13	相談援助の理念 7 社会的包摂 (地域包括)
14	相談援助の理念 8 ノーマライゼーション
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】専門的な知識や用語に接する事を基本に、授業時に指定された次回予定のテキスト箇所を一読し、要点を調べのーとにまとめておく（各授業に対して30分）

【事後学修】授業終了時に告げられる今回の授業テキスト箇所の通読・点検・復習を行い、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、中間レポート30%、テスト40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】中間レポートについては、授業中に受講生全体のの傾向をコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柳澤・坂野責任編集『相談援助の基盤と専門職 第3版』弘文堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDa208		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉法第4条地域福の推進を目的とする同法109条に位置づけられた社会福祉協議会の福祉活動専門員として地域福祉実践に携わったを経験を活かして担当し、地域福祉を具体的な実践事例等を用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科の社会福祉基礎科目に位置付けられた必修科目であり、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」である。「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。「社会調査の基礎」、「権利擁護と成年後見制度」、「福祉行財政と福祉計画」、「社会福祉施設経営論」、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について学修する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とするが、より具体的に学べるよう地域福祉実践者にゲストスピーカーとして報告をしてもらい、質疑応答や、シンキングタイムを設けて、小グループで話し合うことも取り入れた授業を行う。また、講義等を通して得た知識の定着と理解度を確認するレポートライティングを行うとともに、毎時リアクションペーパーを記入し、次回授業開始時に教員がフィードバックし、学習内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1.地域福祉の基本的考え方について解釈することができる。
- 2.地域福祉の主体と対象について述べるができる。
- 3.地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を説明することができる。
- 4.地域福祉の推進方法について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1社会福祉に関する法や制度の基本的理解 -2援助・支援に関する理論の基本的理解 -1問題解決のための専

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	地域福祉を知る【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	地域福祉の実際について【グループワーク】【リアクションペーパー】
3	地域福祉の概観を捉える【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	地域福祉の主体と対象【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	地域福祉における民間組織・住民の役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
6	地域福祉実践を知る【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】
7	社会福祉協議会の組織と役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	地域福祉の専門職と人材【グループワーク】【リアクションペーパー】
9	社会福祉協議会の仕事【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	ネットワーキングの意味と方法【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	地域福祉ネットワークの実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	ボランティア・市民活動の推進と福祉教育【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	福祉教育・ボランティア学習の実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
14	地域福祉の課題【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ(全員)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】厚生労働省HP「これからの地域福祉のあり方に関する研究会報告書」「地域共生社会の実現に向けて」を確認し、自分なりに内容を整理しまとめる。(各授業に対して60分)。

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介されたHP、法律や政策、図書、国家試験問題等について各自で内容を理解し深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)とリアクションペーパー(10%)、レポート課題提出(40%)、筆記試験(40%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標2.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標3.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標1.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時や必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦図書】新社会福祉士養成課程対応 第2版 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

科目名	社会的養護		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDa1100		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目を担当する教員は、児童福祉施設（保育所及び児童養護施設）に勤務した経験がある。

講義内容も理論と実践の乖離が起きないようにしている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の必修科目であり、保育の本質・目的に関する科目に位置付けられている。また、社会的養護の講義科目であり、社会的養護 ・ の演習科目と連続する関係にある。

科目の概要

本科目では、児童福祉施設に自立支援という新たな機能や役割が求められているという動向を踏まえ、現代社会における家庭や子育てを巡る現状と課題、児童養護の体系、歴史、政策、原理等、社会的養護に関する基本的事項について、理解することを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義を中心に行い、社会的養護の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について学習する。また、子どもを支援する現場の課題について、グループワークやケースメソッドを取り入れ授業を行う。

【グループワーク】【レポート（知識）】【ケースメソッド】

到達目標

- 1．子どもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明することができる。
- 2．社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明することができる。
- 3．社会的養護の対象や形態、関係する専門職について理解し、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解、 - 3 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	オリエンテーション・子どもや家庭をとりまく状況【レポート（知識）】
---	-----------------------------------

2	社会的養護の基礎概念と歴史的変遷【レポート（知識）】
3	子どもの人権と社会的養護の関係性【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
4	社会的養護の基本原則【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
5	社会的養護における専門職と保育士の倫理・責務とその資質【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
6	社会的お養護の法・制度・施策【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
7	社会的養護の実施体制【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
8	社会的養護とファミリーソーシャルワークの視点【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
9	社会的養護の対象と支援体制【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
10	家庭養護と施設養護【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
11	社会的養護における社会的状況【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
12	施設等の運営管理の現状と課題【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
13	被措置児童等の虐待防止の現状と課題【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
14	社会的養護と地域福祉の現状と課題【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回～第2回

【事前準備】教科書該当箇所を読み、考察を行っておく。[60分]

【事後学修】授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。[60分]

第3回～第14回

【事前準備】授業内容について、教科書の該当箇所をまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容についてレポートにまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

課題提出（40％）、筆記試験（60％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（15％/40％）、筆記試験（20％/60％）

到達目標2. 課題提出（15％/40％）、筆記試験（20％/60％）

到達目標3. 課題提出（10％/40％）、筆記試験（20％/60％）

【フィードバック】

授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

公益財団法人児童育成協会（2019）『新・基本保育シリーズ6 社会的養護』中央法規

【推薦図書】

授業内で紹介する。

【参考図書】

授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDb212		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程の「相談援助の基盤と専門職」の一科目に該当する。相談援助の専門職に関して学び、ソーシャルワークの概念、ソーシャルワーカーの業務や専門性について理解を深める。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職的機能の展開について理解し、そのために重要な権利擁護をはじめ、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門 職業倫理について理解する。また、諸外国の動向、及び現場で生じるジレンマの実際と必要な対応の基本視点を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法で展開する。

到達目標

本科目は、ジェネラリスト視点に立ち、問題解決へと向かうに当たり、多職種連携の必要性と意義を理解することのできるソーシャルワーカーとしての資質を獲得することを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は人間福祉学科のディプロマ・ポリシー「 -1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解」、「 -2 援助・支援に関する理論の基本的理解」、「 -1 問題解決のための専門性と倫理」に主に該当する。

内容

1	相談援助における権利擁護の意義 本科目は講義を基本とするが毎回適宜、質疑応答を行う。
2	相談援助専門職の概念と範囲
3	福祉行政等における専門職
4	民間の施設・組織における専門職
5	諸外国の動向：イギリス
6	諸外国の動向：ドイツ、アメリカ
7	専門職倫理の概念

8	専門職倫理
9	倫理的ジレンマ
10	倫理的ジレンマの実際
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な援助の実際
13	ジェネラリストの視点に基づく地域における他職種連携（チームアプローチ）の意義と内容
14	総合的かつ包括的な相助と地域における他職種連携の意義と内容
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業終了時に告げられる次回予定の授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読し、板書した項目についてノートにまとめておく（各授業に対して30分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、中間レポート30%、テスト40%とし、60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業中に中間レポートについて、受講生の全体的傾向をコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柳澤・坂野責任編集『相談援助の基盤と専門職 第3版』（弘文堂）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb213		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

福祉相談職及びソーシャルワーカーとしての実務経験あり

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、社会福祉士養成課程の科目であり学科専門選択科目である。ソーシャルワークにおける専門的援助関係の形成及びその知識・技術の修得が目指される。

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある相談援助における専門的援助関係の特性について理解する。相談援助の過程について理解する。

授業の方法 (ALを含む)

講義および集団学習 (グループワーク) の形態を用いる。【グループワーク】

到達目標

ソーシャルワークの定義について理解し、その概要を説明できるようになる。相談援助における専門的援助関係の特性とその重要性について理解し説明できる。相談援助の過程を理解し、その概要を説明できるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 2援助・支援に関する理論の基本的理解
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

主な授業形態・方法は、講義、個人ワーク、グループワークである。

1	オリエンテーション
2	ソーシャルワークの定義
3	専門的援助関係について：基本的臨床スキルと、自己覚知【グループワーク】
4	専門的援助関係について：3つのおごり、援助者の未完了な問題
5	専門的援助関係について：転移関係
6	援助の基本姿勢：バイステックの7原則【グループワーク】
7	相談面接技術 1
8	相談面接技術 2
9	相談援助の過程：インテーク、アウトリーチ【グループワーク】
10	相談援助の過程：アセスメント【グループワーク】

11	相談援助の過程：プランニング、モニタリング【グループワーク】
12	相談援助の過程：評価、終結【グループワーク】
13	相談援助の過程：効果測定
14	ケアマネジメントの定義とその過程
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】次回の授業内容に当たる部分のPP資料やテキストを読んでおくこと（60分）

【事後学修】授業中に配布されたミニテストを再度確認すること（30分）

評価方法および評価の基準

中間テスト30点、授業中のミニワーク30点、最終テスト40点の計100点より評価を行い、60点以上を合格とする。課題の結果に関しては、関連する授業ソーシャルワーク論 で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法』（株）みらい 2010

【推薦書】『ケースワークの原則』誠信書房 1996

【参考図書】『面接のプログラム学習』相川書房 1990

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークにおける理論的な理解が必要となる授業です。テキストをはじめ、授業中に紹介された原本などをなるべく広く読むようにしてください。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb313		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

福祉領域の相談職等ソーシャルワーカーとしての実務経験あり。相談援助の理論と実践の関連を具体的実践経験に基づいて示すことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科専門選択科目である。ソーシャルワークの知識・技術・価値の基礎を習得することを目的とする。各ソーシャルワーク論および相談援助演習と関連する。

システム論および生態学理論のモデルによってソーシャルワークを理解する。相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。

授業の方法（ALを含む）

講義及び集団学習（グループワーク）の形態を用いる。【グループワーク】

到達目標システム論および生態学理論モデルによってソーシャルワークの一般的な定義を説明することができる。ソーシャルワークにおける3つの実践モデルをはじめ、各所アプローチの概要について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 2援助・支援に関する理論の基本的理解
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

講義を中心とし、個人ワークやグループワークを通じた集合学習の形態を用いる。

1	オリエンテーション
2	一般システム理論と生態学モデル【グループワーク】
3	システム理論と家族療法
4	ソーシャルワークにおける3つの実践モデル
5	様々な実践モデルとアプローチ:心理社会的アプローチ【グループワーク】
6	精神分析理論について
7	様々な実践モデルとアプローチ:機能的アプローチ【グループワーク】
8	様々な実践モデルとアプローチ:問題解決アプローチ【グループワーク】
9	様々な実践モデルとアプローチ:行動変容アプローチ【グループワーク】
10	様々な実践モデルとアプローチ:課題中心アプローチ【グループワーク】

11	様々な実践モデルとアプローチ:ナラティブアプローチ【グループワーク】
12	様々な実践モデルとアプローチ:ソリューション・フォーカスト・アプローチ【グループワーク】
13	相談援助における専門的援助関係：感情転移と逆転移
14	相談援助における専門的援助関係：自己覚知、自己の活用とスーパービジョン
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に次の授業に当たる箇所のテキストの内容を読んでおくこと（30分）

【事後学修】授業中に出された宿題をすること（60分）

評価方法および評価の基準

中間試験30点、授業中のミニワーク30点、最終試験40点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。課題の結果へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。中間テスト及び青洲テストにおける知識を問う問題は、その合計得点を算出する。また最終試験の記述問題は独自の5段階の独自のルーブリックを作成し評価する。ミニワークはその提出の有無を度数として合計し得点に算出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『ソーシャルワークの理論と方法』（株）みらい 2010

その他授業中に指示。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークにおける諸理論を学ぶ授業で、難易度の高い内容となります。なるべく授業中に紹介された原著などを読むようにしましょう。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDb314		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会の福祉活動専門員、自治体の地域福祉係主任としての地域福祉実践経験と実証研究を活かして担当し、社会福祉士としての専門性を活かして地域福祉及びソーシャルワークについて具体的な実践事例やフィールドワークを用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科のソーシャルワーク専門科目として選択科目であるが、社会福祉士資格取得においては必修科目になっている。社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目の1つ「相談援助の理論と方法」である。「ソーシャルワーク論 から 」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「地域福祉論 ， 」 「相談援助演習 」との関連性がある。

科目の概要

1. 相談援助におけるアウトリーチ
2. 集団を活用した相談援助(グループワーク)
3. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキング

授業の方法（ALを含む）

本科目は講義による解説を中心とするが、より具体的に学べるよう現任のソーシャルワーカー等にゲストスピーカーとして援助方法の実際を報告してもらい、質疑応答やシンキングタイムを設けて、話し合うことも取り入れた授業を行う。また講義等を通して得た知識の定着と理解度を確認するレポートライティングを行うとともに、毎時リアクションペーパーを記入し、次回の授業開始時に教員がフィードバックし、学修内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 相談援助におけるアウトリーチについて説明することができる。
2. 集団を活用した相談援助について説明することができる。
3. 社会資源の活用・調整・開発や多職種・多機関との連携を含むネットワーキングについて解釈することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の 知識・技能、 思考力・判断力・表現力、 主体性・多様性・協働性を育成することを目的とする。

- 2支援に関する基本的理解 -2援助・支援に関する理論の基本的理解 -1問題解決のための専門性と倫理

内容	
1	地域福祉の推進に向けたソーシャルワーク【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	多職種連携によるソーシャルワークの必要性【グループワーク】 【リアクションペーパー】
3	アウトリーチの意義と目的【グループワーク】 【リアクションペーパー】
4	アウトリーチの方法と留意点【グループワーク】 【リアクションペーパー】
5	グループを活用した相談援助 【グループワーク】 【リアクションペーパー】
6	グループワークの展開過程【グループワーク】 【リアクションペーパー】
7	自助グループを活用した相談援助【レポート】
8	コーディネーションとネットワーキングについて【グループワーク】 【リアクションペーパー】
9	ソーシャルサポートネットワークについて【グループワーク】 【リアクションペーパー】
10	地域ケアシステムについて【グループワーク】 【リアクションペーパー】
11	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の意義と目的【グループワーク】 【リアクションペーパー】
12	相談援助における社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点【グループワーク】 【リアクションペーパー】
13	ソーシャルアクションについて【グループワーク】 【リアクションペーパー】
14	事例に基づくサービス開発の展開方法について【グループワーク】 【リアクションペーパー】
15	まとめ(全員)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会保障審議会福祉部会「ソーシャルワーク専門職である社会福祉士に求められる役割について」をHPで確認し、自分なりに内容を理解しまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業について復習することを必須とし、授業で紹介されたHP、法律や政策、専門用語等について、各自で内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成しておく。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)とリアクションペーパー(10%)、レポート課題提出(40%)、筆記試験(40%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、レポート(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標2.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、レポート(15%/40%)、筆記試験(15%/40%)

到達目標3.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(15%/40%)、筆記試験(15%/40%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時に返答する。また必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 ・ 」中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb414		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

これまで学んだソーシャルワーク論 ~ をもとに、実践場面におけるソーシャルワークについて事例を通して学ぶ科目である。なお、本科目は社会福祉士受験資格指定科目および保育士資格取得の選択必修科目である。

科目の概要

スーパービジョン、個人情報保護、情報通信技術の活用、権利擁護活動の意味や意義を理解した上で、具体的事例検討を通して、ソーシャルワーク論の総合的な学修をする。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に行う。

到達目標

- ・スーパービジョン、福祉における情報、権利擁護活動の意味や意義を説明することができる。
- ・困難事例の支援過程をソーシャルワークの理論と方法を活用して考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの1と3に該当する。

内容

1	オリエンテーション
2	福祉と情報（情報の特性、プライバシーと情報共有）
3	福祉と情報（個人情報保護法）
4	福祉と情報（記録の方法と意義、ICT化）
5	スーパービジョン
6	支援困難事例（支援困難事例とは何か、問題解決の思考）
7	支援困難事例の検討
8	支援困難事例の検討
9	支援困難事例の検討
10	支援困難事例の検討
11	権利擁護活動の意味、意義と実際
12	権利擁護活動の意味、意義と実際
13	権利擁護活動の意味、意義と実際

14	災害ソーシャルワーク
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】新聞や雑誌、インターネット等で、各授業テーマに関する記事等を読み、その背景について考えをまとめておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】授業で学んだキーワードについて説明ができるように、教科書や配布資料等をよく読みなおすこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

ワークシート・小テスト・リアクションペーパー（60%）、最終レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業内でのリアクションペーパーに対するコメント、小テストの返却と解説

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ソーシャルワーク論 ・ で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	就労支援サービス論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb215		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

障害者福祉サービス事業所における福祉的就労の支援経験を、支援方法の具体的説明に活かすことができる。

生活保護被保護者への就労支援の経験を、具体的な制度説明時に活かすことができる。

福祉事務所長として生活保護受給者等就労自立促進事業の統括を行った経験を、就労支援の制度運用の説明に活かすことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「就労支援サービス」に対応する科目であり、国家試験受験資格取得に必要な科目である。福祉的援助を必要とする人々の「生活の向上」や地域における「共生」をめざし、生活課題の問題点を総合的に思考し判断し支援を行う専門的知識を身につけるための科目である。また人間福祉学科ディプロマ・ポリシーの「?学生は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある社会福祉学を基盤としたソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけている」という項目に関連する。

科目の概要

本科目では、次の内容について主にテキストと関係法令をもとに講義によって学習する。

- (1) 相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。
- (2) 就労支援にかかわる組織、団体及び専門職について理解する。
- (3) 就労支援分野と関連分野との連携について理解する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- (1) 労働関連法令と近年の労働市場の変化について説明ができること
- (2) 障害のある人への就労支援サービスの概要について説明できること
- (3) 低所得者への就労支援サービスの概要について説明できること

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
---	---------------------

2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者福祉施策における就労支援
7	障害者の就労における専門職の役割
8	障害者の就労における民間の取り組み
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者の就労支援
11	低所得者の就労支援制度
12	低所得者の就労のための組織・団体・専門職の役割
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援サービスの今後の展望、全体の振り返り
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジュメを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%のとし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】レジュメを使用する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

私語厳禁とします。スマホや授業に関係ないものの使用は禁止します。

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDb316		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉法第4条地域福祉の推進を目的とする同法第109条に位置づけられた社会福祉協議会の福祉活動専門員として地域福祉実践に携わった経験を活かして担当し、地域福祉を具体的な実践事例等を用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科のソーシャルワーク専門科目に位置付けられた選択科目であるが、社会福祉士資格取得においては必修科目である。社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解する必要がある。「社会調査の基礎」、「権利擁護と成年後見制度」、「福祉行財政と福祉計画」、「社会福祉施設経営論」、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要

地域福祉の基本的考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民、地域福祉の推進方法について学修する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心とするが、より具体的に学べるよう地域福祉実践者にゲストスピーカーとして報告をしてもらい、質疑応答や、シンキングタイムを設けて、小グループで話し合うことも取り入れた授業を行う。また、講義等を通して得た知識の定着と理解度を確認するレポートライティングを行うとともに、毎時リアクションペーパーを記入し、次回授業開始時に教員がフィードバックし、学修内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 地域福祉の基本的考え方について解釈することができる。
2. 地域福祉の主体と対象について述べるすることができる。
3. 地域福祉に係る行政及び民間組織、専門職の役割と実際を説明することができる。
4. 地域福祉の推進方法について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解 -2援助・支援に関する理論の基本的理解 -1問題解決のための専門性と倫理

内容

1	地域で安心して暮らし続けるために-地域福祉論 のふりかえり-【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	共同募金活動の実際について- 【グループワーク】【リアクションペーパー】
3	地域福祉の理論【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	イギリス・アメリカにおける地域福祉の発展過程【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	日本における地域福祉の発達過程【グループワーク】【リアクションペーパー】
6	地域福祉における行政の役割と公民協働【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	地域福祉における社会資源の意味【グループワーク】【リアクションペーパー】
8	地域福祉における社会資源活用の実例【グループワーク】【リアクションペーパー】
9	社会布資源の活用・調整・開発【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	地域における福祉ニーズの把握方法と実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	地域福祉における評価の方法と実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	地域福祉を踏まえた地域包括ケアシステム【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの構築と実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
14	地域福祉計画策定プロセスと実際【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ(全体)

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】地域福祉論 の学びを踏まえて、厚生労働省、全国社会福祉協議会等のHP等を確認して、自分なりに学びを整理してまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】復習することを必須とし、授業時に紹介された図書、HP、法律や政策、国家試験問題等について各自で内容を確認し、深められるよう、復習ノートを作成しておく(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)とリアクションペーパー(10%)、レポート課題提出(40%)、筆記試験(40%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標2.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標3.グループワーク(3%/10%)、リアクションペーパー(3%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標4.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/40%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時に返答するか必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦図書】新社会福祉士養成課程対応 第2版 地域福祉の理論と方法 株式会社みらい

科目名	社会調査の基礎		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	KDb217		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

ソーシャルワーク専門科目で、社会福祉士の必修科目。2年前期「人間福祉基礎演習」、2年後期「社会理論と社会システム」、3年「人間福祉演習」、4年「卒業研究」とも関連する。

科目の概要

福祉専門職として、地域社会や社会全体への問題提起や問題解決方法の提案を行うには、エビデンスに基づく議論が不可欠だが、その基礎データは社会調査で収集されることが多い。政府が行うものから、現場の専門職が行うものまで、幅広く社会調査の基礎知識を学ぶ科目である。

授業の方法（ALを含む）

講義科目だが、【ミニテスト】を4回行い、知識の定着を図る。また、【リアクションペーパー】を毎回使用する。

到達目標

- 1．住民や福祉機関を対象に、政府が定期的に行なう社会調査の種類と概要を理解し、必要な時に利用できる。
- 2．社会調査の基本的な考え方を理解し、社会調査の良否が判断できる。
- 3．量的調査と質的調査の特徴と、適切な使い分けができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1事実や支援の効果についての実証及び理解 -2援助・支援に関する理論の基本的理解 -3統計的資料の解

釈と理解

内容

この授業は講義が基本ですが、必要に応じて演習も行います。

1	社会調査の意義・目的【リアクションペーパー】
2	政府が行う社会調査【リアクションペーパー】
3	社会調査における倫理と個人情報保護【リアクションペーパー】
4	量的調査の実施方法（第3・4章）・ミニテスト 【リアクションペーパー】

5	量的調査での標本抽出（第5・6章）【リアクションペーパー】
6	量的調査のデザインと変数（第1・2章）【リアクションペーパー】
7	量的調査の信頼性・妥当性及び回収率（第13章）・ミニテスト 【リアクションペーパー】
8	量的調査での調査票の作り方（第7・8章）【リアクションペーパー】
9	量的調査の実施過程（第9・10章）【リアクションペーパー】
10	量的調査の集計（第11・12章）【リアクションペーパー】
11	量的調査の統計解析・ミニテスト 【リアクションペーパー】
12	質的調査の目的・種類・方法【リアクションペーパー】
13	質的調査でのデータ分析【リアクションペーパー】
14	社会調査でのITの活用・ミニテスト 【リアクションペーパー】
15	まとめ【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】第4～10回は、教科書を事前に読み、内容の骨子を把握し、疑問点を書き出すこと。それ以外の回は、事前学習の課題を提供する。（各授業に対して60分）

【事後学修】配付された社会福祉士国試問題で、授業内容を再確認すること(各授業に対して30分)。

評価方法および評価の基準

平常点10%、ミニテスト(4回)90%とし、総合評価60点以上を合格とする。評価の比率は、到達目標の1.が2割、2.が6割、3.が2割とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で、出来る限り回答する。ミニテストの答えは、採点が終わり次第、返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】西野理子．社会をはかるためのツール - 社会調査入門．学文社

【推薦書】潮谷有二，杉澤秀博，武田 丈編著．社会調査の基礎．ミネルヴァ書房

鈴木淳子．質問紙デザインの技法(第2版)．ナカニシヤ出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ミニテストの得点合計が60%に達しない時は、再試験を課す。

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb318		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地方自治体における予算編成、執行状況の管理、行政計画の策定責任者等の実務経験を制度論中心の講義の理解度を深めることに活かすことができる。より、具体的な例を豊富に提示して、履修者が興味を持つことができることに活かす。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。また、社会福祉士指定科目として選択必修科目である。

社会福祉概論 ・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論 ・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性（地方分権）、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画（国・都道府県・市町村）の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に行う

到達目標

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明することができる。福祉行財政の実際について説明することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- ? - 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
 - 1 問題解決のための専門性と倫理

内容

[授業計画]

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

1	「福祉行財政と福祉計画」をとらえる視点
---	---------------------

2	福祉の法制度 - 憲法を中心とした福祉の法的枠組み
3	福祉行政の実施体制 - 国レベル
4	福祉行政の実施体制 - 都道府県、市町村（区）レベル
5	社会福祉と地方自治、地方分権一括法の意味 - 法定受託事務、自治事務
6	自治体における社会福祉の行政機関 - 法的根拠と主な業務
7	自治体における社会福祉の行政機関 - 主な業務と専門職配置
8	福祉財政 - 国家財政（社会保障関係費）
9	福祉財政 - 地方財政（民生費）
10	福祉財源問題をどうとらえるか
11	福祉計画 - 必要とされた時代背景
12	福祉計画 - 国の基本計画
13	福祉計画 - 自治体における福祉計画、地域福祉計画、老人福祉計画、介護保険事業計画等
14	福祉計画 - 自治体における福祉計画、障害者計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画等
15	福祉計画の策定過程、授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジュメを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標である、福祉行財政の実施体制（国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む）について説明することができる。福祉行財政の実際について説明することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について説明することができる。を評価するため、授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】いとう総研資格取得支援センター「見て覚える。社会福祉士国試ナビ2021」中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

私語厳禁。授業に関係のない私物（スマホ等）の使用は禁止します。難しい内容なので、授業に集中してください。

科目名	社会理論と社会システム		
担当教員名	吉田 亨		
ナンバリング	KDb219		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

ソーシャルワーク専門科目で、社会福祉士の必修科目。2年前期の「社会調査の基礎」とも関連する。

科目の概要

社会の捉え方を学ぶ、社会福祉士の基礎となる科目。具体的には、現代社会の理解、生活の理解、人と社会との関係、社会問題を学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

この授業は講義を基本とし、2回の【ミニテスト】を行う。また、講義と併行して、【レポート(表現)】を作成してもらう。優秀なレポートは、12回～15回の授業で【プレゼンテーション】してもらう。

到達目標

1. 社会の基本的な仕組みと動向を理解することで、ミニテストに適切に解答できる。
2. 社会学の基本概念を理解することで、ミニテストに適切に解答できる。
3. 近年の社会問題を理解し、福祉専門職の関わりについて理解を深めることで、適切な【レポート(表現)】を作成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2支援に関する基本的理解

内容

この授業は講義を基本とするが、講義と併行して、近年の社会問題(12～15回のテーマ)に関するレポートを作成してもらう。

1	家族と生活【リアクションペーパー】
2	社会集団【リアクションペーパー】
3	地域【リアクションペーパー】
4	人口【リアクションペーパー】

5	社会指標【ミニテスト】【リアクションペーパー】
6	雇用の動向【リアクションペーパー】
7	社会変動【リアクションペーパー】
8	社会的行為・社会関係資本【リアクションペーパー】
9	社会的役割と社会的ジレンマ【リアクションペーパー】（【レポート(表現)】提出日）
10	社会の法的側面【リアクションペーパー】
11	社会問題【ミニテスト】【リアクションペーパー】
12	いじめ・ハラスメント・自殺【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】
13	虐待(児童・高齢者・障害者)【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】
14	社会的孤立・貧困【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】
15	差別・依存症【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】（【レポート(表現)】最終提出日）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に示された授業のキーワードを調べておく。(60分)

【事後学修】配付された社会福祉士・介護福祉士の国試問題で、授業内容を再確認すること。(40分)

評価方法および評価の基準

平常点10%、ミニテスト(2回)50%、レポート40%とし、総合評価60点以上を合格とする。到達目標1・と2はミニテストで、到達目標3はレポートで評価する。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された学生からの質問には、次回の授業で出来る限り回答する。優秀なレポートは、授業でプレゼンテーションしてもらう。プレゼンテーションを聞いて、各自のレポートを加筆・修正し、学期末に最終提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用せず、プリントを配付する。

【参考図書】社会福祉士養成講座編集委員会編．社会理論と社会システム(第3版)．中央法規出版
福祉臨床シリーズ編集委員会編．社会理論と社会システム - 社会学(第3版)．弘文堂

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価で60点以上が見込めない場合は、ミニテスト ? の再試験、または、レポートの再提出を課す。(両者を課すこともある)

科目名	公的扶助論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb320		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

生活保護被保護者への現業員経験を、具体的な制度説明時に活かすことができる。

福祉事務所長として生活保護運用の統括責任者としての経験を、生活保護の制度運用の説明に活かすことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

社会福祉士国家試験受験資格を得るために履修を必要とする選択必修科目の一つであり、「低所得者に対する支援と生活保護制度」に該当する。

科目の概要

公的扶助（生活保護）は社会保障制度の重要な柱のひとつで、「健康で文化的な最低限度の生活」を保障する最後のセーフティネットと言われるものである。生存権保障としての生活保護制度、その歴史、理念・原則、仕組みと運用、自立を支援する具体的方法を中心に順次学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心とする。

到達目標

- ・生活保護制度の概要につき、その体系や基本的内容を理解することができる。
- ・低所得者対策の概要および関連施策について、その基本的内容を理解することができる。
- ・生活保護における自立支援の具体的方法や施策について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

? - 1社会福祉に関する法や制度の基本的理解

- 1問題解決のための専門性と論理

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

コマ数

1 オリエンテーション。本講義の概要、貧困の概念について説明する。

2 貧困・低所得者問題。見える貧困と見えない貧困および絶対的貧困と相対的貧困を理解する。

- 3 公的扶助の歴史I。イギリスにおける公的扶助制度の歴史。
- 4 公的扶助の歴史II。日本における公的扶助制度の歴史。
- 5 低所得者層の生活実態。低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について学ぶ
- 6 公的扶助のしくみ。社会保険と公的扶助の基本的な違いを理解する。
- 7 生活保護制度I。生活保護制度の基本原則と実施の原則。
- 8 生活保護制度II。生活保護の種類、範囲、方法について理解する。
- 9 生活保護制度 。最低生活費の体系について理解する。
- 10 生活保護制度 。収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。
- 11 福祉事務所の業務と組織。法定受託事務と自治事務。生活保護制度の実施体制と福祉事務所の役割、組織について理解する。
- 12 生活保護制度運用の実態について。生活保護ケースワークに関連したビデオを視聴し、生活保護制度運用の実態について考える。
- 13 生活保護制度における専門職の役割。現業員および査察指導員の役割と実際の業務について学ぶ
- 14 生活保護における相談援助活動。生活保護制度における「自立」について考える。
- 15 その他の低所得者支援の制度。生活困窮者自立支援法・生活福祉資金貸付・社会手当について理解する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジュメを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。
- 【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

評価方法および評価の基準

- 到達目標である・生活保護制度の概要につき、その体系や基本的内容を理解することができる。・低所得者対策の概要および関連施策について、その基本的内容を理解することができる。・生活保護における自立支援の具体的方法や施策について理解することができる。を評価する方法として、授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。
- 【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

レジュメを使用する。テキストは使用せず。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業に関係ない私語、スマホの利用については、厳禁。

科目名	保健医療サービス論		
担当教員名	塩澤 和人		
ナンバリング	KDb321		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

理学療法士として病院で勤務した経験は医療制度・施設や多職種連携等のあり方を学ぶ本科目との関連性が深いと考えられる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

ソーシャルワーク専門科目の中の選択科目であり、社会福祉士・精神保健福祉士国家試験の共通科目である。

本科目は、医療ソーシャルワーカーの業務に必要な医療保険制度、診療報酬、医療施設の概要、保険医療の専門職の役割、連携等について学ぶ科目である。

科目の概要

本科目は、保険医療サービスの基本的事項と社会的変化を踏まえ、対象となる患者・利用者とその家族の支援について、社会福祉士としての役割、専門性および各専門職との連携を学ぶ。主として医療ソーシャルワーカーに関連する業務内容、諸制度、施設、各専門職の役割や連携等を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、最近の医療福祉情勢や変化等についての事前学習や単元等の終了時に小テストを取り入れた授業を行う。調べてきたことについて討議・討論を行う。【ミニテスト】【リアクションペーパー】【討議・討論】

到達目標

1. 医療保険制度、診療報酬、保健医療サービス（医療施設等）の基本的事項を説明できる。
2. 保険医療サービスの領域で活躍する医療ソーシャルワーカーの役割と業務を説明できる。
3. 包括的な保険医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種連携について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解 -2 援助・支援に関する理論の基本的理解 -1 問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義を基本に、今起こっている事象、今後予想される事象について調べ、議論し考えることを通してこの分野に

興味や関心を持ってもらう。

1	保健医療サービスとは。戦後の保健医療サービスの整備・拡充について。【リアクションペーパー】
2	保健医療サービスの今日的課題。チーム医療と社会福祉専門職の役割。【リアクションペーパー】
3	医療法および保健医療政策による医療施設の機能・類型。【ミニテスト】
4	地域包括ケアシステムとは。診療報酬・介護保険法における施設等の機能・類型。【ミニテスト】
5	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組みについて。【リアクションペーパー】
6	医療ソーシャルワーカーの業務の内容（ミクロ・メゾ・マクロレベル）。【ミニテスト】
7	保健医療サービスの専門職の役割（概観・基本的姿勢）。【リアクションペーパー】
8	保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際。【リアクションペーパー】
9	医療保険制度と診療報酬制度の概要。【ミニテスト】
10	介護保険制度と介護報酬の概要。【ミニテスト】
11	公費負担医療制度の概要。【ミニテスト】
12	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識。【討議・討論】
13	保健医療の専門職との連携の実際。【討議・討論】
14	保健医療サービスにおける地域の社会的資源との連携と実践。【討議・討論】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1回～11回 【事前準備】 次回の授業のテーマやキーワードを明示するので、教科書を読んだり、関連事項を調べる。[60分]

【事後学習】 復習として授業のポイントを明示するのでまとめる。これを各セッションの課題として次回の授業の最初に用紙に記入し提出する。[60分]

12回～14回 【事前準備】 明示された課題について調べる。[60分]

【事後学習】 授業で学んだことを整理し、自らの考えをまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

各セッションの課題への取り組み（10%）、筆記試験（90%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．課題提出（4% / 10%）、筆記試験（30% / 90%）

到達目標 2．課題提出（3% / 10%）、筆記試験（30% / 90%）

到達目標 3．課題提出（3% / 10%）、筆記試験（30% / 90%）

【フィードバック】 各セッションの課題にはコメントを付し採点后、翌週の授業時間内に返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 社会福祉士養成講座編集委員会編集 『保健医療サービス 第5版』 中央法規出版

【参考図書】 埼玉県立大学編集 『IPWを学ぶ 利用者中心の保健医療福祉連携』 中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

合格点に満たなかった場合、筆記による「再試験」を実施する。再試験の対象者へは実施日時、教室、学習内容等について連絡する。

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDb322		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、主に社会保険制度の全体と個別内容を学ぶものである。社会保障論 を学んだ上での授業展開内容となる。社会福祉士養成課程指定科目でもある。3「社会福祉概論」、「社会福祉概論」、「社会保障論」とも関連がある。

科目の概要

本科目は、社会保険の意味・特色・体系、年金保険、医療保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険の制度的特徴とその課題について学んでいく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法により授業を展開する。リアクションペーパー、小レポート、まとめのレポートで理解度を深める。

到達目標

1. 社会保障（社会保険）制度の体系について理解することができる。
2. 年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することができる。
3. 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解」、「 - 1 問題解決のための専門性と倫理」に該当する。

内容

[授業計画]

1	社会保障制度の中における社会保険の位置づけ - 基本は講義。毎回適宜、質疑応答を行う。
2	社会保険とは何か - その性格
3	社会保険とは何か - その役割と機能
4	給付と負担 - 社会保険方式と税方式とのちがい

5	年金保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
6	年金保険制度の概要 - 給付の種類と内容
7	医療保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
8	医療保険制度の概要 - 給付の種類と内容
9	介護保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
10	介護保険制度の概要 - 給付の種類と内容
11	雇用保険制度の概要 - その特徴、受給要件、給付対象
12	雇用保険制度の概要 - 給付の種類と内容
13	労働者災害補償保険 - その特徴、受給要件、給付対象
14	労働者災害補償保険 - 給付の種類と内容
15	授業のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1ーリアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%

到達目標2ーリアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%

到達目標3ーリアクションペーパー20%、小レポート20%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第6版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	更生保護制度		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDb322		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は主に更生保護制度の全体像を学ぶものである。社会福祉士養成課程指定科目でもある。「社会福祉概論」、「社会福祉概論」、「ソーシャルワーク論」、「ソーシャルワーク論」とも関連がある。

科目の概要

本科目は「犯罪と福祉」という社会問題に関して、社会的排除が端的に現れやすい人権問題領域であることを意識しながら、「人権と社会正義の実現」というソーシャルワークの価値についての理解を深めていく。具体的には、司法福祉、刑事司法、更生保護法制、その歴史的展開、機構、手続き、対象者、担い手、等の内容を学んでいく。

授業の方法

本科目は講義を中心とし、テキスト・板書という方法により授業を展開する。リアクションペーパー、小レポート、まとめのレポートにより理解度を深める。

到達目標

1. 司法福祉（修復的司法を含めて）・刑事司法・更生保護制度の全体的なつながりを理解することができる。
2. 犯罪を行ってしまった人への社会復帰支援の意味とその重要性を理解することができる。
3. 更生保護制度とその運用全般を理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解」、「 - 1 問題解決のための専門性と倫理」に該当する。

内容

1	刑事司法、更生保護とは - 本科目は講義を基本とするが毎回適宜。質疑応答を行う。
2	更生保護法とは
3	更生保護の歴史
4	更生保護の対象者と手続き - 非行少年
5	更生保護の対象者と手続き - 犯罪をした人

6	更生保護の具体的方法 - 仮釈放、保護観察等
7	更生保護の具体的方法 - 生活環境の調整、更生緊急保護等
8	更生保護制度の実施機構及び組織
9	更生保護制度の担い手
10	医療観察制度とは
11	他害行為を行った精神障害のある人の社会復帰支援の方法
12	高齢者・障害のある犯罪者の保護
13	就労支援の方法と課題
14	更生保護の今後の課題
15	全体のまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業終了時に告げられる次回授業のテキスト箇所を通読し、要点を調べノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

【事後学修】授業終了時に告げられる今回授業のテキスト箇所を通読・点検・復習し、板書した項目についてノートにまとめておく(各授業に対して45分)。

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー20%小レポート20%、まとめのレポート60%で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1ーリアクションペーパー20%小レポート20%、まとめのレポート60%

到達目標2ーリアクションペーパー20%小レポート20%、まとめのレポート60%

到達目標3ーリアクションペーパー20%小レポート20%、まとめのレポート60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】片居木英人『現代の社会福祉をめぐる人権と法』法律情報出版

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じ、授業で随時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDb324		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

老人福祉指導主事、地域包括支援センター所長として、社会福祉法人を含む介護保険事業所の指導監督を担った。福祉事務所長として、組織運用の最高責任者を担った。これらの経験を講義の内容である、福祉施設経営の具体的な方法を説明するに際し、活用することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本講義は国家試験指定科目「福祉サービスの組織と経営」に該当する。組織の管理運営について理解するために、施設管理者である理事、施設長の立場で考察し、取り組む科目である。社会福祉士過程における選択必修科目である。

科目の概要

福祉サービスに係る組織や団体（主に社会福祉法人）及び経営管理等について考察する。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に実施する

到達目標

社会福祉施設や一般企業に共通する組織運営・経営についての知識を理解し、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

? - 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解

- 1 問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

1	福祉サービスにおける組織、経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（1）法人
4	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（2）社会福祉法人 1
5	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（3）社会福祉法人 2
6	福祉サービスに関わる地域における組織や団体（4）NPO等その他の法人

7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（1）
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論（2）
9	福祉サービスの管理運営の方法（1）サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法（2）人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法（3）労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法（4）会計と財務 1
13	福祉サービスの管理運営の方法（4）会計と財務 2
14	福祉サービスの管理運営の方法（5）情報管理
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】毎回の講義前に出題範囲および内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジュメ・ノートの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

評価方法および評価の基準

社会福祉施設や一般企業に共通する組織運営・経営についての知識を理解し、説明することができる。を評価するために、授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を総合的に勘案し合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】いとう総研資格取得支援センター編「見て覚える。社会福祉国試ナビ2020」中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業に関係のない私語、スマホの使用は厳禁

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の1に該当する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要

等)について復習しておくこと(各授業に対して30分)

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

ワークシートや小テスト(65点)、授業での参加姿勢(15点)、最終レポート(20点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の1に該当する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要

等)について復習しておくこと(各授業に対して30分)

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

ワークシートや小テスト(65点)、授業での参加姿勢(15点)、最終レポート(20点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の1に該当する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要

等)について復習しておくこと(各授業に対して30分)

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

ワークシートや小テスト(65点)、授業での参加姿勢(15点)、最終レポート(20点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Dクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要

等)について復習しておくこと(各授業に対して30分)

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

ワークシートや小テスト(65点)、授業での参加姿勢(15点)、最終レポート(20点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング	KDb025		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年		ク ラ ス	2Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本学では、社会福祉の援助技術を学ぶ演習科目として相談援助演習 ～ を設置している。そのうち相談援助演習 および は対人援助技術の基盤形成を図る科目である。

科目の概要

社会福祉の専門的援助行為は、利用者と援助者の人間的な関係性によって成り立つ。それゆえ将来、福祉に関わる専門職を目指す学生は、他者への十分な理解および自分自身への理解をそれぞれ深め、専門的援助関係の基礎となる対人関係そのものを築く力を形成することが求められる。本授業では、対人援助技術の基盤形成を図るにあたり、福祉援助の専門的援助関係を学び、それを形成していくのに必要な学生自身の自己覚知を深める力を養うことを中心的なねらいとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

援助者の自己覚知、他者理解、価値観や信念といった相談援助の基礎概念を理解し、対人コミュニケーションにおける基本的技術を習得すること。

なお、本科目は、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）の1に該当する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回 オリエンテーション

第2～7回 自己理解・自己覚知・他者理解・多面的理解

第8～12回 援助関係とコミュニケーション

第13～14回 相談援助の価値・倫理

第15回 まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】社会福祉概論やソーシャルワーク論 で学んだ相談援助の基礎知識（専門職の役割や社会福祉援助技術の概要

等)について復習しておくこと(各授業に対して30分)

【事後学修】配布された資料をよく読んで次回までに復習しておくこと(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

ワークシートや小テスト(65点)、授業での参加姿勢(15点)、最終レポート(20点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートに記載された内容をもとに、授業内で意見交換を行う。また、提出されたワークシートや小テストは、評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。適宜資料を配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり。相談援助の技術を具体的実践経験に戻づいて指導することができる。

実務経験および科目との関連性

福祉領域における相談職及びソーシャルワーカーとしての実務経験あり。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。ソーシャルワーク論や他の相談援助演習に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

授業の方法（ALを含む）

トライアドを用いたスキルトレーニング、およびロールプレイ【スキルトレーニング】【模擬面接【ロールプレイ】】

到達目標

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2支援に関しての基本的理解

-3専門的援助関係の基本的理解と形成 -5自己表現及び集団的思考

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリトレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に【ロールプレイ】
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に【スキルトレーニング】
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感【スキルトレーニング】

7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど【スキルトレーニング】
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など【スキルトレーニング】
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など【スキルトレーニング】
10	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
11	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
12	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に出された宿題をすること（60分）

【事後学修】授業で学んだスキルを日々の日常で意識してもちいること。何度か自分で練習すること（30分）

評価方法および評価の基準

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。【フィードバック】ミニレポートは提出の有無の度数を合計し得点として算出する。最終レポートは独自に作成した5段階のルーブリックにより評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークの基本的な臨床スキルはよみとり、かかわり、振り返りであり、いずれも、自己覚知に基づいています。この授業で対人援助の基本的なセンス（感性）を身に着けることを目指します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり。相談援助の技術を具体的実践経験に戻づいて指導することができる。

実務経験および科目との関連性

福祉領域における相談職及びソーシャルワーカーとしての実務経験あり。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。ソーシャルワーク論や他の相談援助演習に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

授業の方法（ALを含む）

トライアドを用いたスキルトレーニング、およびロールプレイ【スキルトレーニング】【模擬面接【ロールプレイ】】

到達目標

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2支援に関しての基本的理解

-3専門的援助関係の基本的理解と形成 -5自己表現及び集団的思考

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリトレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に【ロールプレイ】
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に【スキルトレーニング】
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感【スキルトレーニング】

7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど【スキルトレーニング】
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など【スキルトレーニング】
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など【スキルトレーニング】
10	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
11	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
12	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に出された宿題をすること（60分）

【事後学修】授業で学んだスキルを日々の日常で意識してもちいること。何度か自分で練習すること（30分）

評価方法および評価の基準

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。【フィードバック】ミニレポートは提出の有無の度数を合計し得点として算出する。最終レポートは独自に作成した5段階のルーブリックにより評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークの基本的な臨床スキルは よみとり、 かかわり、 振り返りであり、いずれも、自己覚知に基づいています。この授業で対人援助の基本的なセンス（感性）を身に着けることを目指します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり。相談援助の技術を具体的実践経験に戻づいて指導することができる。

実務経験および科目との関連性

福祉領域における相談職及びソーシャルワーカーとしての実務経験あり。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。ソーシャルワーク論や他の相談援助演習に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

授業の方法（ALを含む）

トライアドを用いたスキルトレーニング、およびロールプレイ【スキルトレーニング】【模擬面接【ロールプレイ】】

到達目標

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2支援に関しての基本的理解

-3専門的援助関係の基本的理解と形成 -5自己表現及び集団的思考

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリートレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に【ロールプレイ】
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に【スキルトレーニング】
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感【スキルトレーニング】

7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど【スキルトレーニング】
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など【スキルトレーニング】
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など【スキルトレーニング】
10	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
11	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
12	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に出された宿題をすること（60分）

【事後学修】授業で学んだスキルを日々の日常で意識してもちいること。何度か自分で練習すること（30分）

評価方法および評価の基準

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。【フィードバック】ミニレポートは提出の有無の度数を合計し得点として算出する。最終レポートは独自に作成した5段階のルーブリックにより評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークの基本的な臨床スキルは よみとり、 かかわり、 振り返りであり、いずれも、自己覚知に基づいています。この授業で対人援助の基本的なセンス（感性）を身に着けることを目指します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり。相談援助の技術を具体的実践経験に戻づいて指導することができる。

実務経験および科目との関連性

福祉領域における相談職及びソーシャルワーカーとしての実務経験あり。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。ソーシャルワーク論や他の相談援助演習に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

授業の方法（ALを含む）

トライアドを用いたスキルトレーニング、およびロールプレイ【スキルトレーニング】【模擬面接【ロールプレイ】】

到達目標

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2支援に関しての基本的理解

-3専門的援助関係の基本的理解と形成 -5自己表現及び集団的思考

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリートレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に【ロールプレイ】
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に【スキルトレーニング】
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感【スキルトレーニング】

7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど【スキルトレーニング】
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など【スキルトレーニング】
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など【スキルトレーニング】
10	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
11	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
12	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に出された宿題をすること（60分）

【事後学修】授業で学んだスキルを日々の日常で意識してもちいること。何度か自分で練習すること（30分）

評価方法および評価の基準

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。【フィードバック】ミニレポートは提出の有無の度数を合計し得点として算出する。最終レポートは独自に作成した5段階のルーブリックにより評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークの基本的な臨床スキルは よみとり、 かかわり、 振り返りであり、いずれも、自己覚知に基づいています。この授業で対人援助の基本的なセンス（感性）を身に着けることを目指します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	荻野 起与子		
ナンバリング	KDb125		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり。相談援助の技術を具体的実践経験に戻づいて指導することができる。

実務経験および科目との関連性

福祉領域における相談職及びソーシャルワーカーとしての実務経験あり。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、ソーシャルワークの知識・技術を身につけることに関連する。ソーシャルワーク論や他の相談援助演習に関連する。

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場面を再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

授業の方法（ALを含む）

トライアドを用いたスキルトレーニング、およびロールプレイ【スキルトレーニング】【模擬面接【ロールプレイ】】

到達目標

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場面を再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2支援に関しての基本的理解

-3専門的援助関係の基本的理解と形成 -5自己表現及び集団的思考

内容

ミニ講義を導入とし、個人もしくはグループでのワークやトレーニングを中心とする。特に傾聴トレーニングでは心理面接室とその機材を使用し、ラボラトリートレーニングに準じた学習環境を用いる。

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に【ロールプレイ】
4	対人コミュニケーションの理論：情動調律を中心に【スキルトレーニング】
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング体験
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感【スキルトレーニング】

7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど【スキルトレーニング】
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など【スキルトレーニング】
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など【スキルトレーニング】
10	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
11	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
12	模擬面接：グループごとに実施【模擬面接】【スキルトレーニング】
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】授業中に出された宿題をすること（60分）

【事後学修】授業で学んだスキルを日々の日常で意識してもちいること。何度か自分で練習すること（30分）

評価方法および評価の基準

ミニレポート40点、最終レポート60点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題のコメントや評価は授業中にフィードバックする。【フィードバック】ミニレポートは提出の有無の度数を合計し得点として算出する。最終レポートは独自に作成した5段階のルーブリックにより評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布する。

【推薦書】

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座7 相談援助の理論と方法』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ソーシャルワークの基本的な臨床スキルは よみとり、 かかわり、 振り返りであり、いずれも、自己覚知に基づいています。この授業で対人援助の基本的なセンス（感性）を身に着けることを目指します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	今井 伸、大山 博幸、富井 友子、教員未設定		
ナンバリング	KDb225		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

各教員の福祉現場での実務経験を通して、より実態に即した支援内容を学ぶことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

【科目の性格】本科目は、社会福祉士受験資格習得課程の科目であり、社会福祉士に求められるソーシャルワークの知識・価値・技術について実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化及び理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。なお、より効果的に授業を進めるために相談援助実習指導 と連動している。

【科目の概要】本科目は、事例理解を中心に具体的な支援のあり方およびアセスメント、個別支援計画について学ぶ。事例をイメージし理解することから始め、支援のあり方について学んだ上で、アセスメントや個別支援計画作成のワークを行う。また、初回面接やインテーク場面を想定してロールプレイを行い、知識および技術の修得を目指す。

授業の方法（ALを含む）

講義およびアクティブラーニング

到達目標

ケースワークを理解した上で、相談援助過程を具体的に説明することができる

ICFを理解した上で、アセスメントを行い、記録できる

個別支援計画を作成できる

社会福祉士という専門職が習得すべき重要用語について説明することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 1 問題解決のための専門性と倫理

内容

1	オリエンテーション
2	記録の内容及び方法に関する理解
3	事例の理解
4	事例の理解
5	ICFについて
6	事例を通してアセスメントを学ぶ

7	事例を通してアセスメントを学ぶ
8	事例を通してアセスメントを学ぶ
9	事例を通して個別支援計画の作成を学ぶ
10	事例を通して個別支援計画の作成を学ぶ
11	事例を通して個別支援計画の作成を学ぶ
12	実習報告会への参加
13	ロールプレイを通して初回面接やインテークについて学ぶ
14	ロールプレイを通して初回面接やインテークについて学ぶ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に資料に目を通しておくこと 必要な場合は発表の準備をしておくこと（各授業に対して30分）

【事後学修】ノートの整理をし授業の内容を振り返り、理解を深めておくこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

到達目標を評価するために、記録に関するワークシート（10%）、事例の理解における提出物・発表・グループワーク参加態度（20%）、アセスメント・個別支援計画・インテークにおける提出物・発表・グループワーク参加態度（50%）、最終レポート（20%）を総合的に行う。総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシートや発表内容をもとに授業内で意見交換を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業形態が演習のため、学生個人が積極的に発言を行い、討議に参加する姿勢が求められる。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽、大山 博幸、今井 伸、富井 友子		
ナンバリング	KDb325		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会の福祉活動専門員、自治体の地域福祉係主任としての地域福祉実践経験と実証研究を活かして担当し、社会福祉士としての専門性を活かして地域福祉及びソーシャルワークについて具体的な実践事例やフィールドワークを用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、学科のソーシャルワーク専門科目に位置付けられる選択科目であるが、社会福祉士資格取得においては必修科目である。社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。

科目の概要

本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、ソーシャルワークにおける実践事例を活用し、時系列にワーカー役割を踏まえながら、演習シートを活用し、個別理解を行った上で、小グループで課題に取り組み、内容について理解を深めるためのディスカッションを行い、必要に応じて資料を用いて発表することと、身につけた知識や考察、意見等をレポートライティングし、学修成果を確認して理解を深められるようにする。【グループワーク】【討議】【プレゼンテーション】【ケースメソッド】【レポート】

到達目標

- 1.地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について実施することができる。
- 2.地域福祉の計画策定手法を実施することができる。
- 3.ネットワーキングを実施することができる。
- 4.社会資源の活用・調整・開発について工夫することができる。
- 5.サービス評価について実施することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の 知識・技能、 思考力・判断力・表現力、 主体性・多様性・協働性を育成することを目的とする。

-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解 -2援助・支援に関する理論の基本的理解 -1問題解決のための専門性と倫理

内容

1. 地域福祉を推進するために必要なワーカーとは
2. 地域をとらえる
3. 地域理解 アセスメントについて
4. アウトリーチとニーズ把握の方法
5. 地域における社会資源
6. 近隣における支え合い実践事例 ジェノグラム作成
7. 近隣における支え合い実践事例 エコマップ作成
8. ワーカーの関わり
9. ワーカーの視点 ネットワーキング
10. 支援のあり方について(社会資源の活用・調整・開発)
11. 既存サービス以外の支援方法の検討
12. サービス開発
13. サービス評価を含むワーカーの支援の視点と留意点
14. 地域福祉計画・地域福祉活動計画
15. まとめ

【グループワーク】【討議】【プレゼンテーション】【ケースメソッド】【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】すでに学修しているソーシャルワーク論と相談援助演習の内容をふりかえり、基本的なソーシャルワークに関する専門用語をまとめておくこと。(各授業に対して30分)

【事後学修】毎時取り組まれる内容を各自でふりかえり、テキストや用語辞典で授業で取り扱ったソーシャルワーク知識に関してまとめておく。(各授業に対して30分)

評価方法および評価の基準

各授業回のワークシートおよび課題作成内容(30%)、演習におけるグループワーク、討議、プレゼンテーション、ケースメソッド(50%)、最終レポート(20%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.ワークシート等(5%/30%)、グループワーク等(10%/50%)、レポート(4%/20%)

到達目標2.ワークシート等(5%/30%)、グループワーク等(10%/50%)、レポート(4%/20%)

到達目標3.ワークシート等(5%/30%)、グループワーク等(10%/50%)、レポート(4%/20%)

到達目標4.ワークシート等(10%/30%)、グループワーク等(10%/50%)、レポート(4%/20%)

到達目標5.ワークシート等(5%/30%)、グループワーク等(10%/50%)、レポート(4%/20%)

【フィードバック】毎授業の課題に返答し、発言や口頭発表にコメントをして学修理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

【推薦書】

社会福祉士養成講座編集委員会「新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法」中央法規

その他随時教室で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸、富井 友子、今井 伸、佐藤 陽		
ナンバリング	KDb425		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

担当教員は福祉領域での相談職の実務経験がある。相談援助における知識や技術を具体的な実践と関連付けながら指導できる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけること、自分が体験したことを分かりやすく意味づけ、表現することと関連する。ソーシャルワーク論や他の相談援助演習、社会福祉実習や相談援助実習指導と関連する。

本演習は原則社会福祉実習後に行い、実習科目との関連も重視しつつ、相談援助の知識と技術の総合的・統合的な学習を目指す。

相談援助に係る知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導ならびに個別指導による実技指導を行う。

授業の方法（ALを含む）

グループスーパービジョンやロールプレイング、サイコドラマの形態を用いる。【グループスーパービジョン】【ロールプレイ】

到達目標

自らの主要な実習経験を振り返りその経験を記述しかつ意味づけることができる。自らの主要な実習経験を、実習で抽出した事例検討やロールプレイおよびプロセスレコード、インシデント記述等を使った場面の再構成によって、記述もしくはロールプレイで再現することができる。実習経験の振り返りから得た自らの個別的な意味づけや知見を、既存の相談援助あるいは社会福祉一般の知識や技術と関連してとらえなおし文章で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 5生活課題の理解、問題解決の方法と提示
- 1問題解決のための専門性と倫理

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

1	オリエンテーション
2	ワークシートを用いた事例検討1（ねらいと手順の説明）

3	ワークシートを用いた事例検討2（各グループごとにシェア）【グループスーパービジョン】
4	ワークシートを用いた事例検討3（各グループごとにシェア）【グループスーパービジョン】
5	ワークシートを用いた事例検討報告4（全体で報告、質疑）【グループスーパービジョン】
6	ワークシートを用いた事例検討報告5（全体で報告、質疑）【グループスーパービジョン】
7	ワークシートを用いた事例検討報告6（全体で報告、質疑）【グループスーパービジョン】
8	実習経験と専門知見との連関生成・統合1（レポート記述とプレゼンテーション）
9	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成1（説明）【デモンストレーション】
10	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成2（実施）【ロールプレイ】
11	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成3（実施）【ロールプレイ】
12	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成4（実施）【ロールプレイ】
13	ロールプレイ・プロセスレコード・インシデント記述等を通じた実習場面の再構成5（実施）【ロールプレイ】
14	実習経験と専門知見との連関生成・統合2（レポート記述とプレゼンテーション）【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】社会福祉実習で実施した事例検討（ケーススタディ）を見直しておくこと。（45分）

【事後学修】授業で浮かび上がったソーシャルワーク上の鍵概念を具体的実践例とともに理解・確認すること。（45分）

評価方法および評価の基準

ロールプレイ実施後の自由記述およびインシデント記述のためのワークシートを中間レポートとして評価（30%）する。また最終レポートとして、事例検討のためのワークシートの提出を求める（60%）。授業態度を10%とする。総合評価60点以上を合格とする。課題へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。それぞれの成果物に独自に作成した5段階評価のルーブリックに基づいて行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】とくに使用しない。

【推薦書】

社団法人日本社会福祉士養成校協会監修 白澤政和 福山和女 石川久展編『社会福祉士 相談援助演習』中央法規 2009
高良聖『サイコドラマの技法』岩崎学術出版 2013

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

社会福祉士としてソーシャルワークの実践力を意識し身に付けていくことが目的となります。

実習経験と既存知見の関連を見出すことを目指します。

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC126		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

社本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論」、「基礎介護論」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、との関連性がある。

科目の概要

1. 介護福祉士を取り巻く状況（介護の変遷・少子高齢社会・家族機能の変化、介護の社会化、介護ニーズの変化）や 2. 介護問題理解、3. 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみについて学習する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」と「自立」の捉え方について理解を深めることを学修目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。毎回受講者 2 人ずつ、福祉関連書籍の紹介も実施する。

1	前期オリエンテーション	内 容：求められる介護福祉士とは何か
2	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～相互扶助と慈善救済活動～
3	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～養老律令と介護行為～
4	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～恤救規則から生活保護制度～
5	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：介護の歴史的変遷 ～老人福祉法から介護保険制度～
6	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：高度経済成長と家族機能の変化
7	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：核家族と介護の社会化
8	介護福祉士を取り巻く状況	内 容：老老介護と高齢者虐待

9	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：福祉専門職種資格の変遷
10	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士の定義と義務規定
11	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：名称独占と業務独占
12	介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ	内 容：介護福祉士養成の現状と課題
13	専門職団体の活動	内 容：介護福祉士会の現状と課題
14	専門職団体の活動	内 容：日本介護福祉士会生涯学習制度
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

1．レポート20％、2．筆記試験80％とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村 洋子（編集）『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,第5版/2016年 12月。

他オリジナル資料配付。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	基礎介護論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC226		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

本講義は介護福祉士養成課程の基幹科目。他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論」、「基礎介護論」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、との関連性がある。

科目の概要

1. 「尊厳を支える介護」、2. 「自立に向けた介護」3. 「介護を必要とする人の理解」4. 「介護従事者の倫理 (職業倫理、利用者の人権と介護、プライバシーの保護)」、について学習する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

介護福祉士の基盤となる、介護の基礎知識の習得と「尊厳」・「自立」・「倫理」の捉え方について理解を深めることを学習目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。毎回受講者 2 人ずつ、福祉関連書籍の紹介も実施する。

1	尊厳を支える介護	内 容：QOLと介護のあり方
2	尊厳を支える介護	内 容：A. マズローの欲求階層理論と尊厳を支える介護
3	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションと尊厳を支える介護
4	尊厳を支える介護	内 容：ノーマライゼーションからエンパワメント
5	尊厳を支える介護	内 容：憲法 2 5 条生存権と尊厳を支える介護
6	尊厳を支える介護	内 容：憲法 1 3 条幸福追求権と尊厳を支える介護
7	尊厳を支える介護	内 容：生活保護と尊厳を支える介護
8	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活史、価値観～
9	介護を必要とする人の理解	内 容：人間の多様性・複雑性の理解～生活習慣、文化等～

10	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～保険者と被保険者～
11	介護サービスの現状	内 容：介護保険制度の概要～介護保険施設の種類とサービス～
12	介護実践における連携	内 容：～他職種連携の意義と目的～
13	介護従事者の倫理	内 容：介護従事者の職業倫理
14	介護従事者の倫理	内 容：介護実践の場で求められる倫理
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

1．レポート20％、2．筆記試験80％とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：西村 洋子（編集）『最新 介護福祉全書 3 介護の基本』メジカルフレンド社,第5版/2016年 12月。

他オリジナル資料配付

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護と倫理		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC227		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上、介護福祉士国家資格取得後、実務経験5年以上の教員が条件。その経験を活かして、最新の介護福祉学について理論と実践を融合し講義している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の必修科目。介護福祉士に求められる倫理観の目的及び意義の理解を深め、基本的な知識と技能を学修する。

他の専門科目とも関連し、基本的な概念・知識を理解することが求められる。「社会福祉概論 」、 「基礎介護論 」、 「コミュニケーション技術 」、との関連性がある。

科目の概要

倫理学をベースとし、社会福祉哲学・思想・倫理観について学習する。

授業の方法

講義方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

到達目標

介護福祉士の基盤となる、「倫理観」の捉え方について説明することができる。
 介護福祉士の基盤となる、利用者への「尊厳」について説明することができる。
 介護福祉士の基盤となる、「行動規範」を説明と実践することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシー

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 問題解決のための専門性と倫理
- 1 問題解決のための専門性と倫理

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	前期オリエンテーション 求められる介護福祉士とは何か
2	介護と倫理 倫理とは何か ~ 専門職とは(1) 専門職とは何か ~
3	介護と倫理 倫理とは何か ~ 専門職とは(2) 様々な専門職に求められる倫理 ~
4	介護と倫理 社会福祉哲学からのアプローチ ~ 介護従事者の倫理(1) ~
5	介護と倫理 社会福祉哲学からのアプローチ ~ 介護従事者の倫理(2) ~ 【ディスカッション】
6	介護と倫理 思想からのアプローチ ~ 利用者の人権(1) ~
7	介護と倫理 思想からのアプローチ ~ 利用者の人権(2) ~ 【ディスカッション】
8	介護と倫理 介護福祉士法による倫理綱領 ~ プライバシーの保護(1) 人間の尊厳とは ~
9	介護と倫理 他専門職団体による倫理綱領 ~ プライバシーの保護(2) 個人情報保護法と介護福祉のあり方 ~ 【ディスカッション】
10	介護と倫理 高齢者虐待防止法
11	介護と倫理 事例検討 ~ 抑制について ~ 【ディスカッション】
12	介護と倫理 事例検討 ~ 虐待行為 ~ 【ディスカッション】
13	介護と倫理 事例検討 ~ 虐待行為 ~ 【ディスカッション】
14	介護と倫理 求められる介護福祉士像【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

1. 3つの到達目標について、3つの事例シート(各25点×5=75点)と総括シート(25点)において、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

藤谷 秀・横山 貴美子『介護福祉のための倫理学(介護福祉士のための教養学 4)』

弘文堂 2007年10月刊 ISBN 978-4-335-61064-6

他オリジナル資料配付。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

倫理とは何か?なぜ専門職に論理が必要であるのかを深めてみてください。

科目名	介護と環境		
担当教員名	織田 つや子		
ナンバリング	KDC329		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

デイサービスセンター、在宅介護支援センター、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターでの実務経験があり、介護と環境についての実践に携わってきました。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、介護福祉士養成課程カリキュラムにおける科目の一つです。

科目の概要

利用者が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けたいという思いを支えるためには、安全の確保とリスクマネジメントは不可欠です。介護におけるリスクマネジメントの考え方を理解し、事故や感染症対策の具体的手法を学びます。またそのためにも介護者自身の心身の健康は重要であり、健康管理に必要な基礎的知識と技術を学びます。

授業の方法（ALを含む）

授業の形式は、講義およびグループワークによる演習です。毎回、授業後に演習シートを活用して、授業を振り返り、理解を深めます。また、事例の検討や、発表、意見交換も行います。【グループワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【ケースメソッド】

到達目標

学修目標は、介護における安全の確保とリスクマネジメントを利用者の立場、介護福祉士の立場から理解できるようになることです。

授業では、学び、理解するだけでなく、グループワークを通して、共に学び、考えを深めてほしいと思います。そしてリスクマネジメントは、利用者の自立を支援することと表裏一体のことで、現場で仕事をしていくうえで、ずっと考え続けていくものです。その礎となるものをこの授業で得ていただきたいと思います。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関する基本的理解

内容

1	オリエンテーション・コミュニケーションの基本【グループワーク】
2	介護における安全の確保 （1）介護における安全の確保の重要性【ケースメソッド】
3	介護における安全の確保 （2）安全確保のためのリスクマネジメント
4	介護における安全の確保 （3）事故・トラブルを繰り返さないための検討
5	事故防止・安全対策 （1）事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み

6	事故防止・安全対策 (2) 演習・事例検討【グループワーク】
7	事故防止・安全対策 (3) 生活の中のリスクと対策
8	事故防止・安全対策 (4) 演習【グループワーク】
9	感染管理のための方策 (1) 生活の場での感染対策・演習【グループワーク】
10	感染管理のための方策 (2) 感染対策の基礎知識・演習【プレゼンテーション】
11	介護に携わる人の健康管理 (1) 健康管理の意義と目的
12	介護に携わる人の健康管理 (2) 心の健康管理
13	介護に携わる人の健康管理 (3) からだの健康管理
14	安心して働ける職場づくり 労働環境の整備
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 実習先や今までの介護経験の中から、ヒヤリと思ったこと、危険だと思ったことを振り返っておいてください。

【事後学修】 授業で学んだことを実際の介護場面で生かせるよう、しっかり復習してください。また、国家試験の問題集などに取り組んで、理解を深めてください。

評価方法および評価の基準

[単位認定の方法及び基準]

毎回、授業後に記入する演習シート 50点、授業態度・グループワークへの参加する姿勢 10点、学修目標に関するテスト 40点により、評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合には、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座4 介護の基本』中央法規出版

三好明夫編著『介護福祉学 介護福祉士の専門性と独自性の探究』学文社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護と地域		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDC330		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護職としての実務経験あり

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士受験資格取得のための指定科目の一つとして設置しており、介護サービスとその地域における連携を理解することをねらいとする。なお、本科目は介護福祉士受験資格指定科目である。

科目の概要

ケアワーカーの活動の場としての地域および地域ケアの現状と課題を概観し、制度や社会資源を理解した上で、地域住民が住み慣れた地域で暮らし続けることを支えるために、ケアワーカーに求められる視点や役割、支援の実際を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に、グループワーク等も行う。【グループワーク】

学修目標（＝到達目標）

地域ケアに関する基本的な制度や社会資源、専門職連携、地域課題解決に向けた住民との協働に関し、基礎的な知識を習得し、他者に説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの1に該当する。

内容

1	オリエンテーション、介護と地域とは
2	介護保険制度と介護サービス
3	介護保険制度と介護サービス
4	介護保険制度と介護サービス
5	地域包括ケアシステムと地域包括支援センター
6	医療との連携（退院支援）
7	医療との連携（地域における看取りケア）
8	地域における認知症ケアと家族支援
9	地域における見守りと生活支援

10	地域課題の認識・共有化と解決に向けた協働
11	小規模多機能型居宅介護と地域ケア
12	小規模多機能型居宅介護と地域ケア
13	過疎地域の高齢者と地域課題
14	災害と生活支援
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自身の住む自治体（もしくは関心のある自治体）における社会資源について調べておくこと。

【事後学修】授業内で配布した資料を再度読み直し、理解を深めること。

評価方法および評価の基準

課題やリアクションペーパー（55点）、小テスト（15点）、最終レポート（30点）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパー、課題、小テストは授業内で返却・解説・意見共有等を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。適宜授業内で資料を配布する。

【推薦書】

太田貞司監修(2014)『地域ケアを拓く介護福祉学シリーズ 生活支援総論』光生館

杉崎千洋(2020)『単身高齢者の見守りと医療をつなぐ地域包括ケア』中央法規

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC131		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2 に該当する。

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

「コミュニケーション技術」、「基礎介護論」、「介護と倫理」、「ソーシャルワーク論」、との関連性がある。

科目の概要

コミュニケーション技術 では介護におけるコミュニケーションの基本について、（1）コミュニケーションとは、（2）コミュニケーションの基本、（3）コミュニケーションの理論と実際、について演習を展開する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

本科目の学修目標は、介護におけるコミュニケーションの基本、について、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めていく。

1	オリエンテーション ～授業の概要～
2	コミュニケーションとは（1）～日常生活におけるコミュニケーション～
3	コミュニケーションとは（2）～日常生活におけるコミュニケーション場面～
4	コミュニケーションとは（3）～日常生活におけるコミュニケーション手段～
5	コミュニケーションの基本（1）～介護福祉士に求められるコミュニケーション能力～
6	コミュニケーションの基本（2）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
7	コミュニケーションの基本（3）～介護福祉士に求められるコミュニケーションスキル～
8	コミュニケーションの理論と実際（1）～自己紹介と他者紹介～

9	コミュニケーションの理論と実際（２）～自己紹介と他者紹介～
10	コミュニケーションの理論と実際（３）～自己開示～
11	コミュニケーションの理論と実際（４）～伝言ゲーム～
12	コミュニケーションの理論と実際（５）～価値交流～
13	コミュニケーションの理論と実際（６）～交流分析と自己覚知～
14	コミュニケーションの理論と実際（７）～リーダーシップ理論～
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

課題レポート30%、定期試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井 奈美 ISBN：978-4-8392-3144-6

第1版/2014年 12月

他オリジナル資料配付

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC231		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上、介護福祉士国家資格取得後、実務経験5年以上の教員が条件。その経験を活かして、最新の介護現場でのコミュニケーションスキルを講義している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の必修科目。介護福祉士に求められるコミュニケーションの目的及び意義の理解を深め、コミュニケーション理論・技術の基本的な知識と技能を学修する。

「コミュニケーション技術」、「基礎介護論」、「介護と倫理」、「ソーシャルワーク論」、との関連性がある。

科目の概要

コミュニケーション技術では、（1）介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、（2）利用者の特性に応じたコミュニケーション（3）介護におけるチームのコミュニケーションの基本、について演習を展開する。

授業の方法

演習方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

到達目標

介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、説明できる。

利用者の特性に応じたコミュニケーションの基本について、説明と実践ができる。

介護記録と「報告・連絡・相談」について、説明と表現ができる。

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

ディプロマ・ポリシー

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 問題解決のための専門性と倫理
- 3 専門的援助関係の基本的理解と形成

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めていく。

1	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(1) 記録の意義、目的、方法
2	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(2) 報告・連絡の意義、目的、方法【ディスカッション】
3	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(1)
4	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(2) 【ディスカッション】
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション(1) 高齢者とコミュニケーション 【ディスカッション】
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション(2) 認知症とコミュニケーション 【ディスカッション】
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション(3) 認知症とコミュニケーション 【ディスカッション】
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション(1) 障害とコミュニケーション 【ディスカッション】
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション(2) 障害とコミュニケーション 【ディスカッション】
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション(3) 障害とコミュニケーション 【ディスカッション】
11	介護におけるチームのコミュニケーションの基本(1) ケース会議と事例研究【ディスカッション】
12	介護におけるチームのコミュニケーションの基本(2) ケース会議とスーパービジョン
13	実習場面における再構成(1) インシデントレポート、プロセスレコード
14	実習場面における再構成(2) 介護記録における個人情報保護【ディスカッション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、指定テキストの学習箇所を事前に読み、わからない用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った指定テキストの学習箇所を再度読み、わからなかった用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

評価 3つの到達目標について、筆記試験の設問(各課題設問25点×3=75点)と課題レポート25点において総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:最新 介護福祉全書 4コミュニケーション技術

編集/松井 奈美第2版/2014年 12月 ISBN:978-4-8392-3193-4 他オリジナル資料配付。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

多様な障害に応じたコミュニケーションスキルの習得への興味を持つことが学修意欲につながります。

科目名	生活支援技術概論		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC132		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は、介護福祉士養成課程の教育カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。

科目の概要

介護とは、介護福祉士の理念に基づき、日常生活を営むのに支障がある者への支援（＝日常生活支援）を意味している。介護を必要とする人々の日常生活の自立を促し、個々に応じた安全で安楽な基本的介護技術を実践するに必要となる基本的知識を身につける。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 支援を必要な人にとって人間として尊厳のある「暮らし」について理解する
2. 自立や自己決定に基づく生活マネジメントについて理解する
3. 基礎的な生活支援技術の理論を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	ガイダンス 生活の定義
2	生活支援とは何か（1）
3	生活支援とは何か（2）
4	高齢者と障害者の理解（1）
5	高齢者と障害者の理解（2）
6	自立に向けた生活支援（移動・移乗の意義と目的：安楽な体位）
7	自立に向けた生活支援（移動・移乗の意義と目的：体位変換）
8	自立に向けた生活支援（安全な移動：歩行介助）
9	自立に向けた生活支援（安全な移動：車いす介助）
10	施設における高齢者の暮らしの実際

11	施設における障害者の暮らしの実際
12	施設における暮らしの実際とまとめ
13	自立に向けた生活支援（入浴・清潔保持の意義と目的）
14	自立に向けた生活支援（入浴・清潔保持：入浴介助）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布するシラバスで次講義内容を確認し、「生活支援技術」の講義内容（解説文）を読んでおく。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の講義時に配布された資料をノートにまとめ、理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート（30%）、ペーパーテスト（70%）とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。再試験の実施については、平均点等から検討する。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却し、質疑についても授業内で解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術』中央法規出版

【推薦書】介護福祉士養成講座編集委員会『生活支援技術』中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC133		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。生活支援技術概論と組み合わせた授業である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。尊厳の保持・自立支援等、介護の基本理念をもとに、安全・安楽に配慮した生活支援技術を習得する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 支援を必要とする人々の身体的状況や心理的状況を理解し、適切な介護技術を選択できる。
2. 基礎的な生活支援技術を科学的な理論とともに習得する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	生活とは何か 生活支援における技術
2	生活支援技術とは何か
3	生活における環境整備（1）
4	生活における環境整備（2）
5	高齢者疑似体験
6	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：安楽な体位）
7	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：体位変換）
8	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：歩行介助）
9	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助：車いす介助）
10	施設における生活支援技術の実際

11	自立に向けた生活支援技術（安全な移動介助まとめ）
12	自立に向けた生活支援技術（バイタルサイン・バイタルチェック）
13	自立に向けた生活支援技術（入浴・清潔保持：入浴介助）
14	自立に向けた生活支援技術（入浴・清潔保持：入浴介助）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】初回に配布されたシラバスにもとづき、「生活支援技術」の演習内容をよく読んでおく。演習内容により持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。事後学修は、利用上のルールを厳守のうえ介護実習室を利用することが望ましい。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート(20%)、実技試験(60%)、授業への取り組み(20%)とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。実技試験については試験直後に解説を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC233		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護を必要とする人に対して、自立に向けて様々な視点から生活を支援していくための技術である。日常生活を送る上で支援が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、適切な介護技術を用いて、安全で安楽に支援できるように、知識や技能を習得する。科学的根拠にもとづく生活支援技術を用い、尊厳やプライバシーの保持といった介護の基本を実践においても生かす力を身につけるための学びである。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 介護を必要とする人の自立（自律）に向けた介護について理解できる。
2. 科学的根拠に基づいた生活支援技術について理解できる。
3. 生活支援技術における多職種連携について理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	ガイダンス・生活支援技術の実践と応用について
2	生活支援技術と環境整備（国際福祉機器展見学）
3	生活支援技術と環境整備（国際福祉機器展振返り）
4	自立に向けた生活支援技術（食事介助）
5	自立に向けた生活支援技術（身支度の介助）
6	自立に向けた生活支援技術（身支度の介助）
7	自立に向けた生活支援技術（屋外での車いす介助）
8	自立に向けた生活支援（福祉用具の利用と留意点）
9	施設における生活支援技術の実際
10	施設における生活支援技術の実際
11	自立に向けた生活支援技術（排泄介助）

12	自立に向けた生活支援技術（排泄の介助）
13	自立に向けた生活支援技術（排泄の介助）
14	自立に向けた生活支援技術（睡眠時の介護・環境整備）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回に配布するシラバスにより講義内容を確認し、「生活支援技術」の講義内容（解説文）を熟読する。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ内容を「生活支援技術」のテキストで読み返し、配布資料をもとにポイントの理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート(30%)、ペーパーテスト(70%)とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。再試験の実施については、平均点から検討する。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集『生活支援技術』中央法規出版

【推薦書】授業の中で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC333		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。日常生活支援技術 と組み合わせた授業である。

科目の概要

日常生活支援技術とは、介護が必要な人々に対して、単に身体的な介護をするのではなく、自立に向けてトータルに生活を支援していくための技術である。この授業は、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、安全に支援できる技術や知識を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 介護を必要とする人の状態を把握し、適切な介護技術を選択できる。
2. 介護を必要とする人の状態変化に応じ、プライバシーを保持し、安全・安楽に対応できる技術を習得する。
3. 必要な福祉用具の機能を理解し、適切な用具を選択できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	高齢者・障害者における生活環境整備 福祉機器展
2	高齢者・障害者における生活環境整備 福祉機器展振り返り
3	整容の介護技術
4	衣服の着脱の介護技術
5	食事の介護技術 普通食
6	食事の介護技術 嚥下食
7	屋外における車いす介助の技術
8	福祉用具を活用した介護技術
9	様々な介護における多職種との連携
10	実習 - における介護技術

11	トイレ介助の技術
12	おむつ交換の介助技術
13	その他の排せつ介助方法
14	睡眠の介護（技術演習）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】初回に配布するシラバスにより次講義内容確認し、「生活支援技術」を確認しておく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにし、実習で実践できるように練習する。事後学修は利用上のルールを厳守のうえ介護実習室を利用することが望ましい。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート(20%)、実技試験(60%)、授業への取り組み(20%)とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で返却・解説する。実技試験については、試験直後に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

【参考図書】介護技術全書編集委員会 『わかりやすい介護技術演習』 ミネルヴァ書房

壬生尚美 佐分行子 『事例で学ぶ生活支援技術習得 新カリ対応』 日総研

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活環境支援技術		
担当教員名	鄭 春姫		
ナンバリング	KDC234		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3 に該当する。

介護福祉士養成課程カリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の一つである。

日本の住宅の抱える問題点を考え、利用者個人に合わせた住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深める。

科目の概要

利用者の生活歴・心身状態をもとにアセスメントを行い、快適な生活環境整備の工夫と支援のあり方についてグループワークを中心に学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

計 4 回の課題を提示する。

グループワークを中心にしながら、各課題の調査結果を発表する【プレゼンテーション】【グループワーク】

到達目標

利用者の自立にむけた居住環境の整備について、アセスメントをもとに根拠を明確にしながら、適切な技法を活用して支援することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	生活の理解と生活支援
2	居住環境整備の意義と目的
3	生活行動と生活空間
4	快適な室内環境 (温度、湿度、採光、換気等)
5	住居の管理と安全 (住居の維持管理・衛生管理・事故防止等) (課題 1 を提示)
6	心地よい生活の場づくりのための工夫
7	住宅改修・バリアフリー化の例 (課題 1 発表)

8	ユニバーサルデザインの視点と実際（課題2を提示）
9	高齢者と住居（ユニットケア、居室の個室化、施設での工夫）（課題2発表）
10	高齢者と住居（住み慣れた地域での生活の保障）（課題3を提示）
11	障害者児者と住居（施設での工夫）
12	障害者児者と住居（住み慣れた地域での生活の保障）（課題3発表）
13	自立に向けた居住環境の整備（課題4を提示）
14	他職種との連携
15	まとめ（課題4発表）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】 駅・学内・自宅 日常生活における生活環境・生活道具の観察を行う。

【事後学修】 課題1・2・3・4に関して、レポートを作成し、全員発表しながら、自分の作成したレポートと他者のものとの比較を行う。

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、リアクションペーパー・小テストなど20%、課題40%とし、総合評価の60%以上を合格とする。

【フィードバック】 毎回の授業の最初に前回授業に関する質疑に返答 小テストの後は、答え合わせを行うことで、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業で資料配布

【参考図書】 中央法規 生活支援技術

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング	KDC235		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるのが家政学であり、人間生活はこれを基礎としている。福祉を学ぶ学生にとって家事生活支援技術は理論を見地化するうえで不可欠な科目である。

科目の概要

授業を通して家庭生活について基本的な知識・技術を学び、日常の生活を充実させ、支援することのできる総合的な視点と思考力および実践的な態度を養う。

授業の方法（ALを含む）

1. 前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。【リアクションペーパー】
2. 本日の授業内容を説明し、講義やテーマにあった視聴覚教材・実際の見本などを用い授業を行う。
【討論、ミニテスト、リアクションペーパー、実技】

到達目標

1. 支援を必要とする人々の支援に関して、家事生活支援技術の基本的な知識や技能を理解し、口頭あるいは文章で表現することができる。
2. 家事生活支援技術を通して、実際の援助や支援にあたり、事実や支援の効果について実証的に明らかにし、理解することができる。
3. 家事生活支援技術を通して、広く社会福祉の課題に関心を持ち、問題解決のための専門性と倫理を身につけることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2支援に関する基本理解 -1事実や支援の効果について実証及び理解まる -1問題解決のための専門性と倫理

内容

1	ガイダンス（科目の学び方とその視点）
2	家庭生活の基礎知識（個人と家庭生活）
3	家庭生活の基礎知識（家庭生活とその経営、生活設計）【討論】
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点【リアクションペ - パ - 】
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点【リアクションペ - パ - 】
6	家事援助の技法（調理 1）調理の基本
7	家事援助の技法（調理 2）調理の応用【リアクションペ - パ - 】
8	家事援助の技法（掃除・ごみ捨て）
9	家事援助の技法（買い物）
10	家事援助の技法（衣生活の基礎知識）【ミニテスト】
11	家事援助の技法（衣類・寝具の衛生管理）
12	家事援助の技法（裁縫 1）裁縫の基本【実技】
13	家事援助の技法（裁縫 2）裁縫の応用【実技】【レポート】
14	自立に向けた家事の介護（利用者の状況に応じた介護の留意点）【リアクションペーパー】、 まとめ
15	テスト返却、家事生活支援技術の今後の課題について【討論】【リアクションペ - パ - 】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

1.積極的に家事に参加し、知識・技術を身につける。また、利用者に対してどのような支援ができるのかを日々の家庭生活のなかで常に考える。[45分]

2.各週ごとに家庭生活においてどのような家事に参加したかをまとめる。[45分]

【事後学修】プリントを精読しまとめる。技術・技能の習得は、練習を繰り返し行いしっかりと身につける。[60分]

評価方法および評価の基準

筆記試験70%、平常点30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標（1）筆記試験（20/70）、平常点（10/30）

到達目標（2）筆記試験（30/70）、平常点（10/30）

到達目標（3）筆記試験（20/70）、平常点（10/30）

【フィードバック】提出した課題にはコメントをし、翌週以降の授業時間内に返却する。筆記試験は返却の上、解答の解説をする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

使用しない。授業中にプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再試験を行います。

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC236		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士資格を有した教員が介護施設での実務経験を活かし、日常生活の自立を促す個々の障害に応じた生活支援のあり方について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「生活支援技術」に関する科目の1つである。1年次の「生活支援技術概論」「日常生活支援技術・・・」を基本とする科目である。

科目の概要

感覚機能の低下、運動機能の低下など、利用者の状態・状況に応じた生活支援技術について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義と演習を組み合わせた形態で行う。講義で得た知識を学生が実際に実技として演習を行うことで利用者理解について理解を深める。内容によってはリアクションペーパーを用いて感想や疑問点などを記入し授業内でフィードバックする。【リアクションペーパー】【実技】【レポート（知識）】【ロールプレイ】

到達目標

1. 介護が必要な人々がどのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重した支援を実施することができる。
2. 安全に支援できる技術や知識を習得し、利用者の状況に応じた適切な介護技術を選択することができる。
3. 視覚障害のある人の支援、聴覚障害のある人の支援方法について理解することができる。

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援に関しての基本的理解
- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	オリエンテーション <利用者の特性に応じた生活支援技術とは>
2	実習現場における介護技術 【フィードバックシート】
3	視覚障害に応じた介護 <視覚障害のある人と生活の理解> 【フィードバックシート】
4	視覚障害に応じた介護 <視覚障害のある人とのコミュニケーション1> 【実技】

5	視覚障害に応じた介護	<視覚障害のある人とのコミュニケーション2>【実技】
6	視覚障害に応じた介護	<視覚障害のある人の介護技術>【レポート】
7	聴覚・言語障害に応じた介護	<聴覚・言語障害の理解>【フィードバックシート】
8	聴覚・言語障害に応じた介護	<聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション1>【実技】
9	聴覚・言語障害に応じた介護	<聴覚・言語障害のある人とのコミュニケーション2>【ロールプレイ】【レポート】
10	重複障害（盲ろう）に応じた介護	<盲ろう者の生活の理解>【フィードバックシート】
11	重複障害（盲ろう）に応じた介護	<盲ろう者への介護技術>【実技】【ロールプレイ】
12	利用者の特性に応じた食事支援	<食事支援の基本と実際>
13	利用者の特性に応じた食事支援	<障害別の食生活支援>【レポート】
14	利用者の特性に応じた食事支援	<障害特性に応じた食事作り>
15	まとめ	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】初回時に配布するシラバスを参考に、次講義内容について確認し「生活支援技術」のテキストでポイントを予習しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだ介護技術を自分のものにできるように練習する。また、授業内で紹介する事例は、実生活との関連性を意識しながら復習し理解を深めること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

レポート課題（30%）演習（30%）筆記試験（40%）として、60点以上を合格とする。

到達目標1：レポート課題（10%/30%）、演習（10%/30%）、筆記試験（20%/40%）

到達目標2：レポート課題（10%/30%）、演習（10%/30%）

到達目標3：レポート課題（10%/30%）、演習（10%/30%）、筆記試験（20%/40%）

合格点に満たなかった場合は、原則再試験を行う。再試験の実施の有無は平均点などから判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング	KDC336		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉養成カリキュラムにおける指定科目の一つとして設置されている。

科目の概要

福祉的支援を必要とする人々の生活に対する理解を深め、個々の心身の状態・環境等に応じた生活支援技術について学び、より実践的な技術の習得をめざす。

授業の方法 (ALを含む)

- ・本科目は実践的な介護実技を習得するために、演習形式で行う。【実技】
- ・実際の事例を教材に適切だと考える支援についてグループで議論して発表する。【ケースメソッド】【グループワーク】
- ・多職種でのチームアプローチを具体的に理解するためにロールプレイ形式で行う。【ロールプレイ】
- ・講義による解説では理解の度合いを確かめるとともに疑問点を明らかにするためリアクションペーパーを利用する。【リアクションペーパー】

到達目標

- 到達目標 1 . 基本的な動作を観察して必要な介助を選択して行うことができる。
- 到達目標 2 . 個別の状況に応じた様々な取り組みを理解して説明することができる。
- 到達目標 3 . 医療・保健・福祉分野の各職種の専門性を理解して連携について自分の考えを表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	福祉的支援を必要とする人々の生活について考える・ICFについて考える【グループワーク】
2	自立に向けた介護 臥床から座位への動きの観察と介助【実技】
3	自立に向けた介護 座位から立位への動きの観察と介助【実技】
4	自立に向けた介護 立位動作・歩行の動きの観察と介助【実技】
5	自立に向けた介護 道具を使った介助【実技】
6	自立に向けた介護 介護予防の取り組み【実技】
7	急性期・慢性期・維持期のリハビリテーション【リアクションペーパー】【グループワーク】
8	障がい者にとってのスポーツ・リハビリテーション【リアクションペーパー】
9	病院から在宅へ・各専門職のかかわり【ロールプレイ】【グループワーク】

10	地域での生活を支える専門職のかかわり【リアクションペーパー】
11	医療・保健・福祉現場での実践事例 脳血管障害等【ケースメソッド】
12	医療・保健・福祉現場での実践事例 脊髄損傷等【ケースメソッド】
13	医療・保健・福祉現場での実践事例 脳性麻痺等【ケースメソッド】【グループワーク】
14	医療・保健・福祉現場での実践事例 難病等【ケースメソッド】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に提示するテーマについてプリント等を読みこれまでの学びを整理する。演習内容により服装・準備が異なるため事前に確認準備する。（各授業に対して60分）

【事後学修】 授業で学んだことについての課題、疑問点について調べる。事前に提示する課題については提出期限までに必ず提出できるように各自取り組む（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

実技25%、グループワーク20%、リアクションペーパー30%、レポート課題提出25% とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1 . 実技 (25%/25%) リアクションペーパー (10%/30%)

到達目標 2 . グループワーク (10%/20%) リアクションペーパー (10%/30%) レポート (10%/25%)

到達目標 3 . グループワーク (10%/20%) リアクションペーパー (10%/30%) レポート (15%/25%)

【フィードバック】 提出されたレポート等は、翌週以降の授業内で返却・解説する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【推薦書】松井彰彦、川島聡、長瀬修『障害を問い直す』東洋経済新報社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再試験を実施する。実施日（事前に受講生と調整する）・教室・必要な学習内容についてはLiveCampusの授業連絡により通知する。

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング	KDC237		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、福祉の現場において、支援を必要とする人々の生活の質の向上を理解、共有する。
また、社会福祉学を基礎とする、生活支援のための援助技術や知識を身につけられるようにする。

科目の概要

介護・福祉に関する知識と技術を学び、特に介護福祉士として、日常生活を総合的に支援する中で福祉レクリエーションサービスの重要性を理解する。

授業の方法（ALを含む）

この科目は、支援を必要としている方への援助技術を学習するもので、授業内容から得た知識や技術方法などを、学生が実際に行うことを学習する方法。【実技】また、感想、疑問点などは、フィードバックを行い、グループごとに課題に取り組み、プレゼンテーションを行う場合もある【グループワーク・リアクションペーパー】

到達目標

- 1．個人に対しての、生活支援のあり方について理解し、ホスピタリティを持った配慮で接することができる。
- 2．小集団の交流を活かした、レクリエーション活動の支援を理解し、楽しい時間を提供できる。
- 3．対象者と環境に合わせた、レクリエーション活動のプログラムを作成できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

この授業は、演習を中心に行い、グループワークを取り入れながら技術を学んでいく。

1	オリエンテーション	福祉レクリエーション支援の重要性について知る
2	対象者と支援者の交流を活かしたレクリエーション活動の展開	ラポール構築のための技術や態度
3	個人で楽しむレクリエーション活動の展開	通所施設での展開 【リアクションペーパー】
4	個人で楽しむレクリエーション活動の展開	入居施設での展開 【リアクションペーパー】
5	個人で楽しむレクリエーション活動の展開	介護予防事業での展開【リアクションペーパー】

6	動機付けに使いやすい1対1のレクリエーション活動 ~認知症グループホームなど~
7	小集団の交流を活かしたレクリエーション活動の展開 CSSプロセスの効果 【実技】
8	小集団の力を引き出し活かしやすいレクリエーション活動 音楽・ダイナミックなもの【実技】
9	手作りのものや身近なものを使ったレクリエーション活動 【実技】
10	対象者と現場に合わせたレクリエーション活動のアレンジ 活動分析 【グループワーク】
11	対象者と現場に合わせたレクリエーション活動のアレンジ 活動分析 【グループワーク】
12	対象者と現場に合わせたレクリエーションの活動アレンジ プログラム作成
13	まとめ
14	ふりかえり
15	総合演習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回、提示された事前課題を行う。[60分]

【事後学修】毎回、授業内で実践した、アイスブレイキングの復習とポイントなどを、各自ノートやファイルにまとめておき、いつでも人前でできるようにしておく。[60分]

毎回授業後に、リアクションペーパーを実施、自己分析や、振り返りなどを検証し、学生同士で共有。次回につなげるための研究材料とする。[10分]

評価方法および評価の基準

到達目標

1. 個人に対しての、生活支援のあり方について理解し、ホスピタリティを持った配慮で接することができる。実技20%平常点20%
2. 小集団の交流を活かした、レクリエーション活動の支援を理解し、楽しい時間を提供できる。実技20%平常点10%
3. 対象者と環境に合わせた、レクリエーション活動のプログラムを作成できる。実技20%非常点10%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】楽しさの追及を支えるための介入技術 （公益財団法人）日本レクリエーション協会

【参考図書】介護レクリエーション・サポーター研修 利用者の心に寄り添って楽しいを作るレクリエーション支援 （公益財団法人）日本レクリエーション協会

【推薦書】授業内で、随時紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この科目は、常に介護現場を意識しながら、学習します。利用者さんに関わる支援者としても、服装や身だしなみなど、演習や実技を行うのに相応しい服装で臨んで欲しいと思います。これらはすべて、授業への取り組みとして、評価されます。

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC338		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師の実務経験を有する教員が、その実務経験を生かして、内部障害、終末期、緊急時のニーズを明らかにし、その解決に向けて介護における根拠のある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「介護」に関する科目の一つである。内部障害、緊急時、終末期等の理解を深め支援するための、介護実践の根拠となることについて理解を深める。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

慢性疾患をもちながら生活する利用者の自己管理や、医療に関する基礎知識及び緊急時の対応、終末期の介護について学ぶ

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義と演習によって、介護福祉士として利用者に関わる際に必要とする、内部障害、緊急時、終末期等の理解を深める。また、各界の終わりには授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【筆記試験】【レポート】

到達目標

1. 内部障害のある人の心身の機能の特性に応じた生活支援の留意点について説明できる
2. 内部障がいのある人の状態像や生活状況を踏まえ、本人主体の支援やQOLを高める支援について理解できる。
3. 終末期の経過に沿った、生活支援の留意点について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援についての基本的理解
- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	導入オリエンテーション 【リアクションペーパー】【ワーク】
2	内部障害「心臓機能障がい」に応じた介護【ワーク】【リアクションペーパー】
3	内部障害「呼吸機能障がい」に応じた介護【ワーク】【リアクションペーパー】
4	内部障害「腎機能障がい」に応じた介護【ワーク】【リアクションペーパー】【テスト】
5	内部障害「膀胱・直腸機能障がい」に応じた介護【ワーク】【リアクションペーパー】

6	内部障害「小腸機能障がい・肝機能障がい」に応じた介護【ワーク】【リアクションペーパー】【レポート課題】
7	障がい体験発表（レポートを各自報告）【ワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
8	障がい体験発表（レポートを各自報告）【ワーク】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
9	医療との連携に必要な「薬の基礎知識」【リアクションペーパー】【レポート】
10	緊急時の対応【ワーク】【リアクションペーパー】
11	終末期の介護の概要【ワーク】【リアクションペーパー】
12	終末期の介護とは（ビデオ鑑賞）【ワーク】【リアクションペーパー】
13	終末期の介護（終末期における介護の意義・目的）【ワーク】【リアクションペーパー】
14	終末期介護【テスト】
15	人生の最終段階における介護とは 【ワーク】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキスト等、事前に指示した内容を整理しまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（10%）課題提出（30%）プレゼンテーション（10%）筆記試験（50%）で評価し、60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出（10%/30%）筆記試験（20%/50%）

到達目標 2 課題提出（10%/30%）筆記試験（20%/50%）リアクションペーパー（10%/10%）プレゼンテーション（10%/10%）

到達目標 3 課題提出（10%/30%）筆記試験（20%/50%）

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。成果物の発表後、講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会編「生活支援技術」中央法規 2019

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC139		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

本科目は介護過程の導入科目と位置づけ、次の3つをねらいとする

1. 介護過程を学ぶ前提として、人とかかわりや、人の生活についての理解を深めることができる
2. 介護過程を学ぶ前提として、「課題解決思考」について理解できる
3. 「情報」の内容や意味を理解し、「情報」に基づき「利用者の願いや思い」を理解できる

科目の概要

[授業の目的・ねらい]を達成するために、テーマに添った演習を行う。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 介護過程の展開に必要な視点、「課題解決思考」及び「情報」について理解できる（知識・理解）
2. 自己学習及びグループ学習を通し、提示したワークを達成できる（思考・技能・実践）
3. 授業内容に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ（態度・志向性）
4. 他者と意見交換し、相互に学びあう姿勢を持つ（態度・志向性）
5. 提示したワークに対し、提出物は締め切を厳守して提出できる（態度・志向性）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	オリエンテーション：介護過程とは
2	介護過程を学ぶために <コミュニケーションについて>
3	介護過程を学ぶために <相手の立場になって考える>
4	介護過程を学ぶために <わたしの生活>
5	介護過程を学ぶために <高齢者が生きてきた時代>
6	介護過程を学ぶために <高齢者が生きてきた時代>
7	利用者の願いや思いに気づく
8	利用者の願いや思いに気づく

9	利用者の願いや思いに気づく
10	・ 利用者の願いや思いに気づく / 課題解決思考
11	課題解決思考 < 情報の整理 >
12	課題解決思考 < 情報の分析・解釈・判断 >
13	課題解決思考 < 情報の分析・解釈・判断 >
14	課題解決思考 < 情報の分析・解釈・判断 >
15	まとめ・介護過程の理解に向けて

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】初回時に配布するシラバスを確認し「楽しく学ぶ介護過程」の講義内容を読み予習しておく。講義終了時に課題の提示がある際には必ず取り組むこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

1. 授業への参加状況及び毎回の振り返り内容：30% 2. 演習課題の提出（内容評価含む）：70%

総合評価60点以上を合格とする。不合格の場合は、演習課題及びレポートの再提出により評価する。

【フィードバック】提出されたレポート等は、翌週以降の授業で質疑に応答し必要に応じて紹介することもある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『楽しく学ぶ介護過程』（新版）。時潮社、2018年。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDC239		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士資格を有した教員が介護施設での実務経験を活かし、実際に介護を必要としている人に即した介護過程のあり方と介護過程の展開方法について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護過程の概要を理解する科目と位置づけ、次の2つをねらいとする

1. 介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解し、説明できる
2. 一人で介護過程を一通り展開できる。

また、本科目は、介護実習 - 1 - や介護実習 - 2 と関連性がある。

科目の概要

介護過程を一人で一通り展開できるよう、教授する

授業の方法（ALを含む）

事例を用いて、介護過程の展開を行う。講義内容を通して得た知識の定着を確認するために、課題の提出を求める。【事例研究】

到達目標

1. 介護過程は介護の思考過程、実践方法及び実践過程であることを理解できる（知識・理解）
2. 介護過程の目的、介護過程の構成要素について理解できる（知識・理解）
3. 既に学んだ介護の知識・技術・価値を統合し、介護過程の展開ができる（思考・技能・実践）
4. 提示した課題に対し、自ら取り組み、考える態度を持つ（態度・志向性）
5. 提出物は締め切りを厳守して提出できる（態度・志向性）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関しての基本的理解
- 5 生活課題の理解、問題解決の方法提示

内容	
1	オリエンテーション
2	介護過程の理解 < 定義・目的・構成要素 >
3	ICFの視点から利用者を理解する
4	語り、ライフヒストリーから利用者を理解する
5	介護過程の展開（事例1）【事例研究】
6	介護過程の展開（事例1）【事例研究】
7	介護過程の展開（事例1）【事例研究】
8	介護過程の展開（事例1）【事例研究】
9	介護過程の展開（事例2）【事例研究】
10	介護過程の展開（事例2）【事例研究】
11	介護過程の展開（事例2）【事例研究】
12	介護過程の展開（事例2）【事例研究】
13	介護過程の展開（事例2）【事例研究】
14	介護過程の展開（事例2）【事例研究】
15	まとめ【事例研究】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回の授業時に課題を提示するので、各自必ず取り組み、次の講義時まで理解を深めておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容を振り返るとともに、専門用語や疑問点について調べる。講義内で課題が未提出の場合には、必ず取り組み、次講義までに提出すること（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

1. 授業への参加状況・課題の提出 30%
2. 筆記試験 70%

到達目標 1：授業への参加状況・課題の提出（10%/30%）、筆記試験（10%/70%）

到達目標 2：筆記試験（20%/70%）

到達目標 3：筆記試験（20%/70%）

到達目標 4：筆記試験（20%/70%）

到達目標 5：授業への参加状況・課題の提出（20%/30%）

総合評価 60点以上を合格とする。不合格の場合は、筆記試験の平均点・課題の提出状況により実施の有無を判断する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『楽しく学ぶ介護過程』（新版）時潮社，2018年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護過程展開		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDC240		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上、介護福祉士国家資格取得後、実務経験5年以上の教員が条件。最新の介護福祉学について理論と実践を融合し講義している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の必修科目。介護福祉士に求められる、1．介護過程の4つの構成要素（アセスメント 計画立案 実践 評価・考察）、2．ICF理論について、を基礎とし、介護過程展開 では、事例（主に高齢者と障害者）によるケアプランの作成と介護過程の展開プロセスの基本的な知識と技能を学修する。

「基礎介護論」、「介護と倫理」、「介護過程基礎」、「介護実習」、「介護総合演習」との関連性がある。

科目の概要

高齢者の事例を提示し、グループワークを展開しグループ発表を行う。介護保険制度の概要についても理解を深める。

授業の方法

演習方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

到達目標

3年次の応用介護実習における、個別のケアプランの作成の基礎技能を身に付けることができる。

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

ディプロマ・ポリシー

知識・技能

思考力・判断力・表現力

主体性・多様性・協働性

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションを中心に学びを深めていく。

1	オリエンテーション 内 容：事例研究の進め方とグループワークの内容について理解
---	---

2	事例1．高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1．のグループワーク演習実践
3	事例1．高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1．のグループワーク演習実践
4	事例1．高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1．グループワーク演習（発表準備）【ディスカッション】
5	事例1．高齢者施設利用者のケアプラン 内 容：事例1．グループワーク発表【ディスカッション】
6	事例2．居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2．のグループワーク演習実践
7	事例2．居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2．のグループワーク演習実践
8	事例2．居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2．のグループワーク（発表準備）【ディスカッション】
9	事例2．居宅サービス利用者のケアプラン 内 容：事例2．グループワーク発表【ディスカッション】
10	事例3．認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例3．のグループワーク演習実践
11	事例3．認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例3．のグループワーク演習実践
12	事例3．認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例3．のグループワーク演習（発表準備）【ディスカッション】
13	事例3．認知症高齢者のケアプラン 内 容：事例3．グループワーク演習実践発表【ディスカッション】
14	テーマ：高齢者のケアプラン・介護過程総括 内 容：高齢者のケアプラン・介護過程総括
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】シラバスに沿って、配布オリジナル資料の学習箇所を事前に読み、わからない用語及び関連用語を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った配布オリジナル資料の学習箇所を再度読み、わからなかった用語及び関連用語の理解を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

3つの到達目標について、3つの事例シート（各25点×5＝75点）と総括シート（25点）において、総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

オリジナル資料の配付。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

介護実習を想定して、事例検討を進めていきます。

科目名	介護過程展開		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC340		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、「領域介護」の「介護過程」に関する科目の一つであり、「介護過程基礎」「介護過程展開」に続き、「実習 - 2」において介護過程を実践するにあたり、事前に学ぶ最終的な介護過程の授業となる。

科目の概要

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスを提供できるように学ぶ。特に障害者介護における介護過程の展開を理解する。

授業の方法（ALを含む）

障害者支援における事例を提示し、グループワークを中心に展開し、共同で課題に取り組み、ディスカッションとグループ発表を行う。【グループワーク】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 実習で実践する介護過程の展開に必要な視点と方法について、理解することができる。
2. 自己学習及びグループワークを通して、課題を解決する方法について理解し、説明することができる。
3. 介護過程の展開について、実施し、評価することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関しての基本的理解
- 5 自己表現及び集団的思考

内容

1	介護過程の展開（障害者）の理解
2	障害者介護における介護過程の視点 生活の自立
3	障害者介護における介護過程の視点 自律とは
4	事例1．介護過程の実際 情報収集
5	事例1．介護過程の実際 アセスメント

6	事例1．介護過程の実際 課題の抽出
7	事例1．介護過程の実際 介護計画の作成
8	事例2．知的障害者支援における介護過程の視点
9	事例2．知的障害者支援におけるケアプラン
10	事例3．介護過程の実際 情報収集とアセスメント
11	事例3．介護過程の実際 課題の抽出
12	事例3．介護過程の実際 介護計画の作成
13	事例3．介護過程の実際 評価と再アセスメント
14	事例研究発表と介護過程総括
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】初回に配布するシラバスを参考に、テキストや資料などから予習しまとめておく。課題の提示があるときには、必ず次回授業時に提出できるよう取り組む。（各授業に対して60分）

【事後学修】毎回の授業内容について授業時に配布又は紹介した資料等をもとに振り返りを行い、疑問点は調べ、理解を深める。課題提出に向けて準備を進める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業参加状況20%、事例発表20%、課題提出60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：事例発表(10%/20%)、課題の提出(10%/60%)

到達目標2：授業参加状況(10%/20%)、事例発表(10%/20%)、課題の提出(20%/60%)

到達目標3：授業参加状況(10%/20%)、課題の提出(30%/60%)

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却・解説する。事例発表は、発表後の授業内でコメントする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉教育委員会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護サービス計画		
担当教員名	品川 智則		
ナンバリング	KDC341		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護支援専門員の作成する介護サービス計画について学ぶ科目です。

ケアマネジメントのしくみや介護サービス計画を作成するうえで必要な知識や考え方について学び、利用者の自立支援、その人らしく生きることの実現を基本とした介護サービス計画作成のために必要な考え方を多角的に学びます。

科目の概要

本科目では、介護サービス計画を作成するにあたっての基礎となる知識や考え方について学び、利用者の自立支援に向けた介護サービス計画を作成するための考え方を深めます。また、事例課題を通して実際の介護サービス計画作成に関するプロセスを学びます。

授業の方法（ALを含む）

第1回から第7回では、介護サービス計画を作成するにあたっての基礎となる知識や考え方について学び、利用者の自立支援に向けた介護サービス計画を作成するための考え方を深めます。

第8回から第15回では、施設ケアにおける介護サービス計画について学びます。ここでは、事例を通して実際の介護サービス計画作成に関するプロセスを学びます。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】【レポート】

到達目標

介護サービス計画作成に関するアセスメントの視点と方法について理解することができる

利用者の自立支援を基本理念とした介護サービス計画作成について理解することができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解、
- 2 支援に関して基本的理解

内容

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
---	-----------------------

2	介護サービスの特性【リアクションペーパー】
3	介護サービス提供の場の特性【レポート（知識）】
4	在宅介護を支えるチームアプローチ【リアクションペーパー】
5	家族介護を理解する【リアクションペーパー】
6	高齢者の心理（施設に入所する高齢者の心理について考える）【討議・討論】
7	中間まとめ【グループワーク】【レポート（表現）】
8	施設ケアマネジメント 施設ケアマネジメントの基本的なとらえ方
9	施設ケアマネジメント 施設ケアマネジメントのプロセス
10	施設ケアマネジメント事例演習 【レポート（知識）】
11	施設ケアマネジメント事例演習 【レポート（知識）】
12	施設ケアマネジメント事例演習 【レポート（知識）】
13	施設ケアマネジメント事例演習 【レポート（知識）】
14	施設ケアマネジメント事例演習 【レポート（知識）】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】介護保険制度の復習、自立に向けた介護とは何か、生活とは何かについて復習をしてきてください。（各授業に対して60分）

【事後学修】多くの事例に触れ、多様な利用者のニーズやアセスメントの視点について学習してください。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標 介護サービス計画作成に関するアセスメントの視点と方法について理解することができる

評価の手段（方法）：レポート・平常点

評価の比率：レポート20%、平常点20%

到達目標 利用者の自立支援の基本理念とした介護サービス計画作成について理解することができる。

評価の手段（方法）：レポート・平常点

評価の比率：レポート40%、平常点20%

全体の評価をレポート60%平常点40%とし、総合評価60%以上を合格とする。

【フィードバック】

提出されたレポートは、コメントを記載し翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は使用しません。講義ごとにプリント（資料）を配布します。

【推薦書】講義の中で紹介します。

【参考図書】新・介護福祉士養成講座4 介護の基本 介護福祉士養成講座編集委員会 編集
財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団 ケアプラン事例集 東京都介護支援専門員研究協議会編

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

この科目は、これまで学んできた知識を統合する科目です。

この授業をより良い学びにするためには、授業内で不明な点などが出てきたら、改めて学びなおす姿勢が求められます。

また、第7回目以降の授業では、実際に介護サービス計画を作成していきます。授業は、連続性の高いものになりますので

、継続的に授業に参加し、積極的に取り組んでいくようにしましょう。

科目名	発達と老化		
担当教員名	蝦名 直美		
ナンバリング	KDC142		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

科目の概要

ライフサイクルを念頭に発達の観点から高齢化を理解し、高齢に関する心理や身体機能の変化の特徴に関する基礎的知識を習得し、援助への足掛かりとする。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 人間の成長と発達の観点から人の一生について理解し、説明できる。
2. 高齢化に伴う心身機能の変化を理解し、説明できる。
3. 高齢化に伴う心身機能の変化を踏まえ、援助に必要な基礎的知識を理解し、説明できる。
4. 発達段階を通し、広く高齢期を支える環境援助についても理解し、説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	ライフサイクルの捉え方
2	発達段階に沿った各段階の理解 胎生期・乳幼児期
3	発達段階に沿った各段階の理解 児童期
4	発達段階に沿った各段階の理解 思春期・青年期
5	発達段階に沿った各段階の理解 成人期
6	発達段階に沿った各段階の理解 高齢期

7	高齢期の身体機能の変化と日常生活への影響
8	高齢期の身体機能の変化と日常生活から見た援助
9	高齢期の精神機能の変化と日常生活への影響
10	高齢期の精神機能の変化と日常生活から見た援助
11	高齢期の価値観、生きがい援助
12	高齢期のコミュニケーションとその援助
13	高齢期を支える地域援助
14	地域連携と地域包括ケアシステム
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前に配布テキストの該当箇所を読み、課題をまとめておく(各授業に対して60分)

【事後学修】返却のリアクションペーパーを確認し、配布テキストの内容と照らし合わせ、理解を深めておく(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、毎回のリアクションペーパー等20%、授業に対する意欲・関心・態度10% 中間レポート10%、筆記試験40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及びリアクションペーパー上で見られた関心、疑問に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】配布テキストを使用

【参考図書】授業内で適宜、紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	発達と老化		
担当教員名	蝦名 直美		
ナンバリング	KDC242		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

無

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程の必修科目であり、人間の発達と老化に関して理解を深め、対人支援を行う際の基本的な知識を学修する。

科目の概要

身体機能の老化，高齢者に多い疾患や症状など、主に身体的側面の発達と老化について理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、リアクションペーパーおよびミニテストを取り入れた授業を行う。

到達目標

- 1 身体的側面の発達と老化に関する基本的な知識について説明することができる。
- 2 高齢者に多い疾患について説明することができる。
- 3 発達と老化および高齢者に多い疾患に関する知識をもとに、症状ごとの援助方法の案を作成できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解、 - 2 支援に関しての基本的理解、 - 1 事実や支援の効果についての実証および理解

内容

各回、教科書および配布プリントをもとに講義を行う。

1	ガイダンス，高齢者の定義，高齢者の健康，老化学説【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp70-77，pp188-195
2	骨・関節・筋肉の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp202-216
3	皮膚，歯・口腔疾患の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp223-227，pp259-266，

4	循環器の老化と疾患【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp228-235
5	呼吸器の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp241-246
6	消化器の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp241-245
7	腎・泌尿器系の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp246-251
8	内分泌・代謝の老化と疾患【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp251-259
9	悪性新生物・感染症【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp266-277
10	脳・神経系の老化と疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp217-223
11	精神疾患【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp277-289
12	高齢者の疾患の特徴【リアクションペーパーとミニテスト】 教科書該当ページ：pp196-201
13	多職種連携【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp294-299
14	老化に伴う身体的な変化と生活への影響【リアクションペーパー】 教科書該当ページ：pp110-113
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

第1回 シラバスで第1回授業の教科書該当ページを確認し、授業開始までに読んでおくこと。

第2回～第14回 各回、事前に配布した資料および教科書該当ページを読んでおくこと。

第15回 第1回から第14回の授業の内容を整理しておくこと。

学習時間の目安：各授業に対して60分。

【事後学修】

授業で扱ったトピックについて学生同士で話し合いながら内容をまとめ、履修者以外の他者にも内容を説明できるようにしておくこと。

学習時間の目安：各授業に対して30分。

評価方法および評価の基準

【評価方法】

各授業回のリアクションペーパーおよびミニテストへの取り組み（50%）と筆記試験（50%）で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1 リアクションペーパーおよびミニテスト（20% / 50%），筆記試験（20% / 50%）

到達目標2 リアクションペーパーおよびミニテスト（20% / 50%），筆記試験（20% / 50%）

到達目標3 リアクションペーパーおよびミニテスト（10% / 50%），筆記試験（10% / 50%）

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーはコメントを付し翌週以降の授業時間内に返却する。ミニテストは翌週以降の授業時間内に返却および解説を行う。筆記試験は返却の上、解説プリントを配布する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「発達と老化の理解」介護福祉士養成講座編集委員会（編集） 中央法規出版 ISBN：978-4-8058-5772-4

【参考図書】授業時間内に適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

総合評価60点以下の場合は再試験を実施する。第15回の授業終了の時点で再試験該当者がいる場合には、再試験の実施日時や方法をLiveCampusの授業連絡にて周知する。

科目名	認知症の理解		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC243		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師としての実務経験のある教員による授業である。その実務経験を生かして、認知症の人及び認知症の家族のニーズを明らかにし、ニーズを解決するための根拠に基づいた支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「こころとからだのしくみ」に関する科目の一つである。認知症の人及び家族を支援するための、介護実践の根拠となる認知症に関する医学的・心理的な基礎的内容や、認知症に伴う生活への影響及びケアに関する知識及び技術の理解を深める。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護の基本」「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

認知症に関する中核症状及びBPSD等、医学的な理解をはじめ、認知症の人を支援する際に注意すること、認知症の人を介護する家族の心理、多職種協働について学ぶ。認知症の人の考えていることや状態について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

講義及び、演習により、認知症及び認知症ケアに関する理解を深める。また、講義の終わりに授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。表現力の育成については、レポートを作成し、そのレポートに基づき、プレゼンテーションを行う。【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【筆記試験】【レポート】

到達目標

- 1.認知症の原因となる疾患認知機能障害及び行動・心理症状について説明できる
- 2.認知症を取り巻く社会的環境について理解し、考えを述べることができる。
- 3.認知症のある人の家族に生じやすい課題が説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解 -2支援に関しての基本的理解

1	導入 なぜ認知症について理解する必要があるのか。【リアクションペーパー】
2	認知症について知る 「毎日がアルツハイマー」から学ぶ【リアクションペーパー】【レポート】
3	認知症について知る 映画鑑賞から考えたこと 【リアクションペーパー】【ワーク】【プレゼンテーション】
4	認知症とは何か 【リアクションペーパー】【ワーク】
5	脳のしくみ・認知症の人の心理【リアクションペーパー】【ワーク】
6	中核症状の理解 【リアクションペーパー】【ワーク】【プレゼンテーション】
7	生活障がい理解・BPSDの理解【リアクションペーパー】【ワーク】
8	認知症の診断と重症度【リアクションペーパー】【ワーク】【筆記試験】
9	認知症の原因疾患と症状【リアクションペーパー】【ワーク】
10	認知症の原因疾患と症状・生活障がい【リアクションペーパー】【ワーク】
11	認知症の治療薬・認知症予防【リアクションペーパー】【ワーク】
12	認知症を取り巻く状況【リアクションペーパー】【ワーク】【レポート】
13	認知症ケアの理念と視点【リアクションペーパー】【ワーク】
14	認知症の原因疾患及び症状について【筆記試験】
15	まとめ 認知症当事者の視点から見えるもの【リアクションペーパー】【ワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の指定された箇所を熟読し、自分なりに内容を整理し、まとめる（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことについて復習をする。授業時に紹介した資料等について見直し、内容を深められるように、ノートにまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%) 課題提出(30%) プレゼンテーション(10%) 筆記試験(50%)で評価し、60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

到達目標 2 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%) リアクションペーパー(10%/10%) プレゼンテーション(10%/10%)

到達目標 3 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会編集 『認知症の理解』 中央法規出版 2019年

【推薦書】授業の中で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業で提示された課題は期日までに必ず提出すること

科目名	認知症の理解		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング	KDC343		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける「領域こことからだのしくみ」の「認知症の理解」の科目の一つであり、「認知症の理解」で得た知識をもとに介護に必要な視点と支援方法を学ぶ。

科目の概要

認知症の人の生活及び家族や社会との関わり的重要性について理解し、本人主体と理念に基づいた認知症ケアについて学ぶ。

認知症の人と家族の状況とその支援方法について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

演習を中心に講義を行い、事例や映像に関してはグループワーク学習やミニレポート提出、レポート発表を行う。【グループワーク】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】

到達目標

- 1．認知症ケアにおける本人主体の理念について理解することができる
- 2．認知症の人、一人ひとりの特性をふまえたアセスメントについて理解できる
- 3．認知症の人の家族や地域社会への支援の必要性、実際に理解できる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援に関する基本的理解
- 4 人権尊重の理解、問題解決の方法提示
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	オリエンテーション 認知症の人の暮らしを理解する
2	認知症の人の理解とアセスメント
3	認知症の人の理解とアセスメント

4	認知症の人の介護過程
5	認知症の人とのコミュニケーション
6	認知症の人の支援に生かす技法（1）回想法
7	認知症の人の支援に生かす技法（2）バリエーションケア 理念と実際
8	認知症の初期・中期にある人の介護
9	認知症の後期・終末期にある人の介護
10	環境づくり
11	家族支援のあり方
12	認知症に関する制度・関係機関について
13	課題の発表（1）
14	課題の発表（2）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】初回に配布するシラバスを参考に テキスト当該章を熟読し、まとめておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に配布又は紹介した資料等について振り返りを行い、疑問点は調べ、理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業目標に沿った課題の提出 30%、授業参加状況 20%、筆記試験 50%

到達目標1：課題の提出(20%/30%)、授業参加状況(10%/20%)、筆記試験(20%/50%)

到達目標2：課題の提出(10%/30%)、授業参加状況(10%/20%)、筆記試験(10%/50%)

到達目標3：筆記試験(20%/50%)

60%に達しない場合は再試験を実施

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 「認知症の理解」中央法規出版

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障がいの理解		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDC144		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて介護における根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおけるケアワーク専門科目の1つで、介護福祉士資格取得に必要な指定科目で選択必修科目である。科目「障がいの理解」と連続した科目として位置し、福祉的支援を必要とする障がいのある人々を理解し、「生活の質」の向上や地域における「共生」をめざすための知識を習得する。主に身体障害に関連した障がいの理解を学ぶ。

科目の概要

本科目では主に身体に障害のある人への理解について学ぶ。障害のある人を医学的側面から理解し、その特性や生活上の諸問題、介護上の注意点について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心として展開するが、グループワーク、レポート発表を行い学びを深める指導を行う。毎時間リアクションペーパーの記載をもって授業の振り返り、まとめを行い、疑問や意見等を他学生と共有する。【グループワーク】【レポート（知識）】

到達目標

- (1) 障がいのある人の心理的、身体的機能の特徴を説明できる。
- (2) 障がいのある人を理解し、本人及び家族、周囲の環境に配慮した介護のポイントを説明できる。
- (3) 障がいのある人の立場からみた介護上の注意点、問題点について解決策を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解、 -2援助・支援に関する理論の基本的理解、 -1問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	障害の概念
2	障害の基本的理解（障害の特性に応じた制度、障害者福祉の基本理念）
3	視覚障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
4	視覚障害者の生活理解と障害の特性に応じた支援
5	聴覚障害、言語機能障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
6	聴覚障害者、言語機能障害者の生活理解と障害の特性に応じた支援【グループワーク】
7	肢体不自由に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
8	肢体不自由のある人の生活理解と障害の特性に応じた支援
9	内部障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
10	内部障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
11	内部障害のある人の生活理解と障害の特性に応じた支援
12	内部障害のある人の生活理解と障害の特性に応じた支援【レポート（知識）】
13	障害のある人への地域におけるサポート体制（他職種連携と協働）
14	障害のある人の家族への支援【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の関連ページを読み、ポイントをまとめておく。また医療用語等の専門用語は、読み書き理解できるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。さらに関連箇所の国家試験の過去問題に取り組み理解しておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】到達目標の達成度は、小テスト、レポート、筆記試験の内容にて理解度を評価する。評価基準は、授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト、レポート30%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】質疑は全体に返答することで学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会「障害の理解第4版」中央法規株式会社

【推薦書】海老原宏美「わたしが障害者じゃなくなる日」株式会社旬報社

【参考書】谷口敏代編集「最新介護福祉士全書第11巻障害の理解」株式会社メヂカルフレンド社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

障害のある人の生活やニュースに関心を持って積極的に授業に参加してください。

科目名	障がいの理解		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDC244		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格 / 介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて介護における根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおけるケアワーク専門科目の1つで、介護福祉士資格取得に必要な指定科目で選択必修科目である。科目「障がいの理解」と連続した科目として位置し、福祉的支援を必要とする障がいのある人々を理解し「生活の質」の向上や地域における「共生」をめざすための知識を習得する。主に精神障害に関連した障がいの理解を学ぶ。

科目の概要

障がいの理解に引き続き、主に精神障害のある人や全介助を要する人への理解について学ぶ。障害のある人の特性や生活上の諸問題、介護上の注意点について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心として展開するが、グループワーク、レポート発表を行い、学びを深める指導を行う。毎時間リアクションペーパーの記載をもって授業の振り返り、まとめを行い、疑問や意見等を他学生と共有する。【グループワーク】【レポート（知識）】

到達目標

- (1)障がいのある人の心理や身体機能に関する特徴を説明できる。
- (2)障がいのある人を理解し本人及び家族、周囲の環境に配慮した介護の視点を説明できる。
- (3)障がいのある人の立場から、生活や介護上の課題について考察できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解、 -2援助・支援に関する理論の基本的理解、 -1問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	精神障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
2	精神障害者の生活理解と障害の特性に応じた支援
3	発達障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識） 発達障害
4	発達障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識） 知的障害
5	発達障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識） 自閉症、合併する障害
6	発達障害者の生活理解と障害の特性に応じた支援【グループワーク】
7	高次脳機能障害に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
8	高次脳機能障害のある人の生活理解と障害の特性に応じた支援【レポート（知識）】
9	難病に伴う機能の変化（医学的・心理的側面の基礎知識）
10	難病のある人の生活理解と障害の特性に応じた支援
11	障害のある人の介護の基本
12	障害のある人の介護の基本
13	障害のある人への地域におけるサポート体制（他職種連携と協働）
14	障害のある人の家族への支援【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書の関連ページを読み、ポイントをまとめておく。また医療用語等の専門用語は、読み書き理解できるようにしておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにまとめ理解を深めておく。さらに関連箇所の国家試験の過去問題に取り組み理解しておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】到達目標の達成度は、小テスト、レポート、試験の内容の理解度により評価する。評価基準は、授業への参加度10%、リアクションペーパー及び小テスト、レポート30%、試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出物は返却し、リアクションペーパーに記載された質疑は全体に返答、小テストの解説を行い、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会「障害の理解第4版」中央法規株式会社

【推薦書】松永正訓「発達障害にうまれて」株式会社中央公論新社

【参考書】谷口敏代編集「最新介護福祉士全書第11巻 障害の理解」株式会社メヂカルフレンド社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

障害のある人の生活やニュースに関心を持って積極的に授業に参加してください。

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC245		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師としての実務経験のある教員による授業である。その実務経験を生かして、こころやからだのしくみを理解したうえで利用者を支援する方法を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「こころとからだのしくみ」に関する科目の一つである。心身の状況に応じた介護を実践するための、対象となる人の日常生活や社会生活を支援するための知識及び技術の理解を深める。生活支援技術、「認知症の理解」、「障がいの理解」「医学概論」「介護の基本」「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

対象となる人を生活者として理解し、心身の状況に応じた介護を実践する方法について学修する。

授業の方法（ALを含む）

講義及び、演習により、対象となる人のこころやからだのしくみについて及び心身の状況に応じた介護に関する理解を深める。また、講義の終わりに授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。表現力については、レポートを作成し、そのレポートに基づき、プレゼンテーションを行う。【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【筆記試験】【レポート】

到達目標

- 1.自己概念やこころを理解し、説明できる
- 2.からだのしくみや生命を維持する仕組みを理解し、説明できる。
- 3.心身機能の低下が身じたく、移動、入浴・清潔に及ぼす影響を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関する基本的理解

内容

1	オリエンテーション	こころとからだのしくみを理解する必要性を理解する。【リアクションペーパー】
2	こころのしくみについて	人間の欲求・自己実現と尊厳について【リアクションペーパー】【ワーク】
3	こころのしくみについて	【ワーク】【リアクションペーパー】
4	からだのしくみについて	加齢による機能低下、骨・関節の動き【ワーク】【リアクションペーパー】【レポート】

5	からだのしくみについて 筋肉の動き、神経系の働き、ボディメカニクス【ワーク】【リアクションペーパー】
6	身じたくに関連したしくみ 基礎的知識【ワーク】【リアクションペーパー】
7	身じたくに関連したしくみ 心身の機能低下が身支度に及ぼす影響【ワーク】【リアクションペーパー】
8	身じたくに関連したしくみ 変化の気づきと対応 【ワーク】【リアクションペーパー】【筆記試験】
9	移動に関連したしくみ 基礎的知識【ワーク】【リアクションペーパー】
10	移動に関連した仕組み 心身の機能低下が移動に及ぼす影響【ワーク】【リアクションペーパー】
11	移動に関連したしくみ 変化の気づきと対応【ワーク】【リアクションペーパー】
12	入浴・清潔保持に関連したしくみ 基礎的知識【ワーク】【リアクションペーパー】
13	入浴・清潔保持に関連したしくみ 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響【ワーク】【リアクションペーパー】
14	入浴・清潔保持に関連したしくみ 変化の気づきと対応【筆記試験】
15	総括 身じたく、移動、入浴清潔保持に関連した支援について【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】テキスト等、事前に指示した内容を整理しまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%) 課題提出(30%) プレゼンテーション(10%) 筆記試験(50%) で評価し、60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

到達目標 2 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%) リアクションペーパー(10%/10%) プレゼンテーション(10%/10%)

到達目標 3 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。成果物の発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 介護福祉士養成講座編集委員会「こころとからだのしくみ」中央法規2019年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

課題等は、必ず期日に提出してください。

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC345		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師としての実務経験のある教員による授業である。その実務経験を生かして、様々な課題を抱える利用者のニーズを解決するための根拠に基づいた支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「こころとからだのしくみ」に関する科目の一つである。心身の状況に応じた介護を実践するための、対象となる人の日常生活や社会生活を支援するための知識及び技術の理解を深める。生活支援技術、「認知症の理解」、「障がいの理解」「医学概論」「介護の基本」「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

対象となる人を生活者として理解し、心身の状況に応じた介護を実践する方法について学修する。

授業の方法（ALを含む）

講義及び、演習により、対象となる人のこころやからだのしくみについて及び心身の状況に応じた介護に関する理解を深める。また、講義の終わりに授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。表現力については、レポートを作成し、そのレポートに基づき、プレゼンテーションを行う。【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【筆記試験】【レポート】

到達目標

- 1.心身機能の低下が食事・排泄・睡眠に及ぼす影響を説明できる。
- 2.食事・排泄・睡眠に関する心身の構造と機能について説明できる。
- 3.終末期の心身機能の変化及び、生活支援の留意点について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関する基本的理解

内容

1	オリエンテーション	食事に関連したしくみ	基礎的知識【リアクションペーパー】
2	食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	【ワーク】【リアクションペーパー】
3	食事に関連したしくみ	心身の機能低下が食事に及ぼす影響	【ワーク】【リアクションペーパー】
4	食事に関連したしくみ	変化と気づきの対応	【ワーク】【リアクションペーパー】【レポート】【プレゼンテ

	ーション】	
5	排泄に関連したしくみ	基礎的知識【ワーク】【リアクションペーパー】
6	排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 【ワーク】【リアクションペーパー】
7	排泄に関連したしくみ	心身の機能低下が排泄に及ぼす影響 【ワーク】【リアクションペーパー】
8	排泄に関連したしくみ	変化の気づきと対応【ワーク】【リアクションペーパー】
9	睡眠に関連したしくみ	基礎的知識【ワーク】【リアクションペーパー】
10	睡眠に関連したしくみ	心身の機能低下が及ぼす【ワーク】【リアクションペーパー】
11	睡眠に関連したしくみ	変化の気づきと対応【ワーク】【リアクションペーパー】
12	死にゆく人に関連したしくみ	基礎的知識【ワーク】【リアクションペーパー】
13	死にゆく人に関連したしくみ	終末期から「死」までの変化と特徴【ワーク】【リアクションペーパー】
14	まとめ【筆記試験】	死に対するこころの理解
15	人生の最終段階のケアについて【ワーク】【レポート】	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】教科書で指定された箇所を熟読し、自分なりに内容をまとめておく（各授業に対して60分）

【事後学修】授業で学んだことについて各自で内容の理解を深め、ノートにまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%) 課題提出(30%) プレゼンテーション(10%) 筆記試験(50%) で評価し、60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

到達目標 2 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%) リアクションペーパー(10%/10%) プレゼンテーション(10%/10%)

到達目標 3 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。成果物の発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】編集：介護福祉士養成講座編集委員会 「こころとからだのしくみ」 中央法規出版 2019

【推薦書】最新 介護福祉全書 12 「こころとからだのしくみ」

編集 / 小坂橋喜久代 松田たみ子

ISBN : 978-4-8392-3199-6

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC246		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師資格を有する教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害により医療的ニーズを持つ人々の課題を解決するための根拠ある支援について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「医療的ケア」に関する科目の一つである。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するよう、必要な知識・技術を習得する。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解したうえで、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ

授業の方法（ALを含む）

本科目では、抗議による解説をし、グループやペアによるディスカッションを取り入れた授業を行う。
また、学生が授業内容から得た知識からの考察や疑問点を毎回記入してもらい、フィードバックし内容を深める。
【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【筆記試験】【レポート】

到達目標

1. 医療的ケアの実施に関する概要及び医療的ケアと関連付けた「個人の尊厳と自立」「医療的ケアの倫理上の留意点」について理解できる。
2. 健康状態の把握ができる。
3. 医療的ケアを実践するための清潔保持と感染予防について理解することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関しての基本的理解

内容

1	オリエンテーション	医療的ケアを学ぶために	医療的ケアを学ぶ目的
2	医療的ケアを学ぶために	医療的ケア、喀痰吸引等の用語の整理	
3	医療的ケアを学ぶために	医療的ケアニーズの増加	
4	医療的ケアを学ぶために	歴史的変遷	介護福祉士の定義に追加された「喀痰吸引等」

5	安全な実施 医行為、 教育・研修、 安全のための実施条件 記録と方向・連携
6	保険医療制度とチーム医療
7	保健医療制度とチーム医療
8	介護における生活支援と介護の倫理
9	健康状態の把握 バイタルサインについて
10	健康状態の把握 バイタルサインについて 脈拍・呼吸
11	健康状態の把握 バイタルサインについて 血圧
12	健康状態の把握 バイタルサインについて 測定実施
13	清潔保持と感染予防 感染予防
14	清潔保持と感染予防? 消毒と滅菌
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前にテキスト等の内容で指示した点について、内容を整理し、まとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

1リアクションペーパー(10%) 課題提出(30%) プレゼンテーション(10%) 筆記試験(50%)で評価し、60点以上を合格とする

到達目標 1 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%) リアクションペーパー(10%/10%) プレゼンテーション(10%/10%)

到達目標 2 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

到達目標 3 課題提出(10%/30%) 筆記試験(20%/50%)

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。成果物の発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 『医療的ケア』建帛社、2015年。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDC346		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「医療的ケア」に関する科目の一つである。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するよう、必要な知識・技術を習得する。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護過程」とも関連性がある。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「医療的ケア」に関する科目の一つである。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するよう、必要な知識・技術を習得する。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

医療的ケアの意義・目的を理解したうえで、医療的ケアの基礎的知識を学ぶ

授業の方法 (ALを含む)

本科目では、講義による解説をし、グループやペアによるディスカッションを取り入れた授業を行う。

また、学生が授業内容から得た知識からの考察や疑問点を毎回記入してもらい、フィードバックし内容を深める。

【プレゼンテーション】【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【筆記試験】【レポート】

到達目標

1. 根拠に基づく喀痰吸引の方法・留意点について説明できる
2. 根拠に基づく経管栄養の方法・留意点について説明できる。
3. 医療的ケアを実施するための安全管理体制について説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 支援に関しての基本的理解

内容

1	「医療を必要とする人への介護」(筆記試験)の復習 / 清潔保持と感染予防(2)演習
2	喀痰吸引概論
3	喀痰吸引概論
4	喀痰吸引概論
5	喀痰吸引概論

6	喀痰吸引概論
7	喀痰吸引概論（筆記試験を含む）
8	経管栄養概論
9	経管栄養概論
10	経管栄養概論
11	経管栄養概論（筆記試験を含む）
12	子どもの吸引
13	喀痰吸引に伴うケア
14	? リスクマネジメント
15	? リスクマネジメント

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】事前にテキスト等の内容で指示した点について、内容を整理し、まとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

到達目標 1 課題提出（10%/30%）筆記試験（20%/50%）

到達目標 2 課題提出（10%/30%）筆記試験（20%/50%）

到達目標 3 課題提出（10%/30%）筆記試験（20%/50%）リアクションペーパー（10%/10%）プレゼンテーション（10%/10%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 柊崎京子 荏原順子 編著『医療的ケア』建帛社，2015年。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、平山 純子、小山 サヨ子		
ナンバリング	KDC446		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師としての実務経験のある教員による授業である。その実務経験を生かして、様々な課題を抱える利用者のニーズを解決するための根拠に基づいた支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「医療的ケア」に関する科目の一つである。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するよう、必要な知識・技術を習得する。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

医療的ケアの基礎的知識を学び、デモンストレーション見学後に喀痰吸引を行う。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義後に演習を行う。行った手技に対して、グループワークを取り入れ検討する。また、学生が授業内容から得た知識からの考察や疑問点を毎回記入してもらい、フィードバックし内容を深める。

【演習】【筆記試験】【グループワーク】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 根拠に基づく喀痰吸引を安全に実施できる
2. 根拠に基づく経管栄養を安全に実施できる。
3. 心肺蘇生法について理解し、実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援に関する基本的理解
- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	?	緊急時の対応
2	?	緊急時の対応
3		緊急時の対応
4		医療を必要とする人への介護50時間授業後の確認テスト（90点以上を合格とし、演習へ）
5		演習評価（1） 喀痰吸引（口腔内） デモンストレーション

6	演習評価(1)	喀痰吸引(口腔内)	
7	演習評価(1)	喀痰吸引(口腔内)	
8	演習評価(1)	喀痰吸引(口腔内)	
9	演習評価(1)	喀痰吸引(口腔内)	
10	演習評価(1)	喀痰吸引(口腔内)	
11	演習評価(2)	喀痰吸引(鼻腔内)	デモンストレーション
12	演習評価(2)	喀痰吸引(鼻腔内)	
13	演習評価(2)	喀痰吸引(鼻腔内)	
14	演習評価(2)	喀痰吸引(鼻腔内)	
15	演習評価(2)	喀痰吸引(鼻腔内)	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読み、指定のDVDを視聴し、内容をまとめる(各授業に対して60分)

【事後学修】 毎回の授業内容を振り返り、内容を深められるようにノートにまとめる(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%) グループワーク(10%) 演習(30%) (筆記試験(50%))で評価し、60点以上を合格とする

到達目標1 演習(10%/30%) 筆記試験(20%/50%) グループワーク(10%/10%)

到達目標2 演習(10%/30%) 筆記試験(20%/50%) リアクションペーパー(10%/10%)

到達目標3 演習(10%/30%) 筆記試験(10%/50%)

「医療を必要とする人への介護」の講義終了後、確認テスト

9割以上のものが、演習にすすむことができる。

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。成果物の発表後、講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 柘崎京子 荏原順子編著『医療的ケア』建帛社, 2015年

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

医療を必要とする人への介護 及び の単位履修者のみが履修することができる。

科目名	医療を必要とする人への介護		
担当教員名	山口 由美、平山 純子、小山 サヨ子		
ナンバリング	KDC546		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師としての実務経験のある教員による授業である。その実務経験を生かして、様々な課題を抱える利用者のニーズを解決するための根拠に基づいた支援を指導する

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

本科目は、介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける領域、「医療的ケア」に関する科目の一つである。医療的ケアが必要な人の安全で安楽な生活を支えるという観点から、医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施するよう、必要な知識・技術を習得する。「日常生活支援技術」、「こころとからだのしくみ」、「介護過程」とも関連性がある。

科目の概要

医療的ケアの基礎的知識を学び、デモンストレーションを見学し、喀痰吸引及び経管栄養を行う。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習を中心に行う。演習後グループワークを取り入れた授業を行う。

また、学生が授業内容から得た知識からの考察や疑問点を毎回記入してもらい、フィードバックし内容を深める。

【演習】【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】

到達目標

1. 根拠に基づく喀痰吸引を安全に実施できる
2. 根拠に基づく経管栄養を安全に実施できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援に関する基本的理解
- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解

内容

1	演習評価（3）	喀痰吸引（気管カニューレ内部）	デモンストレーション
2	演習評価（3）	喀痰吸引（気管カニューレ内部）	
3	演習評価（3）	喀痰吸引（気管カニューレ内部）	
4	演習評価（3）	喀痰吸引（気管カニューレ内部）	
5	演習評価（3）	喀痰吸引（気管カニューレ内部）	
6	演習評価（4）	経管栄養（経鼻経管栄養）	デモンストレーション
7	演習評価（4）	経管栄養（経鼻経管栄養）	

8	演習評価(4) 経管栄養(経鼻経管栄養)
9	演習評価(4) 経管栄養(経鼻経管栄養)
10	演習評価(4) 経管栄養(経鼻経管栄養)
11	演習評価(5) 経管栄養(胃ろう) デモンストレーション
12	演習評価(5) 経管栄養(胃ろう)
13	演習評価(5) 経管栄養(胃ろう)
14	演習評価(5) 経管栄養(胃ろう)
15	まとめ 安全な医療的ケアを行う上で必要なことについて

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 授業の該当箇所の教科書を読んでくること。指定のDVDを視聴する(各授業に対して60分)

【事後学修】 演習で自分の不足している部分について、授業内容を振り返り、ノートにまとめる(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%) グループワーク(10%) 演習(50%) レポート(30%) で評価し、
60点以上を合格とする

到達目標1 演習(25%/50%) リアクションペーパー(5%/10%) レポート(15%/30%) グループワーク(5%/10%)

到達目標2 演習(25%/50%) リアクションペーパー(5%/10%) レポート(15%/30%) グループワーク(5%/10%)

【フィードバック】 講義ごとにリアクションペーパーを記入してもらい、質問等については、次の回に口頭及びペーパー等で返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 柘崎京子 荏原順子編著 『医療的ケア』建帛社, 2015年.

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

医療を必要とする人への介護 及び の単位履修者のみが履修することができる。

科目名	保育原理		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd147		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

この科目は「保育士資格」取得のための必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの 知識・理解・技能（技法）・表現、 関心・意欲・態度にかかわる科目である。

科目の概要

乳幼児期の保育に関する制度や歴史、保育の本質とその意義について学んでいく。保育士業務に関する基礎的かつ重要な内容であることから、適宜試験やレポート作成などを行い、知識の定着を図っていく。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

本科目では、 保育所の役割や保育の目的・方法理解すること、 保育所の諸制度や思想を理解すること、 保育者の役割や職業倫理について理解することを、目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	ガイダンス
2	保育の意義と目的、対象
3	保育所等の機能と社会的役割
4	保育所等の制度的枠組み
5	保育職の資格・免許
6	諸外国の保育の思想と歴史
7	日本の保育の思想と歴史
8	保育所保育の基本

9	保育の目標
10	保育の方法
11	保育の内容
12	環境を通じた保育の展開
13	保育の環境
14	保育の計画と評価
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で事前配布する予習プリントに、予め内容を記入し持参すること。（各回60分）

【事後学修】各回の授業内容を各自でまとめておくこと。（各回60分）

評価方法および評価の基準

評価は 授業への取り組み10%、 提出物40%、 試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

毎回のリアクションペーパー、試験の結果をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

柴崎正行編著（2018）『改訂版 保育原理の基礎と演習』わかば社、 厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館、 内閣府・厚生労働省・文部科学省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館

【参考図書】

子どもと保育総合研究所監修『最新保育資料集2019』ミネルヴァ書房、 森上史朗・柏女霊峰編『保育用語事典第7版』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	教育原理		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDd248		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

福祉領域における相談職等ソーシャルワーカーとしての実務経験あり。具体的な相談援助実践に基づいて指導することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本授業は、保育士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。保育の実践に関する知識、また対象者の生涯の段階における生活課題を理解することに関連する。主に保育原理と深く関連する。

科目の概要

近代教育学の概要を踏まえ、幼児教育の理論と実践、今日の現状について理解する。
また、生涯教育の観点から、保育士としての専門職における学習と職能成長について言及する。

授業の方法（ALを含む）

講義及び調べ学習、集団学習（グループワーク）の形態を用いる。【グループワーク】

到達目標

1. 教育の意義、目的及び児童福祉法等とのかわりについて理解する。
2. 教育の思想と歴史的変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する。
3. 教育の制度について理解する。
4. 教育実践のさまざまな取り組みについて理解する。
5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2支援に関する基本的理解。
- 2援助・支援に関する理論の基本的理解
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

講義を基本とし、個人もしくはグループでのワークを教授法として用いる。

1	オリエンテーション
2	教育とは何か：教育の意義、教育の目的、ホリスティック教育における3つの学習【グループワーク】
3	教育とケア：メイヤロフ、ノッティングス、佐藤学
4	学習とは何か：心理学の知見を中心に【グループワーク】
5	近代教育学の思想1：子どもの誕生、ルソー、ペスタロッチ【グループワーク】
6	近代教育学の思想3：フレーベル、子どもの自己形成空間論【グループワーク】
7	近代教育学の思想4：倉橋惣三
8	教育の制度1：日本国憲法、教育基本法、保育所保育指針
9	教育の制度2：子どもの権利条約【グループワーク】
10	教育の実践1：保育所における保育実践と保育カリキュラム
11	教育の実践2：子どもと自然、森の幼稚園
12	生涯教育論1：生涯学習施策、生涯学習社会、現代の教育的課題
13	生涯教育論2：成人教育論における意識変容の学習【グループワーク】
14	生涯教育論3：成人教育論における省察的学習
15	まとめ：保育士としての職能成長と生涯学習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】授業に対応するPPなどの資料を読んでおきましょう（30分）
- 【事後学修】授業中に出された宿題を遂行しましょう（60分）

評価方法および評価の基準

授業中のミニワークを30点、最終レポート課題を70点とし、総合評価60点以上を合格とする。課題の結果へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。ミニワークは提出の有無を合計し得点を算出する。最終レポートの評価は、独自に作成した5段階評定のルーブリックに戻っていく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】特に使用しない。授業中に資料を配布。
- 【推薦書】広田照幸・塩崎美穂編著（2010）教育原理、樹村房 山野則子他（2012）福祉教育学の招待、せせらぎ書房
- 【参考図書】佐藤学（1995）学びその死と再生、太郎次郎社 ノディングズ（1997）ケアリング、晃洋書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

教育学は福祉を学ぶ学生にとって、やや遠い位置づけになるかもしれませんが、自分の関心を広げることを意識して、教育について考える力を身に付けてほしいと思います。

科目名	相談援助		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd349		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目を担当する教員は、児童福祉施設（保育所及び児童養護施設）に勤務し、利用児やその保護者の相談職についていた経験がある。

講義内容は、児童福祉施設で得た実践の経験を講義や演習場面で理論と乖離が起きないように即している。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の必修科目であり、保育の本質・目的に関する科目に位置付けられている。

科目の概要

本科目は、保育所及び児童福祉施設において勤務する保育士が、利用者である子どもやその保護者に対して相談支援を行う際に、相談援助の概要・方法・展開、相談者の自己覚知、他者理解等の理論と技術を理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習を中心に行い、児童福祉施設における児童の権利・保育士の使命・倫理、さらに施設養護および援助するための具体的実践について、ケースメソッドやフィールドワークを取り入れ授業を行う。

【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】

到達目標

- 1．相談援助の概要について理解理解し、説明することができる。。
- 2．相談援助の方法と技術について理解し、具体的に行うことができる。
- 3．相談援助の具体的展開について理解し、行うことができる。
- 4．保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解し、分類・評価することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 2 援助・支援に関する理論の基本的理解、 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

1	オリエンテーション 保育と相談援助、相談援助とは何か
---	----------------------------

2	相談援助の過程と連携【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
3	相談援助者になるために1（自己覚知）【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
4	相談援助者になるために2（他者理解）【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
5	相談援助者になるために3（基本的態度、コミュニケーションスキル）【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
6	相談援助者になるために4（記録）【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
7	相談援助を行う前に（生活課題の把握、社会資源の把握）【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
8	相談援助の過程（インテークとアセスメント、援助計画、実施、評価）【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
9	事例検討の意義と方法【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
10	ショート事例に基づいた対応【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
11	児童虐待への対応事例【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
12	児童養護施設の事例【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
13	DVの事例【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
14	障がい受容の事例・創作事例（ロールプレイ）【実技】【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第2回～第14回

【事前準備】授業内容について、課題及び教科書の該当箇所をまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容についてレポートにまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

課題提出（40％）、実技（20％）筆記試験（60％）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（10％/40％）、筆記試験（10％/40％）

到達目標2. 課題提出（10％/40％）、実技（20％/20％）、筆記試験（10％/40％）

到達目標3. 課題提出（10％/40％）、筆記試験（10％/40％）

到達目標4. 課題提出（10％/40％）、筆記試験（10％/40％）

【フィードバック】

授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

初回の授業の際に指示をする。

【推薦書】

初回の授業の際に指示をする。

【参考図書】

初回の授業の際に指示をする。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育者論		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd350		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援施設において、子どもの保育や保護者に対する相談業務に携わった経験をもつ教員が担当し、家庭や地域との関係的な視点から、保育者の役割や専門性について理解を深めることができるよう指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

専門職としての保育者の役割や倫理について学ぶとともに、その専門性について考察する。保育所と児童福祉施設の保育者の制度的位置付けと職務を確認するとともに、他機関や他の専門職との連携や協働について学び、保育者の専門性に対する理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義と演習により、保育士の職務内容や専門性について理解を深める。また、各回のおわりには、授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【ペアワーク】【ケースメソッド】【討議・討論】【プレゼンテーション】
【ビデオカンファレンス】【ミニテスト】【レポート（知識）】

到達目標

1. 保育士の社会的役割や専門職倫理、職務内容について理解し、説明することができる。
2. 保育士の専門性について理解し、自分なりの考えを述べるすることができる。
3. 保育における協働について理解し、説明することができる。
4. 保育者の資質向上とキャリア形成について理解し、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3：専門的援助関係の基本的理解と形成
- 4：体験の意味付けと表現
- 1：問題解決のための専門性と倫理

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、事例分析等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】【討議・討論】
2	保育士の職務と制度的位置づけ【リアクションペーパー】【ペアワーク】
3	全国保育士会倫理綱領の理解【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
4	子どもに対する倫理責任と保育士の役割【リアクションペーパー】【グループワーク】【ケースメソッド】
5	保護者に対する倫理責任と保育士の役割【リアクションペーパー】【グループワーク】【ケースメソッド】
6	養護と教育の一体的展開【リアクションペーパー】【ビデオカンファレンス】
7	子どもの発達保障と家庭との連携【リアクションペーパー】【ビデオカンファレンス】
8	保育における園内外の専門職との協働【リアクションペーパー】
9	保育士の専門性 保育士の資質・能力【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
10	保育士の専門性 専門職倫理にもとづく意思決定【リアクションペーパー】【グループワーク】【討議・討論】
11	保育士の専門性 保育の計画と評価・改善【リアクションペーパー】【グループワーク】
12	中間まとめ【ミニテスト】【リアクションペーパー】
13	保育士の資質向上とキャリア形成【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
14	資質向上に関する組織的取り組みとリーダーシップ【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
15	まとめ【リアクションペーパー】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 第1回 【事前準備】法令に記載される保育士の役割を確認する。[60分]
【事後学修】保育所保育指針における保育士の役割をA4用紙2枚以内にまとめる。[60分]
- 第2～15回【事前準備】保育所保育指針の該当章を読む。[60分]
【事後学修】授業内容に関連するトピックを調べ、A4用紙2枚以内にまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（10%）、課題提出（60%）、ミニテスト（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標 1．課題提出（20%/60%）、ミニテスト（10%/30%）

到達目標 2．リアクションペーパー（10%/10%）、課題提出（10%/60%）、ミニテスト（10%/30%）

到達目標 3．課題提出（20%/60%）

到達目標 4．ミニテスト（10%/30%）、課題提出（20%/60%）

【フィードバック】

リアクションペーパーおよび提出物に対して講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働省（2018）『保育所保育指針解説』フレーベル館

このほか、授業内で具体的に指示する。

【推薦書】授業内で紹介する。

【参考図書】授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの食と栄養		
担当教員名	中岡 加奈絵		
ナンバリング	KDd254		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

「有」

実務経験および科目との関連性

管理栄養士として保健センターにおける離乳食教室に携わった経験を生かし、離乳期の栄養と食生活に関する講義ならびに離乳食実習を行います。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科「保育専門科目」の領域であり、保育士養成課程教育カリキュラムにおける必修科目です。小児期の食生活や栄養に関する基本的知識と保育実践に係る食育について学修します。2年次履修科目である「乳児保育」や「子どもの保健」、3年次履修科目である「保育実習」などにつながる内容を扱います。

科目の概要

主に乳幼児期の子どもの栄養と食生活について学修します。児童福祉施設の給食の意義、食育の基本と内容、食物アレルギー対応についても学び、多様化する育児支援のニーズに食の観点から適切に対応できる力を理論と実践を通して養います。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループでの実習やロールプレイ、個人の制作やプレゼンテーションを取り入れた授業を行い、学びを深めます。講義では、授業中にミニテストやグループワークを実施し、リアクションペーパーによるフィードバックを行います。調理実習時には、レポートの作成を行います。【実習】【ロールプレイ】【制作】【プレゼンテーション】【ミニテスト】【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート（知識）（表現）】

到達目標

1. 小児期の食生活は生涯にわたる健康の基盤となることを理解する。
2. 子どもの発達過程に応じた栄養と食生活の意義や役割について理解し、保育者としての適切な食事支援の方法を習得する。
3. 現在の子どもを取り巻く環境を理解し、保育者として子どもの栄養と食生活の課題の解決に寄与できる。
4. 食育の基本とその内容を理解し、乳幼児を対象とした食育を実施することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 4 人権尊重の理解、問題解決の方法提示
- 5 生活課題の理解、問題解決の方法提示

内容

1	子どもの心身の健康と食生活、子どもの発育・発達の基本 【リアクションペーパー】
2	食事摂取基準と献立作成や調理の基本 【リアクションペーパー】
3	胎児期の栄養と食生活 【ミニテスト】【リアクションペーパー】
4	乳汁期の栄養と食生活 【ミニテスト】
5	乳汁栄養の実際（調乳実習） 【実習】【レポート（知識）】
6	離乳期の栄養と食生活 【ミニテスト】
7	離乳期の食事の実際（離乳食実習） 【実習】【ロールプレイ】【レポート（知識）】
8	幼児期の栄養と食生活 【ミニテスト】【リアクションペーパー】
9	学童期の心身の発達と食生活 【リアクションペーパー】
10	生涯発達と食生活 【リアクションペーパー】
11	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 【ミニテスト】
12	家庭や児童福祉施設における食事と栄養 【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	食育の基本と内容 【リアクションペーパー】
14	食育の実践（食育発表会） 【制作】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】シラバスを確認し、事前に教科書の該当箇所を読んでから、授業に臨んでください。〔各授業に対し60分〕

【事後学修】授業で配付する資料は、特に理解して欲しいところを抜粋したものです。理解が不十分だった箇所を重点的に学修してください。〔各授業に対し60分〕

評価方法および評価の基準

実践学習に積極的に取り組む姿勢・態度（20%）、課題レポート（20%）、ミニテスト（10%）、筆記試験（50%）の総合評価を行い、60点以上を合格とします。

到達目標 1 . 姿勢・態度（0/20%）、課題レポート（0/20%）、ミニテスト（5/10%）、筆記試験（5/50%）

到達目標 2 . 姿勢・態度（5/20%）、課題レポート（5/20%）、ミニテスト（5/10%）、筆記試験（30/50%）

到達目標 3 . 姿勢・態度（5/20%）、課題レポート（5/20%）、ミニテスト（0/10%）、筆記試験（10/50%）

到達目標 4 . 姿勢・態度（10/20%）、課題レポート（10/20%）、ミニテスト（0/10%）、筆記試験（5/50%）

【フィードバック】提出されたレポートにはコメントを添え、翌週以降の授業時間内に返却します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「最新子どもの食と栄養 - 食生活の基礎を築くために - （第9版）」 飯塚美和子、瀬尾弘子、曽根真理枝、濱谷亮子編著 学建書院

【推薦書】「子育て・子育てを支援する 子どもの食と栄養（第7版）」 堤ちはる、土井正子編著 萌文書林

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

調理実習は、必ず身支度をしてから臨みましょう。

科目名	児童・家庭支援演習（介入事例検討）		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd256		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目を担当する教員は、児童福祉施設に勤務し、社会的養護を必要としている子ども・保護者に支援を行った経験がある。
講義内容は、児童福祉施設等での介入事例に対して現場で得た実践の経験を、講義や演習場面で理論と乖離が起きないようにしている。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得希望者を対象とした選択科目であり、主に市町村に勤務する公立保育士として、公立保育所及び、児童相談所一時保護（保育職）での実例やモデルを用いてより深く探求する科目である。他科目との関係性は、社会福祉概論、保育原理、社会的養護、障害児保育等々の社会福祉・保育士養成科目を履修することで更に深まる内容となっている。

科目の概要

本科目は、公立保育士を目指す学生に対して、保育所や児童相談所一時保護所、児童養護施設において、子どもや保護者（家庭）に対して、介入する事例を集中して学習する。また、公立保育士に特化していることから、公務員試験対策の内容も含むものとする。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義を中心に行い、保育所や児童相談所一時保護所、児童養護施設の基本的な考え方及び児童福祉施設等における保育の本質と目的等について学習する。また、子どもを支援する現場の課題について、グループワークやケースメソッドを取り入れ授業を行う。

【グループワーク】【レポート（知識）】【ケースメソッド】

到達目標

1. 主に市町村に勤務する公立保育士としての基礎的な法や制度を理解し、説明できるようになる。
2. 公立保育所及び児童相談所一時保護（保育職）、そして児童福祉施設の従事に際し、適切な対応を行えるようになる。
3. 保育所及び児童相談所一時保護（保育職）、そして児童福祉施設の関係機関との手続きについて理解し、説明できるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

2 支援に関する基本的理解、 3 専門的援助関係の基本的理解と形成、 1 問題解決のための専門性と倫理

内容	
1	オリエンテーション：公立保育士の実際
2	保育所における保育士の子どもと家庭支援の実際【レポート（知識）】【ケースメソッド】
3	児童養護施設における保育士の子どもと家庭支援の実際【レポート（知識）】【ケースメソッド】
4	乳児院における保育士の子どもと家庭支援の実際【レポート（知識）】【ケースメソッド】
5	母子生活支援施設における保育士の子どもと家庭支援の実際【レポート（知識）】【ケースメソッド】
6	障害児施設における保育士の子どもと家庭支援の実際【レポート（知識）】【ケースメソッド】
7	親子関係の調整と演習（1）【レポート（知識）】【ケースメソッド】
8	親子関係の調整と演習（2）【レポート（知識）】【ケースメソッド】
9	学校・地域との関係調整と演習【レポート（知識）】【ケースメソッド】
10	リービングケアと演習【レポート（知識）】【ケースメソッド】
11	アフターケアと演習【レポート（知識）】【ケースメソッド】
12	子どもの最善の利益と演習【レポート（知識）】【ケースメソッド】
13	子どもの権利を守る仕組みと演習【レポート（知識）】【ケースメソッド】
14	生存と発達の保障と演習【レポート（知識）】【ケースメソッド】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第2回～第14回

【事前準備】授業内容について、教科書の該当箇所をまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容についてレポートにまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

課題提出（40%）、筆記試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（15%/40%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標2. 課題提出（15%/40%）、筆記試験（20%/60%）

到達目標3. 課題提出（10%/40%）、筆記試験（20%/60%）

【フィードバック】

授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

初回の授業の際に指示をする。

【推薦書】

初回の授業の際に指示をする。

【参考図書】

初回の授業の際に指示をする。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目の履修に際して、「保育原理」、「教育原理」、「社会的養護」、「児童・家庭福祉論」、「社会福祉概論」、「保育の心理学」、「子どもの保健」、「子どもの食と栄養」、「保育実習指導 a・b」の単位取得済みを

前提としている。また、「保育実習 A」「保育実習 B」での体験、及び学習を前提により深く事例検討による考察を深める。

科目名	保育課程論		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd257		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等で実践経験のある教員により、保育計画の構造や作成の仕方、またそれらを基にした実践方法を学ぶ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

本科目の前半では、保育における計画と評価について講義を通して理解を深める。後半では、指導計画を実際に作成と実践を行い、体験を通して保育の計画の実際について学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説、グループワーク、保育計画の作成、模擬保育などを取り入れて授業を行う。

【講義】【グループワーク】【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

1. 保育の内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解することができる。
2. 全体的な計画と指導計画について、その意義と方法を理解し、作成することができる。
3. 子どもの理解に基づく保育の過程（計画・実践・記録・省察・評価・改善）について、その全体構造を捉え、実践することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 5 生活課題の理解、問題解決の方法提示
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

1	オリエンテーション
2	保育の過程と計画の必要性

3	保育における計画の種類 全体的な計画
4	保育における計画の種類 長期・短期の指導計画
5	子ども理解にもとづく計画 記録から計画へ【グループワーク】
6	子ども理解にもとづく計画 子どもの実態に即した柔軟な展開【グループワーク】
7	カリキュラムマネジメントと質の向上
8	指導計画の作成 【グループワーク】【実技】
9	指導計画の作成 【グループワーク】【実技】
10	指導計画の作成 【グループワーク】【実技】
11	計画にもとづく実践と評価【グループワーク】
12	保育の評価と改善【グループワーク】
13	評価・改善を踏まえた計画の立案
14	子ども理解にもとづく実践の展開
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業に関するテキストの該当部分を読んでおくとともに、指導案作成に必要な情報や知識を各自で調べておく。発達に即した教材研究を各自で行う。（各回60分）

【事後学修】各回の授業内容をまとめ、理解を深める。作成した指導計画の自己評価と改善を行う。（各回60分）

評価方法および評価の基準

各回の課題提出30%、 中間課題(指導案作成と実践)40%、 期末課題30%として総合的に判断する。総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: (10%/30%) (10%/40%) (10%/30%)

到達目標2: (10%/30%) (20%/40%) (10%/30%)

到達目標3: (10%/30%) (10%/40%) (10%/30%)

【フィードバック】

作成した指導案の評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「教育・保育課程論 書いて学べる指導計画」岩崎淳子・及川留美・粕谷亘正(萌文書林)

参考書等は、授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容総論		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd158		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

保育の全体構造を理解し、その中でも保育の基本的な考え方についての理解を深める。子どもの主体性を尊重し、充実した遊びや体験となるための援助について、基礎的な知識を習得するとともに、現代の子どもを取り巻く環境や生活を踏まえ、保育の多様な展開についても学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

- ・乳幼児期にふさわしい生活や遊び、保育の全体的な構造について理解する。
- ・子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景、保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、保育内容の基本的な考え方を理解する。
- ・保育を観察・記録する技術を身に付ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	保育の全体構造と保育内容の理解
3	保育内容の歴史的変遷
4	子どもの発達や生活に即した保育内容
5	子どもの主体性を尊重する保育（グループワーク）
6	環境を通して行う保育（グループワーク）
7	生活や遊びによる総合的な保育（グループワーク）
8	中間まとめ
9	個と集団の発達を踏まえた保育
10	家庭・地域・小学校との連携
11	特別な配慮を要する子どもの保育、多文化共生の保育（グループワーク）
12	保育における観察と記録（グループワーク）
13	保育における観察と記録（グループワーク）
14	保育における観察と記録（グループワーク）
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回で指定された内容の予習と、保育や子どもに関する情報を集めてまとめておくこと。（各授業において60分）

【事後学修】授業内容やグループ内での話し合いの内容をレポートにまとめておくこと。（各授業において60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み・提出物40%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

ワークシート、レポート等においては、教員からのコメント、解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

厚生労働省『保育所保育指針解説書』（その他、適宜プリントを配布）

汐見稔幸 監修『保育所保育指針ハンドブック』学研

【推薦書】

鯨岡峻・鯨岡和子『保育のためのエピソード記録入門』ミネルヴァ書房

【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容演習		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd362		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目である。系列【保育の内容・方法に関する科目】に位置づく科目である。

科目の概要

本科目は、保育における領域「言葉」に関する科目である。子どもの言葉の発達の理解、子どもの言葉の発達を支援する手立ての理解、保育者として必要な言葉の力の向上が主な内容である。下記のテキストを中心とした15回の内容に加え、各回で受講者による保育実践の発表を行う。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを中心とした事例検討及び討議を行う。【グループワーク】【討議】【ロールプレイ】

到達目標

本科目の目標は以下の通りである。

- (1)保育における領域「言葉」について理解し、ねらい、内容を説明することができる。
- (2)子どもの言葉の発達について理解し、言語獲得の道筋を説明することができる。
- (3)子どもの言葉の発達を支援する手立を理解し、指導計画の立案ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －2支援に関する基本的理解
- －4体験の意味付けと表現
- －5自己表現及び集団的思考

内容

第1回 オリエンテーション・言葉をめぐる諸問題の理解子どもを取り巻く言葉の諸問題について【討議】

第2回 保育における「言葉」領域「言葉」のねらい（他領域との関連）：領域「言葉」のキーワードの抽出【グループワーク】

第3回 領域「言葉」と小学校「国語」の関連：小学校以上の教科と領域の相違について【グループワーク】

- 第4回 言葉の発達（前言語期）：乳児期からの言葉の発達について、発声の違いや言葉の変化をまとめる【グループワーク】
- 第5回 言葉の発達（話し言葉）：3歳児、4歳児、5歳児の遊びの場面から、言葉の使い方の特徴について理解する【ロールプレイ】
- 第6回 言葉の発達（書き言葉）：事例を基に、書くことへの興味と文字について、気づいたことを話し合う【討議】
- 第7回 言葉を豊かにする保育環境：事例を基に、保育者の役割、保育室の環境について気づいたことをまとめる。【討議】
- 第8回 応答的な関わりと言葉【討議】家庭での子どもの様子や保育者の関わり
- 第9回 子ども同士の関わりから育つ言葉【討議】子どもが気持ちを表現すること
- 第10回 児童文化財と言葉の関係【討議】絵本の役割を考える
- 第11回 児童文化財と言葉の関係【討議】様々な絵本の種類と内容を分析する
- 第12回 保育の指導計画の作成と実践【討議】指導計画に沿って、読み聞かせの場面を実践する。
- 第13回 言葉遊びと言葉の獲得：言葉への関心を豊かな言葉を育む言葉遊びについて、まとめ、発表する。【グループワーク】
- 第14回 言葉に関する障がいの理解と支援：事例に基づいた支援の在り方と関連施設の理解【ディスカッション】
- 第15回 まとめ 現代における言葉の諸課題と保育者の役割：事例検討と対応【討議】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回で取り扱うテキスト該当章を読んでおく。また、自分の発表会については計画的に準備を進める。各授業1時間

【事後学修】各回の議論の内容をまとめておく。各授業1時間

評価方法および評価の基準

到達目標1. 課題への取り組み(10%/30%)、ミニテスト(20%)

到達目標2. 課題への取り組み(10%/30%)、中間課題(20%)

到達目標3. 課題への取り組み(10%/30%)、期末レポート(20%)

到達目標の評価の方法：課題への取り組み30%、ミニテスト(20%) 中間課題(絵本リスト)20%、期末レポート(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表内容に対する評価をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

内藤知美・新井美保子（編著）『コンパス保育内容言葉』建帛社

厚生労働省『保育所保育指針』

【推薦書】

文部科学省『幼稚園教育要領』

その他 授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容演習		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd363		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等で実践経験のある教員により、音楽・造形・言葉や身体を使った様々な子どもの表現活動における実践方法と、保育士の役割について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育専門科目の一つであり、保育士資格の必修科目である。

科目の概要

乳幼児の表現活動と、子どもの豊かな表現を引き出す保育者の役割について、理解を深めるとともに、素材や環境設定、保育者の支援や役割について理解することができる。

また、音楽的な遊びや物語の読み聞かせ、身近な素材から遊びを考える活動などを通して、仲間と協力しあい、かかわりを深めていく力や、イメージを自分なりに表現する力をつけることも目的とする。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説、グループワーク、表現活動の模擬保育などを取り入れて授業を行う。

【講義】【グループワーク】【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

1. 乳幼児の表現活動における援助方法や環境構成について理解する。
2. 声・身体・楽器・身近な素材などを用いて、自分なりのイメージを表現することができる。
3. 表現活動に取り組む中で、自ら感じ、理解したことを保育の実践で生かすことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 専門的援助関係の基本的理解と形成
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 5 自己表現及び集団的思考

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	子どもの表現の捉え方（実習の振り返り）
3	身近な素材を使った遊び【実技】
4	乳幼児の運動遊び【実技】
5	乳幼児のリズム遊び【実技】
6	楽器を使った表現活動（分担奏） 【グループワーク】
7	楽器を使った表現活動（分担奏） （【グループワーク】
8	楽器を使った表現活動（分担奏） 、グループ発表【グループワーク】
9	秋の自然物を使った造形表現 【実技】
10	秋の自然物を使った造形表現 【実技】
11	秋の自然物を使った造形表現 、製作物の発表【実技】
12	伝統行事における総合的な表現活動 【グループワーク】
13	伝統行事における総合的な表現活動 【グループワーク】
14	伝統行事における総合的な表現活動 【グループワーク】
15	伝統行事における総合的な表現活動 、グループ発表、まとめ【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 事前に示されたテーマについて、乳幼児の表現活動の展開を考えたりアイデアをまとめる。（各回60分）

【事後学修】 授業内で扱った内容について、自分の考えやヴァリエーションを加えた資料を作成する。（各回60分）

評価方法および評価の基準

各回の課題提出30%、 実践・発表40%、 レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: (10%/30%) (10%/40%) (10%/30%)

到達目標2: (10%/30%) (20%/40%) (10%/30%)

到達目標3: (10%/30%) (10%/40%) (10%/30%)

【フィードバック】 グループワークや発表に対してその都度コメントし、より深い気づきを促す。提出物についてはコメントを記載し返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 授業において資料を配布する

【推薦書】 授業において適宜紹介する

【参考図書】 授業において適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児保育		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd256		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目を担当する教員は、児童福祉施設に勤務し、障がいのある子ども・保護者に支援を行った経験がある。

講義内容は、実務経験で得た実践を現在行われている保育・養護・相談支援場面に即して、理論との乖離が起きないように講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の必修科目であり、保育の内容・方法に関する科目に位置付けられている。他科目との関係性は、社会福祉概論、保育原理、社会的養護 等々の社会福祉・保育士養成科目を履修することで更に深まる内容となっている。

科目の概要：保育所で保育を行う際に、障害の定義や障害児保育の動向を概観し、障害のある子どもの理解及びその保育内容、保護者への支援、関係機関との連携のあり方などについて理解する。また、障害の有無を問わずに、同じ時間・空間で保育を行う意義や目的を理解し、さまざまな違いを持った人達はその違いを認め合い、互いに支え合って生きていくインクルーシブが当たり前の社会であることについて、理解することを目指す。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習を中心に行い、障害のある子どもの発達を促すために必要な支援のあり方について、具体的な実践について、グループワークやケースメソッドを取り入れ授業を行う。

【グループワーク】【レポート（知識）】【ケースメソッド】

到達目標：

- 1．障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について理解し、その内容についてグループで評価することができる。
- 2．個々の特性や心身の発達等に応じた援助や配慮について理解し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
- 3．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの保育における計画の作成や援助の具体的な方法について理解し、その内容についてグループで作成・評価することができる。
- 4．障害児その他の特別な配慮を要する子どもの家庭への支援や関係機関との連携・協働について理解し、その内容についてグループで分類・評価することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解、 - 3 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	オリエンテーション 障がい児保育とは何か
2	障がい児保育の仕組み 制度と体系【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
3	障がい児保育の仕組み 支援の概要【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
4	障害のある子どもの指導計画 指導計画とは【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
5	障害のある子どもの指導計画 観察及び支援のポイント【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
6	知的障がい児の理解と支援 知的障害の特徴【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
7	知的障がい児の理解と支援 知的障がい児の保育の実際【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
8	注意欠陥多動性障がい児の理解と支援 注意欠陥多動性障害の特徴【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
9	注意欠陥多動性障がい児の理解と支援 注意欠陥多動性障がい児の保育の実際【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
10	コミュニケーション障がい児の理解と支援 視覚・聴覚・言語障害の特徴【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
11	コミュニケーション障がい児の理解と支援 視覚・聴覚・言語障がい児の保育の実際【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
12	肢体不自由児の理解と支援 肢体不自由の特徴【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
13	肢体不自由児の理解と支援 肢体不自由児の保育の実際【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
14	障がい児を養育している家族への支援【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回

【事前準備】教科書「第1章 インクルーシブ保育とは」を読み、考察を行っておく。[60分]

【事後学修】授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。[60分]

第2回～第14回

【事前準備】授業内容について、教科書の該当箇所をまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容(グループワーク・ケースメソッド等)についてレポートにまとめる。[60分]

【フィードバック】

授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。

評価方法および評価の基準

課題提出(40%)、筆記試験(60%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/60%)

到達目標2. 課題提出(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標3. 課題提出(10%/40%)、筆記試験(20%/60%)

到達目標4. 課題提出(10%/40%)、筆記試験(10%/60%)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】尾崎康子・阿部美穂子・水内豊和編著(2020年)『よくわかるインクルーシブ保育』ミネルヴァ書房

【推薦書】必要なものは授業内で紹介する。

【参考図書】必要なものは授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育相談支援		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd267		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援施設において、保育士資格を有し、保育や保護者に対する相談業務に携わった経験をもつ教員が担当し、保育の専門性を活用した子育て支援の具体的方法について実践的に学ぶことができるよう指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

本科目は、保育士の法定業務としての「保育指導」の具体的方法を学ぶ科目であり、日常保育と一体的に展開される保育指導の特性を踏まえ、その原理、方法、活用技術等について具体的に学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、演習を中心として、個人ワークとグループを組み合わせてながら授業を行う。また、各回のおわりには、授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【ケースメソッド】【プレゼンテーション】【レポート（知識）】

到達目標

- 1．他者との協働により、学修成果をまとめることができる。
- 2．子育て支援の意義と方法を説明することができる。
- 3．保育の専門性を基盤とした子育て支援の方法を例示することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3：専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1：事実や支援の効果についての実証及び理解
- 1：問題解決のための専門性と倫理

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ワークショップを取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	保育所における子育て支援の意義【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
3	子育て支援の構造と展開過程【リアクションペーパー】

4	子育て支援の基本 【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	子育て支援の基本 【リアクションペーパー】【グループワーク】
6	保育相談支援の計画と評価【リアクションペーパー】【ケースメソッド】【グループワーク】
7	保育と一体となった子育て支援の実際【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
8	保育環境を活用した子育て支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	保育環境を活用した子育て支援 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
10	子ども理解を促す子育て支援 【リアクションペーパー】【グループワーク】
11	子ども理解を促す子育て支援 【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】
12	特別な配慮を必要とする家庭への支援【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	科学的根拠にもとづく相談への対応【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
14	子育て支援における倫理的意思決定【リアクションペーパー】【レポート（知識）】
15	諸外国の子育て支援【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 第1回 【事前準備】『保育所保育指針解説』の該当箇所を読んでおく。[60分]
【事後学修】授業内容をA4用紙2枚以内にまとめる。[60分]
- 第2～14回 【事前準備】テキストの該当章を事前に読み、内容をA4用紙2枚以内にまとめてくる[60分]。
【事後学修】指定レポートを作成する。[60分]
- 第15回 【事前準備】プレゼンテーション用の資料をA42枚以内で作成する。[120分]
【事後学修】レポートを作成する。[180分]

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（20%）、レポート（40%）、課題提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 課題提出（20%/40%）

到達目標2. リアクションペーパー（10%/20%）、レポート（20%/40%）、課題提出（10%/40%）

到達目標3. リアクションペーパー（10%/20%）、レポート（20%/40%）、課題提出（10%/40%）

【フィードバック】提出レポート、検討事例に対する講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

亀崎美沙子(2018)『保育の専門性を生かした子育て支援』わかば社

【推薦書】

柏女霊峰他(2014)『保育相談支援』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育の表現技術（造形表現）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd270		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目である。本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」に深くかかわる科目である。

科目の概要

子どもの様々な生活体験を、造形活動や遊びにどのように展開していくかを考え、理解を深めていく。実際に様々な素材や教材にふれ、その特性を理解しながら、子どもの五感にはたらきかける、感性を養うための環境構成や保育の展開について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

造形表現の表現活動に関する知識や技術を習得する。また、教材の活用・作成を通して、子どもの体験がより豊かになるための保育環境の構成、様々な遊びに展開していくための援助方法に関する技術を習得する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	オリエンテーション
2	子どもの発達と造形表現
3	子どもの発達と造形表現
4	様々な技法・素材を用いた表現活動
5	様々な技法・素材を用いた表現活動

6	様々な技法・素材を用いた表現活動
7	様々な技法・素材を用いた表現活動
8	身近な素材を用いた造形表現
9	身近な素材を用いた造形表現
10	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
11	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
12	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
13	行事にちなんだ造形表現（グループワーク）
14	行事にちなんだ造形表現（グループ発表）
15	まとめ、振り返り

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】必要な教材・用具を準備し、忘れないようにすること。また、様々なアイデアを自分なりに集め、レポートにまとめておくこと。（各授業に対して60分）

【事後学修】実施した内容について、再度取り組んだり、アレンジしたりするなど、自分の感性を豊かにする努力をし、それをレポートにまとめておくこと。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

授業への取り組み50%、提出物20%、レポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】ワークシート・レポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業で資料等を配布する。

【参考書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育の表現技術（言語表現）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd271		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、保育士資格の必修科目である。子どもの発達と絵本、紙芝居、ストーリーテリング、人形劇などに関する知識と技術を習得し、子どもの経験や様々な表現活動と児童文化財を結びつける遊びの展開について基本的な技術を活用することを目指す。

科目の概要

子どもの遊びやイメージを豊かにする様々な素材や教材などの特性を理解し、それらの活用や作成に必要な技術を習得する。学生自身が児童文化財などに親しみ、実感をこめて言葉で表現できるようになることを目指すと共に、保育の展開と環境構成について理解する。

授業の方法（ALを含む）

実技、演習を通して、実践的な技術を習得する。【実技】【演習】

到達目標

1. 学生自身が日本と世界の文学作品や伝承文化に触れて深く味わい、豊かな言語感覚をもち、基本的な技術を習得している。
2. 子ども自らが児童文化財等に親しめるよう、子どもの発達段階に適した絵本などを選定できるようになり、子どもの遊びやイメージを豊かにするための環境構成と保育の展開について説明することができる。
3. 子どもの言葉への興味関心、豊かな表現を育む保育士のあり方について理解し、基本的技術を用いて実践することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－3専門的援助関係の基本的理解と形成

1	オリエンテーション:子どもと児童文化【討議】
2	児童文化とは 保育の中の言語表現【討議】
3	絵本の研究 【グループワーク】
4	絵本の研究 【グループワーク】
5	絵本の読み語り【グループワーク】
6	紙芝居の演じ方 【グループワーク】
7	紙芝居の研究と発表【グループワーク】
8	昔話・童話とストーリーテリング【グループワーク】
9	パペットの理解 種類【グループワーク】
10	パペットの理解 演じ方【グループワーク】
11	パネルシアターの制作 作図【実技】
12	パネルシアターの制作 構成・しかけ【実技】
13	パネルシアターの演じ方、環境構成の理解【実技】
14	発表と振り返り【グループワーク】【プレゼンテーション】
15	まとめ【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】事前に示されたテーマについて、子どもと取り組む言語表現活動の展開を考え、実演の練習をしていくこと。
各授業1時間【事後学修】授業で取り上げた作品や教材の特徴をノートにまとめること。自分の実演を振り返り、練習を重ねること。児童文化に親しむ機会を多く持ち、視野を広げること。各授業1時間

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法:課題の取り組み60%(実演・提出物を含む)【プレゼンテーション】、レポート【レポート(表現)】40%とし、総合評価60点以上を合格とします。

達成目標1.課題の取り組み【伝承遊びリストの作成と発表】(20%/60%)

達成目標2.課題の取り組み【絵本の読み聞かせ・紙芝居を演じる】(20%/60%)、レポート(20%/40%)

達成目標3.課題の取り組み(20%/60%)【パネルシアターの制作と発表】、レポート(20%/40%)

グループワークや実演に対する評価と今後の課題をフィードバックします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

古橋和夫(著)保育者のための言語表現の技術、萌文書林

【推薦書】授業において紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各回で必要とする教材や素材等を準備すること。

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
---	-----------

2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン 【実技】
8	楽典、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グループレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：（20%/40%）（30%/60%）

到達目標2：（10%/40%）（10%/60%）

到達目標3：（10%/40%）（20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン 【実技】
8	楽典 、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グループレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、 実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1： （20%/40%） （30%/60%）

到達目標2： （10%/40%） （10%/60%）

到達目標3： （10%/40%） （20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン 【実技】
8	楽典 、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グループレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、 実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1： （20%/40%） （30%/60%）

到達目標2： （10%/40%） （10%/60%）

到達目標3： （10%/40%） （20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育の表現技術（ピアノ）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd172		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法
4	グループレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典、個人レッスン 【実技】
8	楽典、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グループレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：（20%/40%）（30%/60%）

到達目標2：（10%/40%）（10%/60%）

到達目標3：（10%/40%）（20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	発達障害の理解		
担当教員名	白井 信光		
ナンバリング	KDd273		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育専門科目であり、さまざまな発達障害の特性を理解するとともに、発達を促す適切な支援方法について学ぶ科目である。

科目の概要

さまざまな発達障害の特性を理解し、発達を促す支援のあり方について学ぶ科目である。幼児期・学童期から成人期までの発達障害への支援方法について学ぶだけでなく、保護者への支援についても学ぶ。将来の実践を常に見据えながら進める講座である。

授業の方法（ALを含む）

この授業は講義形式を基本とするが、グループワークやロールプレイを取り入れながら、実践的な学びを進めていく。映像や写真をたくさん使用しながら、発達障害児者に関わったことがない方にも発達障害のイメージを高め、理解を深める講義である。

【グループワーク】【ディスカッション】【レポート（知識）】【リアクションペーパー】【ミニテスト】

到達目標

- 1.さまざまな発達障害の特性について理解し、説明することができる。
- 2.発達障害児者への支援方法について理解し、支援方法を立案することができる。
- 3.発達障害に関連する基礎的な知識について理解し、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 専門的援助関係の基本的理解と形成

内容

1	オリエンテーション：発達障害児者への支援の実際【リアクションペーパー】
2	発達障害の診断（1）：さまざまな発達障害の特徴と診断基準【リアクションペーパー】
3	発達障害の診断（2）：知能検査【グループワーク、リアクションペーパー】

4	発達障害児者の家族への支援：家族の心理、家族への支援方法【ロールプレイ、リアクションペーパー】
5	知的障害の特性とその対応（１）：診断基準と特性【ミニテスト、リアクションペーパー】
6	知的障害の特性とその対応（２）：支援の実際【リアクションペーパー】
7	自閉スペクトラム症（ASD）の特性とその対応（１）：診断基準と特性【レポート、リアクションペーパー】
8	自閉スペクトラム症（ASD）の特性とその対応（２）：支援の実際【グループワーク、リアクションペーパー】
9	注意欠如・多動性障害（ADHD）の特性とその対応：診断基準と特性、支援の実際【リアクションペーパー】
10	学習障害（LD）の特性とその対応：診断基準と特性、支援の実際【ミニテスト、リアクションペーパー】
11	発達課題の理解：エリクソン、ピアジェ、フロイトを中心に【グループワーク、リアクションペーパー】
12	発達障害者の就労と余暇の支援【ディスカッション、リアクションペーパー】
13	発達障害への虐待について【レポート、リアクションペーパー】
14	まとめ：発達障害への理解と対応
15	発達障害に関わる専門職に求められる資質【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】予習すべきポイント・キーワードについて簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）

【事後学修】授業で学んだことについて自分なりの考えを整理する。理解できていないポイント・キーワードについては簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（授業に対する意欲・関心・態度：毎回）30%、レポート30%、筆記試験（小テスト含）30%、グループワーク・ロールプレイ10%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する。

1.リアクションペーパー10%、筆記試験10%

2.リアクションペーパー10%、筆記試験10%、レポート15%、グループワーク・ロールプレイ10%

3.リアクションペーパー10%、筆記試験10%、レポート15%

【フィードバック】毎授業のはじめに前回講義の質疑に答え理解を深める（レポートなども同様）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用せず。講義ごとにレジュメ・資料を配布する。

【推薦書】「発達障害キーワード&キーポイント」市川宏伸著（金子書房）

【参考図書】講義において紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	障害児と地域支援		
担当教員名	白井 信光		
ナンバリング	KDd374		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育専門科目であり、障害児の地域支援に関する制度やサービス、より適切な支援方法について学びを深めていく科目である。

科目の概要

障害児とその家族の地域生活を支えるためには、どのようなことが必要となるのだろうか。発達障害児（知的障害児含む）への対応を中心に、専門的な知識を深め、支援技術（スキル）を高める講座である。家族への支援についても理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

この授業は講義形式を基本とするが、グループワークやロールプレイを取り入れながら、障害児の地域支援について学びを深めていく。障害児者に関わったことがない方にもイメージしやすいように、映像や写真をたくさん使用しながら障害児者の地域生活や支援方法について考えていく。発達障害（知的障害含）を中心に専門知識を学び支援技術を磨くことを目的としている。

【グループワーク】【ロールプレイ】【レポート】【ミニテスト】【リアクションペーパー】

到達目標

1. 障害児の地域支援に関する基礎的な知識について理解し、説明することができる。
2. 障害児の家族の心理を理解し、適切な支援方法を立案することができる。
3. 発達障害児（知的障害児含む）の特性を理解し、支援方法を立案することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

－ 4 人権尊重の理解、問題解決の方法提示

内容

1	オリエンテーション：障害児とその家族を地域でどう支えるか【リアクションペーパー】
2	障害者の地域生活の実際：成人期の姿を知る【グループワーク・リアクションペーパー】

3	療育の実際（１）：生活の力を高める支援方法【リアクションペーパー】
4	療育の実際（２）：コミュニケーションの力を高める支援方法【リアクションペーパー】
5	障害児の地域生活を支える医療：さまざまな障害の特性についても【ミニテスト、リアクションペーパー】
6	心理検査による認知・言語のアセスメント（１）：田中・ビネーを中心に【ロールプレイ、リアクションペーパー】
7	心理検査による認知・言語のアセスメント（２）：ウェクスラー式を中心に【ロールプレイ、リアクションペーパー】
8	アセスメントを活用した支援方法の立案【グループワーク・リアクションペーパー】
9	障害児を育てる家族の心理（保護者支援・兄弟姉妹支援など）【レポート、リアクションペーパー】
10	発達相談の実際（１）：面接の基礎を学ぶ【ロールプレイ、リアクションペーパー】
11	発達相談の実際（２）：専門的知識の活用法【ロールプレイ、リアクションペーパー】
12	障害児の地域生活を支えるさまざまな制度・サービス【ミニテスト、リアクションペーパー】
13	災害時における障害児支援のあり方【グループワーク、リアクションペーパー】
14	まとめ：障害児と地域支援
15	障害児の地域支援に関わる専門職に求められる資質【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】予習すべきポイント・キーワードについて簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）

【事後学修】授業で学んだことについて自分なりの考えを整理する。理解できていないポイント・キーワードについては簡潔にまとめる。（各授業に対して30分程度）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（授業に対する意欲・関心・態度：毎回）10%、レポート30%、筆記試験（小テスト含）30%、グループワーク・ロールプレイ30%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、「再試験」を実施する。

1.リアクションペーパー5%、筆記試験20%

2.レポート15%、筆記試験5%、グループワーク・ロールプレイ15%

3.リアクションペーパー5%、レポート15%、筆記試験5%、グループワーク・ロールプレイ15%

【フィードバック】毎授業のはじめに前回講義の質疑に答え理解を深める（レポートなども同様）。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用せず。講義ごとにレジュメ・資料を配布する。

【推薦書】「発達障害キーワード&キーポイント」市川宏伸著（金子書房）

【参考図書】講義において紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育の心理学		
担当教員名	亀田 秀子		
ナンバリング	KDd2213		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針1.2.3に該当する。

生涯発達の観点から、子どもの発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、発達援助のあり方を理解することを目指す。

科目の概要

乳幼児期の発達と保育者の役割について理解する。また、子どもの情緒の発達、ことばの発達、記憶の発達等を理解し、人とのかかわりを通して成長することの理解を深める。

さらに、生涯発達の観点で子どもの発達をとらえ、子どもの発達を援助する方法と評価について理解する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

保育実践にかかわる心理学の知識を習得する。

子どもの心身の発達にかかわる心理学の基礎の理解を深める。

子どもが人との相互的にかかわりを通して発達していくことを具体的に理解する。

生涯発達の観点から、発達の過程や乳幼児期の位置づけを理解し、保育との関連を考察する。

各回の講義後に出される課題に取り組み、講義内容について自ら問題意識を持って理解を深める。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、ディスカッションを取り入れながら、学びを深めていく。

1	保育と心理学	子どもの発達を学ぶのはなぜか、子どもの見方・とらえ方
2	子どもの発達と環境	子どもの発達と環境
3	子どもの発達と環境	からだの発達と運動機能
4	子どもの発達と環境	見ること・考えることの発達
5	子どもの発達と環境	情緒の発達と自己の形成
6	子どもの発達と環境	ことばの発達
7	人との相互的にかかわりと子どもの発達	基本的信頼感の獲得
8	人との相互的にかかわりと子どもの発達	人とのかかわり

9	人との相互的かかわりと子どもの発達 友達関係と遊びの発達
10	学びと発達 記憶の発達、学びのしくみ
11	学びと発達 やる気と環境
12	生涯発達と発達援助 発達段階と発達課題、胎児期および新生児期、乳幼児期
13	生涯発達と発達援助 児童期、青年期、成人期以降の課題
14	発達援助と評価 発達援助の意義、保育実践の評価と心理学
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】毎回の講義までに、テキストの指定箇所を読み、分からない点、疑問点、キーワードについて、各自、調べておくこと。(60分)

【事後学修】講義で、明らかになったこと、キーワードの内容をよく復習し、理解しておくこと。(60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加度10%、毎回のリアクションペーパー等10%、中間レポート20%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。合格点に達しなかった場合には、再試験を行う。

【フィードバック】提出されたリアクションペーパーやレポートは、コメントを記載し、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】相良順子・村田カズ・大熊光穂・小泉左江子著『保育の心理学』第3版 ナカニシヤ出版

【参考図書】亀田秀子著 いじめ・不登校・虐待と向き合う支援と対応の実際 三恵社

【参考図書】亀田秀子著 いじめ・不登校・虐待から大切なわが子を守る -いま、お父さん・お母さんにできること-

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子どもの保健		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDd2101		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして子どもの健康的な成長発達を観察・指導や健康上の問題、障害児の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられ、保育士資格取得に必要な指定科目で選択必修科目である。

科目「子どもの健康と安全」に関連した科目で、子どもの健康増進を図る保健活動について学ぶ。

科目の概要

本科目は、保育者として子どもを健康に療育するために必要な基礎知識を学ぶ。子どもの心身の健康と保健の意義、子どもの心身の発育・発達、子どもの健康状態とその把握について理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心として展開するが、グループワーク、課題発表を行い、学びを深める指導を行う。毎時間リアクションペーパーの記載をもって授業の振り返り、まとめを行い、疑問や意見等を他学生と共有する。【グループワーク】

到達目標

- (1)子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義のポイントを説明できる。
- (2)子どもの心身の発育・発達の特徴を説明できる。
- (3)子どもの心身の健康に関する現状と課題について考察できる。
- (4)子どもの健康状態とその把握の方法を学び記録することができる。
- (5)子どもに特有の疾病とその予防及び他職種連携のもとでの適切な対応を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-2支援に関しての基本的理解

内容

この授業は講義を中心にグループワークやディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	子どもの心身の健康と保健（意義、目的、健康概念と健康指標）
2	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
3	地域における保健活動と子ども虐待防止【グループワーク】

4	子どもの身体発育及び運動機能の発達と保健
5	子どもの生理機能の発達と保健
6	子どもの健康状態の観察と心身の不調等の早期発見
7	子どもの発育発達の把握と健康診断
8	保護者との連携と情報共有【グループワーク】
9	子どもの疾病とその予防及び適切な対応 慢性疾患
10	子どもの疾病とその予防及び適切な対応 先天性疾患、新生児疾患
11	子どもの疾病とその予防及び適切な対応 アレルギー、自己免疫疾患
12	子どもの疾病とその予防及び適切な対応 子どもに多い症状
13	子どもの疾病の予防及び適切な対応 感染症
14	子どもの疾病の予防と他職種連携【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の関連するページを読み、内容を理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにポイントをまとめ理解を深めておく。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】達成目標の達成度は、課題ワークシート、小テスト、リアクションペーパー、試験の内容の理解度により評価する。評価基準は、授業への参加度、リアクションペーパー及び小テスト、課題ワークシートで40%、筆記試験60%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リアクションペーパーに記載された質疑は、全体に返答し学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「子どもの保健～健康と安全～」小國美也子編著,株式会社日本小児医事出版,2019年8月/第2版

【推薦書・参考書】適時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもにかかわる社会的な問題について授業の中で提示していきます。身近な問題に目を向け積極的に授業に参加してください。

科目名	子どもの健康と安全		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDd2102		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして子どもの健康的な成長発達の観察・指導や健康上の問題、障害児の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、「保育の対象の理解に関する科目」に位置づけられ、保育士資格取得に必要な指定科目で選択必修科目である。科目「子どもの保健」と関連し、子どもの健康増進を図る保健活動について具体的な実践の方法を学び、子どもの保健の援助能力を養う。

科目の概要

本科目は、保育者として集団保育における子どもの健康や安全を守りながら療育するための支援の方法について学び、状況に応じた対応や予防法を理解し、それらを実践する力を演習を通して身につけられるよう展開する。また、他職種や保護者との連携・協働のもと適切に対応していくための方法について学ぶ。

授業の方法 (ALを含む)

講義した内容について理解をした上で、実際の場面を想定した演習を行なう。演習ではグループワークやディスカッション、個別演習を行ない、知識の定着と協働を図る。毎時間リアクションペーパーの記載をもって授業の振り返り、まとめを行い、疑問や意見等を他学生と共有する。【グループワーク】【ディスカッション】

到達目標

- (1)子どもの健康管理と子どもを取り巻く環境管理について説明できる。
- (2)子どもに多い疾病とその予防方法についてポイントを説明できる。
- (3)集団保育における子どもの体調不良に対する適切な対応方法を実施できる。
- (4)子どもの事故発生に対する応急処置・緊急対応方法を実施できる。
- (5)災害時の備えと対応方法について説明できる。
- (6)ガイドラインやデータを踏まえた保育における対策・対応方法を説明できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1社会福祉に関する法や制度の基本的理解、
- 2支援に関しての基本的理解

内容

この授業は演習を中心としグループワークやディスカッションを取り入れ学びを深めていく。

1	保育における保健活動（意義、内容、保健計画、評価）
2	子どもの保健に関する個別対応と集団対応（健康と安全管理） 演習：健康状態の評価と評価の記録
3	子どもの健康と保育の環境 演習：手洗い、基本的な生活習慣と保育環境【グループワーク】
4	保育における保健的対応の基本と3歳未満児への対応 演習：抱き方、食事、口腔衛生【ディスカッション】
5	保育における保健的対応の基本と3歳未満児への対応 演習：排泄、着替え、保清、睡眠
6	子どもの心身の健康づくりと地域保健活動
7	子どもの体調不良などの発生に対する適切な対応 演習：体調不良等発生時の対応方法、与薬、記録
8	障害のある子どもへの適切な対応 演習：集団生活をする際の配慮
9	個別的な配慮を要する子どもへの対応 演習：慢性疾患、アレルギーへの対応方法【グループワーク】
10	感染症の予防と対応 演習：感染症予防、感染症発生時の対策と出席停止
11	保育現場における衛生管理と安全教育 演習：衛生管理の方法、事故防止と安全対策【グループワーク】
12	保育現場における安全教育と安全管理 演習：危機管理と災害への備え
13	傷病時の応急手当と救命処置【グループワーク】 演習：傷病時の応急処置法、救命処置（誤嚥）及び救急蘇生法
14	まとめ
15	保健活動における連携と協働（自治体、家庭、専門機関等） 課題「保健だよりの作成」の発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書の関連するページを読み、内容を理解しておく。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業の内容を振り返り、復習ノートにポイントをまとめ理解を深める。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】達成目標の達成度は、演習課題シート、課題ワークシート、小テスト、試験の内容の理解度により評価する。評価基準は、授業への取り組み10%、演習課題シート、課題ワークシート及び小テスト40%、筆記試験50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された演習課題シート及び課題について振り返りの解説を行い理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「子どもの保健～健康と安全～」小國美也子編著，株式会社日本小児医事出版，2019年8月/第2版

【推薦書・参考書】適時紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

子どもの健康にかかわるニュースや新しい取り組みなどを授業に取り入れて展開します。日頃より身近な問題、課題に目を向け授業に積極的に参加してください。

科目名	子どもの理解と援助		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd2215		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、「保育士資格」取得のための必修科目であり、本学科ディプロマポリシーの 知識・理解・技能（技法）・表現、 関心・意欲・態度にかかわる科目である。

科目の概要

本科目では、保育実践の基本となる子ども理解の意義とその方法について学んでいく。集団の中で一人一人の心身の発達状況を細やかに読み取り、必要な経験や学びを理解し、保育を構想する力を身に付けるために、演習を通して実践的に学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

本科目では、以下の3点を到達目標とする。

- ・保育実践における子ども理解の意義について理解する。
- ・一人一人の子どもの心身の発達状況を把握し、理解するための具体的方法を身に付ける。
- ・生活や遊びの中に生じる子どもの学びをとらえるとともに、必要な援助を考えることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ等を取り入れながら、学びを深めていく。

1	オリエンテーション
2	保育における子ども理解の意義
3	子ども理解にもとづく養護と教育の一体的展開
4	発達に応じた生活と遊び
5	子ども相互のかかわりとその援助

6	集団における経験と子どもの育ち
7	保育における環境構成の意義と方法
8	子ども理解の方法 観察
9	子ども理解の方法 記録
10	子ども理解の方法 省察・評価
11	子ども理解の方法 カンファレンスにもとづく多面的理解
12	保護者との連携と子ども理解の相互理解
13	特別な配慮を要する子どもの理解と援助
14	発達の連続性と就学前教育
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの該当箇所を読み、まとめること（各回60分）

【事後学修】授業で出された課題を指定日までに仕上げ提出すること（各回60分）

評価方法および評価の基準

成績評価は、参加姿勢10%、提出物50%、テスト40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回のリアクションペーパーをフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

その他、授業内で指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	子ども家庭支援論		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd2103		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援の実務経験をもつ教員が担当し、子育て課題をめぐる課題や政策的展開について、実際の子育て支援実践を交えながら具体的に指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

本科目では、子育て家庭を取り巻く社会的状況や支援体制、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の在り方について学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義による解説を中心として、グループワークおよびプレゼンテーションを取り入れ、習得知識の活用及び表現方法について学んでいく。また、各回のおわりには、授業内容を振り返り、自分なりの考えをリアクションペーパーに記述する。

【リアクションペーパー】【ペアワーク】【グループワーク】【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

1. 子育て家庭を取り巻く社会的状況とその課題を理解し、自分なりの意見を述べることができる。
2. 乳幼児期にかかわる子育て支援サービスについて、説明することができる。
3. 特別なニーズをもつ家庭への支援の方法について調査し、表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：社会福祉に関する方や制度の基本的理解
- 2：援助・支援に関する理論の基本的理解
- 5：自己表現及び集団的思考

内容

本科目では、ペアワーク、グループディスカッション、ポスターセッション等を行いながら学んでいく。

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】【ペアワーク】
2	子育て家庭を取り巻く状況と子育て支援の必要性【リアクションペーパー】【討議・討論】
3	支援対象としての家族・家庭の理解【リアクションペーパー】【ペアワーク】
4	子育てをめぐる社会環境【リアクションペーパー】【ペアワーク】
5	子育て支援施策の展開 少子化と子育て支援【リアクションペーパー】【ペアワーク】
6	子育て支援施策の展開 多様な保育サービスとその制度【リアクションペーパー】【ペアワーク】
7	子育て支援の基本 【リアクションペーパー】【ペアワーク】
8	子育て支援の基本 【リアクションペーパー】【ペアワーク】
9	地域の関係機関・社会資源との連携とネットワーク【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
10	地域における子育て支援【リアクションペーパー】【ペアワーク】【レポート（表現）】
11	中間まとめ【リアクションペーパー】【ミニテスト】
12	特別なニーズをもつ家庭への支援 子ども虐待への対応【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	特別なニーズをもつ家庭への支援 ひとり親家庭・ステップファミリーへの支援【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	特別なニーズをもつ家庭への支援 外国籍家庭に対する支援【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】
15	特別なニーズをもつ家庭への支援 発達上の課題をもつ子どもの保護者への支援【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート（知識）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 第1回 【事前準備】「保育所保育指針」第1章を読んでくる。[60分]
【事後学修】 課題プリントを記入する。[90分]
- 第2～11回 【事前準備】 テキスト該当章を読み、A4用紙2枚以内にまとめる。[90分]
【事後学修】 課題プリントを記入する。[90分]
- 第12～15回 【事前準備】 テキストを読み、A4用紙2枚以内にまとめる。[60分]
【事後学修】 学習内容をA4用紙1枚にまとめる。[60分]

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（20%）、試験（40%）、課題提出（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．リアクションペーパー（20%/20%）、試験（10%/40%）

到達目標2．試験（30%/40%）、課題提出（20%/40%）

到達目標3．課題提出（20%/40%）

【フィードバック】成果物の発表と講評を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

高辻千恵他(2016)『新プリマーズ/保育/福祉 家庭支援論』ミネルヴァ書房

【参考図書】

橋本真紀他『よくわかる家庭支援論（第2版）』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容演習（健康）		
担当教員名	鈴木 明		
ナンバリング	KDd2216		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

幼稚園教育要領や保育所保育指針に示されている内容を中心に、健康な幼児を育てるということで、特に幼児教育での健康の領域の指導のため、基礎となる理論と、それを踏まえた実践のあり方について学ぶ。本学科のディプロマポリシー 1、3に該当する。

科目の概要

乳幼児期までにおける健康習慣の確立は、その後に続く児童期、青年期へと発育発達していくための基礎がつけられる重要な時期である。その点を意識しながら保育士として、発達過程に即した子どもの理解、総合的な指導・援助が行える実践的な力を習得し、健康な乳幼児を育てるための指導とは何かについてとらえていく。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 保育者に必要な知識・技能を身につける
2. 乳幼心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことができる。
3. 子どものヘルスプロモーションについてどう対処していくか理解、実践できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、グループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを取り入れながら学びを深めていく。

1	子どものヘルスプロモーション
2	生活習慣の指導と健康管理（乳幼児の栄養と食生活）
3	生活習慣の指導と健康管理（運動と休養）
4	生活環境と安全教育（自然環境に対する適応、遊具）
5	生活習慣と安全指導（安全管理、安全指導の実際）
6	運動遊びの指導
7	健康教育の実際例
8	救急法
9	乳幼児の応急手当
10	子どもの健康教育演習（グループワーク）
11	子どもの健康教育演習（学生プレゼンテーション）
12	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）
13	子どもの健康教育演習（学生のプレゼンテーション）
14	健康の評価（健康観察、健康相談）
15	振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】常に新聞記事等をよく読んで、事前に知らせた授業内容と関連するもので、最近どのようなことが問題になっているかを調べておくこと。（各回60分）

【事後学修】学びを基に、健康問題について興味を持ってください。（各回90分）

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（10%）、グループワークプレゼンテーション（30%）、筆記試験（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業終了時に質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】初回授業時に指示します

【参考図書】初回授業時に指示します

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容演習（人間関係）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd3105		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育士資格取得のための必須科目であり、系列【保育の内容・方法の関する科目】に位置づく科目である。

科目の概要

各年齢における人間関係のあり方について理解し、人的環境である保育者として必要なことは何かを考え学ぶ。この授業では、乳幼児期の人間関係の発達の姿を理解し、必要な援助について学ぶ。また、保護者や子どもの関わりについて、自身の人間関係について各自の考えを積極的に発言し主体的に取り組むことを望む。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを中心とした事例検討、模擬保育を実施する。【グループワーク】【ロールプレイ】【ディスカッション】

到達目標

1. 保育所保育指針の領域「人間関係」について理解し、説明することができる。
2. 乳児期から幼児期にかけての人間関係について理解し、ねらい、内容を説明することができる。
3. 遊びや集団活動を通して、規範意識や自立、自律の発達・成長を理解し、計画や評価を作成することができる。
4. 「人間関係」という視点から保育者の役割について理解し、事例の読み取りや考察ができる。
5. 愛着形成の重要性を理解し、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －3支援に関する基本的理解
- －4体験の意味付けと表現
- －5自己表現及び集団的思考

内容

第1回 子どもの発達と人との関わりについて、これまでの自分を振り返り、どのような人と関わってきたのか、のマッピングを作成し、発表する。

- 第2回 子どもを取り巻く人間関係に関する諸問題のマッピング【グループワーク】
- 第3回 領域「人間関係」のねらいと内容についてキーワードを抽出し、ディスカッションを行う。【討議】
- 第4回 事例を基に求められること・保育者の役割についてディスカッションする。【討議】
- 第5回 グループディスカッション：乳児期の愛着と基本的信頼感を育むためにはどのような関わりが求められるのか【グループワーク】【討議】
- 第6回 事例を基に、1歳児の二項関係、三項関係について理解し、保育者の役割について理解する。
【グループワーク】
- 第7回 事例をもとに、自我の芽生えについて、理解する。【グループワーク】
- 第8回 事例をもとに、子どもの自立について理解し、生活面、遊びにおける自立について理解する。
【グループワーク】
- 第9回 事例をもとに、遊びを通じた他者とのつながりについて理解する。【グループワーク】
- 第10回 事例をもとに、遊びや生活面での仲間意識の芽生えについて理解する。【グループディスカッション】
- 第11回 事例をもとに、協同性についてグループディスカッションを行い、子どもたち同士で解決する力、工夫する力を促す保育者の役割について理解を深める。【グループワーク】
- 第12回 事例をもとに、異年齢交流や保幼小の連携活動を通して育まれることについてグループディスカッションを行い、理解を深める。【グループワーク】【レポート(表現)】
- 第13回 事例をもとに、多文化共生保育や、インクルーシブ保育について理解し、保育者の役割についてグループディスカッションを行い、理解を深める。【グループワーク】
- 第14回 人との関わりを育てる保育者の様々な役割について、パワーポイントにまとめる。【レポート(表現)】
- 第15回 まとめ 各グループの発表とディスカッション

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学修】保育所保育指針と指定テキストを事前に熟読しておくこと。また、分からない用語は調べておくこと。各授業に対して1時間

【事後学修】授業内容の復習をするとともに、実習や保育現場に向けて学びを整理し、ノートにまとめること。各授業に対して1時間

評価方法および評価の基準

到達目標の評価の方法:

課題への取り組み30%、課題提出物20%、レポート提出50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.課題への取り組み(6%/30%)、ミニテスト(10%/50%)

到達目標2.課題への取り組み(6%/30%)、課題(指導計画の提出)(20%/20%)

到達目標3.課題への取り組み(6%/30%)、レポート発表(10%/50%)

到達目標4.課題への取り組み(6%/30%)、ミニテスト(10%/50%)

到達目標5.課題への取り組み(6%/30%)、レポート(20%/50%)

課題した提出物に関しては、評価をし翌週以降の授業内で返却する。

提出物、リフレクションシートを活用し、前授業のフィードバックを実施する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】横山真貴子編 「子どもと保育者でつくる人間関係 「わたし」から「わたしたち」へ 保育出版社

【推薦書】田宮縁 「体験する・調べる・考える 領域 人間関係」 萌文書林

無藤隆・古賀松香 「実践事例から学ぶ保育内容 社会情動的スキルを育む 保育内容 人間関係」 北大路書

房

【参考図書】幼稚園教育要領、保育所保育指針、

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容演習（環境）		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd3106		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子どもの遊びの場において保育や保護者の相談業務に携わった経験をもつ教員が担当し、子どもの発達に応じた環境構成の方法を具体的に学べるよう指導する。また、特色ある保育を展開する実践者による講話を通して、保育における環境構成の実際について理解を深める機会を設ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

本科目では、領域「環境」に関わる保育内容の展開方法について学びを深めるとともに、具体的な場面を想定しながら環境構成の方法を学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

本科目では演習を中心として、進めていく。また、リアクションペーパーを活用し、授業内容を振り返り、自分なりの考えを記述する。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【プレゼンテーション】【製作】

到達目標

1. 環境構成の意義と方法を説明することができる。
2. 子どもの発達や遊びに応じた環境構成の方法を、例示することができる。
3. 領域「環境」にかかわる保育内容を考え、指導計画を作成することができる。
4. 学びの内容を、他者にわかりやすく表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5：生活課題の理解、問題解決の方法提示
- 2：援助・支援に関する理論の基本的理解
- 4：体験の意味付けと表現

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ等を取り入れながら、学びを深めていく

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
2	保育の環境と領域「環境」【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
3	保育における環境構成の実際【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
4	保育の計画と環境構成【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
5	環境構成の原理と方法【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
6	子どもの生活を支える環境構成【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
7	発達に応じた環境構成 保育室の環境構成【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
8	発達に応じた環境構成 教材選択【リアクションペーパー】【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
9	遊びの援助と環境構成【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
10	身近な動植物にかかわる保育の展開【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】【グループワーク】
11	数量・図形にかかわる保育の展開【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】【グループワーク】
12	記号・文字にかかわる保育の展開【リアクションペーパー】【製作】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】【グループワーク】
13	地域社会にかかわる保育の展開【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】【グループワーク】
14	特別なニーズをもつ子どもの育ちを支える環境構成【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート(知識)】【グループワーク】
15	まとめ【リアクションペーパー】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回 【事前準備】体験実習における保育環境の工夫をA4用紙2枚以内にまとめる。[120分]

【事後学修】保育所保育指針の環境に関わる内容をまとめる。[60分]

第2～15回【事前準備】授業テーマに関する指定課題に取り組む。[60分]

【事後学修】各回で提示される指定課題レポートを作成する。[90分]

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%)、課題提出(70%)、レポート(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出(10%/70%)

到達目標2．課題提出(20%/70%)

到達目標3．課題提出(20%/70%)、レポート(20%/20%)

到達目標4．課題提出(20%/70%)、リアクションペーパー(10%/10%)

【フィードバック】

リアクションペーパーおよびポートフォリオの講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

高山静子(2014)『環境構成の理論と実践 保育の専門性にもとづいて-』エイデル研究所

厚生労働省(2018)『保育書保育指針解説』フレーベル館

【推薦書】【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容の特性により、通常授業時間以外に、2コマを連続実施とする場合がある。

学外での活動を行う場合がある。

授業の教材費として、¥500程度を要する。

科目名	保育内容演習（言葉）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd3107		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得のための必修科目であり、保育の内容および方法に関する科目である。

科目の概要

本科目は、保育における領域「言葉」に関する科目である。子どもの言葉の発達の理解、子どもの言葉の発達を支援する手立ての理解、保育者として必要な言葉の力の向上が主な内容である。下記のテキストを中心とした15回の内容に加え、各回で受講者による保育実践の発表を行う。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを中心とした事例検討及び討議を行う。【グループワーク】【ディスカッション】

到達目標

本科目の目標は以下の通りである。

- (1)保育における領域「言葉」について理解し、ねらい、内容を説明することができる。
- (2)子どもの言葉の発達について理解し、言語獲得の道筋を説明することができる。
- (3)子どもの言葉の発達を支援する手立てを理解し、指導計画の立案ができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －2支援に関する基本的理解
- －4体験の意味付けと表現
- －5自己表現及び集団的思考

内容

第1回 オリエンテーション・言葉をめぐる諸問題の理解子どもを取り巻く言葉の諸問題について【討議】

第2回 保育における「言葉」領域「言葉」のねらい（他領域との関連）：領域「言葉」のキーワードの抽出【グループワーク】

第3回 領域「言葉」と小学校「国語」の関連：小学校以上の教科と領域の相違について【グループワーク】

- 第4回 言葉の発達（前言語期）：乳児期からの言葉の発達について、発声の違いや言葉の変化をまとめる【グループワーク】
- 第5回 言葉の発達（話し言葉）：3歳児、4歳児、5歳児の遊びの場面から、言葉の使い方の特徴について理解する【ロールプレイ】
- 第6回 言葉の発達（書き言葉）：事例を基に、書くことへの興味と文字について、気づいたことを話し合う【討議】
- 第7回 言葉を豊かにする保育環境：事例を基に、保育者の役割、保育室の環境について気づいたことをまとめる。【討議】
- 第8回 応答的な関わりと言葉【討議】家庭での子どもの様子や保育者の関わり
- 第9回 子ども同士の関わりから育つ言葉【討議】子どもが気持ちを表現すること
- 第10回 児童文化財と言葉の関係【討議】絵本の役割を考える
- 第11回 児童文化財と言葉の関係【討議】様々な絵本の種類と内容を分析する
- 第12回 保育の指導計画の作成と実践【討議】指導計画に沿って、読み聞かせの場面を実践する。
- 第13回 言葉遊びと言葉の獲得：言葉への関心を豊かな言葉を育む言葉遊びについて、まとめ、発表する。【グループワーク】
- 第14回 言葉に関する障がいの理解と支援：事例に基づいた支援の在り方と関連施設の理解【ディスカッション】
- 第15回 まとめ 現代における言葉の諸課題と保育者の役割：事例検討と対応【討議】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回で取り扱うテキスト該当章を読んでおく。また、自分の発表会については計画的に準備を進める。各授業1時間

【事後学修】各回の議論の内容をまとめておく。各授業1時間

評価方法および評価の基準

到達目標1. 課題への取り組み(10%/30%)、ミニテスト(20%)【知識習熟テスト】

到達目標2. 課題への取り組み(10%/30%)、中間課題(20%)【制作(表現)】

到達目標3. 課題への取り組み(10%/30%)、期末レポート(20%)【レポート(表現)】

到達目標の評価方法：課題への取り組み30%、ミニテスト(20%) 中間課題(絵本リスト)20%、期末レポート(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】

発表内容に対する評価をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

内藤知美・新井美保子（編著）『コンパス保育内容言葉』建帛社

厚生労働省『保育所保育指針』

【推薦書】

文部科学省『幼稚園教育要領』

その他 授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の理解と方法（健康）		
担当教員名			
ナンバリング	KDd2217		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

心身の健康に関する領域として、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うこととする。本学科DPの1、3に該当する。

科目の概要

健康な子どもたちを育てるという見地から、乳幼児期から移りゆく発育発達を、身体発育、生理機能、運動機能、精神機能より検討し、保育に必要な基礎的知識を養う。

また、子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、子どもの基本的な生活習慣や健康状態の把握方法等を理解する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する
2. 子どもの身体発育や生理機能および運動機能ならびに精神機能の発達と保健について理解する。
3. 子どもの基本的な生活習慣と食生活について理解する
4. 子どもの健康状態の把握方法を理解する

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

この授業は講義を基本に、適宜、質疑応答を取り入れて、学びを深めていく。

1	健康の概念
2	乳幼児の健康（乳幼児の生理機能）

3	乳幼児の健康（身体の発育・発達）
4	乳幼児の健康（発育・発達と疾病）
5	心身の発育と発達（乳幼児のからだ）
6	心身の発育と発達（乳幼児のこころ、乳幼児の動き）
7	乳幼児の健康管理（健康及び日常の観察）
8	乳幼児の健康管理（健康診査、健康診断、環境の整備）
9	乳幼児の安全管理
10	乳幼児の応急手当
11	乳幼児の基本的生活習慣
12	乳幼児の遊び
13	乳幼児の健康教育
14	健康を求めて
15	振り返りとまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日ごろから新聞等の健康関連の記事に目を通して、健康に興味を持ってください。またその内容が正しいかどうか判断できるような知識を持ってください。（各回60分）

【事後学修】その日の授業の内容を自分なりに理解、整理しておいてください。また授業で習ったことの課題を出すのでまとめておくようにしてください。（各回90分）

評価方法および評価の基準

質疑応答を含む授業への参加度（10%）、毎回授業の最後に確認のショートテスト(40%)、筆記試験(50%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業修了時に質問を記載してもらい、次回授業の最初に解説を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業開始時に説明します。

【推薦書】【参考図書】必要に応じて紹介します。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の理解と方法（人間関係）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd2218		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育士資格取得に関連する科目である。ディプロマポリシー2「保育の実践の理解と専門性」に該当する。

科目の概要

本科目では、保育内容を構成する5領域のひとつである「人間関係」について理解を深める。乳幼児期の人間関係形成の理論的理解を踏まえ、保育内容「人間関係」のねらいと内容を理解し、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。理論と実践を通してその意義と価値を理解し、基本的な技術を習得する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 領域「人間関係」のねらいと内容を理解している。
2. 乳幼児期の人間関係形成の理論的理解と個と集団を捉える観点を説明することができる。
3. 遊びにおける人間関係の形成と保育者の援助・役割を理解している。
4. 乳幼児期に育まれる自我の芽生えと自立について理解し、保育における生活場面における自立を理解し、その指導と援助について理解している。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回オリエンテーション・領域「人間関係」の理解：グループワーク：これまでどのような人と関わってきたのかを振り返る

第2回親との出会いとかかわり-信頼関係の基盤-：ディスカッション：家庭における愛着形成について話し合う。

第3回自己の感覚と自我の芽生え：ディスカッション：事例を基に自我の芽生えの時期について理解する

第4回子どもと保育者のかかわり 子どもとの信頼関係を築く：ディスカッション：事例を基に信頼関係を築くことについて話し合う。

第5回子どもと保育者のかかわり 子ども同士のかかわりを育む：ディスカッション：事例を子ども同士の人間関係について話し合う。

- 第6回人間関係を育む遊びと環境 遊びと子どもの育ち：ディスカッションと事例検討
- 第7回人間関係を育む遊びと環境 遊びのなかで共有すること：ディスカッションと事例検討
- 第8回人間関係を育む遊びと環境 遊びをつくる仲間・異年齢交流：ディスカッションと事例検討
- 第9回人間関係を育む遊びと環境 地域との交流：ディスカッションと事例検討
- 第10回人間関係を育む保育者の援助 個と集団：ディスカッションと事例検討
- 第11回人間関係を育む保育者の援助 多様性・協働性を育む保育のデザイン：ディスカッションと事例検討
- 第12回人間関係を育む保育者の援助 いざこざから生みだされるもの：ディスカッションと事例検討
- 第13回人間関係を育む保育の計画：グループワーク：指導計画の作成（人間関係を育む保育の展開）
- 第14回人間関係を育む保育の実施と評価、改善：グループワーク：発表を基に改善点を検討する。
- 第15回まとめ 領域「人間関係」をめぐる現代的諸問題：これまでの学びをもとに、関心のあるテーマについてプレゼンテーションを行う。（ギャラリートーク）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各回の授業に該当する資料や教科書を熟読すること。わからない用語は事前に調べノートにまとめること。各授業1時間

【事後学修】授業内で得た気づきや考えをリフレクションシートにまとめる。各授業1時間

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、小レポート・中間課題30%、期末レポート課題40%とし、評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 岩立京子「事例で学ぶ保育内容」萌文書林
厚生労働省「保育所保育指針」

【推薦書】無藤隆 古賀松香「社会情動的スキルを育む保育内容人間関係」北大路書房
汐見稔幸・無藤隆（2018）『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の理解と方法（環境）		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDd2109		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子どもの遊びの場において保育や保護者の相談業務に携わった経験をもつ教員が担当し、子どもの発達に応じた環境構成の方法を具体的に学べるよう指導する。また、特色ある保育を展開する実践者による講話を通して、保育における環境構成の実際について理解を深める機会を設ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における保育専門科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

本科目では、保育所等における保育内容のうち、領域「環境」に関わる内容と方法について学んでいく。乳幼児期の子どもの安定して生活するための生活環境、心身の発達や学びを支えるための遊びの環境について学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目では演習を中心として、実際の玩具や教材を取扱い、遊びや活動を体験しながら、体験的に学んでいく。また、リアクションペーパーを活用し、授業内容を振り返り、自分なりの考えを記述する。

【リアクションペーパー】【レポート（知識）】【グループワーク】【実技】

到達目標

1. 保育方法としての環境構成、領域「環境」のねらいと内容について説明することができる
2. 子どもを取り巻く環境について、それらの発達の意義を理解し、説明することができる。
3. 保育環境に込められた意図やねらいを理解し、保育の原理を踏まえて説明することができる。
4. 学びの内容を、他者にわかりやすく表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5：生活課題の理解、問題解決の方法提示
- 2：援助・支援に関する理論の基本的理解
- 4：体験の意味付けと表現

内容

本科目では、ペアワーク、グループワーク、ディスカッション、ワークショップ等を取り入れながら、学びを深めていく

1	オリエンテーション【リアクションペーパー】
2	保育における環境の重要性【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
3	領域「環境」のねらいと内容【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
4	子どもの発達と環境とのかかわり 乳児【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
5	子どもの発達と環境とのかかわり 1歳児【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
6	子どもの発達と環境とのかかわり 2歳児【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
7	子どもの発達と環境とのかかわり 3歳児【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
8	子どもの発達と環境とのかかわり 4・5歳児【リアクションペーパー】【レポート(知識)】
9	子どもの発達と遊び おもちゃワークショップ【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】 【実技】
10	子どもの発達と遊び おもちゃワークショップ【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】 【実技】
11	身近な生き物とのかかわり【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
12	身近な自然とのかかわり【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
13	数量・図形とのかかわり【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
14	記号・文字とのかかわり【リアクションペーパー】【レポート(知識)】【グループワーク】
15	地域とのかかわり【レポート(知識)】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】授業内で提示された課題に取り組んだ上で、授業に参加すること。(各回60分)

【事後学修】各回の授業内容をまとめ、指定課題レポートを作成すること。(各回90分)

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー(10%)、課題提出(70%)、レポート(20%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出(10%/70%)

到達目標2．レポート(20%/20%)

到達目標3．課題提出(20%/70%)

到達目標4．課題提出(40%/70%)、リアクションペーパー(10%/10%)

【フィードバック】

リアクションペーパーおよびポートフォリオの講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

高山静子(2014)『環境構成の理論と実践 保育の専門性にもとづいて -』エイデル研究所

厚生労働省(2018)『保育書保育指針解説』フレーベル館

【推薦書】【参考図書】

授業内で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

授業内容の特性により、通常授業時間以外に、2コマを連続実施とする場合がある。

学外での活動を行う場合がある。

授業の教材費として、¥500程度を要する。

科目名	保育内容の理解と方法（言葉）		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd2219		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育士資格取得に関連する科目であり、ディプロマポリシー2「保育の実践に関する知識、専門性」に該当する。

科目の概要

本科目では、保育内容を構成する5領域のひとつである「言葉」について理解を深める。乳幼児期の言葉の発達と言語環境の理論的理解を通して、乳幼児期の豊かな心身の育ちを培うための保育者の役割を考察する。保育所保育指針等に示された領域「言葉」のねらい及び内容について、背景となる専門領域と関連させて理解を深め、乳幼児の発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現するよう具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を習得する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 領域「言葉」のねらいと内容を理解している。
2. 乳幼児期の言葉の発達を捉える視点と言葉の発達の様相を理解している。
3. 乳幼児期の言葉を育む環境と保育者の役割を理解している。
4. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身につけている。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

第1回 オリエンテーション・領域「言葉」のねらい及び内容：グループワーク：キーワードの抽出

第2回 言葉の発達過程 乳児期：グループワーク：事例の検討と発達過程作成

第3回 言葉の発達過程 乳児期：グループワーク：事例の検討と発達過程作成

第4回 言葉の発達過程 幼児期：グループワーク：事例の検討と発達過程作成

第5回 言葉の発達過程 幼児期（書き言葉の発達の道筋）：ディスカッション：文字への関心と援助

第6回 言葉を育む環境構成と援助 話したい、聞きたい、伝え合いを生む援助：グループワーク：事例を基に、保育者の役割をまとめる。

第7回 言葉を育む環境構成と援助 言葉の豊かさ、美しさに気づく援助：グループワーク：事例を基に、保育者の役割をまとめる。

第8回 言葉を育む環境構成と援助 特別な配慮を要する子どもへの援助と支援：グループワーク：事例を基に、保育者の役割をまとめる。

第9回 言葉を豊かにする環境構成と教材-児童文化財の理解 絵本・紙芝居：グループワーク：絵本や紙芝居を基に、選定の仕方や保育の展開について話し合う。

第10回 言葉を豊かにする環境構成と教材-児童文化財の理解 言葉あそび：グループワーク：言葉を使った遊びを探し、保育の展開について話し合う。

第11回 子どもの言葉を育む保育の実際：グループワーク：事例を基に、領域「言葉」の観点から保育のねらい、内容を読み取る。

第12回 子どもの言葉を育む保育の計画（模擬保育）グループワーク：事例を基に、領域「言葉」の観点から保育のねらい、内容を計画する。

第13回 子どもの言葉を育む保育の実践（模擬保育）グループワーク：計画を基に、実践する。

第14回 子どもの言葉を育む保育の評価と改善（模擬保育）グループワーク：発表をもとに実践を評価し、改善を考える。

第15回 まとめ これまでの学びを踏まえ、関心のあるテーマについてまとめる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業に該当する配布資料や教科書を熟読しておく。授業に必要な教材を準備する。各授業1時間

【事後学修】授業内で考えたことや気づいたことを基にリフレクションシートにまとめる。各授業1時間

評価方法および評価の基準

授業への参加度30%、小レポート・中間課題30%、期末レポート課題40%として総合的に判断する。とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】リフレクションシートを基に、各回にて、前授業の振り返りを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】内藤知美・新井美保子（編著）（2017）『コンパス保育内容言葉』建帛社

【推薦書】汐見稔幸・無藤隆（2018）『保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説とポイント』ミネルヴァ書房

【参考図書】授業内で提示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	保育内容の理解と方法（表現）		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd2110		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等で実践経験のある教員により、音楽・造形・言葉や身体を使った様々な子どもの表現活動における実践方法と、保育士の役割について学ぶ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士資格取得の必修科目である。

科目の概要

領域「表現」において、様々な子どもの表現や、感性・創造性を豊かにするための活動や環境、援助方法等を実践的に学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説、グループワーク、実践を通じたグループディスカッションなどを取り入れて授業を行う。

【講義】【実技】【レポート（表現）】【グループワーク】

到達目標

1. 子どもの表現の姿や発達を理解することができる。
2. 子どもの生活や遊びにおける領域「表現」の位置付けを理解し説明できる。
3. 音楽・身体・造形などの表現の基礎的な知識・技能を学び、子どもの表現活動に展開することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3 専門的援助関係の基本的理解と形成
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 5 自己表現及び集団的思考

内容

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 子どもの表現の捉え方
- 第3回 身近な素材を使った遊び【実技】
- 第4回 乳幼児の運動遊び【実技】

- 第5回 乳幼児のリズム遊び【実技】
- 第6回 楽器を使った表現活動（分担奏） 【グループワーク】【実技】
- 第7回 楽器を使った表現活動（分担奏） （【グループワーク】【実技】
- 第8回 楽器を使った表現活動（分担奏） 、グループ発表【グループワーク】【実技】 【レポート（表現）】
- 第9回 秋の自然物を使った造形表現 【実技】
- 第10回 秋の自然物を使った造形表現 【実技】
- 第11回 秋の自然物を使った造形表現 、製作物の発表【実技】【レポート（表現）】
- 第12回 伝統行事における総合的な表現活動 【グループワーク】【実技】
- 第13回 伝統行事における総合的な表現活動 【グループワーク】【実技】
- 第14回 伝統行事における総合的な表現活動 【グループワーク】【実技】
- 第15回 伝統行事における総合的な表現活動 、グループ発表、まとめ【グループワーク】【実技】【レポート（表現）】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】乳幼児の表現活動の展開を考えたりアイデアをまとめる。（各回60分）

【事後学修】授業内で扱った内容について、自分の考えやヴァリエーションを加えた資料を作成する。（各回60分）

評価方法および評価の基準

各回の課題提出（30%）、発表（30%）、レポート（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: （10%/30%） （20%/30%） （10%/40%）

到達目標2: （10%/30%） （0%/30%） （10%/40%）

到達目標3: （10%/30%） （10%/30%） （20%/40%）

【フィードバック】提出課題や発表について、授業内でコメントし、フィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	乳児保育		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd2111		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育士資格に関連する必修科目であり、「保育の内容・方法に関する科目」に位置づけられている。

0・1・2歳児の基本的理解と0・1・2歳児保育の実際について理解し、保育者の専門性を習得する。

科目の概要

0・1・2歳児の日常生活を理解するための知識や方法の基本を学ぶ。現在において0・1・2歳児にとってふさわしいと環境とはどのようなものかを追求しつつ、「0・1・2歳児の最善の利益」とは何なのかを考え、日々保育実践をする保育者がいる。この授業では、現代の子育て事情を理解しながら「乳児が乳児として生活する」ことを目指し、蓄積されている具体的な0・1・2歳児の保育の内容や方法について、事例から検討を進めていく。

授業の方法 (ALを含む)

講義を中心とし、グループワークや事例検討を等して理論と実践の理解を深める【講義】【討議】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

1. 0・1・2歳児の発達やその特徴を理解し、保育者の援助や配慮について事例を読み取りや考察ができる。
2. 乳児保育の意義を理解して、多様な保育の場、および現代における乳児保育の現状と課題について説明、考察することができる。
3. 乳児保育のねらい、内容及び保育展開について説明することができる。
4. 乳児保育における保護者や関係機関との連携、について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4人権尊重の理解、問題解決の方法提示
- 5生活課題の理解、問題解決の方法提示
- 2援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

第1回～第6回事例を基にグループディスカッション

第7回～第9回事例や写真を基にグループワーク（乳児保育と遊び）

第10回～第14回 事例を基にグループディスカッション

第15回 これまで学んだことを基に各グループでテーマを定め、パワーポイントで発表する。

1	オリエンテーション・乳児保育の意義・乳児保育の歴史と現代的課題【グループワーク】
2	ヒトの子育てと乳児の発達【グループワーク】
3	乳児の生活＜睡眠＞【グループワーク】
4	乳児の生活＜食事・排泄＞【グループワーク】
5	乳児の生活＜健康・安全＞【グループワーク】
6	乳児の生活＜乳児としての日課と保育者の仕事＞【グループワーク】
7	乳児の生活＜遊び1＞【グループワーク】【プレゼンテーション】
8	乳児の生活＜遊び2＞【グループワーク】【プレゼンテーション】
9	乳児保育の環境【グループワーク】
10	社会的養護と乳児保育【グループワーク】
11	保育者の専門性-関わりの観点から-【グループワーク】
12	子どもの生活を共にする保育者の役割＜クラス担任間の連携・保育所内での連携＞グループワーク】
13	保育の計画と評価＜保育課程と指導計画＞グループワーク】
14	乳児の育つ場の多様性と子育て【外部講師】
15	まとめ＜乳児保育の役割について＞【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】教科書を精読しておくこと。わからない用語を事前に調べ、ノートにまとめておくこと。各授業1時間

【事後学修】毎回、授業内に配布したプリントや自分のノートを整理して、授業内容を理解しまとめること。各授業1時間

評価方法および評価の基準

課題提出(40%)、中間課題ポートフォリオ(30%)、期末レポート(30%)、総合評価60点以上を合格とする。

達成目標1.課題への取り組み(10%/40%)、中間課題(15%/30%)

達成目標2.課題への取り組み(10%/40%)、中間課題(15%/30%)

達成目標3.課題への取り組み(10%/40%)、期末課題(15%/30%)

達成目標4.課題への取り組み(10%/40%)、期末課題(15%/30%)

課題やリフレクションシートをもとに前授業のフィードバック、返却を実施する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】阿部和子編 「改訂 乳児保育の基本」 萌文書林、厚生労働省編「保育所保育指針解説」

【参考図書】厚生労働省「保育所保育指針」、内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ポートフォリオを作成するため、A4ファイルまたは、A3ファイルを用意すること。

科目名	乳児保育		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDd3112		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育士資格取得に関する科目であり、専門科目の必修科目である。

科目の概要

3歳未満児の保育について、乳児保育 の理論と内容を踏まえ、具体的な演習、事例検討を通して実践的な理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

グループワークを中心とした演習を行う。【グループワーク】【討議】【レポート(発表)】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

到達目標

- 1．3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解し、説明することができる。
- 2．養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解し、説明することができる。
- 3．乳児保育における配慮の実際について、具体的に理解し、説明することができる。
- 4．上記1～3を踏まえ、乳児保育における計画の作成について、具体的に理解し、作成することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －3専門的援助関係の基本的理解と形成
- －4体験の意味付けと表現
- －5自己表現及び集团的思考

- 第1回子どもと保育士等との関係の重要性 【グループワーク】
- 第2回個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり 【グループワーク】
- 第3回子どもの主体性の尊重と自己の育ち 【グループワーク】
- 第4回子どもの体験と学びの芽生え 【グループワーク】
- 第5回子どもの1日の生活の流れと保育の環境 グループワーク】
- 第6回子どもの生活や遊びを支える環境の構成 グループワーク】
- 第7回3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活と援助の実際 【グループワーク】【外部講師】
- 第8回3歳未満児の発育・発達を踏まえた遊びと援助の実際 【グループワーク】【実技】
- 第9回子ども同士の関わりとその援助の実際 【グループワーク】
- 第10回子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮 グループワーク】
- 第11回集団での生活における配慮 【グループワーク】
- 第12回環境の変化や移行に対する配慮 グループワーク】
- 第13回長期的な指導計画と短期的な指導計画 【グループワーク】
- 第14回個別的な指導計画と集団の指導計画 【グループワーク】
- 第15回 まとめと発表

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】各回に提示された事前課題に取り組む(各60分)
- 【事後学修】授業内で提示された事後課題(ミニレポート)に取り組む(各60分)

評価方法および評価の基準

課題への取り組み(20%)、中間課題(ポートフォリオ)(40%)、期末課題(レポート)(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

- 達成目標1. 課題への取り組み(5%/20%)、中間課題(10%/40%)、期末課題(レポート)(10%/40%)
- 達成目標2. 課題への取り組み(5%/20%)、中間課題(10%/40%)、期末課題(レポート)(10%/40%)
- 達成目標3. 課題への取り組み(5%/20%)、中間課題(10%/40%)、期末課題(レポート)(10%/40%)
- 達成目標4. 課題への取り組み(5%/20%)、中間課題(10%/40%)、期末課題(レポート)(10%/40%)

【フィードバック】各回のミニレポート、およびポートフォリオについて次回授業開始時に共有し、前回は振り返りを行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】阿部和子「改訂 乳児保育の基本」萌文書林
乳児保育 の教科書を使用する。
- 【推薦書】授業内で提示する。
- 【参考図書】授業内で提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ポートフォリオを作成するためのA4ファイルまたはA3ファイルを用意すること

科目名	社会的養護		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDd3113		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目を担当する教員は、児童福祉施設（保育所及び児童養護施設）に勤務した経験がある。

講義内容は、実務経験で得た実践を現在行われている保育・養護・相談支援場面に即して、理論との乖離が起きないように講義・演習を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の必修科目であり、保育の内容・方法に関する科目に位置付けられている。他科目との関係性は、社会的養護、社会福祉概論、保育原理、障害児保育等々の社会福祉・保育士養成科目を履修することで更に深まる内容となっている。

科目の概要

本科目では、社会的養護の内容をを理解したうえで、具体的に社会的養護を担う施設のあり方や施設養護全体について理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習を中心に行い、児童福祉施設における児童の権利・保育士の使命・倫理、さらに施設養護および援助するための具体的実践について、ケースメソッドやフィールドワークを取り入れ授業を行う。

【レポート（知識）】【グループワーク】【ケースメソッド】【フィールドワーク】

到達目標

1. 施設養護及び他の社会的養護の実際を、施設等においてフィールドワークに参加しその現状について評価を行うことができる。
2. 社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、作成を行うことができる。
3. 社会的養護にかかわる相談援助の方法と技術について理解し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
4. 社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し、その内容についてグループで分類・評価することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 4 人権尊重の理解、問題解決の方法の提示、 - 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	オリエンテーション、子どもと子育て家庭の現状
2	社会的養護の実践と保育士【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
3	社会的養護の理念と機能、法制度と枠組み【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
4	社会的養護を必要とする子どもの理解と権利【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
5	施設養護のプロセス【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
6	記録および評価【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
7	個別支援計画の作成【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
8	治療的支援及び日常生活支援【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
9	自立支援と支援計画【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
10	施設養護の自立支援【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
11	家庭養護へ向けての支援【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
12	施設の小規模化と地域との関わり【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】
13	社会的養護系施設に訪問(フィールドワーク) 施設概要の把握【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】【フィールドワーク】
14	社会的養護系施設に訪問(フィールドワーク) 施設保育士と専門職種の仕事の実際【グループワーク】【レポート(知識)】【ケースメソッド】【フィールドワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回

【事前準備】教科書の該当箇所を読み、考察を行っておく。[60分]

【事後学修】授業内容についてまとめ、リアクションペーパーを提出する。[60分]

第2回～第12回

【事前準備】授業で行った、ケースメソッド・グループワーク等の内容をレポートにまとめる。[120分]

【事後学修】授業内容についてレポートにまとめる。[60分]

第13回～第14回

【事前学習】フィールドワークを行ううえで、施設の概要、自己課題をまとめる。[120分]

【事後学修】フィールドワークで学習した内容についてレポートにまとめる。[60分]

【フィードバック】

授業のはじめに前回の課題の振り返りを行う。

評価方法および評価の基準

課題提出(30%)、フィールドワークレポート(30%)筆記試験(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出(5%/30%)、フィールドワークレポート(10%/30%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標2. 課題提出(5%/30%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標3. 課題提出(10%/30%)、フィールドワークレポート(10%/30%)、筆記試験(10%/40%)

到達目標4. 課題提出(10%/30%)、フィールドワークレポート(10%/30%)、筆記試験(10%/40%)

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

全国保育士養成協議会 監修 『ひと目でわかる 保育者のための児童家庭福祉データブック2020』 中央法規

【推薦書】

授業内で紹介する。

【参考図書】

授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

3	ピアノの基本的な奏法
4	グルーブレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン 【実技】
8	楽典 、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グルーブレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、 実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1： （20%/40%） （30%/60%）

到達目標2： （10%/40%） （10%/60%）

到達目標3： （10%/40%） （20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る
3	ピアノの基本的な奏法

4	グループレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン 【実技】
8	楽典 、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グループレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、 実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1： （20%/40%） （30%/60%）

到達目標2： （10%/40%） （10%/60%）

到達目標3： （10%/40%） （20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

3	ピアノの基本的な奏法
4	グルーブレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン 【実技】
8	楽典 、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グルーブレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、 実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1： （20%/40%） （30%/60%）

到達目標2： （10%/40%） （10%/60%）

到達目標3： （10%/40%） （20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ピアノ		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDd117		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等の保育現場で実践経験を持つ教員により、園生活の中での子どもの歌や、音楽的な遊びにおける保育士の役割、ピアノ・歌等の実技について指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育専門科目の一つであり、ピアノの経験の有無を問わず、1年生から履修することができる。本科目は、楽譜を読む力をつけ、ピアノを用いた弾き歌いの基礎的な技能を身につける科目である。

科目の概要

ピアノを使って子どもと歌を歌う楽しさを共感したり、リズムに合わせて身体を動かして遊んだりする際の保育者の役割と、必要な技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

学生一人ひとりの音楽経験や個性に合った指導を行う。

音楽理論に関する講義と個人レッスン、グループレッスン等の形態で授業を行う。【講義】【実技】

到達目標

1. 自力で楽譜を読めるようになり、様々な楽曲（童謡・子どもの歌）の弾き歌いをすることができる。
2. 音楽や歌を楽しむ経験を積み重ね、子どもが音楽にかかわる場面での保育士の役割、子どもへの援助方法を理解し実践できる。
3. 子どもや周囲の人と、音楽の楽しさを共有したり、伝えられるようになる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

1	オリエンテーション
2	鍵盤楽器ピアノ、子どもの歌を知る

3	ピアノの基本的な奏法
4	グルーブレッスン 【実技】
5	楽典
6	楽典
7	楽典 、個人レッスン 【実技】
8	楽典 、個人レッスン 【実技】
9	個人レッスン 【実技】
10	個人レッスン 【実技】
11	個人レッスン 【実技】
12	グルーブレッスン 【実技】
13	個人レッスン 【実技】
14	個人レッスン 【実技】
15	弾き歌いのまとめ、振り返り【実技】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】話し合いにより選んだ課題曲を練習し、困っていることや質問をできるだけ明確にしておくこと。（各回80分）

【事後学修】授業内で確認したことを復習し、次のステップへ進めていくこと。（各回80分）

評価方法および評価の基準

各回の課題確認40%、 実技試験60%、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1： （20%/40%） （30%/60%）

到達目標2： （10%/40%） （10%/60%）

到達目標3： （10%/40%） （20%/60%）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』（教育芸術社）

【参考図書】適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	富井 友子、片居木 英人、大山 博幸、今井 伸 他		
ナンバリング	KDe276		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、社会福祉士受験資格取得課程の科目である。相談援助実習（社会福祉実習）の事前学習として、見学実習を含む基本的な学習のための科目である。

科目の概要

相談援助実習の意義について理解する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系づけていく能力を滋養する。実習を行う実習分野についての理解をする。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務について理解する。相談援助に係る知識と技術を理解、習得する。また実習における記録の内容、方法について理解する。実習事前学習は、相談援助実習指導へと継続する。

授業の方法（ALを含む）

見学実習を中心に、事前講義および実技指導、見学実習後の振り返りを行う。これらのほとんどのグループワークにて行う。

到達目標

- ・各分野におけるソーシャルワークと実習先（施設・機関）について理解ができる。
- ・社会福祉士の実習分野や実習施設の理解ができる。
- ・実習に臨む態度が修得できる。
- ・実習における記録の意味を理解し、初歩的な記録ができる。
- ・学生が実習領域への志向性を自己覚知することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）の1に該当する。

内容

初回のオリエンテーション以外は、前期集中講義期間に予定する。事前学習・グループ別指導等については、オリエンテーションで説明するので、履修予定者は、学科の掲示板での連絡にも留意すること。

1	オリエンテーション、社会福祉士に関する制度理解、実習に対する心構え
---	-----------------------------------

2	児童福祉分野・地域福祉分野におけるソーシャルワークと実習
3	障がい者福祉分野・高齢者福祉分野におけるソーシャルワークと実習
4	記録の理解と演習
5	車イス操作の演習
6	実習課題の設定
7	児童福祉分野の実際（児童相談所について）
8	児童福祉分野の実際（児童相談所について）
9	児童福祉分野の実際（児童相談所について）
10	見学実習 障害者支援施設 または 高齢者施設
11	見学実習 障害者支援施設 または 高齢者施設
12	見学実習 障害者支援施設 または 高齢者施設
13	見学実習の振り返り
14	見学実習の振り返り
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ソーシャルワーク論 および相談援助演習 の内容を復習しておく（各授業に対して30分）

【事後学修】見学実習や報告会の記録をまとめる（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

実習記録（25点×2回）、見学実習および講義・演習における授業態度（50点）を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出された記録や課題については、授業内で返却し、意見交換の後、教員がコメントする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科で作成した実習マニュアルを配布する

【推薦書】特に指定しない。見学実習先によって、各種の資料を配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	富井 友子、片居木 英人、大山 博幸、今井 伸 他		
ナンバリング	KDe376		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2,3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

【科目の性格】本科目は、社会福祉士受験資格習得課程の科目であり、ソーシャルワークの知識・技術・価値を実践的に習得するために、社会福祉実習の事前学習を行う。なお、本科目はより効果的に授業を進めるために相談援助演習 と連動している。また、社会福祉士受験資格指定科目である。

【科目の概要】本科目は、個別指導およびグループ指導を通して、相談援助実習の意義について理解した上で、相談援助に係る知識と技術について实际的に理解し実践的な技術を体得すること、社会福祉士として求められる資質・技能・倫理等、総合的に対応できる能力を習得すること、具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養することを目的としている。

【授業の方法】

講義およびグループワークにて行う。

【到達目標】

相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。

実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。

実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。

事前学習の成果として実習課題を作成することができる。

【ディプロマ・ポリシーとの関係】

この科目は、人間福祉学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）の1と2に該当する。

内容

1	オリエンテーション、社会福祉実習への心得
2	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
3	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
4	実習分野（利用者理解を含む）と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
5	実習目標・課題の設定と実習計画作成の方法

6	実習ノート等の記述について、グループスーパービジョン
7	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成1）
8	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成2）
9	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成3）
10	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成4）
11	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成5）
12	実習報告会への参加
13	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成6）
14	グループスーパービジョン（実習分野の事前学習と実習課題、実習計画の作成7）
15	実習最終オリエンテーション、実習中のマナーおよび事故防止

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】相談援助過程について確認すること。自分の関心のある福祉領域の主な施設や機関について確認すること。
（各授業に対して30分）

【事後学修】作成した実習課題（目標）や実習計画について再度見直すこと（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

リアクションペーパー（30%）、グループスーパービジョンにおける提出物、発表、グループワークの参加態度等（70%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】発表内容をもとに授業内で意見交換を行う。また、提出されたリアクションペーパーや課題は評価の後、翌週以降の授業内で返却する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成による実習マニュアルや適宜ワークシートおよび資料を配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、富井 友子、今井 伸 他		
ナンバリング	KDe476		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

担当する教員は福祉領域での相談職等ソーシャルワーカーの実務経験がある。具体的な相談援助実践に基づいて指導ができる。

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法 (ALを含む)	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	---------------	------	----------------

社会福祉士養成課程の指定科目であり、学科の専門選択科目である。ソーシャルワークの知識・技術・価値を身につけること、自分が体験したことを分かりやすく意味づけ、表現すること、お互いに自分自身の考え伝えあい、自らの考えや集団の考えを高め発展させることと、自己覚知を深めることと関連する。社会福祉実習や他の相談援助実習指導、相談援助演習と関連する。

社会福祉実習の事前学習及び事後学習を本科目で実施する。

相談援助実習の意義について理解する。個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際的に理解し実践的な技術を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

授業の方法 (ALを含む)

グループスーパービジョンの形態を用いて行う。また実習経験の報告を行う。【グループスーパービジョン】【プレゼンテーション】

到達目標

実習を行う実習分野についての基本的な理解をし、その概要を説明することができる。相談援助に係る知識と技術について理解し、その概要を説明することができる。実習における個人のプライバシーの保護と守秘義務等の理解をし、その概要を説明することができる。実習における記録の内容、方法について理解し、適切な記録が行えるようになる。事後学習の成果として実習報告書を作成することができ、報告会で報告することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3専門的援助関係の基本的理解と形成
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

全体では主に講義やガイダンス、各グループごとにおいては、個人ワークやグループスーパービジョンの形式を用いる。

1	オリエンテーション
2	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通じた事後学習 1【グループワーク】

3	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通した事後学習2【グループワーク】
4	グループスーパービジョン：実習経験の振り返りを通した事後学習3【グループワーク】
5	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導1
6	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導2
7	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導3
8	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導4
9	グループスーパービジョン：事後学習と実習報告書作成指導5
10	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導1
11	グループスーパービジョン：実習報告会のプレゼンテーション準備と指導2
12	実習報告会の実施【プレゼンテーション】
13	実習全体の振り返り1【グループワーク】
14	実習全体の振り返り2【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習中作成した実習記録やケーススタディワークシートを見直しておくこと。（45分）

【事後学修】実習報告会の報告書やケーススタディワークシートをはじめこれまでの実習での学習を総括しそれが、今後の自分の進路においてどのような意義を持つのかを意識すること。（45分）

評価方法および評価の基準

実習後の事後報告書の提出（60％）と実習報告会での報告（20％）、本授業全体に対する最終レポート（20％）を求める。それらを総合的に評価し60点以上を合格とする

【フィードバック】課題等は返却する。発表等はコメントし学習理解を深める。実習報告書及び最終レポートは独自に作成した5段階で評定するルーブリックにより行う。実習報告会の実施はその有無自体で評価する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習における事前学習、事後学習を行う授業です。欠席をしないで受講してください。

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、片居木 英人、富井 友子、今井 伸 他		
ナンバリング	KDe477		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択,必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

担当教員は福祉領域での相談職等ソーシャルワーカーの実務経験がある。相談援助の具体的実践経験に基づいて指導することができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

社会福祉士養成課程の指定科目であり学科の専門選択科目である。。相談援助実習を通して、相談援助に係る知識と技術・価値について具体的かつ実際に理解し、実践的な技術等を体得する。社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。ソーシャルワーク論、相談援助実習指導や相談援助演習と関連する。

指定された実習施設で各自180時間以上の実習を実施する。相談援助実習指導と関連して学習を深める。実習先の実習指導者の指導を受け、職場の理解・職種の理解・利用者の理解を積み重ね、さらに実習先の関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解する。

授業の方法（ALを含む）

実習形態をとる。

到達目標

実習先での利用者や職員との円滑な人間関係を形成できる。実習中対象となった利用者への支援計画を作成することができる。実習先でのチームアプローチの実際についてとらえその概要を説明することができる。社会福祉士として要請される職業倫理について具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先の経営管理の実際状況について理解し、具体的な事例を参照して説明することができる。当該実習先とその地域の諸社会資源との関連について理解し、説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 事実や支援の効果についての実証および理解
- 4体験の意味付けと表現
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

受講生は、社会福祉士養成課程に規定され本大学と契約した実習先において、実習を行う。

- 1利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
- 2利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成【シミュレーション】
- 3利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
- 4利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護および支援（エンパワメントを含む）とその評価
- 5多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際【見学】【インタビュー】
- 6社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
- 7施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
- 8当該実習先が地域社会の中の施設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】本実習の事前指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

【事後学修】本実習の事後指導科目にあたる相談援助実習指導 に準じる。

評価方法および評価の基準

現場実習指導者が行うソ教連の実習評価票の結果に基づき行う。また実習中の学生の様子などを含め、独自に作成した5段階のループリックにより行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。学科作成によるマニュアルを授業中に配布する。

【推薦書】

早坂聡久・増田公香編『相談援助実習・相談援助実習指導』弘文堂

川廷宗之・高橋流里子・藤林慶子編著『相談援助実習』ミネルヴァ書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

社会福祉士指定科目における総合的な科目としての位置づけを持ちます。

科目名	介護総合演習		
担当教員名	二瓶 さやか、宮内 寿彦、山口 由美、人見 優子		
ナンバリング	KDe178		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つである。主として介護実習 に対応し、実習と組み合わせての学習を行う。

実習において支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくり進めるための事前学習及び事後学習を行う科目である。

科目の概要

介護実習の教育効果を上げるため、実習記録の書き方や実習のマナー、実習計画の立案方法など、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習後には実習報告会を開催する。個別の学習到達状況に応じた総合的な学習である。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 介護実習 における実習の意義について理解できる。
2. 実習前・中・後に及ぶ介護実習のプロセスを理解できる。
3. 介護実習 - 1 から介護実習 - 2 まで介護実習全体の学びを理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

1	介護実習とは何か
2	介護実習 - 1 の実習先の理解
3	介護実習の実習計画の立案方法
4	介護実習におけるマナー
5	介護実習における記録の書き方
6	介護実習 - 1 グループ指導
7	介護実習 - 1 振り返り
8	実習報告会参加
9	実習報告会参加
10	介護実習 - 2 とは何か
11	介護実習 - 2 の実習先の理解

12	介護実習 - 2 実習目標・実習計画立案
13	介護実習 - 2 に向けたグループ指導
14	介護実習 - 2 実習前報告会
15	介護実習 - 2 報告会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】実習の手引きをよく読み、自分なりに内容を整理しまとめておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業については、復習することを必須とし、実習施設の特徴や、根拠法などについて学習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提出されたレポートは翌週以降の授業内で返却する。実習に関する記録物については事前及び事後学習、教員との面談に使用し、フィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護総合演習		
担当教員名	人見 優子、宮内 寿彦、山口 由美、二瓶 さやか		
ナンバリング	KDe278		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて介護における根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つである。主として介護実習 - 1 に対応し、実習と組み合わせでの学習である。「社会福祉実践科目」の選択科目ではあるが、介護福祉士資格取得者は選択必修科目である。介護実習 -1 についての事前・事後学習を行う。

科目の概要

介護実習の教育効果を上げるため、実習記録の書き方や実習のマナー、実習計画の立案方法、実習に必要な知識や技術について学ぶ。実習後には実習報告会を開催する。個別の学習到達状況に応じた総合的な学習である。

授業の方法（ALを含む）

講義・教員別の個別指導を組み合わせで行う。【グループワーク】

到達目標

- (1) 実習施設の概要を項目毎に説明することができる。
- (2) 実習計画を作成し、学習課題を明確に表現できる。
- (3) 介護過程におけるアセスメントを理解し、実践の準備ができる

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1社会福祉に関する法や制度の基本的理解、 -2支援に関しての基本的理解

内容

1	介護総合演習 オリエンテーション 介護実習 - 1 - における実習施設の理解
2	介護実習 - 1 - のすすめ方と実習指導方法、実習記録についての理解
3	介護実習 - 1 - の個人票・実習計画書の作成（1）

4	介護実習 - 1 - の個人票・実習計画書の作成（2）
5	介護実習 - 1 - 実習計画発表会
6	介護実習 - 1 - オリエンテーション
7	介護実習 - 1 - の諸注意（実習のすすめ方・方法を再確認、実習巡回指導の目的）
8	お礼状の書き方、介護技術の確認
9	介護技術実技確認試験
10	介護実習報告会への参加
11	介護実習 - 1 - の個人票・実習計画書の作成、介護実習 - 1 - 最終の確認指導
12	介護実習 - 1 - の報告会
13	介護実習 - 1 - 実習計画の発表会
14	帰校日（介護過程の展開等の確認）
15	実習事後指導

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】「介護実習の手引」を読み、内容を整理し、まとめる。提示された課題を提出期限までに行う。（各授業に対して60分）

【事後学修】 授業については、復習することを必須とし、実習施設の特徴や根拠法などについて学習する。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】課題の達成度は、提示した課題の内容で評価する。評価基準は、授業への参加状況30%、個人票・実習計画書の作成レポート30%、実習に向かう準備状況20%、実習の振り返り状況20%により評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】全ての提出課題について定められた実習担当教員が確認し、修正指導をする。質問については、必要に応じて科目主担当が全履修学生に対して回答説明を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学作成）を使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各段階における書類の作成には学生の進度、実習状況により提出期限を設けます。事前に指示を出しますが状況により変更することもあります。必ずメモをとり、提出期限厳守を意識し、計画的にすすめてください。

科目名	介護総合演習		
担当教員名	山口 由美、宮内 寿彦、人見 優子、二瓶 さやか		
ナンバリング	KDe378		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士及び看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院等における介護を必要とする方への実務経験を生かして介護福祉士資格を有するための介護実習の目的や意義について教授する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

1.本科目は介護福祉士養成課程の指定科目領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の一つである。主に、介護実習 - 2 に対応し、実習と組み合わせての学習を行う。

また、介護総合演習 ・ 、介護実習 および介護実習 -1を単位取得した者のみが履修できる。

2.実習において、支援を必要とする人々に実践に関わるうえで留意点について学び、介護実習の目的や意義について理解し、介護実習 -1の事後学習、介護実習 -2の事前学習及び事後学習を行う。

科目の概要

内容は、大きく介護実習 - 1 - の事後学習及び介護実習 - 2 の学習に分けることができる。

介護実習 - 1 - の事後学習として、介護実習 - 1 - の実習で行った、受け持ち利用者のアセスメントを振り返る。アセスメントから抽出した生活課題をもとに、介護計画を立案する。

介護実習 - 2 の事前学習として、実習計画を立案し、実習計画発表会を行い実習に臨む。

授業の方法（ALを含む）

講義形式で実習の目的・意義等を理解する。介護実習 - 2 で行う介護計画作成を介護実習 - 1 - のアセスメントから、介護実習計画書を作成する。

実習計画書及び実習報告書はレポート形式で記載し、各自報告会で発表を行う。

【レポート】【プレゼンテーション（発表）】【意見交換】

到達目標

- 1.介護実習 - の実習の意義および目的について理解することができる。
- 2.介護の知識や技術を実践と結びつけて、実習計画を立案することができる。
- 3.介護実習のプロセスを理解し、実践を振り返ることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と倫理 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知 - 3 地域社会・福祉社会形成へ
参画する意欲

内容	
1	オリエンテーション/介護総合演習 の概要理解/介護実習 -1- の振り返り方法の理解
2	介護実習 -1- : 事後学習【レポート】
3	介護実習 -1- : 事後学習【レポート】
4	介護実習 -1- : 【レポート】【意見交換】
5	介護実習 -2 介護過程展開アセスメント【レポート】
6	介護過程展開意見交換【レポート】【意見交換】
7	介護過程展開の復習/個人調書・実習計画書の作成【レポート】
8	介護実習 - 2 の概要理解
9	個人票・実習計画書作成
10	ケーススタディの事前学習/個人調書・実習計画書の完成【レポート】
11	介護実習 -2: 実習計画書発表【レポート】【意見交換】
12	介護実習 -2: 諸注意
13	介護実習 -2: 介護技術の確認
14	介護実習 -2: 帰校日指導【アセスメントシート】
15	まとめ: 事後指導【振り返りシート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「介護実習の手引き」を読む。事前に指示された課題に取り組む。介護実習 - の実習内容について振り返り学びを深めておき課題について整理しておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】個別課題を毎回の授業時に提示する。課題については提出期限までに必ず提出できるよう各自準備し取り組むこと。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

授業への参加状況、個人調書・実習計画書の作成、実習に向かう準備状況、実習の振り返り状況により評価し総合評価60点以上を合格する。

【フィードバック】提出されたレポート等は翌週以降の授業内で返却及び冊子等にまとめて配布する。提出書類は事前及び事後指導において教員面談にも使用し、フィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】「介護実習の手引き」(十文字学園女子大学)

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

各講義の進行に応じて、実習配属に必要な資料を作成し、提出が課されます。提出書類は提出期限を厳守すること。

科目名	介護総合演習		
担当教員名	宮内 寿彦、山口 由美、人見 優子、二瓶 さやか		
ナンバリング	KDe478		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験「有」

実務経験および科目との関連性

法令上実務経験5年以上の教員が必要。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は介護福祉士養成課程の必修科目。介護総合演習 の履修・単位認定が前提となる。

全ての指定介護福祉士養成カリキュラムとの関連性がある。

科目の概要

介護実習 - 2の実習事後指導を行う。

介護福祉士養成課程の総括である、介護実習報告会の準備・運営を行う。

授業の方法（ALを含む）

演習方式。各テーマについて受講者が主体的に運営し展開する。

【グループワーク】

到達目標

個別ケーススタディを作成できる。

グループで選定した事例の報告会資料の作成とプレゼンテーションを表現できる。

個々の介護観を課題レポート（文章）で表現できる。

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。ディプロマ・ポリシーとの関係

ディプロマ・ポリシー

- 1 社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2 問題解決のための専門性と倫理
- 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

この授業は演習を基本に、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーション、ロールプレイを中心に学びを深めて

いく。

1	オリエンテーション ケーススタディ作成
2	介護実習 - 2 全体共有
3	ケーススタディ作成
4	ケーススタディ作成
5	ケーススタディ作成
6	プレゼンテーション技法
7	介護実習報告会の概要と運営【グループワーク】
8	実習報告会準備及び資料作成 【グループワーク】
9	実習報告会準備及び資料作成 【グループワーク】
10	実習報告会準備及び資料作成 【グループワーク】
11	介護実習報告会準備報告会会場設営 【グループワーク】
12	介護実習報告会
13	介護実習報告会
14	介護実習報告会
15	介護実習及び介護総合演習総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定された学習課題を事前に取り組み、わからない用語、機関名、関連法を確認すること(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業で行った学習箇所について、担当教員とわからなかった用語、機関名、関連法を確認すること(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

3つの到達目標について、実習報告会への取組(ケーススタディ30点、報告会資料20点 プレゼンテーション20点)及び最終課題レポート(30点)を総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学内作成「実習の手引」・オリジナル資料配付

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

介護福祉士養成課程の学びの総括として、個々の介護観を構築してください。

科目名	介護実習		
担当教員名	二瓶 さやか、宮内 寿彦、山口 由美、人見 優子		
ナンバリング	KDe179		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程における、「介護実習」に関する科目の1つである。

支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な専門的援助関係をつくることについて、実践的に学ぶ。生活支援を行う際は、人権を尊重を意識した実践を行う。

科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割を理解する学習とする。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

介護実習 - 1

- ・高齢者介護等に関わる在宅生活支援事業の概況を理解する。
- ・利用者と積極的にコミュニケーションを図ることができる。

介護実習 - 2

- ・特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者施設等の施設の概況と利用者の生活について理解する。
- ・入所施設における基礎的な生活支援技術を学ぶ。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

実習施設・事業 に区分される事業所での学外施設実習である

実習 - 4日間 (32時間) 1年生後期

認知症対応型共同生活介護 小規模多機能型居宅介護 デイサービスセンター等

実習 - 8日間 (64時間) 1年生後期

特別養護老人ホーム、老人保健施設、障害者支援施設等の入所施設

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】日々各自の実習課題に基づき、事前学習を行い、実習に臨む（毎日60分以上）。

【事後学修】日々の実習課題の達成を評価考察する（毎日60分以上）。

実

習反省会、実習記録等により実習全般を振り返り、振り返りを報告する。

評価方法および評価の基準

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価などにより、総合的に評価する。

総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習先での反省会、実習担当教員との個別面談・グループワーク、実習報告会などを通してフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】学内作成「実習の手引き」及びオリジナル資料配布

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護実習 -1		
担当教員名	人見 優子、宮内 寿彦、山口 由美、二瓶 さやか		
ナンバリング	KDe379		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて介護における根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程のカリキュラムにおける、領域「介護」の「介護総合演習」に関する科目の1つで選択必修科目である。主として介護総合演習 に対応し、実習事前事後指導と組み合わせての学習である。支援を必要とする人々に対し、コミュニケーションの重要性を理解し、基本的な支援方法について実習で実践的に学ぶための科目である。

科目の概要

介護実習 -1- : 居宅でくらす利用者の生活状況および訪問介護の実際を知る。利用者及び家族とのかかわりを通じたコミュニケーションの実践を学ぶ。

介護実習 -1- : 施設で生活する利用者の介護過程における生活課題抽出までを行う。

授業の方法（ALを含む）

講義形式で習得した知識や技術を訪問事業所や入所施設で見学・実践から学ぶ実習である。【実習】

到達目標

- (1) コミュニケーション能力の向上につとめ、利用者及び職員と人間関係を築くことができる。
- (2) 様々な介護現場における多職種協働について具体的な例を示し説明ができる。
- (3) 利用者の個別の状況に応じた日常生活支援技術を実践できる。
- (4) 一人の受け持ち利用者に関するアセスメントをし、生活課題を抽出できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

-2支援に関しての基本的理解

内容

1 介護実習 -1- は訪問介護事業所等での学外実習である。12月に訪問介護事業所等で、3日間（24時間）の介護実習を行う。

2 介護実習 -1- は入所施設での学外実習である。2～3月に介護老人福祉施設、介護老人保健施設等の入所施設で、20日間（160時間）の介護実習を行う。

- 3 本学習目標、実習計画書、実習先の状況を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定し、介護実習を行う。
- 4 介護実習 -1- の実習についてはおおよそ下記のスケジュールを目安とする。ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。
 - ・1週目の後半にアセスメント対象者を決定する（利用者が決定している場合は、利用者に関わりながら情報収集を行う）。
 - ・2週目は、利用者に関わりながら情報収集を行う。
 - ・3週目は、情報の分析・解釈・統合、判断を行い、3週目の終わりには大まかでもよいので、生活課題を抽出できる
 - ・4週目は、介護計画の実施及び評価を行う 反省会を学生主体で行う。
- 5 実習時間、並びに実習記録の提出時間や提出場所を厳守する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】各自の実習課題に基づき、事前学習を行い、実習準備を行う（毎日60分以上）

【事後学習】実習課題の達成状況を評価考察し、翌日の実習課題を立案する。最終的には実習目標や実習課題について考察・評価する。（毎日60分以上）

評価方法および評価の基準

【評価】実習中の学習姿勢、実習記録の内容、本学習目標の到達度、個人の実習計画の到達度等について、実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえて評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習記録や実習課題は適時実習担当教員が確認し修正指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成の「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）を使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習を通して施設や在宅でのくらし、介護の実際を学びましょう。

科目名	介護実習 -2		
担当教員名	山口 由美、宮内 寿彦、人見 優子、二瓶 さやか		
ナンバリング	KDe479		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

介護福祉士や看護師資格を有する教員が、福祉施設や病院における介護を必要とする方への実務経験を活かし、介護福祉士指定科目である介護実習の目的及び意義について指導する

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程の指定科目である。支援を必要とする人々に対する支援方法について理解し、介護総合演習 で立案した実習計画の実習目標を達成するように、実習施設において実習を通して実践的に学ぶ

科目の概要

1. 利用者の介護計画の作成、実施後の評価・計画の修正といった一連の介護過程を実践する。
2. 入所施設で23日間の介護実習を行う。
3. 原則として、夜勤実習等の変則勤務を経験する。

授業の方法 (ALを含む)

毎日の実習は、実習計画の内容をもとに、目標を立て実習に臨む。実習は目標を具体的にどのように実施したのか、実施したことと知識を結び付け、どのように考えたのか、また、疑問をもったのかを根拠に基づいて記述する。受け持ち利用者を担当させていただき、介護計画を立案、実施まで行う。実習巡回時や実習反省会において、実習における学びを発表し、助言や意見交換を行うことで、実習をより深く理解し、今後の課題を明らかにする。

【日々の実習記録】【介護過程の記録】【ディスカッション】【プレゼンテーション】

到達目標

1. 利用者個別の状況に応じたコミュニケーション技術や生活支援技術の方法を理解できる
2. 利用者一人の介護過程の展開を通して、介護過程の展開方法を理解できる。
3. 社会福祉施設・機関の役割及びチームケアのあり方、介護福祉士の職務内容・役割を理解する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と論理
- 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

1.介護実習施設・事業所に区分される施設・事業所における施設実習である。

8～9月に、介護老人福祉施設や介護老人保健施設で、23日間（184時間）の介護実習を行う

2.本学習目標、個人の実習計画書、実習先のプログラム等を踏まえ、各自で毎日の実習目標を設定し実習を行う。

3.介護過程の展開については、下記を目安とする。

ただし、実習施設の実習指導者や実習巡回担当教員に相談しながら進める。

- ・ 1週目後半：介護過程を展開する利用者を決定する。既に利用者が決定している場合は、利用者に関わりながらアセスメントを行う。
- ・ 2週目：利用者に関わりながらアセスメントを行う
- ・ 3～4週目：アセスメント 介護計画の立案 実施を行う
- ・ 4～5週目：介護計画の実施・評価を行う

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】学生が作成した実習計画書に沿った事前学習、介護過程の復習を行う。介護過程のポイントは「楽しく学ぶ介護過程」のテキストで復習すること（実習日に対して60分）

【事後学修】実習反省会、日々の実習記録等により実習を振り返り、実習のまとめを行う。（実習日に対して60分）

評価方法および評価の基準

実習状況・取り組み、実習記録（提出状況・記載内容）、本学習目標の到達度、個人の実習計画の達成度等について、実習施設の評価及び担当教員の評価を踏まえ評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習記録、実習先での反省会、実習担当教員との面談、実習報告会等を通してフィードバックを行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「介護実習の手引き」（十文字学園女子大学）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

日々の実習記録は、毎朝実習施設に提出します。提出ができない場合は、実習を中止する場合がありますので、注意してください。

科目名	保育実践演習		
担当教員名	亀崎 美沙子、伊藤 陽一、矢野 景子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe380		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

実務経験（保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等）のある教員が、科目の目標を踏まえ、実習体験とこれまでの学びを統合する指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、系列【総合演習】に位置づく科目である。

原則として、保育実習 または を履修済みであることが必要である。これまでの学習で学んできた知識と、3回の保育実習で得た知識や技能を結びつけて、保育士として必要な実践力を育成すると共に、理論と実践の統合を目指す。

科目の概要

保育士の役割、職務内容、児童と保護者に対する支援について、これまでの講義と実習体験を基にグループ学習や討論、ロールプレイ、プレゼンテーション等を行い、学習成果をまとめる。保育実習報告、研究発表会を行い、実習前の下級生との交流を行うことで、新たな気づきを得ることも目指す。必修科目（保育実践演習を除く）及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、まとめる。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、グループワークによるディスカッション、及び発表に向けた準備を行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

到達目標 1：保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り、言語化することができる。

到達目標 2：保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得することができている。

到達目標 3：自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせ、プレゼンテーションを通して他者に説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援に関する基本的理解
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 4 体験の意味づけと表現

内容

1	オリエンテーションとグループ編成 【講義】【グループワーク】
2	実習課題の振り返り・共有化【グループワーク】【討議】
3	保育職としての課題の明確化 保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理 【グループワーク】【討議】
4	保育職としての課題の明確化 社会性、対人関係能力 【グループワーク】【討議】
5	保育職としての課題の明確化 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携 【グループワーク】【討議】
6	保育職としての課題の明確化 保育や子育て家庭に対する支援の展開 【グループワーク】【討議】
7	保育職としての課題の明確化 子ども理解 特別な支援を必要とする子どもとの関わり【グループワーク】【討議】
8	保育職としての課題の明確化 保護者支援 【事例検討とグループディスカッション】
9	実習の振り返りと課題研究に向けた事前準備 課題整理【グループワーク】
10	実習の振り返りと課題研究に向けた事前準備 まとめと発表資料作成【グループワーク】
11	保育に関する現代的課題の分析に基づく探究研究 発表【プレゼンテーション】
12	保育に関する現代的課題の分析に基づく探究研究 質疑応答【プレゼンテーション】
13	保育に関する現代的課題の分析に基づく探究研究 異学年交流【プレゼンテーション】
14	自己課題の整理【グループディスカッション】
15	まとめ【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】次週の課題に関わる事例について調べ、グループワーク・討論の準備をする。(各授業に対して60分)
- 【事後学修】クラス内で学んだ事例について、関連する本を読み理解を深める。保育指導案の作成、実技の練習等、実践力を高める努力も行うこと。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

到達目標の達成方法:各授業回の課題への取り組み(30%)【ディスカッション・レポート(表現)】、研究発表会の準備と発表(30%)【プレゼンテーション】、レポート(【レポート(表現)】40%)とし、60点以上を合格とする。

到達目標1.課題提出(10%/30%)、研究発表会の準備と発表(10%/30%)、レポート(10%/40%)

到達目標2.課題提出(10%/30%)、研究発表会の準備と発表(10%/30%)、レポート(10%/40%)

到達目標3.課題提出(10%/30%)、研究発表会の準備と発表(10%/30%)、レポート(20%/40%)

【フィードバック】研究発表の内容や資料について、その都度、口頭でフィードバックし、次回に活かせるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】各担当教員より適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、研究発表会に出席し、実習成果の報告をすることで単位を認定する。

科目名	保育実践演習		
担当教員名	伊藤 陽一、亀崎 美沙子、矢野 景子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe380		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

実務経験（保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等）のある教員が、科目の目標を踏まえ、実習体験とこれまでの学びを統合する指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、保育士養成課程の必須科目である。原則として、保育実習 または を履修済みであることが必要である。これまでの学習で学んできた知識と、3回の保育実習で得た知識や技能を結びつけて、保育士として必要な実践力を育成すると共に、理論と実践の統合を目指す。

科目の概要

保育士の役割、職務内容、児童と保護者に対する支援について、これまでの講義と実習体験を基にグループ学習や討論、ロールプレイ、プレゼンテーション等を行い、学習成果をまとめる。保育実習報告、研究発表会を行い、実習前の下級生との交流を行うことで、新たな気づきを得ることも目指す。必修科目（保育実践演習を除く）及び選択科目の履修状況を踏まえ、自らの学びを振り返り、まとめる。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、グループワークによるディスカッション、及び発表に向けた準備を行う。【グループワーク】【討議・討論】【プレゼンテーション】

到達目標

到達目標 1：保育士として必要な保育に関する専門的知識及び技術、幅広く深い教養及び総合的な判断力、専門職としての倫理観等が習得、形成されたか、自らの学びを振り返り、言語化することができる。

到達目標 2：保育実習等を通じた自らの体験や収集した情報に基づき、保育に関する現代的課題についての現状を分析し、その課題への対応として保育士、保育の現場、地域、社会に求められることは何か、多様な視点から考察する力を習得することができている。

到達目標 3：自己の課題を明確化し、保育の実践に際して必要となる基礎的な資質・能力の定着をさせ、プレゼンテーションを通して他者に説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 支援に関しての基本的理解

- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 4 体験の意味づけと表現

内容

1	オリエンテーションとグループ編成 【講義】【グループワーク】
2	実習課題の振り返り・共有化【グループワーク】【討議】
3	保育職としての課題の明確化 保育士の意義や役割、職務内容、子どもに対する責任、倫理 【グループワーク】【討議】
4	保育職としての課題の明確化 社会性、対人関係能力 【グループワーク】【討議】
5	保育職としての課題の明確化 子どもやその家庭の理解、職員間の連携、関係機関との連携 【グループワーク】【討議】
6	保育職としての課題の明確化 保育や子育て家庭に対する支援の展開 【グループワーク】【討議】
7	保育職としての課題の明確化 子ども理解 特別な支援を必要とする子どもとの関わり【グループワーク】【討議】
8	保育職としての課題の明確化 保護者支援 【事例検討とグループディスカッション】
9	実習の振り返りと課題研究に向けた事前準備 課題整理【グループワーク】
10	実習の振り返りと課題研究に向けた事前準備 まとめと発表資料作成【グループワーク】
11	保育に関する現代的課題の分析に基づく探究研究 発表【プレゼンテーション】
12	保育に関する現代的課題の分析に基づく探究研究 質疑応答【プレゼンテーション】
13	保育に関する現代的課題の分析に基づく探究研究 異学年交流【プレゼンテーション】
14	自己課題の整理【グループディスカッション】
15	まとめ【プレゼンテーション】【レポート(表現)】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】次週の課題に関わる事例について調べ、グループワーク・討論の準備をする。(各授業に対して60分)
- 【事後学修】クラス内で学んだ事例について、関連する本を読み理解を深める。保育指導案の作成、実技の練習等、実践力を高める努力も行うこと。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

到達目標の評価方法

各授業回の課題への取り組み(30%)、研究発表会の準備と発表(30%)、レポート(40%)とし、60点以上を合格とする。

到達目標1.課題提出(10%/30%)、研究発表会の準備と発表(10%/30%)、レポート(10%/40%)

到達目標2.課題提出(10%/30%)、研究発表会の準備と発表(10%/30%)、レポート(10%/40%)

到達目標3.課題提出(10%/30%)、研究発表会の準備と発表(10%/30%)、レポート(20%/40%)

【フィードバック】研究発表の内容や資料について、その都度、口頭でフィードバックし、次回に活かせるようにする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】各担当教員より適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、研究発表会に出席し、実習成果の報告をすることで単位を認定する。

科目名	保育実習 A (保育所実習)		
担当教員名	野田 日出子、亀崎 美沙子、伊藤 陽一、矢野 景子		
ナンバリング	KDe281		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有 (全教員)

実務経験および科目との関連性

保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等における実務経験をもつ教員が担当し、実習先において直接、実践にかかわる指導を行う。また、実習先保育所の保育士より、日々の実習において子ども理解や援助、記録の作成等に関する指導を受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における社会福祉実践科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上 (概ね12日間) の実習を行い、子どもの発達を学ぶため、全ての年齢のクラスで実習を体験する。

実習においては、保育に参加するだけでなく、保育士業務全般を体験し、日々その日の実習日誌を作成する。これらの体験を通して、保育の実際を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていく。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は保育所での実習を行うとともに、日々の実習日誌の作成および保育の一部分を担当し実践することを通して、保育士として必要な実践力を身につける。

【実習】【レポート (表現)】

到達目標

1. 保育所の社会的役割や機能、保育士業務について理解し、子どもと適切にかかわることができる。
2. 観察やかかわりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。
3. 自らの保育を評価・省察し、改善するとともに、自己課題を理解し説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1: 問題解決のための専門性と倫理
- 2: 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3: 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

本科目では、保育所における実習を通して、実際に子どもとかかわりながら、保育所の役割や職務内容について理解を深めていく。また、部分的な保育を担当し、保育実践に関する学びを深めていく。

1	保育所の生活と一日の流れを理解し、参加する【実習】【レポート(表現)】
2	保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解する【実習】【レポート(表現)】
3	保育所保育指針の内容と、実際の保育の展開について理解する【実習】【レポート(表現)】
4	子どもの観察や記録、直接的かかわりを通して、乳幼児の発達を理解する【実習】【レポート(表現)】
5	子どもの発達過程に応じた保育内容について理解する【実習】【レポート(表現)】
6	保育課程、指導計画について理解する【実習】【レポート(表現)】
7	生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する【実習】【レポート(表現)】
8	職員間の役割分担と連携について理解する【実習】【レポート(表現)】
9	子どもの安全管理及び疾病予防への配慮について学ぶ【実習】【レポート(表現)】
10	家庭との連携や保護者支援について学ぶ【実習】【レポート(表現)】
11	実習の総括と自己評価【実習】【レポート(表現)】
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「保育実習指導」内での指導内容や、実習先から指定された事前準備を行うこと。各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。(各回60分)

【事後学習】実習終了後、実習全体を振り返り、最終レポートを作成する(60分)。事後面談、実習評価票をもとに実習内容を振り返り課題を明確化する(120分)。

評価方法および評価の基準

実習園の評価(60%)、課題提出(30%)、最終レポート(10%)により総合的に評価し、とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 園の評価(20%/60%)、課題提出(5%/30%)、最終レポート(5%/10%)

到達目標2. 園の評価(20%/60%)、課題提出(20%/30%)

到達目標3. 園の評価(20%/60%)、課題提出(5%/30%)、最終レポート(5%/10%)

【フィードバック】実習終了後、個別面談実施し実習評価を通知する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

その他、「保育実習指導」のテキストを使用する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に参加するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

「保育実習指導」を履修済であること

「実習の手引き」に示す実習参加要件を満たしていること

「実習報告会」に出席すること

科目名	保育実習 A (保育所実習)		
担当教員名	野田 日出子、亀崎 美沙子、伊藤 陽一、矢野 景子		
ナンバリング	KDe281		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有 (全教員)

実務経験および科目との関連性

保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等における実務経験をもつ教員が担当し、実習先において直接、実践にかかわる指導を行う。また、実習先保育所の保育士より、日々の実習において子ども理解や援助、記録の作成等に関する指導を受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における社会福祉実践科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上 (概ね12日間) の実習を行い、子どもの発達を学ぶため、全ての年齢のクラスで実習を体験する。

実習においては、保育に参加するだけでなく、保育士業務全般を体験し、日々その日の実習日誌を作成する。これらの体験を通して、保育の実際を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていく。

授業の方法 (ALを含む)

本科目は保育所での実習を行うとともに、日々の実習日誌の作成および保育の一部分を担当し実践することを通して、保育士として必要な実践力を身につける。

【実習】【レポート (表現)】

到達目標

1. 保育所の社会的役割や機能、保育士業務について理解し、子どもと適切にかかわることができる。
2. 観察やかかわりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。
3. 自らの保育を評価・省察し、改善するとともに、自己課題を理解し説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1: 問題解決のための専門性と倫理
- 2: 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3: 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

本科目では、保育所における実習を通して、実際に子どもとかかわりながら、保育所の役割や職務内容について理解を深めていく。また、部分的な保育を担当し、保育実践に関する学びを深めていく。

1	保育所の生活と一日の流れを理解し、参加する【実習】【レポート（表現）】
2	保育士の役割や業務内容、職業倫理について理解する【実習】【レポート（表現）】
3	保育所保育指針の内容と、実際の保育の展開について理解する【実習】【レポート（表現）】
4	子どもの観察や記録、直接的かかわりを通して、乳幼児の発達を理解する【実習】【レポート（表現）】
5	子どもの発達過程に応じた保育内容について理解する【実習】【レポート（表現）】
6	保育課程、指導計画について理解する【実習】【レポート（表現）】
7	生活や遊びなどの一部分を担当し、保育技術を習得する【実習】【レポート（表現）】
8	職員間の役割分担と連携について理解する【実習】【レポート（表現）】
9	子どもの安全管理及び疾病予防への配慮について学ぶ【実習】【レポート（表現）】
10	家庭との連携や保護者支援について学ぶ【実習】【レポート（表現）】
11	実習の総括と自己評価【実習】【レポート（表現）】
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「保育実習指導」内での指導内容や、実習先から指定された事前準備を行うこと。各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。（各回60分）

【事後学修】実習終了後、実習全体を振り返り、最終レポートを作成する（60分）。事後面談、実習評価票をもとに実習内容を振り返り課題を明確化する（120分）。

評価方法および評価の基準

実習園の評価（60％）、課題提出（30％）、最終レポート（10％）により総合的に評価し、とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 園の評価（20％/60％）、課題提出（5％/30％）、最終レポート（5％/10％）

到達目標2. 園の評価（20％/60％）、課題提出（20％/30％）

到達目標3. 園の評価（20％/60％）、課題提出（5％/30％）、最終レポート（5％/10％）

【フィードバック】実習終了後、個別面談実施し実習評価を通知する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』

その他、「保育実習指導」のテキストを使用する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に参加するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

「保育実習指導」を履修していること

「実習の手引き」に示す条件を満たしていること

「実習報告会」に出席すること

科目名	保育実習 B（施設実習）		
担当教員名	伊藤 陽一、亀崎 美沙子、矢野 景子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe381		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有（全教員）

実務経験および科目との関連性

保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等における実務経験をもつ教員が担当し、実習巡回時に実習先において実践にかかわる指導を行う。また、施設等における保育士より、日々の実習においての子ども・利用者の理解や援助 生活支援の技術等 記録の作成等に関する指導を受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

保育士資格取得のための必修科目であり、系列【保育実習】に位置づけられる。

実習に参加するためには「保育実習指導」を履修済みであることが必要である。

実習後には事後指導を受けて振り返りを行い、児童福祉施設等における保育士の役割と専門性について考えを深め、保育実習・に向けて課題を明確化する。

科目の概要

保育所以外の児童福祉施設・障害者支援施設等の社会福祉施設において、90時間以上の実習を行い、児童福祉施設の役割・機能と、児童福祉施設等の利用者への理解を深める。保育士の業務内容や、利用者との関わり方、子どもの最善の利益を確保する取り組みを、日々の生活を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、講義・グループによるディスカッションを中心として実習に向けた準備を行う。【講義】

【グループワーク】【実習】【レポート(表現)】

到達目標

到達目標1.児童福祉施設等の役割や機能及び施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について説明することができる。

到達目標2.観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども・利用者への関わり方の基本や生活支援を習得し、事例を通して専門者の関わりを説明することができる。

到達目標3.保育・養護の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、実践による技術・表現力を習得し、事例を通して、専門者の役割を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と倫理
- 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

実習内容は以下の通りである。その他については施設の種類や対象年齢、施設の方針等によって異なる。

1	実習施設の目的と概要、役割と機能を理解する。【実習】【レポート(表現)】
2	施設における一日の流れや日常生活全般の流れを理解する。【実習】【レポート(表現)】
3	集団生活の中での基本的な生活習慣(食事、排泄、入浴、着替え等)を個々に応じて支援する。【実習】【レポート(表現)】
4	子ども及び利用者の特性を理解した支援内容について理解する。【実習】【レポート(表現)】
5	子ども及び利用者の活動を理解し、実践的に学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
6	子ども及び利用者の安全管理や疾病に対する配慮を学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
7	施設における専門職としての保育士の業務内容について学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
8	施設における職員間の役割分担や連携について学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
9	子ども及び利用者の人権と最善の利益の考慮について理解する。【実習】【レポート(表現)】
10	記録に基づく省察・自己評価を行う。【実習】【レポート(表現)】
11	実習の総括と自己評価【実習】【レポート(表現)】
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】実習施設にオリエンテーションに伺い、事前に作成した実習課題が適切であるか確認し、施設概要等について不明な点がある場合には調べる(各授業につき60分)。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する(60分)。実習評価票を基に事後面談を行い、実習についての課題を明らかにし、次回の実習に役立てる(120分)。

評価方法および評価の基準

到達目標1. 実習先からの評価(20%/60%) 実習日誌(10%/30%)

到達目標2. 実習先からの評価(20%/60%) 実習日誌(10%/30%) 最終レポート(5%/10%)

到達目標3. 実習先からの評価(20%/60%) 実習日誌(10%/30%) 最終レポート(5%/10%)

総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習評価は、実習終了後に個別面談にて通知する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

保育実習の手引き

保育実習指導 のテキストを使用する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に参加するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

「保育実習指導」を履修済みであること

「実習の手引き」に示す実習参加要件を満たしていること

研究発表会に参加することをもって、単位認定の条件とする。

科目名	保育実習 B（施設実習）		
担当教員名	伊藤 陽一、亀崎 美沙子、矢野 景子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe381		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有（全教員）

実務経験および科目との関連性

保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等における実務経験をもつ教員が担当し、実習巡回時に実習先において実践にかかわる指導を行う。また、施設等における保育士により、日々の実習における子ども・利用者の理解や援助 生活支援の技術等 記録の作成等に関する指導を受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は保育士資格取得のための必修科目であり、系列【保育実習】に位置づく科目である。

実習に参加するためには「保育実習指導」を履修済みであることが必要である。

実習後には事後指導を受けて振り返りを行い、児童福祉施設等における保育士の役割と専門性について考えを深め、保育実習・ に向けて課題を明確化する。本学科のディプロマポリシーの「知識・理解・技能・表現」「思考・判断」に深くかかわる科目である。

科目の概要

保育所以外の児童福祉施設・障害者支援施設等の社会福祉施設において、90時間以上の実習を行い、児童福祉施設の役割・機能と、児童福祉施設等の利用者への理解を深める。保育士の業務内容や、利用者との関わり方、子どもの最善の利益を確保する取り組みを、日々の生活を通して学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

【実習】【レポート(表現)】

到達目標

到達目標1.児童福祉施設等の役割や機能及び施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について説明することができる。

到達目標2.観察や子ども・利用者との関わりを通して、子ども・利用者への関わり方の基本と生活支援を習得し、事例を通して専門者の関わりを説明することができる。

到達目標3.計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解し、実践による技術・表現力を習得し、事例を通して専門者の役割を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は人間福祉学科のディプロマポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2援助・支援に関する理論の基本的理解

内容	
1	実習施設の目的と概要、役割と機能を理解する。【実習】
2	施設における一日の流れや日常生活全般の流れを理解する。【実習】
3	集団生活の中での基本的な生活習慣（食事、排泄、入浴、着替え等）を個々に応じて支援する。【実習】
4	子ども及び利用者の特性を理解した支援内容について学ぶ。【実習】
5	子ども及び利用者の活動を理解し、実践的に学ぶ。【実習】
6	子ども及び利用者の安全管理や疾病に対する配慮を学ぶ。【実習】
7	施設における専門職としての保育士の業務内容について学ぶ。【実習】
8	施設における職員間の役割分担や連携について学ぶ。【実習】
9	子ども及び利用者の人権と最善の利益の考慮について理解する。【実習】
10	記録に基づく省察・自己評価を行う。【実習】
11	実習の総括と自己評価【実習】【レポート】
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】実習施設にオリエンテーションに伺い、事前に作成した実習課題が適切であるか確認し、施設概要等について不明な点がある場合には調べる（各授業につき60分）。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する（60分）。実習評価票を基に事後面談を行い、実習についての課題を明らかにし、次回の実習に役立てる（120分）。

評価方法および評価の基準

到達目標1. 実習先からの評価（20%/60%） 実習日誌（10%/30%）

到達目標2. 実習先からの評価（20%/60%） 実習日誌（10%/30%） 最終レポート（5%/10%）

到達目標3. 実習先からの評価（20%/60%） 実習日誌（10%/30%） 最終レポート（5%/10%）

総合的に評価し、60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習終了後の個別面談にて実習評価を通知する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

保育実習の手引き

保育実習指導 のテキストを使用する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に参加するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

「保育実習指導」を履修済みであること

「実習の手引き」に示す実習参加要件を満たしていること

研究発表会に参加することをもって、単位認定の条件とする。

科目名	保育実習指導		
担当教員名	矢野 景子、野田 日出子、伊藤 陽一、亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDe282		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有（全教員）

実務経験および科目との関連性

実務経験（保育所、児童養護施設、地域子育て支援施設等）のある教員が、実習における日々の記録・日誌の作成、実習生としての心構えや保育士の役割、子ども理解や援助等について事前指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習 A」ならびに「保育実習 B」の実習事前・事後指導を目的とするものである。

科目の概要：実習の目的・内容ならびに実習先施設の機能や役割、職員の職務内容を理解し、実習課題を明確化するとともに、実習に必要な知識・態度・技術を身につける。

あわせて、実習のねらいの達成に向けて、グループワークによるディスカッションや課題の共有、面談等を行う。

授業の方法（ALを含む）：本科目では、講義による解説や、演習による実習日誌・記録作成、グループによるディスカッションを取り入れた授業等を行う。【講義】【演習】【グループワーク】【レポート（表現）】【レポート（知識）】【製作】【実習】【ケースメソッド】

到達目標

1. 保育実習に必要な心構えや知識、技術を身につけ、実習に応用することができる。
2. 実習施設の社会的役割や機能、職員の職務内容について理解するとともに、自己課題を明確化し、表現することができる。
3. 実習に対する振り返りを通して、自己の実践力や保育士としての課題を理解し、今後の学習目標を設定することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係：この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2：支援に関する基本的理解
- 4：体験の意味付けと表現
- 3：地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

第1回：オリエンテーション、第2回：保育所実習の内容理解

第3回：施設実習の意義と目標、第4回：保育所保育指針の理解

第5回：実習生に求められるもの

第6回：保育所の実習日誌の書き方 記録の意義と形式【レポート（知識）】

第7回：施設の種類と概要 乳児院／児童養護施設等での援助・実践の理解【レポート（知識）】

- 第8回：保育実習の心がまえと実習目標【レポート（知識）】
- 第9回：施設の種類と概要 児童養護施設での援助・実践の理解【レポート（知識）】
- 第10回：施設の種類と概要 障害者支援施設での援助・実践の理解【レポート（知識）】
- 第11回：保育所の実習日誌の書き方 エピソード記録【レポート（知識）】
- 第12回：保育所の実習日誌の書き方 時系列記録【レポート（知識）】
- 第13回：実習課題の整理（施設）【グループワーク】
- 第14回：子ども理解と援助【グループワーク】
- 第15回：施設の記録作成 記録の意義と形式【レポート（知識）】、第16回：施設の記録作成 エピソード記録【レポート（知識）】
- 第17回：体験実習（保育所）【実習】【レポート（表現）】【レポート（知識）】
- 第18回：体験実習（施設）【実習】【レポート（表現）】【レポート（知識）】
- 第19回：ゲストスピーカー特別講義（施設）【レポート（表現）】、第20回：ゲストスピーカー特別講義（保育所）【グループワーク】【レポート（表現）】
- 第21回：実習内容の理解 保育所【グループワーク】
- 第22回：実習内容の理解 施設【グループワーク】
- 第23回：実習内容の理解 異学年交流による学び合い【グループワーク】【レポート（表現）】
- 第24回：実習オリエンテーションガイダンス（保育所）、第25回：実習オリエンテーションガイダンス（施設）
- 第26回：実習生としての心構え、教材研究【グループワーク】【製作】
- 第27回：実習計画の作成 保育所、第28回：実習計画の作成 施設
- 第29回：自己課題の設定（保育所）（施設）
- 第30回：実習の総括

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

1～30回【事前準備】各回で取り扱うテキスト・保育所保育指針・実習の手引きの該当所を事前に読んでくること。また、指定された書類・レポートを作成してくること。（各回60分）

【事後学修】実際の実習場面を想定して、実習生としての対応についてまとめる、あるいは、授業内で取り扱ったエピソードをもとに、実習記録を作成すること。（各回60分）

17～18回【事後学修】実際の体験実習に基いた記録・日誌を作成する。（各回120分）

26回 【事前準備】各自で、教材製作に関する調べ学習を行う。（60分）実際に製作をする。（180分）

評価方法および評価の基準

各回の提出課題70%、体験実習20%、製作10%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：各回の提出課題（40%/70%）製作（10%/70%）

到達目標2：各回の提出課題（20%/70%）体験実習（20%/20%）

到達目標3：各回の提出課題（10%/70%）

フィードバック：実習計画、提出書類等の評価をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 実習の手引き、厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館、長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・話せる・使える 保育のマナーと言葉』わかば社、長島和代編『これだけは知っておきたい わかる・書ける・使える 保育の基本用語』、守巧・小櫃智子『施設実習パーフェクトガイド』わかば社 その他、授業内で適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

・保育実習を希望する場合には、必ず履修しなければならない。なお、本科目の履修にあたっては、「実習の手引き」に示す指定科目の単位を修得済みであることを原則とする。また、保育実践演習の研究発表会に参加し、グループディスカッション等に参加することも単位認定の要件とする。

科目名	保育実習（保育所実習）		
担当教員名	亀崎 美沙子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe383		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援の実践経験を有する教員により、事前学習として、指導計画の作成及び実践に関する指導、地域の子育て親子への支援方法について指導を行う。また、実習先では、現職保育士より、保育および子育て支援に関する指導を受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における社会福祉実践科目であり、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行い、子どもの発達を学ぶため、全ての年齢のクラスで実習を体験する。

実習においては、保育に参加するだけでなく、保育士業務全般を体験し、日々その日の実習日誌を作成する。これらの体験を通して、保育の実際を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていく。

授業の方法（ALを含む）

本科目は保育所での実習を行うとともに、日々の実習日誌の作成、指導計画の作成および実践を通して、保育士として必要な実践力を身につける。【実習】【レポート（表現）】【実技】

到達目標

- 1．保育所の社会的役割や機能、保育士業務について理解し、子どもと適切にかかわることができる。
- 2．観察やかかわりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。
- 3．子ども理解にもとづき、指導計画を作成し、子どもの発達や興味関心に即した保育を行うことができる。
- 4．自らの保育を評価・省察し、改善するとともに、自己課題を理解し説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：問題解決のための専門性と倫理
- 2：専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3：地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

本科目では、保育所における実習を通して、保育所の役割や保育士の職務の理解を深めるとともに、保育の計画・実践・

評価を実際に体験し、学びを深めていく。

1	保育全般に参加し、保育技術を習得する。【実習】【レポート(表現)】
2	子どもの個人差について理解し、一人ひとりに応じた援助の方法を学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
3	指導計画を立案し、実際に実践する。【実習】【レポート(表現)】【実技】
4	家庭とのコミュニケーションや具体的な支援の方法について学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
5	地域の子育て家庭に対する支援の方法を学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
6	子どもの最善の利益を配慮した保育の展開方法を学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
7	保育士の職業倫理について学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
8	日々の省察を通して、保育士としての資質・能力・技術等に関する自己課題を明確化する【実習】【レポート(表現)】
9	実習全体を振り返り、自己評価を行う。【実習】【レポート(表現)】
10	
11	
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。また、「保育実習 A」の自己課題を踏まえ、必要な事前学習を行うこと。(全300分)。

【事後学修】実習全体を振り返り、実習レポートを作成する(120分)。また、日誌、実習評価票、事後面談を踏まえ、自己課題を明らかにする。(240分)

評価方法および評価の基準

実習園の評価(60%)、課題提出(30%)、最終レポート(10%)により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 園の評価(15%/60%)、最終レポート(5%/10%)

到達目標2. 園の評価(15%/60%)、課題提出(20%/30%)

到達目標3. 園の評価(15%/60%)、課題提出(10%/30%)

到達目標4. 園の評価(15%/60%)、最終レポート(5%/10%)

【フィードバック】実習終了後、個別面談を実施し、実習評価を通知する

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

「保育実習指導」の使用テキスト

その他、授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に参加するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

「保育実習指導」の単位を修得済みであること

「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していること

「保育実習指導」を履修していること

「実習の手引き」に示す実習参加要件を満たしていること

科目名	保育実習（保育所実習）		
担当教員名	亀崎 美沙子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe383		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

地域子育て支援の実践経験を有する教員により、事前学習として、指導計画の作成及び実践に関する指導、地域の子育て親子への支援方法について指導を行う。また、実習先では、現職保育士より、保育および子育て支援に関する指導を受ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における社会福祉実践科目である。また、保育士資格取得のための必修科目である。

科目の概要

認可保育所において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行い、子どもの発達を学ぶため、全ての年齢のクラスで実習を体験する。

実習においては、保育に参加するだけでなく、保育士業務全般を体験し、日々その日の実習日誌を作成する。これらの体験を通して、保育の実際を学ぶとともに、保育士としての自己課題を明らかにし、その後の学習につなげていく。

授業の方法（ALを含む）

本科目は保育所での実習を行うとともに、日々の実習日誌の作成、指導計画の作成および実践を通して、保育士として必要な実践力を身につける。【実習】【レポート（表現）】【実技】

到達目標

- 1．保育所の社会的役割や機能、保育士業務について理解し、子どもと適切にかかわることができる。
- 2．観察やかかわりを通して子ども理解を深め、適切に記録を作成することができる。
- 3．子ども理解にもとづき、指導計画を作成し、子どもの発達や興味関心に即した保育を行うことができる。
- 4．自らの保育を評価・省察し、改善するとともに、自己課題を理解し説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：問題解決のための専門性と倫理
- 2：専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3：地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

本科目では、保育所における実習を通して、保育所の役割や保育士の職務の理解を深めるとともに、保育の計画・実践・

評価を実際に体験し、学びを深めていく。

1	保育全般に参加し、保育技術を習得する。【実習】【レポート(表現)】
2	子どもの個人差について理解し、一人ひとりに応じた援助の理解する。【実習】【レポート(表現)】
3	指導計画を立案し、実際に実践する【実習】【レポート(表現)】【実技】
4	家庭とのコミュニケーションや具体的な支援の方法について学ぶ【実習】【レポート(表現)】
5	地域の子育て家庭に対する支援の方法を学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
6	子どもの最善の利益を考慮した保育の展開方法を学ぶ。【実習】【レポート(表現)】
7	保育士の職業倫理について学ぶ・【実習】【レポート(表現)】
8	日々の省察を通して、保育士としての資質・能力・技術等に関する自己課題を明確化する【実習】【レポート(表現)】
9	実習全体を振り返り、自己評価を行う。【実習】【レポート(表現)】
10	
11	
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各実習先の概要、保育内容等について調べ、各園の特色に応じて必要な知識を習得すること。また、「保育実習 A」の自己課題を踏まえ、必要な事前学習を行うこと。(全300分)。

【事後学修】実習全体を振り返り、実習レポートを作成する(120分)。また、日誌、実習評価票、事後面談を踏まえ、自己課題を明らかにする。(240分)

評価方法および評価の基準

実習園の評価(60%)、課題提出(30%)、最終レポート(10%)により総合的に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 園の評価(15%/60%)、最終レポート(5%/10%)

到達目標2. 園の評価(15%/60%)、課題提出(20%/30%)

到達目標3. 園の評価(15%/60%)、課題提出(10%/30%)

到達目標4. 園の評価(15%/60%)、最終レポート(5%/10%)

【フィードバック】実習終了後、個別面談実施し実習評価を通知する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

「実習の手引き」

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

「保育実習指導」の使用テキスト

その他、授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習に参加するためには、以下の要件を満たすことが必要である。

「保育実習指導」の単位を修得済みであること

「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していること

「保育実習指導」を履修していること

「実習の手引き」に示す実習参加要件を満たしていること

科目名	保育実習指導		
担当教員名	亀崎 美沙子、野田 日出子		
ナンバリング	KDe382		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育及び地域子育て支援の実践経験をもつ教員が担当し、指導計画の立案および実践について指導する。また、保育所の園長による講話（もしくは地域子育て支援拠点におけるフィールドワーク）を通して、地域子育て支援について理解を深める機会を設ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における社会福祉実践科目である。また、保育士資格取得のための必修科目であり、「保育実習」に参加するための実習事前・事後指導である。そのため、「保育実習」に参加を希望する場合には、必ず履修しなければならない。

科目の概要

本科目では、「保育実習」に向けた実習事前指導を行う。「保育実習 A」の評価から自己課題を設定し、必要な専門性を身につけるために、指導案の作成、実践と評価を行う。「保育実習指導」の単位を修得している場合に履修が可能である。また、履修時に「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していることを基本とする。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、「保育実習」に向けて、実際の保育内容について抗議やレポート作成を通して学びを深めるとともに、実習指導案を作成し、模擬保育により実践の具体的方法を学んでいく。【グループワーク】【ロールプレイ】【レポート（知識）】

到達目標

- 到達目標1. 実習先保育所の特色および実習内容を理解し、説明することができる。
- 到達目標2. 子どもの発達や興味関心、季節等に応じた保育を構想し、指導案を作成することができる。
- 到達目標3. 模擬保育を通して、自らの保育実践を評価・省察し、改善することができる。
- 到達目標4. 保育所における子育て支援の目的と方法を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3：社会福祉に関する法や制度の基本的理解
- 2：援助・支援に関する理論の基本的理解
- 2：専門的援助関係の体験的理解と自己覚知

内容

本科目では、保育実習に向けて、ペアワーク、グループワークを中心に演習形式を進めていく。また、地域子育て支援に関する見学実習を行い、実践に関する理解を深めていく。

1	オリエンテーション【レポート（知識）】
2	自己課題の明確化【グループワーク】【レポート（知識）】
3	実習内容の理解 保育所の社会的役割と保育士の職務【グループワーク】
4	実習内容の理解 保育所における地域子育て支援の機能と役割【グループワーク】
5	実習内容の理解 保育所における地域子育て支援の実際【グループワーク】【ペアワーク】【レポート（知識）】
6	保育内容の理解 発達に即した生活と援助【グループワーク】【ディスカッション】【ロールプレイ】
7	保育内容の理解 発達に即した教材研究【グループワーク】【模擬保育】
8	実習計画・目標の設定【グループワーク】
9	保育の計画と実践 部分実習指導案の作成【グループワーク】【模擬保育】
10	保育の計画と実践 実践と評価・改善【グループワーク】
11	保育の計画と実践 1日責任実習指導案の作成【グループワーク】
12	実習オリエンテーションガイダンス【グループワーク】
13	実習日誌の評価と改善【グループワーク】
14	実習内容・準備状況の確認【グループワーク】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1回 【事前学習】「保育実習 A」の自己課題をA4用紙1枚にまとめる。（60分）

【事後課題】「保育実習」にむけた事前準備の学習目標をA4用紙2枚以内にまとめる。（60分）

第2～7回 【事前準備】「実習先の概要」および年齢に適した保育教材を調べ、実習ノートの所定の事前学習ページを作成する。（60分）

【事後学習】授業内容をA4用紙2枚以内にまとめる。（120分）

第8～13回 【事前準備】実習内容に応じた指導案を作成する（120分）

【事後学修】相互添削および模擬保育を踏まえて、指導案を改善する。（120分）

第14～15回 【事前学習】実習内容のための教材準備を行う。（120分）

【事後学習】実習内容を通して、実習目標を達成するための具体的方法をA42枚以内でまとめる（120分）

評価方法および評価の基準

各回の課題への取り組み（60%）、レポート課題（20%）、指導案作成及び模擬保育（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（10%/60%）、レポート課題（15/20%）

到達目標2. 課題提出（10%/60%）、指導案作成及び模擬保育（20%/20%）

到達目標3. 課題提出（20%/60%）、レポート課題（5%/20%）

到達目標4. 課題提出（20%/60%）

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

【フィードバック】指導案、実習計画等の評価をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「実習の手引き」

小櫃智子編『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』わかば社

厚生労働省(2018)『保育所保育指針解説』フレーベル館

【推薦書】

開仁志編著『これで安心！保育指導案の書き方』北大路書房

その他、授業内にてプリントを配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目は、以下の要件を満たしている場合に履修が可能である。

「保育実習指導」の単位を修得していること

「保育実習 A」「保育実習 B」を修了していること

科目名	保育実習（施設実習）		
担当教員名	矢野 景子、伊藤 陽一		
ナンバリング	KDe482		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目は、児童福祉施設及び社会福祉施設で実務を行う専門職から指導を受ける。

また、本科目を履修するうえで、保育実習指導をはじめ、社会的養護・、障害児保育、保育実習指導、保育実習A・Bを履修済みであること。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の選択必修科目であり、保育実習に関する科目に位置付けられている。保育実習A、保育実習Bの実習で学習した内容を高め、児童福祉施設等における実習を深める性格を持つ。

科目の概要

児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とし、児童福祉施設等において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行う。養護・療育・健全育成の内容を深めるために、施設等において部分実習及び責任実習を行う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、児童福祉施設等において、専門職のもと利用者の支援を行い、実習日誌の作成、指導計画（自立支援計画を含む）の作成及び実践を通じて、保育士として必要な実践力を身に付ける。

【実習】【レポート（表現）】【実技】

到達目標

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して、理解し説明することができる。
2. 家庭と地域の生活実態にふれて、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、子どもの健全育成に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得し実践することができる。
3. 施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について具体的な実践に結び付けて理解し説明することができる。
4. 実習における自己課題を明確化し、対応した実習を行うことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と倫理、 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知、 - 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

1	子ども（利用者）に対する養護全般に参加し、日常生活や自立支援といった技術を習得する。【実習】【レポート（表現）】【実技】
2	子ども（利用者）の個人の状況について理解し、適切な対応方法を習得する。【実習】【レポート（表現）】【実技】
3	支援計画を立案の方法を学び、実際に実践している状況を観察・学習する。【実習】【レポート（表現）】【実技】
4	子どもや利用者の家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。【実習】【レポート（表現）】【実技】
5	地域とのかかわりについて理解を深め、地域及び関係機関との連携の方法について学ぶ。【実習】【レポート（表現）】【実技】
6	子どもの最善の利益を確保する方法について学ぶ。【実習】【レポート（表現）】【実技】
7	児童福祉施設等に勤務する保育士として専門職の倫理を具体的に学ぶ。【実習】【レポート（表現）】【実技】
8	児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力等について認識し、自己の課題を明確化する。【実習】【レポート（表現）】【実技】
9	まとめ・保護者支援、家庭再統合のための知識、技術、判断力を養う。【実習】【レポート（表現）】【実技】
10	
11	
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】これまで学習した保育、社会福祉関係の専門科目を復習する。また、保育実習 Bでの自己課題を踏まえた綿密な目標を立て、事前学習を行うこと。（全300分）。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する（120分）。実習評価票を基に事後面談を行い、施設保育士としての自己課題を明らかにする（240分）。

評価方法および評価の基準

実習施設の評価（60%）、課題提出（30%）、最終レポート（10%）

到達目標1：実習施設の評価（15%/60%）、課題提出（10%/30%）

到達目標2：実習施設の評価（15%/60%）、課題提出（10%/30%）

到達目標3：実習施設の評価（15%/60%）、課題提出（10%/30%）

到達目標4：実習施設の評価（15%/60%）、最終レポート（10%/10%）

上記の到達目標をもとに総合的に判断し、60点以上を合格と判断する。

【フィードバック】

実習終了後に実習施設からの評価に基づき個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『実習の手引き』及び保育実習指導 で使用した教科書

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

保育実習に参加できる条件は、「保育実習指導」の単位を修得済みであること。「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していること。「保育実習指導」を履修していること。「実習の手引き」に示す参加条件を満たしていること。

科目名	保育実習（施設実習）		
担当教員名	矢野 景子、伊藤 陽一		
ナンバリング	KDe482		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態	実習	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目は、児童福祉施設及び社会福祉施設で実務を行う専門職から指導を受ける。

また、本科目を履修するうえで、保育実習指導をはじめ、社会的養護・、障害児保育、保育実習指導、保育実習A・Bを履修済みであること。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の選択必修科目であり、保育実習に関する科目に位置付けられている。保育実習A、保育実習Bの実習で学習した内容を高め、児童福祉施設等における実習を深める性格を持つ。

科目の概要

児童福祉施設等における実習内容をより深めることを目標とし、児童福祉施設等において、90時間以上（概ね12日間）の実習を行う。養護・療育・健全育成の内容を深めるために、施設等において部分実習及び責任実習を行う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、実際に児童福祉施設等の保育・福祉現場に赴き、本学で学んだ講義・演習等で得た知識・技術・方法等を用いて、支援のあり方を省察する授業（実習）となる。【実習】【レポート（表現）】

到達目標

1. 既習の教科目や保育実習の経験を踏まえ、児童福祉施設等の役割や機能について実践を通して参画する。
2. 家庭と地域の生活実態にふれ、子ども家庭福祉、社会的養護、障害児支援、子どもの健全育成に対する理解をもとに、保護者支援、家庭支援のための知識、技術、判断力を習得しその評価を行う。
3. 施設等で働く保育士の業務内容や職業倫理、子どもの権利擁護について具体的な実践に結び付けて理解を行う。
4. 実習における自己課題を明確にし、その評価を行う。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と倫理、 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知、 - 3 地域社会・福祉社会形成への参画する意欲

内容

1	子ども（利用者）に対する養護全般に参加し、日常生活や自立支援といった技術を習得する。【実習】【レポート（表現）】
2	子ども（利用者）の個人の状況について理解し、適切な対応方法を習得する。【実習】【レポート（表現）】
3	支援計画を立案の方法を学び、実際に実践している状況を観察・学習する。【実習】【レポート（表現）】
4	子どもや利用者の家族とのコミュニケーションの方法を具体的に修得する。【実習】【レポート（表現）】
5	地域とのかかわりについて理解を深め、地域及び関係機関との連携の方法について学ぶ。【実習】【レポート（表現）】
6	子どもの最善の利益を確保する方法について学ぶ。【実習】【レポート（表現）】
7	児童福祉施設等に勤務する保育士として専門職の倫理を具体的に学ぶ。【実習】【レポート（表現）】
8	児童福祉施設等の保育士に求められる資質、能力等について認識し、自己の課題を明確化する。【実習】【レポート（表現）】
9	まとめ・保護者支援、家庭再統合のための知識、技術、判断力を養う。【実習】【レポート（表現）】
10	
11	
12	
13	
14	
15	

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】これまで学習した保育、社会福祉関係の専門科目を復習する。また、保育実習 Bでの自己課題を踏まえた綿密な目標を立て、事前学習を行うこと。（全300分）。

【事後学修】実習の振り返りを行い、レポートを作成する（120分）。実習評価票を基に事後面談を行い、施設保育士としての自己課題を明らかにする（240分）。

評価方法および評価の基準

到達目標 1. 実習施設の評価（15%/60%）、実習日誌等の内容（5%/20%）、実習に際しての課題提出（10%/20%）

到達目標 2. 実習施設の評価（15%/60%）、実習日誌等の内容（5%/20%）

到達目標 3. 実習施設の評価（15%/60%）、実習日誌等の内容（5%/20%）

到達目標 4. 実習施設の評価（15%/60%）、実習日誌等の内容（5%/20%）、実習に際しての課題提出（10%/20%）

上記の到達目標をもとに総合的に判断し、60点以上を合格と判断する。

【フィールドバック】実習終了後に個別面談を行い実習評価について省察を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】本学作成の『実習の手引き』実習指導 のテキスト

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

本科目にあたっては、「実習の手引き」に準ずることが必要となる。

また、「保育実習指導」の単位を履修済みであることと「保育実習 A」及び「保育実習 B」を終了していることが実習参加要件となる。

科目名	保育実習指導		
担当教員名	伊藤 陽一、矢野 景子		
ナンバリング	KDe482		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所・児童福祉施設に勤務し、実習生を担当した経験のある教員が担当する。

子どもを支援する現場に即して、保育士として必要な知識や技能について実習事前指導（演習）を行い、実習生としての心構えや保育士としての役割、そして、子どもの理解及び施設の役割について講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目の教科目の教授内容は、保育士資格取得の選択必修科目であり、保育実習に関する科目に位置付けられている。関連科目として、保育実習 A、保育実習 Bの実習で学習した内容を高め、施設実習 履修者の実習事前事後指導を目的とする。

科目の概要

保育士資格取得のために、児童福祉施設及び社会福祉施設等における実習「保育実習 」に向けた実習事前指導を行う。「保育実習 B」の体験、学修の学び、評価を振り返り、さらに必要な専門性を身につけるために、日常生活支援、自立支援、療育支援、遊びの支援のあり方を学ぶ。また、履修時に「保育実習 A」「保育実習 B」を終了していることが前提になる。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、児童福祉施設等において実習を行うことから、実習についての各種準備及び知識・実技の再確認、グループワークやケースメソッド等を取り入れ、保育実習 に向けた授業を行う。

【グループワーク】【レポート（知識）】【制作】【ケースメソッド】

到達目標

1. 保育実習 の実習に向けて、児童福祉施設の社会的役割の理解し、施設保育士としての職務を実施できるようにする。
2. 施設において保育士の倫理等を理解し、子育て支援・家族再統合を行う場面に参加する。
3. 実習事後指導等より実習の総括と自己評価を行い、保育・養護・療育・健全育成等の課題を明らかにし評価する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 生活課題の理解、問題解決の方法提示、 - 2 援助・支援に関する理論の基本的理解、 - 1 問題解決のための専門性と倫理

内容

学習効果向上のため、順番を変更する場合もあり得る。

1	オリエンテーション 保育実習指導 の目的と保育実習 Bの振り返り
2	実習施設の概要理解【レポート(知識)】
3	実習施設の内容理解(実習施設の社会的役割・保育士の職務・利用児・者の現況)【レポート(知識)】
4	実習施設的生活日課への支援のあり方【レポート(知識)】
5	実習施設の活動(学習・療育・遊び等)への支援のあり方【レポート(知識)】
6	実習施設の施設の特質(虐待・障害・子育て支援等)への支援のあり方【レポート(知識)】
7	施設の日課における課題探索 生活日課への支援のあり方【レポート(知識)】【グループワーク】
8	施設の日課における課題探索 活動(学習・療育・遊び等)への支援のあり方【レポート(知識)】【グループワーク】
9	施設の日課における課題探索 施設の特質(虐待・障害・子育て支援等)への支援のあり方【レポート(知識)】【グループワーク】
10	課題発表と取り組み評価 実習計画と目標の設定【ケースメソッド】【レポート(知識)】
11	課題発表と取り組み評価 実習教材の作成【ケースメソッド】【制作】
12	課題発表と取り組み評価 実習指導案の作成【ケースメソッド】【レポート(知識)】
13	施設種別ごとの個別学習 実習の準備状況の確認・実習記録の書き方【ケースメソッド】【レポート(知識)】
14	施設種別ごとの個別学習 実習の最終確認(実習内容・実習日誌等)【ケースメソッド】【レポート(知識)】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回～第6回

これまで学習した保育、社会福祉関係教科の復習が必要(各授業につき60分)。

第7回～第9回

実習の場面を想定し、各自実習を行う施設の概要・日課・利用者の様子・職員の職務・配慮すべき内容等をまとめる。(各授業に対して60分)

第10回～第14回

実習の場面を想定し、利用者に対しての記録や実習生自身の気づきに対して適宜まとめる。(各授業に対して60分)

【事後学修】

第1回～第15回

学習した課題、演習等の再確認を行う。(各授業につき60分)

第7回～第9回

グループワークや演習を通じ、自他の意見や考察の違いについてまとめる。(各授業に対して60分)

第10回～第14回

実際に行われるであろう内容を想定しケースに沿った記録を作成する。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

各回の課題への取り組み60%、グループワーク(発表)20%、指導案・実習日誌作成20%とし、60点以上を合格とする。

到達目標1: 課題提出(20%/60%)、グループワーク(発表)(10%/20%)

到達目標2: 課題提出(20%/60%)、グループワーク(発表)(10%/20%)

到達目標3: 課題提出(20%/60%)、指導案・実習日誌作成(20%/20%)

【フィードバック】

実習日誌・指導案等を用いて個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】松本峰雄『より深く理解できる施設実習 施設種別の計画と記録の書き方』萌文書林

【参考図書】守巧他『施設実習パーフェクトガイド』わかば社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

実習準備（授業）及び実習後において、書類や課題の提出物は期限内に提出のこと。

本科目の履修にあたっては「学習の手引き」に準じることが必要となる。

科目名	公的扶助特論		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDf386		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

生活保護現業員や福祉事務所長として生活保護の運用に携わった経験を、講義時のリアルな現場説明に活かすことができる。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

公的扶助特論は公的扶助論と連関する科目である。低所得者対策と生活保護制度の概要と運用の実際や問題点について理解する。選択科目である。

科目の概要

貧困の現実、憲法・生活保護法の人権理念、子どもの貧困対策法、ホームレス問題、改正生活保護法、生活困窮者自立支援法、生活保護不正受給問題等、それぞれの概要と連関、実際、運用の問題点等を理解する。

授業の方法（ALを含む）

講義を中心に行う

到達目標

低所得者に対する支援と生活保護法制度の概要やその実際の在り方と関連づけて説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

? - 1社会福祉に関する法や制度の基本的理解

- 1問題解決のための専門性と倫理

内容

この授業は講義形式を基本として、適宜小テストによる理解度の把握を行いながら、学びを深めていく

授業の方法・授業計画

1 オリエンテーション。

本講義の概要、貧困の概念について説明する。

2 貧困・低所得者問題。低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要について理解する。

3 生活保護制度の概要 。生活保護の原理、原則。

4 生活保護制度の概要 。生活保護の種類、加算について理解する。

5 生活保護制度の概要 。最低生活費の体系について理解する。

6 生活保護制度の概要 。収入認定および各種控除の考え方について学ぶ。

7 生活保護制度における組織及び団体の役割。福祉事務所の役割について理解する。

8 生活保護制度における専門職の役割と実際。現業員の役割、査察指導員の役割について理解する。

- 9 現業員と査察指導員の業務 。高齢者世帯の事例を用いて、業務内容を理解する。
- 10現業員と査察指導員の業務 。母子世帯の事例を用いて、業務内容を理解する。
- 11生活保護制度における多職種連携、ネットワーキングと実際
- 12生活保護制度における自立支援。就労支援と労働市場の現状について理解する。
- 13生活困窮者自立支援法の概要としくみ。
- 14生活福祉資金の概要、無料定額診療制度、住宅施策、支援組織について学ぶ。
- 15まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】1回目の授業時に全講義分のレジюмеを渡すので、毎回の講義前に内容を確認しておくこと（各講義に対して60分）。

【事後学修】復習を必須とし、授業の内容を振り返りレジюмеの整理を行うことで理解を深めておくこと（各講義に対して60分）

評価方法および評価の基準

到達目標である、低所得者に対する支援と生活保護法制度の概要やその実際の在り方と関連づけて説明することができるを評価する方法として、授業への参加度20%、小テスト10% 期末試験70%とし、評価60点以上を合格とする。私語や携帯電話の使用など禁止事項を繰り返す場合は、単位を付与しない。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用せず

【参考図書】授業時、適宜紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

将来、福祉事務所や児童相談所などの行政福祉職に就くことを希望している学生は、必ず履修すること。

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	戸井 宏紀		
ナンバリング	KDf187		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間の尊厳と基本的人権の尊重という社会福祉学の基本的理念を踏まえて、社会福祉展開科目である本科目では、精神保健（メンタルヘルス）の立場から人間の生活を捉え、精神保健の諸課題をソーシャルワークの視点（人と環境の相互作用）から理解していくことを目指す。

科目の概要

現代社会における精神保健の諸課題について理解を深めると同時に、それらの問題に対し社会福祉学を基盤とするソーシャルワーク専門職が果たす役割について学んでいく。

授業の方法（ALを含む）

この授業は講義を基本に、映像資料等を活用しながら個人ワーク、対話などを通じて学びを深めていく。【リアクションペーパー】【討議・討論】

到達目標

1. 人間の生活における精神保健の諸課題について説明することができる。
2. 精神保健の諸課題に対する福祉的支援の必要性を説明することができる。
3. 精神障害者の地域移行支援について説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを重要な目的とする。

- 5 . 生活課題の理解、問題解決の方法提示

内容

1	オリエンテーション・精神保健福祉を学ぶ意義
2	精神保健と社会福祉
3	ライフコースと精神の健康
4	精神保健と生活習慣・ストレス
5	代表的な精神疾患の理解（1）
6	代表的な精神疾患の理解（2）

7	精神保健福祉にかかわる専門職と多職種連携
8	家庭・学校・職場における精神保健福祉
9	アルコール・薬物と精神保健福祉
10	トラウマと精神保健福祉
11	司法と精神保健福祉
12	自殺防止対策
13	精神障害者の地域移行
14	本科目のまとめ(1) 期末レポート提出
15	本科目のまとめ(2) 期末レポート講評

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前学習】 次回の授業内容に関連する新聞記事、文献等をインターネットを用いて検索し、内容を整理してまとめておくこと(各授業に対して60分)。

【事後学習】 配布資料の内容を復習し、疑問点があればまとめておくこと(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

授業への取り組み 15%、リアクションペーパー 15%、期末レポート 70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 授業への取り組み (5%/15%)、リアクションペーパー (5%/15%)、期末レポート(30%/70%)

到達目標2. 授業への取り組み (5%/15%)、リアクションペーパー (5%/15%)、期末レポート(20%/70%)

到達目標3. 授業への取り組み (5%/15%)、リアクションペーパー (5%/15%)、期末レポート(20%/70%)

【フィードバック】

リアクションペーパーへの質問については授業で可能なかぎり返答し、理解を深められるようにする。

期末レポートについては、最終回授業にフィードバックとして講評を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 使用しない。レジュメは学生各自で印刷の上、授業に出席すること(初回に説明する)。

【推薦書】 授業内で紹介する。

【参考図書】 授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	Kdf188		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会ボランティアセンターの運営及びボランティアコーディネーターとしてコーディネーションの実務経験を生かして担当し、埼玉県社会福祉協議会や全国社会福祉協議会のボランティアに関する研修講師や研究委員会協力による実証研究を含める専門性を活かして具体的な実践事例を用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は学科の社会福祉展開科目に位置付けられる選択科目である。主に福祉に関する「ボランティア」を中心にボランティア・コーディネーションの基本をとらえる。

科目の概要

ボランティアの概観から歴史と性格を理解し、推進するための技術としてボランティア・コーディネーション力を、具体的実践事例（ゲストスピーカー）を交えながら理解することを内容とする。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、講義とともに、より具体的な実践事例から学修できるようボランティア活動の実践団体やコーディネートの専門職等の実践者にゲストスピーカーとして報告をしてもらい、質疑応答やシンキングタイムを設けて、小グループで話し合うことも取り入れた授業を行う。また、広義を通して得た知識の定着と理解度を理解するレポートライティングを行い、毎時リアクションペーパーを記入し、次回開始時に教員がフィードバックし、学修内容の理解促進を充実させる。【グループワーク】【レポート】【リアクションペーパー】

到達目標

1. ボランティアについて説明することができる。
2. ボランティア活動の実際を学び参加できるようにする。
3. ボランティア・コーディネーターの基本姿勢を解釈することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －4人権尊重の理解、問題解決の方法提示
- －5生活課題の理解、問題解決の方法提示
- －5自己表現及び集団的思考

内容

1	ボランティアについて-概観-【グループワーク】【リアクションペーパー】
2	実際の活動とともに学ぶ 本学ボランティアセンターや学内活動【リアクションペーパー】
3	ボランティアの必要性和意味【グループワーク】【リアクションペーパー】
4	ボランティア活動の内容-【グループワーク】【リアクションペーパー】
5	実際の活動とともに学ぶ 施設等でのボランティア学習【リアクションペーパー】
6	日本のボランティア活動の歴史【グループワーク】【リアクションペーパー】
7	ボランティア活動の性格【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】
8	実際の活動とともに学ぶ 地域で求められるボランティア【リアクションペーパー】
9	ボランティアとNPO【グループワーク】【リアクションペーパー】
10	実際の活動とともに学ぶ NPO法人のボランティア【グループワーク】【リアクションペーパー】
11	ボランティア活動の課題と弱点【グループワーク】【リアクションペーパー】
12	ボランティアセンター【グループワーク】【リアクションペーパー】
13	実際の活動とともに学ぶ ボランティアセンターの実際【リアクションペーパー】
14	ボランティアコーディネーターの役割【グループワーク】【リアクションペーパー】
15	まとめ【グループワーク】【リアクションペーパー】【レポート】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】ボランティアについて、書籍、テレビ、新聞、雑誌、実際のボランティア活動等から確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく(各授業に対して60分)。

【事後学修】授業内容を復習することを必須として、授業時に紹介されたHP、活動等について各自内容を理解し、深められるよう、復習ノートを作成する(各授業に対して60分)。

評価方法および評価の基準

各授業回のグループワーク(10%)、リアクションペーパー(10%)、レポート課題2点提出(80%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(30%/80%)

到達目標2.グループワーク(4%/10%)、リアクションペーパー(4%/10%)、レポート(30%/80%)

到達目標3.グループワーク(2%/10%)、リアクションペーパー(2%/10%)、レポート(20%/80%)

【フィードバック】毎授業のリアクションペーパーの質疑に対しては、授業開始時に応答し、必要に応じてペーパーに返答する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用せず、授業使用パワーポイントデータを授業用フォルダに格納するので各自プリントするかノートパソコンを授業時に持参すること。

その他必要に応じて図書等について授業時に紹介する。

【推薦書】NPO法人日本ボランティアコーディネーター協会編「ボランティアコーディネーション力」中央法規、柴田謙治・原田正樹・名賀亨編「ボランティア論」(株)みらい

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	介護基礎		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	Kdf089		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

介護福祉士養成課程以外の学生が、選択科目として、介護の知識と基本的な介護技術を学ぶ科目である。介護に関心がある学生や、高齢領域や障がい領域への実習を希望している学生に履修してほしい科目である。

科目の概要

高齢や障がいにより支援が必要な人が、主体的にいきいきと暮らしていくために、支援者が身に付けておくべき知識と技術を学ぶ。年齢特性や障がい特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

1. 利用者主体の介護を理解できる。
2. 利用者の尊厳を支える生活支援プロセスを習得する。
3. 環境の整備、食の支援、身じたくの支援に関する技法を習得する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容	
1	ガイダンス 介護福祉の基礎
2	介護実習室とは
3	ベッドメイキングの実際
4	高齢者の理解
5	車椅子体験と介助方法
6	食事の介護 < 食事の意義と目的 >
7	食事の介護 < 食事における介護技術 >
8	身じたくの介護 < 身じたくの意義と目的 >
9	身じたくの介護 < 身じたくにおける介護技術 >
10	移動の介護 < 移動の意義と目的 >
11	移動の介護 < 移動・移乗における介護技術 >
12	移動の介護 < 移動・移乗における介護技術 >
13	排せつの介護 < 排せつの意義と目的・排泄における介護技術 >

14	高齢者の理解
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】予定表に基づきテキストをよく読んでおく。演習内容により服装・持ち物が異なるので、事前に確認、準備をする。

【事後学修】配布された資料をノートにまとめる。

評価方法および評価の基準

授業への取り組み 20点、レポート 40点、筆記試験 40点とし、総合評価 60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

資料は、講義内容に合わせて適宜配布する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング	Kdf281		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

授業内容の単位によっては、看護師として臨床で経験した事例を個人情報保護のもと紹介し、リハビリテーションについて理解を深めていく

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格：

本学科専門科目の社会福祉展開科目に位置づけられている。また、社会福祉主事任用資格取得に関連した科目である。他学科開放科目としている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を發揮し、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復を図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

授業の方法（ALを含む）

講義形式を基本とするが、DVD等を視聴し、内容についての意見交換も行い、学びを深めていく。【リアクションペーパー】【グループワーク】【レポート（表現）】

到達目標

1. リハビリテーションの理念について説明することができる。
2. 障がいの受容プロセスについて説明することができる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLについて説明することができる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割について説明することができる。
5. 学生である今の立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間発達心理学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 4 人間尊重の理解、問題解決の方法提示、 - 5 生活課題の理解、問題解決の方法提示、 - 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

本授業は講義形式を基本とするが、DVD等を視聴し、内容についての意見交換も行い、学びを深めていく。

1	リハビリテーションとは【リアクションペーパー】
2	ノーマライゼーション、バリアフリー、ユニバーサルデザイン【リアクションペーパー】【グループワーク】

3	障がいの概念とリハビリテーション【リアクションペーパー】
4	障がいの受容過程【リアクションペーパー】【グループワーク】
5	ライフサイクルと【リアクションペーパー】
6	死別とグループワーク【リアクションペーパー】【グループワーク】
7	子どものリハビリテーション 子どもの障がいの基礎知識【リアクションペーパー】
8	子どものリハビリテーション 障がい児のきょうだい支援【リアクションペーパー】【グループワーク】
9	子どものリハビリテーション 脳性麻痺【リアクションペーパー】【レポート（表現）】
10	子どものリハビリテーション 発達障害【リアクションペーパー】
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害【リアクションペーパー】
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症【リアクションペーパー】【グループワーク】
13	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群【リアクションペーパー】【グループワーク】
14	地域におけるリハビリテーション【リアクションペーパー】【グループワーク】
15	リハビリテーションのまとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】指定の単元に関して教科書を読み、ノートにまとめ授業中の問いかけに応えられるように準備しておく（60分）。また、障がい者支援に関連したTV番組を見るようにして、知識を深めておく。

【事後学修】各単元終了後に、学生という立場でできることは何であるのか、考えまとめておく（60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加状況（20点）、レポート（10点）、筆記試験（70点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

到達目標 1．参加状況（4/20）、筆記試験（10/70）

到達目標 2．参加状況（4/20）、筆記試験（10/70）

到達目標 3．参加状況（4/20）、レポート（10/10）、筆記試験（20/70）

到達目標 4．参加状況（4/20）、筆記試験（10/70）

到達目標 5．参加状況（4/20）、筆記試験（20/70）

【フィードバック】授業の初めに前回授業のリアクションペーパーの内容を紹介してコメントしたり、質問に回答し、学習理解が深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

今年は東京オリンピック、パラリンピックがあります。授業が開講されている前期は、障がい者スポーツ当の特番などTVで紹介される機会が多くあります。是非視聴して、障がいのある方々のパワーと彼らに寄り添うということはどういうことなのか、学生としてできる支援は何か考えてみて下さい。

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング	Kdf192		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2,3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

聴覚に障がいを持つ人たちのコミュニケーション手段を学びます。

聴覚障がいについて医学、社会、教育、福祉、文化など多角的に学びます。

科目の概要

手話を中心に、それ以外のコミュニケーション手段について学びます。

具体的には筆談、読唇、補聴器、空書、触手話、指点字などの基礎を理解します。

学修目標 (= 到達目標)

NP0手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語や例文修得を目指します。

あいさつや自己紹介、簡単な日常会話が手話でできるようになることを目指します。

内容

毎回のテーマに合わせて、「単語」、「文法」、「会話練習」で手話を身につける。

聴覚障がい者の諸問題についてグループ・ディスカッションで掘り下げて行く。

第1回 あいさつ

第2回 家族

第3回 名前

第4回 指文字ア～サ行

第5回 点字の基礎

第6回 指文字タ～ハ行

第7回 趣味

第8回 指文字マ～ワ行

第9回 地名

第10回 実技まとめ

第11回 色彩

第12回 食べ物

第13回 介護

第14回 講義まとめ

第15回 会話練習

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】予めテレビの手話ニュースや福祉番組などを見て手話の動きに慣れておくこと(60分程度)

【事後学修】授業で習った手話や指文字を滑らかに表現、読み取れるように復習しておくこと(各授業に対して15分程度)

評価方法および評価の基準

手話による実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、授業への参加度(10%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎回の読み取り問題は、授業の最後に答え合わせをする。実技まとめ、講義まとめについては、その翌週に正解発表と解説を行う。自分の到達度や課題について確認しよう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【推薦書】実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/j

【参考図書】ゼロからわかる手話入門/谷千春監修/主婦の友社

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

手話は難しいと思いませんか?皆さんが普段使っているしぐさがそのまま手話になっているものも少なくありません。さあ、いっしょに新しい言語を学んでみませんか?

科目名	スクールソーシャルワーク論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング	Kdf394		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目

学校教育分野で活動するソーシャルワーカーとしてのスクールソーシャルワーカー(SSW)は、我が国では新しい職業であること等から、基本的な業務の性格、特徴、及び現状と課題等について学びます。

科目の概要

SSWの成り立ちの歴史、現状と課題、及び実践について、事例を交え講義を中心に進行します。そのために、常に教育、児童福祉関連のニュースに関心を持つ必要があります。特に学校におけるいじめ、体罰等の問題、及び子どもの生活に関わる貧困問題に着目する必要があります。

授業の方法（ALを含む）

テキスト、資料に即しての講義、及び事例検討「リアクショペーパー」「レポート表現」「グループワーク」「討議・討論」

到達目標

ソーシャルワーク業務におけるSSWの特徴、及び現状と課題等について理解でき、説明できることを目標とします。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とします。

- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	なぜ、SSWが必要なのか
2	SSWとは何か
3	SSWの価値
4	SSWの意義
5	SSWの歴史と動向
6	学校教育の特徴
7	学校が連携する機関とその機能
8	学校が連携する機関とその機能

9	S S Wの基礎理論
10	S S Wのケース展開
11	S S Wのケース展開
12	S S Wの実践
13	S S Wの実践
14	S S Wの実践
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】テキストの読み込み、及び学校におけるいじめ等についての報道に関心を持つ。60分

【事後学修】振り返り、特に福祉的視点から各課題を整理してみる。60分

評価方法および評価の基準

筆記試験60%、授業内レポート等を40%とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】授業期間中に調整します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦書】よくわかるスクールソーシャルワーク（ミネルヴァ書房）

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	ケア論		
担当教員名			
ナンバリング	KDf195		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	保育士資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする。支援を必要とする人々への基本的なとらえ方を理解することに関連する。本学科学位授与方針1に関連する。

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探求していくことをねらいとする。またケアリングと癒し（ヒーリング）の関連についても考察する。

授業の方法（ALを含む）

到達目標

ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

内容

授業形態は、広義を基本として、個人ワークもしくは集団学習を用いる。

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	ケアの経験
4	メイヤロフのケアリング論（概要）
5	メイヤロフのケアリング論（展開1）
6	看護教育におけるケア
7	ケアと共感：ロジャーズのカウンセリング理論
8	ケアと共感（コフト、神田橋）
9	ケアと抱え
10	ケアと共依存：依存症、アダルトチルドレン、人格障害
11	ケアと共依存：恋愛依存
12	ターミナルケア（キューブラロス）
13	ターミナルケア（北米仏教の思想とGRACEプログラム）
14	ケアと癒し（傷ついた癒してモデルより）

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】広辞苑や英和辞典でケア（care）の辞書的意味やその語源を調べておく。

【事後学修】メイヤロフのケアの定義について確認し、授業で関心を持ったケアに関連する概念について調べまとめること。

評価方法および評価の基準

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。レポート課題へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし。授業中に資料等を配布する。

【推薦書】

ロロ・メイ『愛と意志』誠信書房

メイヤロフ『ケアの本質』ゆみる出版

広井良典『ケア学』医学書院

岡田尊司『境界性パーソナリティ障害』幻冬舎新書

西平直・中川吉晴『ケアの根源を求めて』誠信書房

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	医療ソーシャルワーク論		
担当教員名	杉山 明伸		
ナンバリング	KDf396		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3,4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

社会福祉展開科目です。

科目の概要

医療ソーシャルワーカーの機能と役割を学びます。医療機関でのソーシャルワークに関心のある人や、将来、医療ソーシャルワーカーになりたいと考えている人の履修を歓迎します。

授業の方法 (ALを含む)

講義だけでなく、積極的な意見交換をおこなうゼミ形式を採用します。【討議・討論】【ケースメソッド】

到達目標

1. 医療ソーシャルワーカーの倫理を理解できる。
2. 医療ソーシャルワーカーの実践で用いる知識を理解できる。
3. 医療ソーシャルワーカーの実践で用いる技術を理解できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 5 生活課題の理解、問題解決の方法提示、
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解

内容

1	医療ソーシャルワーカーとは
2	医療ソーシャルワーカーにできること
3	医療ソーシャルワーカーの歴史
4	医療ソーシャルワーカーが大切にしていること
5	病院の種類
6	病院の歴史
7	病院にいる専門職
8	病院に影響を与える制度
9	医療法
10	医療保険と診療報酬

11	病院を利用される人たち
12	発症してから、退院した後
13	患者・家族支援の実際
14	医療ソーシャルワーカーとして病院で働くということ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

- 【事前準備】新聞・ニュース等の医療福祉関連記事に関心を持ち、自分なりに内容を整理しておく（各授業に対し60分）。
- 【事後学修】授業内容に関連した書籍・ホームページ等を閲覧し、必要に応じ医療福祉関連の現場を訪ねるなどして、理解を深めるように復習ノートを作成する（各授業に対し60分）。

評価方法および評価の基準

授業内での討議への参加（30％）と筆記試験（70％）で評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．討議参加（10％／30％）、筆記試験（10％／70％）

到達目標2．討議参加（10％／30％）、筆記試験（30％／70％）

到達目標3．討議参加（10％／30％）、筆記試験（30％／70％）

【フィードバック】質疑には随時、遅くも次回授業時に返答し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】使用しません。

【推薦書】菊地かほる、これがMSWの現場です 2015年補訂版、医学通信社

【参考図書】富樫八郎、病院におけるソーシャルワークの理論と実践、川島書店

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フィールドワークを行う種別の福祉施設に、勤務した経験を持つ教員が本科目を担当する。

実務経験を持つ教員により、その施設の運営方針、概要、支援・援助理論方法、相談支援理論技術、社会調査等について、施設の状況に合わせた指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。1年次に学習した入門ゼミナールの学びを発展させ、福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解し、3年次の「人間福祉演習(3年ゼミ)」及び4年次の「卒業研究(4年ゼミ)」の基礎となる。

科目の概要

ポートフォリオの活用による担任によるメンタリングのもとに、社会福祉分野のフィールドワーク(グループ活動)・フィールドワーク報告会を行う。また、次年度のゼミ説明会運営も行う。

授業の方法 (ALを含む)

本学科社会福祉分野の課題を検討し、その関係機関に実際に出向きグループで省察しその結果について報告(発表)を行う。この一連の授業から次年度以降の3年・4年の学びへ昇華させる。

【レポート(知識)】【レポート(表現)】【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】

到達目標

1. 担任等のメンタリングのもと、ポートフォリオの作成を行うことができる。
2. 社会福祉分野の課題を各自検討し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
3. グループで明らかにした課題について、施設等においてフィールドワークに参加しその現状について評価を行うことができる。
4. フィールドワークで得られた内容について、プレゼンテーションを行い説明をできるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3. 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 4. 体験の意味付けと表現、 - 5. 自己表現及び集団的思考

内容

1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング（クラス担任別）【リアクションペーパー】
3	ポートフォリオ作成とメンタリング（クラス担任別）【リアクションペーパー】
4	フィールドワークの概要【レポート（知識）】
5	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定【グループワーク】【レポート（知識）】
6	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート（知識）】
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート（知識）】
8	フィールドワークの実施（グループ別）【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート（知識）】
9	フィールドワークの実施（グループ別）【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート（知識）】
10	フィールドワークの実施（グループ別）【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート（知識）】
11	フィールドワークの実施（グループ別）【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート（知識）】
12	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート（表現）】【プレゼンテーション】
13	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート（表現）】【プレゼンテーション】
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて【グループワーク】【レポート（表現）】【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回～第4回

1年次に学習した社会福祉関係の教科について省察を行う（リアクションペーパー）。（各授業につき60分）

第5回～第7回

フィールドワークを行う場面を想定し、実施施設の概要等をまとめ、グループ課題を設定する。（各授業に対して60分）

第8回～第11回

フィールドワークを行った施設の内容をまとめる。（各授業に対して60分）

第12回～第13回

グループごとにプレゼンテーションの準備を行う。（各授業に対して60分）

第14回

プレゼンテーションで得られた議論をレポートにまとめる。（60分）

【事後学修】

第1回～第15回

学習した課題、演習等の再確認を行う。（各授業につき60分）

第12回～第13回

プレゼンテーションを通じ、自他の意見や考察の違いについてまとめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

フィールドワーク・報告会レポート等の作成・提出（60%）及び各回の課題への取り組み（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：レポート等の作成・提出（10/60%）、課題提出（10%/40%）

到達目標2：レポート等の作成・提出（20/60%）、課題提出（10%/40%）

到達目標3：レポート等の作成・提出（10/60%）、課題提出（10%/40%）

到達目標4：レポート等の作成・提出（20/60%）、課題提出（10%/40%）

【フィードバック】

本科目終了前後に、次年度に向けて個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フィールドワークを行う種別の福祉施設に、勤務した経験を持つ教員が本科目を担当する。

実務経験を持つ教員により、その施設の運営方針、概要、支援・援助理論方法、相談支援理論技術、社会調査等について、施設の状況に合わせた指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。1年次に学習した入門ゼミナールの学びを発展させ、福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解し、3年次の「人間福祉演習 (3年ゼミ)」及び4年次の「卒業研究 (4年ゼミ)」の基礎となる。

科目の概要

ポートフォリオの活用による担任によるメンタリングのもとに、社会福祉分野のフィールドワーク (グループ活動) ・フィールドワーク報告会を行う。また、次年度のゼミ説明会運営も行う。

授業の方法 (ALを含む)

本学科社会福祉分野の課題を検討し、その関係機関に実際に出向きグループで省察しその結果について報告 (発表) を行う。この一連の授業から次年度以降の3年・4年の学びへ昇華させる。

【レポート (知識)】 【レポート (表現)】 【リアクションペーパー】 【グループワーク】 【プレゼンテーション】 【フィールドワーク】

到達目標

グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。3・4年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

1. 担任等のメンタリングのもと、ポートフォリオの作成を行うことができる。
2. 社会福祉分野の課題を各自検討し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
3. グループで明らかにした課題について、施設等においてフィールドワークに参加しその現状について評価を行うことができる。
4. フィールドワークで得られた内容について、プレゼンテーションを行い説明をできるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 . 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 4 . 体験の意味付けと表現、 - 5 . 自己表現及び集団的思考

内容

1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
3	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
4	フィールドワークの概要【レポート(知識)】
5	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定【グループワーク】
6	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
8	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
9	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
10	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
11	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
12	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
13	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回～第4回

1年次に学習した社会福祉関係の教科について省察を行う(リアクションペーパー)。(各授業につき60分)

第5回～第7回

フィールドワークを行う場面を想定し、実施施設の概要等をまとめ、グループ課題を設定する。(各授業に対して60分)

第8回～第11回

フィールドワークを行った施設の内容をまとめる。(各授業に対して60分)

第12回～第13回

グループごとにプレゼンテーションの準備を行う。(各授業に対して60分)

第14回

プレゼンテーションで得られた議論をレポートにまとめる。(60分)

【事後学修】

第1回～第15回

学習した課題、演習等の再確認を行う。(各授業につき60分)

第12回～第13回

プレゼンテーションを通じ、自他の意見や考察の違いについてまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

フィールドワーク・報告会レポート等の作成・提出(60%)及び各回の課題への取り組み(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標2: レポート等の作成・提出(20/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標3：レポート等の作成・提出（10/60％）、課題提出（10％/40％）

到達目標4：レポート等の作成・提出（20/60％）、課題提出（10％/40％）

【フィードバック】

本科目終了前後に、次年度に向けて個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フィールドワークを行う種別の福祉施設に、勤務した経験を持つ教員が本科目を担当する。

実務経験を持つ教員により、その施設の運営方針、概要、支援・援助理論方法、相談支援理論技術、社会調査等について、施設の状況に合わせた指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。1年次に学習した入門ゼミナールの学びを発展させ、福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解し、3年次の「人間福祉演習 (3年ゼミ)」及び4年次の「卒業研究 (4年ゼミ)」の基礎となる。

科目の概要

ポートフォリオの活用による担任によるメンタリングのもとに、社会福祉分野のフィールドワーク (グループ活動) ・フィールドワーク報告会を行う。また、次年度のゼミ説明会運営も行う。

授業の方法 (ALを含む)

本学科社会福祉分野の課題を検討し、その関係機関に実際に出向きグループで省察しその結果について報告 (発表) を行う。この一連の授業から次年度以降の3年・4年の学びへ昇華させる。

【レポート (知識)】 【レポート (表現)】 【リアクションペーパー】 【グループワーク】 【プレゼンテーション】 【フィールドワーク】

到達目標

グループ活動を企画し、準備・実行・報告までを主体的に実施できる。フィールドで学んだ事を福祉の実践的な学びにつなげることができる。3・4年次の学びのテーマを検討し、主体的なゼミ選択ができる。

1. 担任等のメンタリングのもと、ポートフォリオの作成を行うことができる。
2. 社会福祉分野の課題を各自検討し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
3. グループで明らかにした課題について、施設等においてフィールドワークに参加しその現状について評価を行うことができる。
4. フィールドワークで得られた内容について、プレゼンテーションを行い説明をできるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3 . 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 4 . 体験の意味付けと表現、 - 5 . 自己表現及び集团的思考

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
3	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
4	フィールドワークの概要【レポート(知識)】
5	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定【グループワーク】【レポート(知識)】
6	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
8	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
9	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
10	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
11	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
12	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
13	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回～第4回

1年次に学習した社会福祉関係の教科について省察を行う(リアクションペーパー)。(各授業につき60分)

第5回～第7回

フィールドワークを行う場面を想定し、実施施設の概要等をまとめ、グループ課題を設定する。(各授業に対して60分)

第8回～第11回

フィールドワークを行った施設の内容をまとめる。(各授業に対して60分)

第12回～第13回

グループごとにプレゼンテーションの準備を行う。(各授業に対して60分)

第14回

プレゼンテーションで得られた議論をレポートにまとめる。(60分)

【事後学修】

第1回～第15回

学習した課題、演習等の再確認を行う。(各授業につき60分)

第12回～第13回

プレゼンテーションを通じ、自他の意見や考察の違いについてまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

フィールドワーク・報告会レポート等の作成・提出(60%)及び各回の課題への取り組み(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標2: レポート等の作成・提出(20/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標3: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標4：レポート等の作成・提出（20/60％）、課題提出（10%/40％）

【フィードバック】

本科目終了前後に、次年度に向けて個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Dクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フィールドワークを行う種別の福祉施設に、勤務した経験を持つ教員が本科目を担当する。

実務経験を持つ教員により、その施設の運営方針、概要、支援・援助理論方法、相談支援理論技術、社会調査等について、施設の状況に合わせた指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。1年次に学習した入門ゼミナールの学びを発展させ、福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解し、3年次の「人間福祉演習(3年ゼミ)」及び4年次の「卒業研究(4年ゼミ)」の基礎となる。

科目の概要

ポートフォリオの活用による担任によるメンタリングのもとに、社会福祉分野のフィールドワーク(グループ活動)・フィールドワーク報告会を行う。また、次年度のゼミ説明会運営も行う。

授業の方法 (ALを含む)

本学科社会福祉分野の課題を検討し、その関係機関に実際に出向きグループで省察しその結果について報告(発表)を行う。この一連の授業から次年度以降の3年・4年の学びへ昇華させる。

【レポート(知識)】【レポート(表現)】【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】

到達目標

1. 担任等のメンタリングのもと、ポートフォリオの作成を行うことができる。
2. 社会福祉分野の課題を各自検討し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
3. グループで明らかにした課題について、施設等においてフィールドワークに参加しその現状について評価を行うことができる。
4. フィールドワークで得られた内容について、プレゼンテーションを行い説明をできるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3. 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 4. 体験の意味付けと表現、 - 5. 自己表現及び集団的思考

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
3	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
4	フィールドワークの概要【レポート(知識)】
5	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定【グループワーク】【レポート(知識)】
6	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
8	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
9	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
10	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
11	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
12	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
13	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回～第4回

1年次に学習した社会福祉関係の教科について省察を行う(リアクションペーパー)。(各授業につき60分)

第5回～第7回

フィールドワークを行う場面を想定し、実施施設の概要等をまとめ、グループ課題を設定する。(各授業に対して60分)

第8回～第11回

フィールドワークを行った施設の内容をまとめる。(各授業に対して60分)

第12回～第13回

グループごとにプレゼンテーションの準備を行う。(各授業に対して60分)

第14回

プレゼンテーションで得られた議論をレポートにまとめる。(60分)

【事後学修】

第1回～第15回

学習した課題、演習等の再確認を行う。(各授業につき60分)

第12回～第13回

プレゼンテーションを通じ、自他の意見や考察の違いについてまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

フィールドワーク・報告会レポート等の作成・提出(60%)及び各回の課題への取り組み(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標2: レポート等の作成・提出(20/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標3: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標4: レポート等の作成・提出(20/60%)、課題提出(10%/40%)

【フィードバック】

本科目終了前後に、次年度に向けて個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉基礎演習		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDg197		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	2	ク ラ ス	1Eクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	1
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

フィールドワークを行う種別の福祉施設に、勤務した経験を持つ教員が本科目を担当する。

実務経験を持つ教員により、その施設の運営方針、概要、支援・援助理論方法、相談支援理論技術、社会調査等について、施設の状況に合わせた指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

卒業認定に必要な2年次必修科目であり、コース・資格取得課程を超えて、福祉の学びを共有する。1年次に学習した入門ゼミナールの学びを発展させ、福祉専門職として重要な自己覚知を深め、地域に関心を持ち、働きかけの出来る高い専門性と倫理に関する知識を理解し、3年次の「人間福祉演習 (3年ゼミ)」及び4年次の「卒業研究 (4年ゼミ)」の基礎となる。

科目の概要

ポートフォリオの活用による担任によるメンタリングのもとに、社会福祉分野のフィールドワーク (グループ活動) ・フィールドワーク報告会を行う。また、次年度のゼミ説明会運営も行う。

授業の方法 (ALを含む)

本学科社会福祉分野の課題を検討し、その関係機関に実際に出向きグループで省察しその結果について報告 (発表) を行う。この一連の授業から次年度以降の3年・4年の学びへ昇華させる。

【レポート (知識)】 【レポート (表現)】 【リアクションペーパー】 【グループワーク】 【プレゼンテーション】 【フィールドワーク】

到達目標

1. 担任等のメンタリングのもと、ポートフォリオの作成を行うことができる。
2. 社会福祉分野の課題を各自検討し、その内容についてグループで分類・評価することができる。
3. グループで明らかにした課題について、施設等においてフィールドワークに参加しその現状について評価を行うことができる。
4. フィールドワークで得られた内容について、プレゼンテーションを行い説明をできるようにする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 3. 専門的援助関係の基本的理解と形成、 - 4. 体験の意味付けと表現、 - 5. 自己表現及び集団的思考

内容	
1	オリエンテーション
2	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
3	ポートフォリオ作成とメンタリング(クラス担任別)【リアクションペーパー】
4	フィールドワークの概要【レポート(知識)】
5	フィールドワークの企画・準備 - グループ分け、テーマ設定【グループワーク】【レポート(知識)】
6	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
7	フィールドワークの企画・準備 - 事前学習【グループワーク】【レポート(知識)】
8	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
9	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
10	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
11	フィールドワークの実施(グループ別)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(知識)】
12	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
13	フィールドワークの報告会準備【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
14	フィールドワーク報告会・ゼミ学習に向けて【グループワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

第1回～第4回

1年次に学習した社会福祉関係の教科について省察を行う(リアクションペーパー)。(各授業につき60分)

第5回～第7回

フィールドワークを行う場面を想定し、実施施設の概要等をまとめ、グループ課題を設定する。(各授業に対して60分)

第8回～第11回

フィールドワークを行った施設の内容をまとめる。(各授業に対して60分)

第12回～第13回

グループごとにプレゼンテーションの準備を行う。(各授業に対して60分)

第14回

プレゼンテーションで得られた議論をレポートにまとめる。(60分)

【事後学修】

第1回～第15回

学習した課題、演習等の再確認を行う。(各授業につき60分)

第12回～第13回

プレゼンテーションを通じ、自他の意見や考察の違いについてまとめる。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

フィールドワーク・報告会レポート等の作成・提出(60%)及び各回の課題への取り組み(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標2: レポート等の作成・提出(20/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標3: レポート等の作成・提出(10/60%)、課題提出(10%/40%)

到達目標4: レポート等の作成・提出(20/60%)、課題提出(10%/40%)

【フィードバック】

本科目終了前後に、次年度に向けて個人面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しないが、フィールドワーク関連資料を授業中に配布する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

福祉領域での相談職等ソーシャルワーカーの実務経験がある。相談援助の具体的実践経験と関連付けて指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科の専門必修科目である。入門ゼミや人間福祉基礎演習と関連する。自分が体験したことを分かりやすく意味づけ、表現すること、お互いに自身の考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを高め発展させることができること、他者とのかかわりから振り返りを進め、専門的援助関係における自己覚知を深めることに関連する。

科目の概要

ゼミごとの中心的なテーマに対して主体的にコミットし、自分自身の見解を明確にすることができるようになることを目指す。また他のメンバーの見解を批判的に受け入れ、かつそれに対して自分なりの見解を伝えることができることを目指す。傾聴やカウンセリング等の面接技法に関連する文献を輪読する。レジュメ作成を通して読解力の向上、自身の見解の適切な表明を求める。

授業の方法（ALを含む）

臨床スキル習得のためのスキルトレーニングやグループ学習、学外活動を主に用いる。【スキルトレーニング】【グループワーク】

到達目標

- 1) 自己覚知について深め、その結果を文章で表現するか口頭で表現することができる。
- 2) 文献購読ができるようになる。
- 3) 傾聴姿勢や技法について1つ以上習得し、具体的にロールプレイ上で実演することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1事実や支援の効果についての実証及び理解
- 4体験の意味付けと表現

内容

オリエンテーション、今後の予定、レポート課題の提示、自己成長のためのガイドライン、臨床スキルトレーニング、文献輪読、フィールドワーク：保育園や子ども食堂、特養、地域活動支援センター等での参与観察【グループワーク】【フィールドワーク】

<後期>

傾聴トレーニング、卒業研究の方法、まとめ【スキルトレーニング】【グループワーク】

ゼミ合宿を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。(45分)

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。(45分)

評価方法および評価の基準

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。独自に作成したパフォーマンス評価としてのルーブリックにより行う。結果は翌年度の卒業研究の授業の最初にフィードバックする。【フィードバック】

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

ゼミ活動を大切にしましょう。なるべく欠席しないようにしてください。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会の福祉活動専門員、自治体の地域福祉係主任としての地域福祉実践経験と実証研究を活かして担当し、社会福祉士としての専門性を活かして地域福祉及びソーシャルワークについて具体的な実践事例やフィールドワークを用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科の演習科目として位置付けられた通年の必修科目である。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず全科目と関連する。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために、多様な地域福祉実践をフィールドワークやサービスマーケティングで認識し、テキスト等を利用して知識を吸収し、自由なディスカッションを通じて思考力、想像力、判断力を養う。ゼミは成長を共にする仲間との学びあいの場であり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめ、自己の成長に生かす。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、地域福祉実践現場へのフィールドワーク、自治体や社会福祉協議会、NPO・ボランティア等との地域課題解決に向けた実践的学修、学修で習得した知識等を活用したグループワークを実施し、随時活動や学習の成果をレポートした上で討議により理解を深める。

到達目標

- 1) 自己の研究テーマが選定し卒業論文の作成を行う。
- 2) テーマに接近するための道筋を工夫する。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築き協調する。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの資質・能力を育成することを目的とする。特に思考力・判断力・表現力を重視し、
 -1事実や支援の効果についての実証及び理解 -2援助・支援に関する理論の基本的理解 -4体験の意味付けと表現を育成する。

内容

卒研に向けた関心テーマに基づくグループワークやフィールドワークを実施し、社会福祉課題としての障害児者余暇活動支援に関する活動を地域ボランティアと実践的に学ぶアクティブラーニングを実施する。また、個別の指導を通じて、研究方法を探求し、研究テーマを見出し焦点化して考察を深め、ゼミ生は卒業論文を作成する。【レポート】【グループワーク】【討議】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【サービ斯拉ーニング】【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われる政策や事業、実践活動を確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】テーマやキーワードの理解を深め、復習を必須とし、授業で紹介されたHP、施策や事業、実践の内容を理解し、深められるよう復習ノートを作成し、卒研に生かす。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

日頃の学修活動やディスカッション(30%)、レポート(30%)、卒業論文(30%)と発表会(10%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.学修活動やディスカッション(10%/30%)、レポート(10%/30%)、卒業論文(10%/30%)

到達目標2.学修活動やディスカッション(10%/30%)、レポート(10%/30%)、卒業論文(10%/30%)

到達目標3.学修活動やディスカッション(10%/30%)、レポート(10%/30%)、卒業論文(10%/30%)

)、卒論発表会(10%/10%)

【フィードバック】

毎授業の発言やレポート発表にコメントし、学修理解を深められるよう対話する。またレポートや卒業論文作成にあたっては、記述内容にコメントや加筆修正を指摘し、必要に応じて更なる指導を実施して論文の質的向上を努力する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、卒業必修科目である。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求するものである。様々な課題に関心を持ち、課題について課題を解決する視点や方法を学びあう科目であり、人間福祉学科で学修するすべての科目と関連する。

科目の概要

本科目は、自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することをめざす。また、メンバーとの学び合いを通して、互いにテーマや関心を掘り下げ、卒業研究へとつなげていくものである。

授業の方法

本科目は演習であり、各自、レポート作成・発表・メンバーとの意見交換・担当教員による指導・助言という方法により展開する。

到達目標

1. 自己の研究テーマが選定できる。
2. テーマに接近するための道筋がわかる。
3. メンバーの研究テーマ（視点・内容・方法）にも関心を持ち、相互に交流しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 1 事実や支援の効果についての実証及び理解」、「 - 2 援助・支援に関する基本的理解」、「 - 3 統計的資料の解釈と理解」、「 - 4 体験の意味付けと表現」、「 - 5 自己表現及び集团的思考」に該当する。

内容

本科目は、グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

本科目担当教員（片居木）による本演習は特に「現代の人権と法を考える」を統一テーマとして、各自関心のある人権問題についてテーマを絞り、立論・意見交換・討論などを通して、卒業研究準備を進める。

具体的には、3年次において卒業研究（論文）の目次の大方を完成。4年次は個別指導を中心に、目次完成と卒業研究（論文）を進め、その進捗状況の確認を行う。卒業研究（論文）提出後、演習時間内で卒業研究（論文）報告会を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習し、次回報告に向けレポートを作成しておく（各演習に対して60分）。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進め、レポートを作成しておく（各演習に対して60分）。

評価方法および評価の基準

レポート課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 - レポート課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）

到達目標2 - レポート課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）

到達目標3 - レポート課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、ディスカッション（30%）

フィードバック：課題提出や成果発表・報告について、毎回の授業内で口頭にて指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

有

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する科目である。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか、ゼミメンバーで共有する過程を大切にする。

授業の方法（ALを含む）

演習およびフィールドスタディにて行う。

到達目標

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋を理解し、実行できる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科の学位授与方針（ディプロマポリシー）の1と2に該当する。

内容

ゼミ全体のグループ指導、あるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。

先行研究、研究計画、ゼミ発表レジュメ等をまとめ、その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する（各授業に対して30分）

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく（各授業に対して30分）

評価方法および評価の基準

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

ゼミ活動の記録や発表のレジュメ等を、ゼミメンバーで共有し、各自のフィードバックができるようにする。

【フィードバック】ゼミ指導・個人指導のフィードバックは、授業内で随時、口頭で行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師としての実務経験のある教員による授業である。その実務経験を生かして、福祉のニーズを明らかにし、ニーズを解決するための方法について具体的な実践事例やフィールドワークを用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は卒業必修科目である。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。様々な課題に関心を持ち、課題を解決する方法などについて学び合う科目であり、人間福祉学科で学ぶすべての科目と関連する。。

科目の概要

テーマを絞り込み、自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミにおいては、成長を共にする仲間との学びあいで、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか共有する。

授業の方法 (ALを含む)

卒業研究テーマを決定し、各自の興味や関心ごとについて、様々な視点から掘り下げる。各自がまとめたレジュメやパワーポイントを用いて議論し、理解を深め、他者の意見も踏まえ、研究内容を深める。文献研究はもちろんのこと、フィールドワークや調査を行い内容を深める。深めた内容を論文執筆方法に沿って執筆する。

【ディスカッション】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート】【フィールドワーク】

到達目標

- 1) 卒業研究の意義や目的について理解し、自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に支援しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解
- 3 統計的資料の解釈と理解
- 5 自己表現及び集团的思考

内容

卒業研究執筆にむけ、テーマを設定できるように、ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーションを実施する

。研究テーマを見出し焦点化し、研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

【レポート】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【調査】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し、内容を整理しまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】講義時のディスカッションした内容を復習し、紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

日頃の学修活動、ディスカッション（30%）、レポート課題（30%）フィールドワークへの参加（30%）プレゼンテーション（10%）を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：レポート課題（10%/30%）ディスカッション（15%/30%）フィールドワークへの参加（10%/30%）

到達目標2：レポート課題（10%/30%）ディスカッション（15%/30%）フィールドワークへの参加（10%/30%）

到達目標3：レポート課題（10%/30%）フィールドワークへの参加（10%/30%）プレゼンテーション（10%/10%）

【フィードバック】課題提出や成果発表・報告について、毎回講義内で口頭にて指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目の担当教員は、児童福祉施設（保育所・児童養護施設）に勤務し、子ども家庭福祉の専門にした内容を教示することを行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科の卒業必修の科目であり、大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめていく。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、演習を中心に行い、各自の関心や興味に基づき、文献やフィールド出向き学習を進める。自身の学習進度や所属する学生同士の学びを確かめるために、レポートを作成しプレゼンテーションを行う。

【レポート（知識）】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

到達目標

1. 自己の研究テーマを選定し、研究を実施することができる。
2. テーマに接近するための道筋を理解し、実施することができる。
3. 仲間の研究テーマや視点に関心を持ち、相互に援助し協調できる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解 - 3 統計的資料の解釈と理解、 - 4 体験の意味付けと表現

内容

当ゼミでは、「保育・福祉の専門職のあり方」を統一のテーマとし、そこから各自の関心のあるテーマに則した、グループディスカッションならびに個別指導を通じて、研究テーマを設定する。【レポート（知識）】【ディスカッション】【プレ

ゼンテーション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

さらに、研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、4年次の卒業研究につなげる。合宿を行いフィールドワークを実施する。【レポート（知識）】【ディスカッション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】

ゼミの時間には保育・福祉分野の専門職を迎えて講義を行うことがある。ここでは、専門職・社会人として必要なスキルを磨く機会になるので、自覚をもって講義に参加することを望む。【レポート（知識）】【ディスカッション】【レポート（表現）】【フィールドワーク】【ケースメソッド】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】

自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。目的意識をしっかりと持ち、講義に参加すること。[各回120分]

【事後学修】

卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。[各回120分]

評価方法および評価の基準

課題提出（40%）、プレゼンテーション内容考査（30%）最終レポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（15%/40%）、プレゼンテーション内容考査（15%/30%）、最終レポート（15%/30%）

到達目標2. 課題提出（15%/40%）、プレゼンテーション内容考査（15%/30%）、最終レポート（15%/30%）

到達目標3. 課題提出（10%/40%）

【フィードバック】

ゼミ指導・個人指導のフィードバックは、授業内で随時行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子育て支援施設等で勤務経験のある教員が担当し、実践経験を活用してフィールドワークや調査研究における指導を行う。また、地域子育て支援施設や保育所におけるフィールドワークでは、実践者の講話や質疑応答を通して、学びを深める機会を設ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における専門科目「演習」に該当する科目であり、卒業必修科目である。

科目の概要

各自の設定したテーマについて、フィールドワークやグループディスカッションを通して考察を深め、卒業研究を作成する。

授業の方法 (ALを含む)

レポート作成およびグループディスカッションを中心として進め、各自の興味関心にしたがい、フィールドワークを実施する。

【フィールドワーク】【論文】【ケースメソッド】【レポート(表現)】【討議・討論】【グループワーク】【レポート(知識)】【実技】

到達目標

1. 自身の関心のあるテーマについて先行研究レビューを行い、適切に記述することができる。
2. 現代社会における子育て支援施設の役割や意義を理解し、自分なりの考えを述べることができる。
3. 目的に応じた研究方法を選択し、研究計画を作成することができる。
4. 研究テーマに関する考察を深め、論理的に記述することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1: 事実や支援の効果についての実証及び理解
- 3: 統計的資料の解釈と理解
- 5: 自己表現及び集団的思考

内容

事前にレポートを作成し、発表ならびにグループディスカッションを行いながら、学びを深めていく。各自の関心にしたがって研究テーマを設定し、適切な研究方法を探求し、考察を進める。また、必要に応じて子育て支援の場に出向き、フィールドワークを実施する。

第1回：オリエンテーション【グループワーク】【レポート（知識）】

第2回～第5回：文献購読・研究計画の立案【レポート（知識）】【討議・討論】

第6回：フィールドワーク準備【レポート（知識）】

第7～9回：フィールドワーク【フィールドワーク】【レポート（知識）】【実技】

第10回：フィールドワークの学習成果のまとめ【レポート（知識）】【ケースメソッド】

第11～15回：テーマに関する先行研究の検討【レポート（知識）】【討議・討論】【グループワーク】

第16～17回：研究方法の検討【討議・討論】【レポート（表現）】【グループワーク】

第18～27回：全体構成作成・文献研究・調査準備【討議・討論】【レポート（表現）】【フィールドワーク】【論文】【ケースメソッド】

第28回：卒論発表会参加・質疑【討議・討論】【レポート（表現）】

第29～30回：論文執筆【討議・討論】【レポート（表現）】【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】それぞれに提示されたレポート課題に取り組み、A4用紙5～10枚程度でまとめる。[各回180分]

【事後学修】指導内容にもとづき、レポート内容を修正する。[各回120分]

評価方法および評価の基準

フィールドワークへの取り組み（30%）、討議・討論への参加（10%）、課題提出（60%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達課題1．課題提出（20%/60%）

到達課題2．討議・討論への参加（10%/10%）、フィールドワークへの取り組み（30%/30%）、課題提出（10%/60%）

到達課題3．課題提出（10%/60%）

到達課題4．課題提出（20%/60%）

【フィードバック】

提出レポートについて、口頭指導および添削を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で適宜指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1. 2. 3 に該当する。

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

授業の方法（ALを含む）

各自卒業研究で取り組む研究テーマ決定に向けて、各自の興味関心事項を探索する。テーマを設定し学生同士で議論し理解を深め、他者の意見を踏まえながら研究的志向を身に付け、論文の執筆方法について学ぶ。テーマによって、フィールドワークやロールプレイなどにも取り組む。【ディスカッション】【ディベート】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【ロールプレイ】【論文】

到達目標

- 1) 卒業研究の意義と目的について理解できる
- 2) 自己の研究テーマが選定できる
- 3) テーマに接近するための道筋がわかる
- 4) 仲間の研究テーマや視点に関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解
- 3 統計的使用の解釈と理解
- 5 自己表現及び集団的思考

内容

1. 教員の提示した研究テーマ・学生の関心のあるテーマをもとに研究方法について理解を深める。
2. フィールドワークを通じて、各自の研究テーマを検討し焦点化する。
3. 研究テーマを明確にし、4年次の卒業研究へつなげる

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自興味関心のある内容について、図書、論文、ホームページ等で情報を収集し理解を深めておく（各授業に対して60分）

【事後学修】講義内でのディスカッションを復習すると共に、卒業研究のための方法について各自学習を進める（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

日頃の学修活動、レポート課題（40%）・ディスカッション（30%）・フィールドワークへの参加等（30%）を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：レポート課題提出（20%/40%）

到達目標2：レポート課題（20%/40%）・ディスカッション（10%/30%）・フィードバックへの参加（15%/30%）

到達目標3：ディスカッション（10%/30%）・フィードバックへの参加（15%/30%）

到達目標4：ディスカッション（10%/30%）

【フィードバック】

課題提出や成果発表・報告について、毎回の講義内で口頭にて指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜、資料の配布・紹介を行う

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科卒業必修科目。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究 (4年次) の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つけていく。

授業の方法

演習方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

【ディスカッション】

到達目標 (= 到達目標)

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための方法を説明できる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる人間関係を築ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

ディプロマ・ポリシー

- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解
- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 4 体験の意味付けと表現

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

前期 グループワーク 第5～10講【ディスカッション】

後期 グループワーク 第5～10講【ディスカッション】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

評価方法および評価の基準

3つの到達目標について、ゼミ演習活動における取組課題（授業内で指示）を総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等で実践経験のある教員により、保育の表現領域に関する研究方法や論文執筆方法について学ぶ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科における専門科目「演習」に該当する科目であり、卒業必修科目である。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、研究論文の読み方や書き方を学び、理解する。また、仲間と共に学ぶ姿勢を持ち、お互いの興味関心やテーマなどにも触れながら、視野を広げていく。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説、グループディスカッション、フィールドワークなどを取り入れて授業を行う。

【講義】【グループワーク】【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】

到達目標

1. 自己の研究テーマを選定し、テーマに接近するための筋道を立てることができる。
2. 学んだ保育実技等を、子どもや保護者とかかわる中で実践することができる。
3. 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 2 援助・支援に関する理論の基本的理解
- 4 体験の意味付けと表現
- 5 自己表現及び集団的思考

内容

・保育に関連するフィールドワークや実践を行い、体験したことを各自まとめ、発表することを通して、テーマを焦点化していく。【フィールドワーク】【実技】【グループディスカッション】

・教員の指導を通じて、それぞれのテーマにふさわしい研究方法を探求し、4年次の卒業研究につなげていく。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各自のテーマに合わせた文献検索、情報収集を行い、発表できるようにまとめる。（各回60分） 関連分野のワークショップ、ボランティアなどには積極的に参加する。

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自研究を進められるよう調べ学習を行う。（各回60分）

評価方法および評価の基準

各回の課題提出（30%）、 実践・発表（40%）、 レポート（30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: （10%/30%） （10%/40%） （10%/30%）

到達目標2: （10%/30%） （20%/40%） （10%/30%）

到達目標3: （10%/30%） （10%/40%） （10%/30%）

【フィードバック】ゼミ内での発表や中間報告に対して、その都度コメントをし、次に繋げられるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義・演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許をもつ教員が指導し、保育学・幼児教育学を基本とする講義・演習を担当する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は必修科目である。人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方を学び、理解する。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、グループワークおよびフィールドワークを中心とした授業を行う。【グループワーク】【学外調査】

到達目標

- 1, 自己の研究テーマが選定できる。
2. テーマに接近するための筋道が分かり、研究計画を立案することができる。
3. 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築き、ディスカッションを通して研究テーマを深めることができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －1 事実や支援の効果についての実証及び理解
- －4 体験の意味付けと表現
- －5 自己表現及び集团的思考

内容

第1回オリエンテーション・ゼミについて【講義】

第2回～第4回 卒業研究について・「問い」と研究方法・ 研究計画の作成・ 研究倫理について

【グループワーク】【フィールドワーク】

第5回・第6回 資料収集と共有・発表 (関心のあるテーマに合わせた資料を持ち寄り、発表する)

【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

第7回・第8回 資料収集と共有・発表 (関心のあるテーマに合わせた論文を持ち

寄り、発表する)【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

第9回～第15回 研究方法の理解と実際 (論文の収集と読み合わせ)・先行研究の整理

【グループワーク】【フィールドワーク】【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

第16回 中間報告【レポート(表現)】【プレゼンテーション】

第17回～第20回 研究方法とデータ収集・中間発表【レポート(表現)】【異学年交流】

第21～第25回 研究方法とデータ分析・中間発表【レポート(表現)】【異学年交流】

第26回～第30回 まとめ・発表の準備 課題提出

その他、必要に応じてフィールドワークを実施する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前期には文献検索、報告の準備を行う。後期には各自のテーマに合わせた研究・調査を進め、報告の準備をする。関連分野のワークショップなどが学内外で開催される場合には積極的に参加する。(各回60分)

【事後学修】質疑応答の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる。(各回60分)

評価方法および評価の基準

研究に取り組む姿勢(40%)と、その成果が発表(30%)やレポート(30%)などに現れていることを評価対象とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.課題提出の取り組み(10%/40%)、発表(10%/30%)、レポート(10%/30%)

到達目標2.課題提出の取り組み(10%/40%)、発表(10%/30%)、レポート(10%/30%)

到達目標3.課題提出の取り組み(10%/40%)、発表(10%/30%)、レポート(10%/30%)

ゼミ内での中間報告に対する評価をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として位置づけられた必修科目である。自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。また、ゼミとは成長を共にする仲間との学び合いである。互いの問題・課題を知り、広げ、深め、まとめていく過程を大切にす。

授業の方法（ALを含む）

学生のもつ課題、関心事を中心にグループワーク、フィールドワークを展開する。【グループワーク】【フィールドワーク】

到達目標

- (1)自己の研究テーマを選定できる。
- (2)テーマに接近するための筋道を計画書に記載できる。
- (3)仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-2援助・支援に関する理論の基本的理解、 -4体験の意味付けと表現、 -5自己表現及び集団的思考

内容

グループ指導、個別指導を通して研究テーマを見だし焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察をすすめる、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

第1回	オリエンテーション
第2回	学習の課題設定
第3回～8回	先行研究、文献学習と障がいのある当事者からの課題 ・ダウン症 ・発達障害 ・身体障害 他【グループワーク】
第9回	課題のまとめ
第10回	研究方法と手続き、文献発表
第11回	障害のある暮らしに関するワーク【フィールドワーク】
第12回～14回	医療的ケアを必要とする子どもに関する学習【フィールドワーク】
第15回	フィールドワークのまとめとレポート作成
第16回	レポートの作成及び自己の課題発表
第17回～22回	レポート作成・発表及び研究計画書の作成
第23回	研究計画書の発表及び意見交換
第24回～30回	研究構成、研究の作成、毎時発表・報告

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われた関心ある授業の内容について復習する。文献検索、情報収集を行い、研究準備を行う。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習をすすめておく。

評価方法および評価の基準

【評価】到達目標の達成度は、自己の課題の取り組み内容や発表から評価する。評価の基準は、日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】提示した課題について適時指導し、ゼミ活動では質問に応じ毎回コメントをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適時、参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

チーム力を蓄え発揮していけるようみんなで学んでいきましょう。

科目名	人間福祉演習		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDg398		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	3	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

障害者施設生活支援員、老人福祉センター相談員、生活保護現業員、老人福祉指導主事、地域包括支援センター所長、福祉事務所長。

様々な福祉現場、とりわけ公務員として行政福祉の最前線で住民福祉の向上に携わってきた。幅広い見地から、学生が希望する研究内容への指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探究する。本科目は社会福祉専門科目に留まらず、全科目と関連し連続する。必修科目。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方を学ぶ。

授業の方法（ALを含む）

講義、グループディスカッションを中心とする

到達目標

- ・自己の研究テーマを選定することができる。
- ・テーマに接近するための筋道を身に着けることができる。
- ・仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築くことができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1事実や支援の効果についての実証および理解
- 2相談・支援に関する理論の基本的理解
- 3統計的資料の解釈と理解

内容

この授業は学生間でのグループディスカッションを基本として、適宜教員による支援、助言を行うことで学びを深めていく

人間福祉演習（ゼミ）では、学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を探るプロセスを経験する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、論文作成の概要と資料の集め方の基礎を学ぶことを中心に授業を進める。後期には、各自興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行い、その過程をゼミの中で発表する。年間を通して、地域における自主社会活動や実践活動に取り組み、課題発見力・社会人基礎力・表現力を磨くことも目指す。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前期には文献検索、報告の準備を行う。後期には各自のテーマに合わせた研究・調査を進め、報告の準備をする。関連分野のワークショップなどが学内外で開催される場合には積極的に参加する（各授業に対して60分）。

【事後学修】質疑の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる（同60分）。

評価方法および評価の基準

研究に取り組む姿勢（40%）と、その成果が発表やレポートなどに現れていること（60%）を評価方法とし、60点以上を合格とする。

ゼミ内での中間報告に対する評価をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

将来、福祉行政職を目指す学生の参加が望まれる。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

実務経験あり

実務経験および科目との関連性

福祉領域での相談職等ソーシャルワーカーとしての実務経験あり。相談援助の具体的実践経験と関連して指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科の必修科目である。卒業研究作成のための指導である。入門ゼミや人間福祉基礎演習、人間福祉演習と関連する。事実や支援の効果について実証的に明らかにし、理解すること、援助・支援に関する理論や考え方を理解し、実際の事例に合わせて説明する、他者とのかかわりから振り返りを進め、専門的援助関係における自己覚知を深めることと関連する。

科目の概要

テーマの設定。先行研究の整理。研究テーマに関連する学習。研究方法・手続きについての理解と習得。グループ及び個別指導の実施。卒業研究結果の報告と評価。

授業の方法（ALを含む）

主に個別指導やグループ学習を用いる。【グループワーク】【論文】

到達目標

- 1) 卒業研究のテーマを設定できる。
- 2) 研究目的達成のための方法及び方法論を理解し、その手続きを明示できる。
- 3) 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができ、研究結果を報告することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1問題解決のための専門性と倫理
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに

関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。（45分）

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。（45分）

評価方法および評価の基準

提出された卒業研究結果を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。成果物としての卒業研究は独自に作成した5段階評価のルーブリックにより行う。課題の結果へのコメントや評価は授業中にフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

4年間の総合的な学修の機会となります。自己決定学習の形態をとることになります。学生の皆さんの学びへの主体性がより重視されます。卒業研究を大切にしましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

社会福祉協議会の福祉活動専門員、自治体の地域福祉係主任としての地域福祉実践経験と実証研究を活かして担当し、社会福祉士としての専門性を活かして地域福祉及びソーシャルワークについて具体的な実践事例やフィールドワークを用いながら指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学科の卒業研究に位置付けられた通年で必修の演習科目である。大学における人間福祉の学修の総まとめである卒業研究として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求し卒業論文を作成する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず全科目と関連する。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために、多様な地域福祉実践をフィールドワークやサービスラーニングで認識し、テキスト等を利用して知識を吸収し、自由なディスカッションを通じて思考力、想像力、判断力を養う。ゼミは成長を共にする仲間との学びあいの場であり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つめ、卒業論文を作成するとともに自己の成長に生かす。

授業の方法（ALを含む）

本科目では、地域福祉実践現場へのフィールドワーク、自治体や社会福祉協議会、NPO・ボランティア等と協働して地域福祉活動実践への参加を通じて、地域課題解決方法を学修し、学修で習得した知識等を活用したグループワークを実施し、随時活動や学習の成果をレポートした上で討議により理解を深め、各自の学修成果を論文発表する。【フィールドワーク】【PBL】【グループワーク】【レポート】【プレゼンテーション】【論文】

到達目標

- 1) 自己の研究テーマが選定し卒業論文を作成することができる。
- 2) テーマに接近するための道筋を工夫することができる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築き協調することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1問題解決のための専門性と倫理 -2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知 -3地域社会・福祉社会形成へ
参画する意欲

内容

卒研に向けた関心テーマに基づくグループワークやフィールドワークを実施し、社会福祉課題としての障害児者余暇活動支援に関する活動を地域ボランティアと実践的に学ぶアクティブラーニングを実施する。また、個別の指導を通じて、研究方法を探求し、研究テーマを見出し焦点化して考察を深め、ゼミ生は卒業論文を作成し提出する。3年ゼミ生等への発表会を実施し、内容について質疑応答し、学修成果について更に理解を深める努力をする。【レポート】【グループワーク】【討議】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【サービ斯拉ーニング】【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】自分の研究テーマと関連があると思われる政策や事業、実践活動を確認して、自分なりに内容を整理してまとめておく。(各授業に対して60分)

【事後学修】テーマやキーワードの理解を深め、復習を必須とし、授業で紹介されたHP、施策や事業、実践の内容を理解し、深められるよう復習ノートを作成し、卒研に生かす。(各授業に対して60分)

評価方法および評価の基準

日頃の学修活動やディスカッション(30%)、レポート(30%)、卒業論文(30%)と発表会(10%)で評価し、60点以上を合格とする。

到達目標1.学修活動やディスカッション(10%/30%)、レポート(10%/30%)、卒業論文(10%/30%)

到達目標2.学修活動やディスカッション(10%/30%)、レポート(10%/30%)、卒業論文(10%/30%)

到達目標3.学修活動やディスカッション(10%/30%)、レポート(10%/30%)、卒業論文(10%/30%)

)、卒論発表会(10%/10%)

【フィードバック】毎授業の発言やレポート発表にコメントし、学修理解を深められるよう対話する。また卒業論文作成にあたっては、記述内容にコメントや加筆修正を指摘し、必要に応じて更なる指導を実施して論文の質的向上を努力する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

ねらい	科目の性格	科目の概要	授業の方法（ALを含む）	到達目標	ディプロマ・ポリシーとの関係
-----	-------	-------	--------------	------	----------------

科目の性格

人間福祉学科の学位授与方針 1, 2, 3, に該当する。大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられていくのか見つけていく。

授業の方法

演習方式。テーマについて受講者と自由形式でディスカッションを取りいれて授業を展開する。

到達目標（=到達目標）

- 1) 自己の研究テーマが選定できる。
- 2) テーマに接近するための道筋がわかる。
- 3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築ける。

ディプロマ・ポリシーとの関係

ディプロマ・ポリシー

主体性・多様性・協働性

- 1 問題解決のための専門性と倫理
- 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

グループ形成のゼミあるいは個別の指導を通じて、研究テーマを見出し焦点化する。研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む。その成果をもって4年次の卒業研究につなげる。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】自分の研究テーマと関連があると思われた関心のある授業の内容について復習する。

【事後学修】卒業研究作成のための手続きや方法について学習を進めておく。

評価方法および評価の基準

3つの到達目標について、卒業論文の取り組み及び論文内容を総合評価60点以上を合格とする。【フィードバック】毎授業の最初に前回授業の質疑及び内容を確認し、学習理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

特になし

実務経験および科目との関連性

特になし

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、卒業研究(論文)作成及び完成、提出のための指導・助言を行うものであり、卒業必修科目である。

科目の概要

本科目は、学生各自によるテーマの設定、先行研究の整理、研究テーマに関連する学習、研究方法・手続きについての理解と習得、グループ及び個別指導の実施、卒業研究結果の報告と評価という内容により展開される。

授業の方法

本科目は演習であり、学生各自による先行研究の整理、研究テーマに関連する学習、研究方法・手続きについての理解と習得を進め、また、グループ及び個別指導の実施、卒業研究(論文)完成、報告会実施という内容により展開される。

到達目標

本科目は、人間の尊厳と基本的人権の尊重という価値の中にある自己の社会福祉への課題についてまとめ、それを文章及び口頭で表現することができることを目標とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

本科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。「 - 1 問題解決のための専門性と倫理」、「 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知」、「 - 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲」に該当する。

内容

本科目は、グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および構成の明示(あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など)。卒業研究の作成。結果の報告と評価。以上の内容により展開する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。(毎回60分)。

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。（毎回60分）

評価方法および評価の基準

レポート課題提出（30％）、ディスカッション（20％）、卒業研究（40％）、卒業研究発表会（10パーセント）を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1 - レポート課題提出（30％）、ディスカッション（30％）、卒業研究（40％）

到達目標2 - レポート課題提出（30％）、ディスカッション（30％）、卒業研究（40％）

到達目標3 - レポート課題提出（30％）、ディスカッション（20％）、卒業研究（40％）、卒業研究発表会（10％）

フィードバック：毎回授業の報告・レポートにコメントし、理解が深められるようにする。卒業研究作成にあたっては、内容にコメントを付し、加筆修正を促し、研究の質を向上させる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	富井 友子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部 (K) - 人間福祉学科 (KD)		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉の学びの総まとめである卒業研究のための指導を行う。学生自らの興味と関心に応じたテーマを設定し、卒業研究を執筆する。卒業研究提出は、必修の卒業要件である。

科目の概要

テーマの設定、先行研究の整理、研究テーマに関連する学習、研究方法・手続きについての理解と習得、卒業研究結果の報告と評価。

授業の方法 (ALを含む)

グループ及び個別指導にて行う。

到達目標

- 1) 自らの卒業研究のテーマを設定できる。
- 2) 研究目的達成のための方法を理解し、その手続きを明示できる。
- 3) 卒業研究を実施し、その内容を論文として執筆し、その内容について明確に述べることができる。
- 4) 卒業研究の成果を報告することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科の学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー) 1,2,3に該当する。

内容

1	オリエンテーション
2	研究テーマおよび方法の設定と先行研究の整理
3	論文執筆および個別・グループ指導
4	論文執筆および個別・グループ指導
5	ゼミ内報告
6	論文執筆および個別・グループ指導
7	論文執筆および個別・グループ指導

8	論文執筆および個別・グループ指導
9	ゼミ内報告
10	論文執筆および個別・グループ指導
11	論文執筆および個別・グループ指導
12	論文執筆および個別・グループ指導
13	卒業論文発表準備
14	卒業論文発表
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業研究テーマに関連する先行研究や情報を収集し整理する。ゼミでの発表・報告を行う準備をする。ゼミメンバーのテーマにも関心をもち、討論できる準備する。（各授業に対して60分）

【事後学修】ゼミにおける討論や、教員の指導を踏まえて、卒業研究の作成を進める。（各授業に対して60分以上）

評価方法および評価の基準

提出された卒業研究結果を評価し、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】卒業研究作成過程の発表・報告等のフィードバックは、授業時に口頭で行う。提出されたレポートはコメントの上、返却する。卒業研究については、学科内の教員による講評をいただき、それを含めた講評をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	二瓶 さやか		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学生生活4年間の集大成である卒業研究作成のための指導を行う。卒論研究を通して社会全体についての問題意識を向上し、高い専門性と倫理に関する知識を理解することができることを目的とする。

本科目は卒業必修科目であり、履修科目全てと関連する。

科目の概要

興味・関心があり、時代の要請に応えた研究テーマを設定する。関心あるテーマに添った先行研究を整理し、研究テーマに関連する学習を行う。卒論を執筆するための研究方法・手続きについて理解し習得する。実際の授業運営については、グループ及び個別指導の実施する。卒業研究結果を成果として報告し評価を行う。

授業の方法（ALを含む）

各自卒業研究で取り組む研究テーマについて、学生同士で議論し理解を深め、他者の意見を踏まえながら論文執筆を進めて行く。必要に応じてディベートを用いる。研究内容によっては、フィールドワークやロールプレイなどにも取り組む。【ディスカッション】【ディベート】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【ロールプレイ】【論文】

到達目標

1. 卒業研究のテーマを設定できる。
2. 研究目的達成のための方法を理解し、その手続きを明示できる。
3. 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べるができる。
4. 卒業研究結果を適切な技法を用いて報告することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と倫理
- 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに

関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】可能な限り卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。他者とディスカッションができるようメンバーの研究テーマについても予習しておくこと（各授業に対して60分）

【事後学修】作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

課題提出（40%）、卒業論文（40%）研究成果報告（20%）を対象に評価し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：課題提出（10%/40%）、卒業研究への取り組み（10%/40%）

到達目標2：課題提出（10%/40%）、卒業研究への取り組み（20%/40%）

到達目標3：課題提出（20%/40%）、卒業研究（10%/40%）

到達目標4：研修成果の発表・報告（20%/20%）

【フィードバック】

課題提出や成果発表・報告について、毎回の講義内で口頭にて指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	伊藤 陽一		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

本科目の担当教員は、児童福祉施設（保育所・児童養護施設）に勤務し、子ども家庭福祉の専門にした内容を教示することを行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は、人間福祉学科の卒業必修の科目であり、4年間の集大成として保育・福祉・教育等々の研究を行い、その成果として卒業論文を作成し、所属する4年生及び・人間福祉演習を履修する3年生に対してプレゼンテーションを行うための指導をする。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連する。

科目の概要

本科目は、人間福祉学科4年間の総大系として、卒業研究を行い学士論文を作成を行う。本ゼミナールでは、主に子ども家庭福祉に関する内容につき、フィールドワークを課し論文作成を行う。

授業の方法（ALを含む）

本科目は、卒業論文のテーマの設定、先行研究の整理、研究テーマに関連する学習、研究方法・手続きについての理解と習得を行い、研究テーマに沿ってフィールドワークを行う。

【レポート(知識)】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【ケースメソッド】【フィールドワーク】【論文】

到達目標

1. 卒業研究のテーマ設定を行い、研究目的達成のための方法を理解し、その論文の形式に沿った手続きを実施することができる。
2. 研究テーマに沿ったフィールドワークを行い、卒業研究を論文の形に表し、その課題について明確に述べるができる。
3. 卒業研究の結果を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 問題解決のための専門性と倫理、 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知、 - 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

【レポート(知識)】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【レポート(表現)】【ケースメソッド】【フィールドワーク】【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】

可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。[各回120分]

【事後学修】

作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。[各回120]

評価方法および評価の基準

課題提出（20%）、論文作成（60%）、プレゼンテーション（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1. 課題提出（10%/20%）、論文作成（20%/60%）、プレゼンテーション（5%/20%）

到達目標2. 課題提出（5%/20%）、論文作成（20%/60%）、プレゼンテーション（5%/20%）

到達目標3. 課題提出（5%/20%）、論文作成（20%/60%）、プレゼンテーション（10%/20%）

【フィードバック】

各自の進行に合わせた個別指導及び面談を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

川村匡人・川村岳人（2018）『三訂 福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方』中央法規

その他参考文献については、ゼミの中で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	山口 由美		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師資格を有する教員が、実務経験を生かして、障害や高齢社などの福祉的ニーズを抱える人々の課題を明らかにし、その解決に向けて根拠のある支援について指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は卒業必修科目であり、卒業研究を作成するための科目である。大学における福祉における学修の総まとめである。自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。様々な課題に関心を持ち、課題を解決する方法などについて学び合う科目であり、全科目と関連する。。

科目の概要

自らの研究のテーマを絞り込み、様々な先行研究を整理し、研究テーマに関する学習を行う。個別指導及びディスカッションを通して、研究疑問を様々な面から検討し、結論を導き出す。研究方法及び論文執筆法を実践的に学び、卒業研究結果を静かとして報告し評価を行う。

授業の方法（ALを含む）

卒業研究テーマについて、学生同士で討論し、理解を深める。様々な視点からテーマを掘り下げ、各自がまとめたレジュメやパワーポイントを用いて議論し、理解を深め、他者の意見も踏まえ、研究内容を深める。文献研究はもちろんのこと、フィールドワークや調査を行い内容を深める。深めた内容を論文執筆方法に沿って執筆する。

【ディスカッション】【リアクションペーパー】【プレゼンテーション】【レポート】【フィールドワーク】

到達目標

- 1) 卒業研究のテーマを設定することができる。
- 2) 研究目的や方法等の研究の手続きについて理解できる。
- 3) 卒業研究を完成し、研究報告することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1 事実や支援の効果についての実証及び理解
- 3 統計的資料の解釈と理解
- 5 自己表現及び集团的思考

内容

グループ指導及び個別指導により実施する。研究テーマの設定。先行研究の整理。研究方法・手続きの理解。研究テーマに

関連する文献の収集および調査（調査表作成、フィールドワークなど）の実施。構成の明示（あらまし、目的、方法、内容・結果、考察、今後の課題など）。卒業研究の作成。結果の報告と評価。

【レポート】【ディスカッション】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】【調査】【リアクションペーパー】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し、内容を整理しまとめる。（各授業に対して60分）

【事後学修】授業時に紹介した資料等について内容を深められるようにまとめる（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

日頃の学修活動、ディスカッション（30%）、課題提出（30%）卒業論文（30%）卒業発表会（10%）を総合的に判断し、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1：課題提出（10%/30%）ディスカッション（15%/30%）卒業論文（10%/30%）

到達目標2：課題提出（10%/30%）ディスカッション（15%/30%）卒業論文（10%/30%）

到達目標3：課題提出（10%/30%）卒業論文（10%/30%）卒業発表会（10%/10%）

【フィードバック】毎授業の報告及びレポートにコメントし、理解が深められるようにする。卒業論文作成にあたっては、内容にコメントし、加筆修正を促し、論文の質を上げる。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	久保田 葉子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

「無」

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

人間福祉学科の大学における学びの総まとめとして、3年からの演習に引き続き自らの興味・関心を持つ分野に関してテーマをしばり、一つの研究論文にしてまとめるものである。

科目の概要

自らの興味・関心を持った分野の一つのテーマに関して、先行研究や資料収集や文献収集を行い、整理し、自分の考えを加えて研究論文としてまとめる。担当教員からの指導を受けながら研究を進めていく。6月に途中経過報告、10月に最終提出と段階的に進度の目安を持って進めるものとする。

授業の方法（ALを含む）

自ら設定した課題について先行研究の分析を行い、選択した研究方法により考察を深め、発表する。【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【論文】

到達目標

1. 自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめることができる。
2. 研究方法や、研究を通して考察したことについて口頭で表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。 - 1 問題解決のための専門性と倫理 - 2 専門的援助関係の体験的理解と自己覚知 - 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

卒業研究では、3年次の演習でテーマや研究の方向付けをしてきたことや自己の興味関心を持った分野の項目をもとに、学生自らが研究テーマを決め、自ら積極的に研究活動に取り組み、最終的に研究論文にまとめる。

前期は、テーマの確定と調査、研究方法の見通しを持ち、発表や質疑・応答を通して、より精度の高い研究になるような手だてをとる。後期は、実習やこれまでの大学での学びを生かし、必要な文献収集、調査等を継続しながら研究をまとめる。

【プレゼンテーション】【討議・討論】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【論文】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前予習】可能な限り、卒業研究テーマに関連する先行研究を収集し整理すること。（各授業に対して毎日1時間程度）

【事後学修】必要に応じて、実地検証を行う。また、作成した卒業研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめること。（各授業に対して45分程度）

評価方法および評価の基準

1. 自らが興味・関心をもったテーマについて一定枚数の研究論文にまとめることができる。 評価方法：卒業研究70%
2. 研究方法や、研究を通して考察したことについて口頭で表現することができる。 評価方法：研究テーマに取り組む姿勢30%

提出された卒業研究（70%）を評価対象とし、学生自身の取り組みや自己の考えが十分に表現されていることを重視する。研究テーマに取り組む姿勢（30%）などを含めて総合的に判断する。60点以上を合格とする。

【フィードバック】研究の進捗状況に合わせて提出させるレポートにコメントを付す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教科書は必要としない。資料については、各学生のテーマに合わせて授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	亀崎 美沙子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

子育て支援施設等で勤務経験のある教員が担当し、実践経験を活用してフィールドワークや調査研究における指導を行う。また、地域子育て支援施設や保育所におけるフィールドワークでは、実践者の講話や質疑応答を通して、学びを深める機会を設ける。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は人間福祉学科における卒業必修科目であり、卒業研究を作成するための科目である。

科目の概要

各自の設定したテーマについて、フィールドワークやグループディスカッションを通して考察を深め、卒業研究を作成する。

授業の方法（ALを含む）

レポート作成およびグループディスカッションを中心として進め、必要に応じて各自の興味関心にしたいがい、フィールドワークを実施する。

【フィールドワーク】【論文】【ケースメソッド】【レポート（表現）】【討議・討論】【グループワーク】【レポート（知識）】

到達目標

1. 研究テーマに関する先行研究レビューを行い、説明することができる。
2. 研究目的を達成するために適切な研究方法を用い、論理的に結果を導き出すことができる。
3. 研究内容を、論文として適切に記述することができる。
4. 研究成果を自分なりに工夫し、表現することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- 1：問題解決のための専門性と倫理
- 2：専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3：地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

毎週、事前にレポートを作成し、各自の発表、ディスカッションを行いながら、学びを深めていく。それらを、卒業研究としてまとめ、論文を執筆するとともに、卒業論文発表会において発表・質疑応答を行う。

第1回：オリエンテーション【グループワーク】【レポート（知識）】【卒論】

第2回～14回：論文の執筆および検討【レポート（表現）】【討議・討論】【グループワーク】【卒論】【フィールドワーク】

15回：研究概要書の作成【レポート（表現）】【卒論】

第16～24回：執筆論文に関するディスカッション【討議・討論】【レポート（表現）】【卒論】【ケースメソッド】

第25回～27回：卒論発表会準備【レポート（表現）】【プレゼンテーション】【討議・討論】

第28回：卒論発表・質疑応答【討議・討論】【プレゼンテーション】【卒論】

第29～30回：査読コメントを踏まえた論文修正・発表ふりかえり【卒論】【グループワーク】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

第1～27回 【事前準備】提示されたレポート課題に取り組み、A4用紙5～10枚程度でまとめる。（180分）

【事後学修】指導内容にもとづき、論文を修正する。（120分）

第28～30回 【事前準備】発表会のためのパワーポイントを作成する。（120分）

【事後学修】指摘事項にもとづき、論文を修正する。（120分）

評価方法および評価の基準

【評価】

課題提出（40%）、卒業論文（40%）、研究成果の発表（20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1．課題提出（10%/40%）、卒業研究（10%/40%）

到達目標2．課題提出（10%/40%）、卒業研究（20%/40%）

到達目標3．課題提出（20%/40%）、卒業研究（10%/40%）

到達目標4．研究成果の発表（20%/20%）

【フィードバック】

提出課題や成果発表等について、各回の授業で口頭指導を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

各学生のテーマに合わせ授業中に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	矢野 景子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育士資格、幼稚園教諭専修免許、小学校教諭専修免許、保有の実務経験者が事例検討および演習を指導する。保育学幼児教育学より指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は卒業のための必須科目であり、人間福祉学科の全科目に関連する科目である。

科目の概要

人間福祉演習にて深めた各自の研究目的について、先行研究の整理及びデータの収集・分析を通して卒業研究を作成し、口頭発表の準備を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミナール形式により、各研究テーマに応じた演習を通して、発表および討議を行う。【討議】【プレゼンテーション】

到達目標

- 1.研究関心について、研究プロセスを通して卒業研究を完成させることができる。
- 2.口頭発表およびプレゼンテーションを通して、結果や成果を説明することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

- －1問題解決のための専門性と倫理
- －2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- －3地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

第1回～第10回 データの収集と分析・卒論作成 【演習・討議】【レポート(表現)】

第11回～第20回 論文作成・中間発表【異学年交流】【演習・討議】【レポート(表現)】

第21回～第30回 卒業論文提出・口頭発表の準備・発表【プレゼンテーション】【討議】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】各授業前に指導内容を踏まえた事前準備を行う(各60分)

【事後学修】指導内容を踏まえ、修正・加筆を行う(各60分)

評価方法および評価の基準

到達目標の評価の方法:課題の取り組み(30%)、卒業論文内容(30%)、口頭発表(40%)とし、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1.課題の取り組み(15%/30%)、卒業論文内容(15%/30%)、口頭中間発表(20%/40%)

到達目標2.課題の取り組み(15%/30%)、卒業論文内容(15%/30%)、口頭最終発表(20%/40%)

【フィードバック】

口頭での指導、および添削指導にて、取り組みへのフィードバックおよび次回への課題の提示を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】授業内で必要な資料を配布する。

【推薦書】授業内で随時提示する。

【参考図書】授業内で随時提示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	卒業研究		
担当教員名	今井 伸		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Mクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

障害者施設生活支援員、老人福祉センター相談員、生活保護現業員、老人福祉指導主事、地域包括支援センター所長、福祉事務所長

様々な福祉現場、とりわけ公務員として行政福祉の最前線で住民福祉の向上に携わってきた。幅広い見地から、学生が希望する研究内容への指導を行う。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究（4年次）として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら研究に取り組む。本科目は人間福祉専門科目に留まらず、全科目と関連し連続する。必修科目。

科目の概要

自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て、興味・関心のある研究分野から問題や課題を見出す方法、資料や文献などの情報収集と整理の方法、研究論文の読み方や書き方を学び、理解する。実際に卒業論文を完成させる。

授業の方法（ALを含む）

演習方式 論文

到達目標

- ・自己の研究テーマを選定することができる。
- ・テーマに接近するための筋道を整理することができる
- ・仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助しあえる関係を築くことができる。
- ・学士授与に値する卒業論文を執筆することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1問題解決のための専門性と倫理
- 2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知
- 3地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

この授業は学生間でのグループディスカッションを基本として、適宜教員による支援、助言を行うことで学びを深めていく

学生の自主的な活動を前提に、各自の興味・関心に応じた卒業研究の進め方や内容を探るプロセスを経験する。

前期は、卒業研究のテーマの絞り込みに向けて、興味・関心を持つ研究分野に関する資料・文献の収集を行い、その過程をゼミの中で発表する。後期には、実際に論文を完成させる。課題発見力・社会人基礎力・表現力を磨くことも目指す。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】前期には文献検索、報告の準備を行う。後期には各自のテーマに合わせた研究・調査を進め、報告の準備をする。関連分野のワークショップなどが学内外で開催される場合には積極的に参加する(各授業に対して60分)。

【事後学修】質疑の内容、教員からの指摘をふまえ、各自の研究を発展させる(同60分)。

評価方法および評価の基準

研究に取り組む姿勢(40%)と、その成果が卒業論文に現れていること(60%)を評価方法とし、60点以上を合格とする。ゼミ内で、卒業論文発表会を実施し、結果をフィードバックする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】【推薦書】【参考図書】各自のテーマに合わせて適宜、推薦する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

将来、福祉行政職を目指す学生の参加が望まれる。

科目名	卒業研究		
担当教員名	人見 優子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Nクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

看護師として実務経験のある教員による授業。その実務経験を生かして健康上の問題や障害を持つ人々の生活におけるニーズや諸問題を明確にし、その解決に向けて根拠ある支援を指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

大学卒業のための必修科目であり、卒業研究のための指導を行なう。人間福祉基礎演習、人間福祉演習と関連した科目で、これらの学びの総まとめとなる。

科目の概要

大学での人間福祉の学びの総まとめである。本人の興味関心に基づく研究テーマを設定し、先行研究の整理、研究方法・手続きについて理解・習得する。卒業研究では、グループ及び個別指導を行う。

授業の方法（ALを含む）

ゼミメンバーによるディスカッション、個別指導を通して相互に学び合うことを重視する。【ディスカッション】

到達目標

- (1)卒業研究のテーマを設定できる。
- (2)研究目的達成のための方法を理解し、その手続き絵を明示できる。
- (3)卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。
- (4)卒業研究結果を報告することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

この科目は、人間福祉学科のディプロマ・ポリシーの以下の資質・能力を育成することを目的とする。

-1問題解決のための専門性と倫理， -2専門的援助関係の体験的理解と自己覚知， -3地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

人間福祉演習で行ってきた学習に基づき、自己のテーマについて卒業研究を作成する。

適時、ゼミ発表を行い、到達度や状況を共有し、他者の課題についても考えていく。

最終的には卒業研究をまとめ、発表し、他者の意見に基づき修正をし完成とする。

1. 先行研究の整理
2. 研究方法・手続きの理解
3. 研究テーマに関連する文献の収集及び調査（質問紙作成、フィールドワーク）の実施
4. 構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果、考察、今後の課題など）
5. 卒業研究の作成
6. 成果の報告と評価

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】卒業研究に関連する先行研究や情報を収集し整理する。ゼミでの発表・報告を行なう準備をする。ゼミメンバーのテーマに関心を持ち、討論できる準備をする。（各授業に対して60分）

【事後学修】ゼミにおける討論や教員の指導を踏まえ、卒業研究の作成をすすめる。（各授業に対して60分）

評価方法および評価の基準

【評価】達成目標の達成度は課題の内容、発言の内容より評価する。評価基準は、提出された卒業研究にて総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】卒業研究作成過程の発表・報告等のフィードバックは、授業時に口頭で行う。提出されたレポートはコメントの上、返却する。卒業研究については、学科内の教員による講評をいただき、それを含めた講評をフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】各学生のテーマに沿った図書、論文等を個別に指示する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

チーム力を蓄え発揮していけるようみんなで学んでいきましょう。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野田 日出子		
ナンバリング	KDh599		
学 科	人間生活学部（K）-人間福祉学科（KD）		
学 年	4	ク ラ ス	0Pクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	4
資 格 関 係			

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

保育所等で実践経験のある教員により、保育の表現領域に関する研究方法や論文執筆方法について学ぶ。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

本科目は卒業必修科目であり、卒業研究を作成するための科目である。

科目の概要

それぞれの研究テーマに基づき、各自で文献・先行研究を整理する。

各自の研究方法にもとづき卒業論文の執筆、作品製作を行う。

授業の方法（ALを含む）

講義による解説、グループディスカッションなどを通して、研究を進める。

また、フィールドワークや保育の表現領域に関する実践を行う。

【グループディスカッション】【実技】【レポート（知識）】【レポート（表現）】【論文】

到達目標

1. 先行研究や文献を読み、適切な文章でまとめることができる。
2. 論文作成の作法に沿って、適切な研究方法を用いて結果を導き出すことができる。
3. それぞれの研究結果から、各自考察することができる。

ディプロマ・ポリシーとの関係

- 1 問題解決のための専門性と倫理
- 2 専門的援助関係と体験的理解と自己知覚
- 3 地域社会・福祉社会形成へ参画する意欲

内容

グループ指導及び個別指導を行う。

- ・先行研究、文献研究の整理。

- ・研究方法や手続きの理解。
- ・研究テーマに基づく調査、フィールドワーク等の実施。【フィールドワーク】【討議・討論】
- ・構成に基づき、卒業研究を作成。【論文】
- ・結果の報告と評価。【プレゼンテーション】【討議・討論】

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】研究テーマに関連する先行研究を収集し整理する。（各回60分）

【事後学修】研究が今後の自分の進路にどのように関連していくか自分なりにまとめる。（各回60分）

評価方法および評価の基準

各回の課題提出（30%）、 実践・発表（10%）、 卒業論文（70%）、総合評価60点以上を合格とする。

到達目標1: （10%/30%） （5%/10%） （30%/70%）

到達目標2: （10%/30%） （0%/10%） （10%/70%）

到達目標3: （10%/30%） （5%/10%） （30%/70%）

【フィードバック】各回で、提出された課題について添削等を行い、次につながるようにフィードバックする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

授業内で紹介する。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など